

## 港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

## ご挨拶

このたび、港区政策創造研究所が平成 25 年 5 月に実施した「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査」の報告書がまとまりました。

港区政策創造研究所では、これまでに「ひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査」「75 歳以上高齢者を含む 2 人世帯の生活に関する調査」の 2 回の大規模調査を実施しました。その調査結果は、芝地区の高齢者の買い物支援やひとり暮らし高齢者等見守り推進事業（ふれあい相談員）などの区の高齢者施策の充実に活かされました。

全国的に子どもの人口は減少傾向にありますが、港区では平成 26 年 1 月 1 日現在の年少人口（0～14 歳）は 28,122 人であり、平成 12 年以降、毎年増加しています。

子どもと子育て家庭を取り巻く環境は、近年の就労形態の多様化やコミュニティの希薄化などにより、大きく変化しています。その影響は、子育ての孤立や育児不安、悩みなどの問題により顕在化されています。

そこで、港区政策創造研究所では、区内に住む子どもと子育て家庭の生活実態を浮き彫りにし、世帯に潜在化している問題を把握することを目的とした大規模な調査を実施しました。今回の調査では、約 12,000 人を対象とし、多くの回答を得ることができました。

区では、これからも港区政策創造研究所の調査研究機能を最大限に活用し、区が直面する課題を迅速に捉え、区民福祉の向上につながる政策を創造し、「区民とともに創る安全で安心できる港区」の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

調査研究にあたり、快くアンケート調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 2 月

港区長 **武井 雅昭**



## 誰もが笑顔で子育てするために

港区では、平成23年2月1日、企画経営部内に港区政策創造研究所を設置しました。研究所は、「各部門の個別情報の収集・分析等を踏まえて、横断的に課題を据え総合的な政策研究を行い、各支援部・総合支所を支援すること」を目的としています。

港区政策創造研究所では、平成23年度にひとり暮らし高齢者の調査、平成24年度に75歳以上高齢者を含む2人世帯の調査を実施してきました。そして、平成25年5月に子どもと子育て家庭の調査に取り組みました。今回の調査対象者は、未就学児の親（第1調査）、小学生・中学2年生の親（第2調査）、そして小学4年生・中学2年生本人（第3調査）と設定し、対象者に応じた調査票を用いてきめ細かな調査を実施しました。

その調査票の作成やデータの分析には、区の各領域の現場担当職員や専門家の方々が集まり、関係者会議を組織して進めてきました。その会議には、岩田美香氏（法政大学現代福祉学部）と平野幸子氏（明治学院大学社会学部附属研究所）に「特任研究員」として出席していただき、専門的な意見をいただきました。関係者会議の名簿は、本報告書の最後に掲載しています。調査研究に関わって下さった皆様に心より感謝したいと思います。

調査の結果、安定した子育てをしている家庭が多かった一方、居住年数や年収、共働きか否かなどが子育てに大きく影響していることがわかりました。また、祖父母やその他の人たちから援助を受けられる世帯と、祖父母を含め援助者がいない世帯とで、2極化している傾向がみられました。

今回の調査研究をもとに、子育て家庭の誰もが笑顔で子育てできるように関係部署とともに、より良い政策のあり方を検討していきたいと思えます。今後も研究所と現場の職員、専門家とともに共同研究を行い、区民の皆様のための政策創造に貢献できるような研究所でありたいと思えます。

最後に、調査にご協力いただいた区民の方々に心から感謝申し上げます。

港区政策創造研究所所長 河合 克義



# 目 次

## 第1章 調査概要

### I 調査の目的と概要

- 1 調査の目的..... 1
- 2 調査の概要..... 2

### II 港区の地域概況

- 1 港区の概況..... 4
- 2 港区の子どもの状況..... 9
- 3 港区の地区ごとの特徴.....11

## 第2章 基本集計

### A 未就学児の保護者に対するアンケート 基本集計結果

#### 第1調査（調査票Ⅰ）

- 1 基本属性.....13
- 2 家族の状況.....15
- 3 祖父母について.....16
- 4 父母の仕事と地域活動の状況.....17
- 5 子育ての状況.....19
- 6 子どもの習い事について.....23
- 7 子育てに関する意見や施策.....24
- 8 母親の仕事・意識について.....27

### B 未就学児の保護者に対するアンケート 父母別基本集計

#### 第1調査（調査票Ⅰ）

- 1 仕事の状況.....29
- 2 子育ての状況.....30
- 3 子育てに関する意見や施策.....36

### C 小学生・中学2年生の保護者に対するアンケート 基本集計結果

#### 第2調査（調査票Ⅱ）

- 1 基本属性.....39
- 2 家族の状況.....42
- 3 祖父母について.....44
- 4 子どものふだんの生活について.....46
- 5 子どもの放課後の様子.....48
- 6 教育費と進学希望.....51
- 7 子育ての状況.....54

## D 小学4年生・中学2年生本人に対するアンケート 基本集計結果

### 第3調査（調査票Ⅲ）

1 基本属性（家庭の状況）	62
2 回答者について	66
3 学校でのことについて	66
4 友だちについて	69
5 不安や心配、いじめについて	72
6 放課後の生活について	74
7 家庭での生活について	77

## E 小学4年生・中学2年生の保護者と本人の回答結果の比較

### 第2調査（調査票Ⅱ）・第3調査（調査票Ⅲ）

1 生活の様子と登校状況	87
2 友だち関係について	90
3 勉強や将来の進学について	91
4 親子の会話・コミュニケーションについて	94

## F 地域別の特性に関するクロス集計の結果

### 第1～3調査（調査票Ⅰ～Ⅲ）

1 未就学児の保護者の地域別の特徴	96
2 小学生の保護者の地域別の特徴	110
3 中学2年生の保護者の地域別の特徴	121
4 小学4年生の地域別の特徴	127
5 中学2年生の地域別の特徴	132

## 第3章 クロス集計

### A 就学前の子どもを育てている世帯の生活と子育て 第1調査（調査票Ⅰ）

1 回答者と家族の状況	138
2 親族と社会的ネットワーク	141
3 就労に関わる状況	146
4 子どもと子育て	149
5 子育てに関する施策への評価	165

### B 小・中学生を育てている世帯の生活と子育て 第2調査（調査票Ⅱ）

1 回答者と家族の状況	167
2 親族と社会的ネットワーク	172
3 子どもの生活と子育て	174
4 教育と教育費	179

### C 小・中学生の生活 第3調査(調査票Ⅲ)

1 子どもと保護者の状況	181
2 家庭生活	184
3 学校と学習	187
4 友人関係と家族関係	192

## 第4章 自由回答

### A 未就学児の保護者に対するアンケート 自由回答

#### 第1調査(調査票Ⅰ)

1 区の子育て支援事業・サービス等を利用しない理由について	196
2 港区に対する意見や子育てに関する困り事について	204

### B 小学生・中学2年生の保護者に対するアンケート 自由回答

#### 第2調査(調査票Ⅱ)

1 問題を感じた学校の対応について	220
2 子どもの「非行」について	223
3 子どもの「性」について	224
4 区に対するご意見や、あなたの子育てに関する困り事など	225

### C 小学4年生・中学2年生本人に対するアンケート 自由回答

#### 第3調査(調査票Ⅲ)

1 気になっていること・大人に望むことについて	238
-------------------------	-----

## 第5章 調査から言えること

1 第1調査(調査票Ⅰ)について	242
2 第2調査(調査票Ⅱ)について	244
3 第3調査(調査票Ⅲ)について	246

## 資料

資料1 調査票Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

資料2 港区政策創造研究所の概要

資料3 港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査関係者会議名簿





## 第1章 調査概要

### I 調査の目的と概要

#### 1 調査の目的

国立社会保障・人口問題研究所は、平成24(2012)年1月に、平成22(2010)年国勢調査の人口等基本集計結果、ならびに同年人口動態統計の確定数に基づいた全国将来人口推計を行い、公表している。

それによれば、総人口の推移については、「人口推計の出発点である平成22(2010)年の日本の総人口は同年の国勢調査で1億2,806万人であった。出生中位推計の結果に基づけば、この総人口は、以後長期の人口減少過程に入る。平成42(2030)年の1億1,662万人を経て、平成60(2048)年には1億人を割って9,913万人となり、平成72(2060)年には8,674万人になるものと推計」している。

また、年少(0~14歳)人口および構成比の推移については、「出生中位推計の結果によると、年少人口は平成27(2015)年に1,500万人台へと減少する。その後も減少が続き、平成58(2046)年には1,000万人を割り、平成72(2060)年には791万人の規模になるものと推計される。」「こうした年少人口の減少を総人口に占める割合によって見ると、出生中位推計によれば、平成22(2010)年の13.1%から減少を続け、平成37(2025)年に11.0%となった後、平成56(2044)年に10%台を割り、平成72(2060)年には9.1%となる」という。

他方、老年人口割合については、「平成22(2010)年現在の23.0%から、出生3仮定推計とも平成25(2013)年には25.1~2%で4人に1人を上回り、その後出生中位推計では、平成47(2035)年に33.4%で3人に1人を上回り、50年後の平成72(2060)年には39.9%、すなわち2.5人に一人が老年人口となる」と推計している(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/gh2401.pdf> [2014年1月20日閲覧])。)

以上の推計からも明らかなように、我が国は人口減少社会に入り、一方で子ども数が減少し、他方で高齢者人口が増加していく傾向にある。人口減少社会では、農山村、中山間地での集落の消滅がさらに加速し、地方での地域経済への深刻な影響が懸念されている。日本全体での人口減少傾向は、はたして都市部においてどのような課題を突きつけるのかについての分析は十分なされているとは言い難い。

都市部においても、人口の高齢化はさらに進み、特に後期高齢者が増えると予測されている。他方、子ども数の減少は都市部でも進んでいる現象である。

そうした中で、東京都港区については、後に見るように、人口が増加傾向にあり、その中で年少人口の割合については横ばいであるが、年少人口数は増えている。

こうした港区に住む、子どもを育てる家庭そして子ども自身の生活と意識はどのようなものか、今回の港区政策創造研究所が実施した「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査」では、それらを明らかにしたいと考えた。

いわゆる「子育て・子育ち」をめぐる課題は、港区においてどのような特徴を持っているのだろうか。他地域と共通する問題と独自の問題があるであろう。

港区の人口増加は、近年の大規模集合住宅の供給が大きな要素と言えようが、それは、また流入人口の多さにも繋がっている。区外から移り住んできた家庭の子どもそして親の実態はどのようなものか、どのような課題をもっているのだろうか。

また子育てをしている世帯もいくつかのグループに分かれ、グループごとに特徴も異なるであろう。そうした違いも重視したい。世帯の経済状況や母親の意識・父親の意識の違いが子どもにどのような影響を与えているのだろうか。

さらに、港区の子育てに関する諸事業がどのように機能しているのかについても注意したい。子

育てをめぐっても孤立している親の実態が注目されているが、問題を抱えつつも声を上げない存在にも注意を向けることが大切であろう。地域に潜在化している諸課題を見る視点も重視にしたい。

最後に、子どもと地域との関係である。それは、単なる子どもの地域活動への参加の程度といった面だけではなく、大きくは港区という地域の文化と子どもがどのように繋がっているのか、また今後の地域文化創造に次世代がそのように関わることかということでもある。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の名称

港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査

### (2) 調査主体

調査の主体は港区政策創造研究所である。なお、調査の設計は、「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査関係者会議」（資料3を参照）において行った。

### (3) 調査の種類と調査対象

本調査は、表1-1のとおり3つの調査からなる。

第1調査は、「世帯内の第一子が未就学児の親」に対する調査で、50%の抽出、抽出人数は4,310人である。

第2調査は、2つの対象からなる。第1は「世帯内の第一子が小学生の親」で、50%の抽出、抽出人数は3,018人である。第2は「中学2年生を持つ親」への全数調査で、対象は1,392人である。第2調査の対象は2つあるが、調査票は1つ（「調査票Ⅱ」）である。なお、1つの世帯に親あての調査票が複数届かないように、対象者を「世帯内の第一子」とした。

第3調査も2つの対象からなる。第1は「小学4年生本人」への全数調査で、その数は1,599人である。第2は「中学2年生本人」への全数調査で、その数は1,410人である。第3調査の対象も2つあるが、調査票は1つ（「調査票Ⅲ」）である。

子ども自身への調査として、なぜ小学4年生と中学2年生を選んだかについては、次のように考

えた。

まず、小学4年生の選定理由は、自筆が可能な学年であること、5・6年生は受験を控えていることから回答率が低くなるのではないかと、また勉強時間などにもバイアスがかかると考えたからである。

また、中学2年生の選定理由は、中学1年生が入学直後で、中学生としてまだ十分な学校生活を送ることが出来ていないこと、また中学3年生については受験を控えていることから回答率が低くなるのではないかと、また勉強時間などにもバイアスがかかると考えたからである。

表1-1 調査の種類、対象、抽出率、抽出数

調査票	対象者	抽出率	抽出数
第1調査 (調査票Ⅰ)	(世帯内の第一子が※) 未就学児の親	半数	4,310人
第2調査 (調査票Ⅱ)	①(世帯内の第一子が※) 小学生の親	半数	3,018人
	②中学2年生を持つ親	全員	1,392人
第3調査 (調査票Ⅲ)	①小学4年生本人	全員	1,599人
	②中学2年生本人	全員	1,410人

※一つの世帯に親あての調査票が複数届かないように、対象者を「世帯内の第一子」とした。

### (4) 調査の方法

郵送によりアンケート用紙を発送し、同封の返信用封筒で回収した。

なお、調査の設計は、「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査関係者会議」において行ったが、その準備段階で、子ども家庭支援センター、保育園、児童館から11人の子育て中の保護者を紹介いただき、直接面接によって聞き取りを行い、その実態と意識から調査票を設計している。調査設計のためのパイロット調査とも言える。

### (5) 調査時点及び期間

調査時点は、平成25(2013)年5月1日現在である。5月31日にアンケートを発送し、6月17日をアンケートの回答期限とした。

### (6) 回収数、回収率

本調査の全体の有効回収数は、表1-2のとおり5,579人、有効回収率は47.6%であった。

調査の種類ごとに回収数と回収率を見ると、第1調査（調査票Ⅰ 未就学児の親への調査）は有効回収数が2,361人、有効回収率が54.8%であつ

た。第2調査（調査票Ⅱ 小学生の親と中学校2年生の親への調査）は、有効回収数が2,067人、有効回収率が46.9%であった。第3調査（調査票Ⅲ 小学4年生本人と中学2年生本人への調査）は、有効回収数が1,151人、有効回収率が38.3%である。

表1-2 調査の種類と（抽出）数、有効回収数、有効回収率

調査の種類	抽出数	有効回収数	有効回収率
全体	11,729人	5,579人	47.6%
調査票Ⅰ 未就学児の親	4,310人	2,361人	54.8%
調査票Ⅱ 小・中学生の親	4,410人	2,067人	46.9%
小学1～6年生	3,018人	1,505人	49.9%
中学2年生	1,392人	562人	40.4%
調査票Ⅲ 小・中学生本人	3,009人	1,151人	38.3%
小学4年生	1,599人	621人	38.8%
中学2年生	1,410人	530人	37.6%

### (7) 本報告書の分析と執筆者

本報告書の執筆は、「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査関係者会議」での分析をもとに、港区政策創造研究所（所長：河合克義）が行った。

#### 報告書における表及び図表の見方

- ① グラフや図表では、各質問の回答者数を母数とした百分率（%）で回答比率を示している。百分率（%）は、原則として小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しているため、比率の合計が100%を前後する場合がある。
- ② 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- ③ 図表内のnは、回答の合計数である。例えば、n=2,361の場合、回答数は2,361となる。
- ④ カイ二乗検定：観測値と期待値のずれをはかるための統計量である $\chi^2$ 値（カイ二乗値）を用いて、クロス表における2つの変数が関連しているか否かを調べる検定方法のこと。 $\chi^2$ 値と自由度、p値を求め、ここではp値が0.05以下であれば有意水準5%で統計学的に有意な差が認められると判断する。

## II 港区の地域概況

### 1 港区の概況

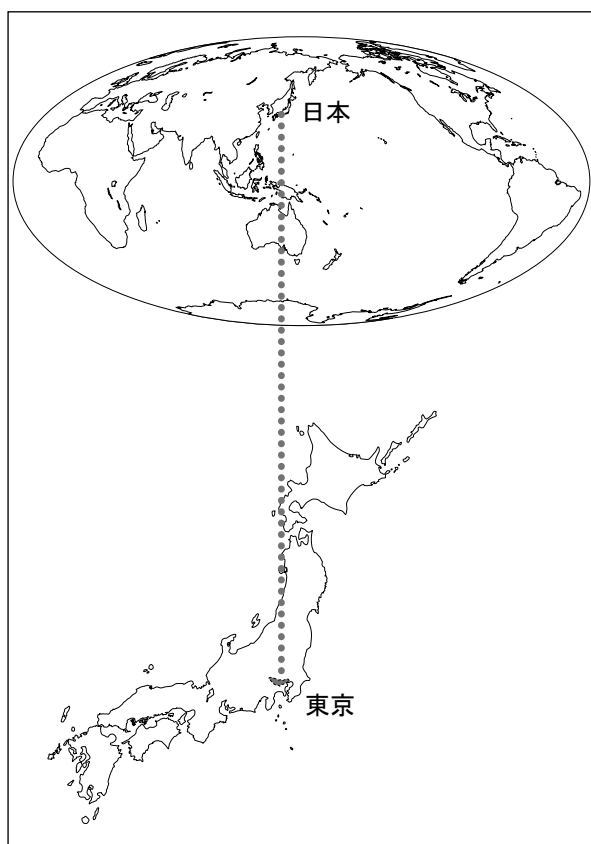
#### (1) 誕生

昭和22年（1947）3月15日、旧赤坂区、旧麻布区、旧芝区の3区が合併され、今の「港区」が誕生した。なお、「港区」という名称は、3区合併を期に、各区の関係者から提案されたもののうち、「今後の我が国の発展は貿易の振興にあるが、その素材とも言える東京港を包含している」として「東港区」が候補となり、そこから「東」の一字を除いて、「港区」となったことに由来する。

#### (2) 位置

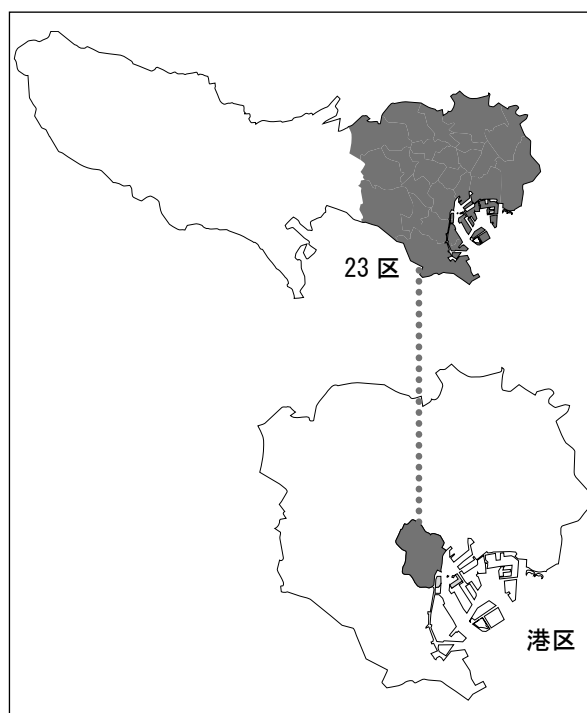
日本は、アジアの東方にある4つの弧状列島から成り立っていて、太平洋の西部にある島国である。その最南端でもあり最東端でもある東京都は、区部及び多摩地域の内陸部と伊豆諸島及び小笠原諸島などの島しょ部からなっている。

図1-1 日本、東京都の位置



港区は、東京都のほぼ東南部に位置して、東は東京港に面し、その北端でわずかに中央区に接し、北は千代田区と新宿区に、西は渋谷区、南は品川区、東は江東区にそれぞれ隣接している（図1-2）。港区の東端は台場2丁目（東経139度47分）、西端は北青山3丁目（東経139度42分）で、南端は高輪4丁目（北緯35度37分）、北端は元赤坂2丁目（北緯35度41分）である。南北の距離は約6.5km、東西は約6.6kmである。

図1-2 港区の位置



#### (3) 地形

地形は、西北一帯が高台地となっている一方、東南の東京湾に面した部分は、低地及び芝浦海浜の埋立地からなっている。高台地は秩父山麓に端を発している武蔵野台地の末端で、これらの台地は小さな突起状の丘陵となっており、そのため、東京23区の中では最も起伏に富んだ地形をもっている。土地の高低差が大きく、名前がついているものだけでも80余りの坂がある。そして区の中央部を西から東に流れる古川（金杉川）流域には、平地部が横たわっている。最高地は赤坂台地の北青山3丁目の海拔34mで、最低地はJR浜松町駅前ガード下付近の0.08mである。

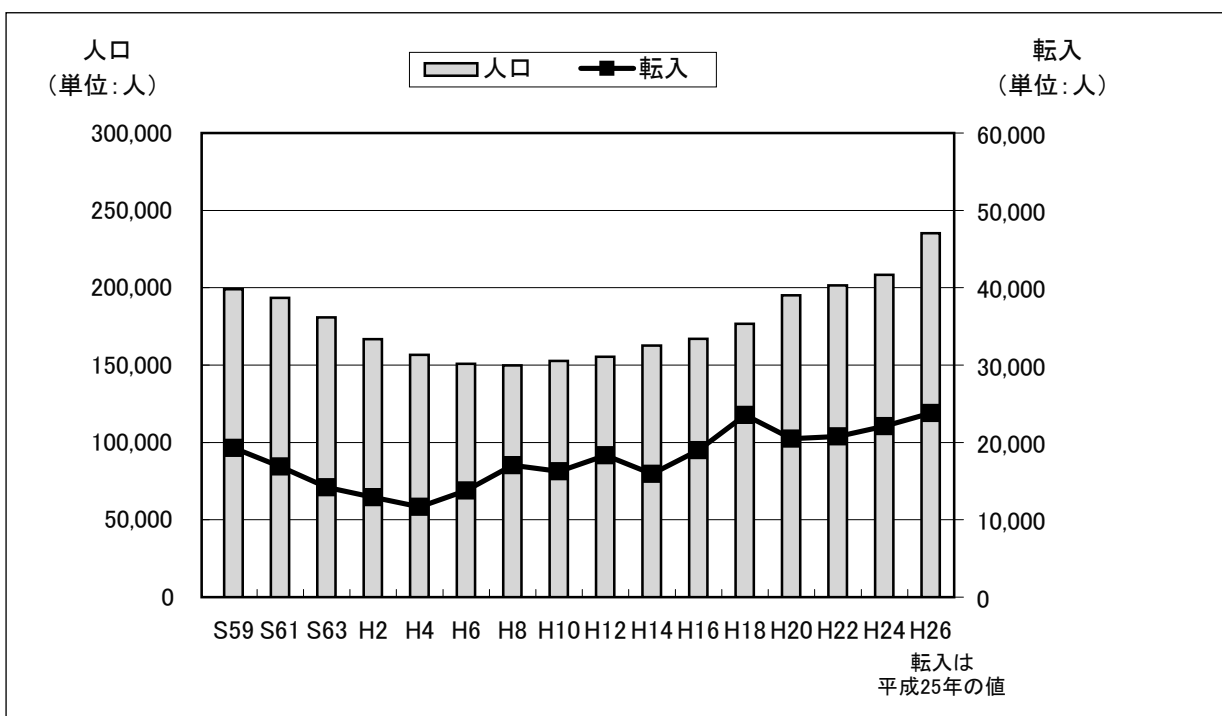
#### (4) 面積

港区の総面積は、20.34平方 km（平成23年10月1日現在）である。この面積は、東京23区総面積622.99平方 km の約3.26%にあたり、23区中12番目の広さである。また最大区の大田区の3分の1強、最小区の台東区の約2倍に相当する。支所管内ごとにみると、芝地区総合支所管内は4.42平方 km、麻布地区総合支所管内は3.79平方 km、赤坂地区総合支所管内は4.01平方 km、高輪地区総合支所管内は3.37平方 km、芝浦港南地区総合支所管内は4.76平方 km となっている。

#### (5) 人口

平成26年1月1日現在の住民基本台帳から、港区の人口は、235,337人であった（図1-3）。人口は、昭和59年から減少し続け、平成7年4月には、15万人を割り込んだが、近年の芝浦港南地域での人口増加に伴い、平成21年5月には四半世紀ぶりに20万人台を回復した。なお、転入者数も昭和59年から減少し続けたが、平成4年以降に増加傾向に転じ、現在は毎年2万人超が転入しており、区民の1割近くが毎年入れ替わっていることになる。

図1-3 港区の人口、転入者数

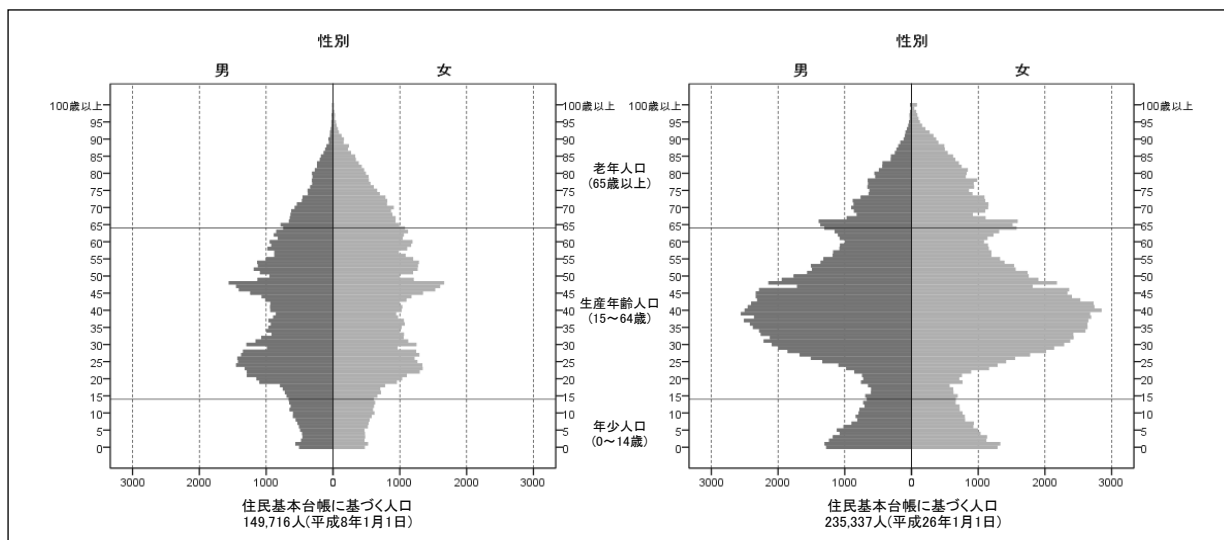


(資料) 住民基本台帳、行政資料集から作成  
 ※平成26年1月1日現在の人口は外国人を含んでいる。  
 ※平成26年に記載のある転入は、平成25年の転入者数である。

昭和55年から平成26年の各年1月1日付で、人口の最も少なかった平成8年と、人口の最も多い平成26年の人口ピラミッドを比較すると、平成26年の方が全体的に大きくなっている（図1-4）。年齢3区分別でその増減を比較すると、平成8年

から平成26年の18年間で、生産年齢人口が53.3%（57,965人）、老年人口が64.4%（15,843人）増えているが、特に年少人口においては、72.4%（11,813人）の増加がみられる。

図1-4 年齢構造



(資料) 住民基本台帳から作成  
 ※平成26年1月1日現在の人口は外国人を含んでいる。

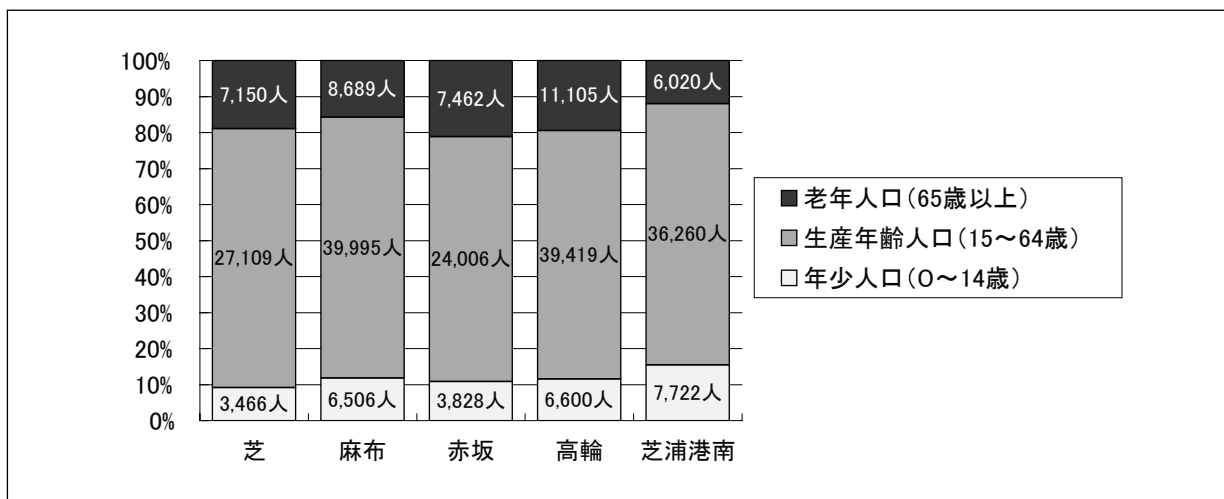
総合支所管内ごとの人口をみると、芝地区総合支所管内は37,725人、麻布地区総合支所管内は55,190人、赤坂地区総合支所管内は35,296人、高輪地区総合支所管内は57,124人、芝浦港南地区総合支所管内は50,002人となっている。

総合支所管内別の人口構成での特徴は、芝浦港南地区は年少人口（0～14歳）が老年人口（65歳

以上）の1.3倍近くいる一方、芝地区は年少人口が老年人口の5割弱程度しかいないことが挙げられる（図1-5）。

なお、外国人の数は、平成26年1月1日現在、18,104人（男9,570人、女8,534人）であり、全人口の7.7%を占めている。

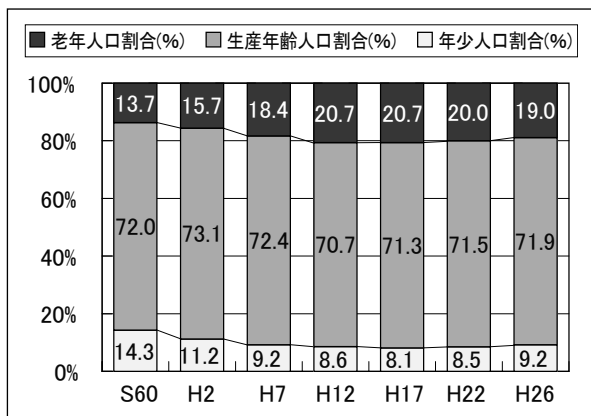
図1-5 総合支所管内の人口構成比較（単位：人）



※人口には外国人を含んでいる。

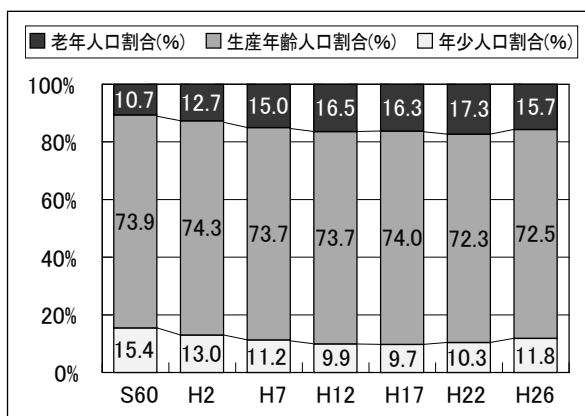
図1-6～10において、昭和60年からの各地区の年齢3区分別構成割合を比較した。

図1-6 芝地区における年齢3区分別構成割合の推移



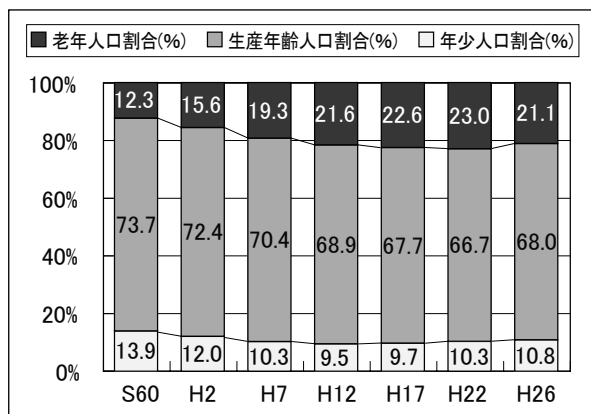
昭和60年からの29年間で、芝地区は、生産年齢人口割合に大きな変化は見られないが、年少人口割合が5ポイント以上減少し、一方老年人口割合は5ポイント以上増加している。

図1-7 麻布地区における年齢3区分別構成割合の推移



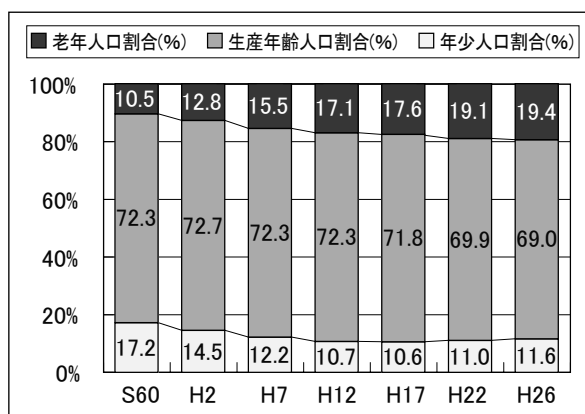
麻布地区では、生産年齢人口割合に大きな変化は見られないが、年少人口割合が4ポイント近く減少し、一方老年人口割合は5ポイント増加している。

図1-8 赤坂地区における年齢3区分別構成割合の推移



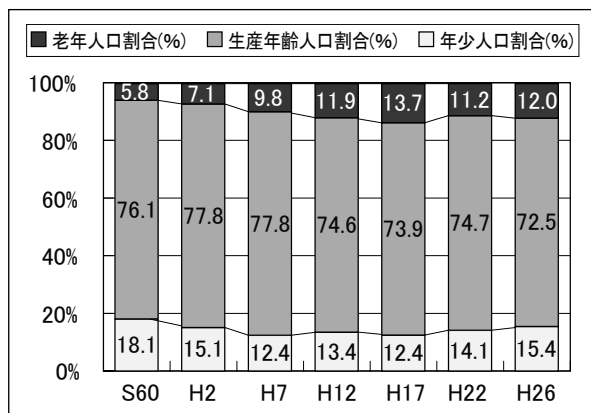
赤坂地区では、生産年齢人口割合が6ポイント近く減少し、年少人口割合においても3ポイント減少している。一方老年人口割合は9ポイント近く増加している。

図1-9 高輪地区における年齢3区分別構成割合の推移



高輪地区では、生産年齢人口割合が3ポイント以上減少し、年少人口割合においても6ポイント近く減少している。一方老年人口割合は9ポイント近く増加している。

図1-10 芝浦港南地区における年齢3区分別構成割合の推移



芝浦港南地区では、生産年齢人口割合が4ポイント近く減少し、年少人口割合においても3ポイント近く減少している。一方老年人口割合は6ポイント以上増加している。



(6) 産業

総務省統計局が実施した平成21年経済センサスによると、港区の事業所数は42,664所（事業内容等不詳を除く）、従業者数は1,028,331人であり、これは特別区の中で最も多い（表1-3）。特に従業者数については、特別区全体の従業者数の13.0%を占めている。港区の産業分類の事業所数の構成比率をみると、「卸売業、小売業」が19.87%、

「宿泊業、飲食サービス業」が16.53%、「学術研究、専門・技術サービス業」が13.71%と高い。特別区の構成比率と比較すると、港区は、「情報通信業」が9.10%（特別区4.16%）、「学術研究、専門・技術サービス業」が13.71%（7.22%）と高く、一方「建設業」「製造業」はそれぞれ2.64%（5.99%）、3.90%（9.25%）と低い。

表1-3 港区の産業

産業分類（実数、%）	事業所数				従業者数			
	港区		特別区		港区		特別区	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	42,664	100%	553,684	100%	1,028,331	100%	7,902,039	100%
農林漁業（合計）	19	0.04%	241	0.04%	124	0.01%	2,081	0.03%
農業、林業	16	0.04%	226	0.04%	90	0.01%	1,990	0.03%
漁業	3	0.01%	15	0.00%	34	0.00%	91	0.00%
非農林漁業（合計）	42,645	99.96%	553,443	99.96%	1,028,207	99.99%	7,899,958	99.97%
鉱業、採石業、砂利採取業	16	0.04%	56	0.01%	952	0.09%	2,087	0.03%
建設業	1,126	2.64%	33,148	5.99%	54,350	5.29%	408,092	5.16%
製造業	1,664	3.90%	51,241	9.25%	102,466	9.96%	731,225	9.25%
電気・ガス・熱供給・水道業	58	0.14%	399	0.07%	4,834	0.47%	31,165	0.39%
情報通信業	3,883	9.10%	23,051	4.16%	183,639	17.86%	804,389	10.18%
運輸業、郵便業	1,102	2.58%	16,931	3.06%	37,900	3.69%	426,053	5.39%
卸売業、小売業	8,478	19.87%	134,773	24.34%	198,702	19.32%	1,608,469	20.36%
金融業、保険業	1,025	2.40%	9,383	1.69%	41,547	4.04%	371,689	4.70%
不動産業、物品賃貸業	3,429	8.04%	49,474	8.94%	39,877	3.88%	301,662	3.82%
学術研究、専門・技術サービス業	5,848	13.71%	39,960	7.22%	75,688	7.36%	396,768	5.02%
宿泊業、飲食サービス業	7,054	16.53%	78,312	14.14%	89,690	8.72%	722,723	9.15%
生活関連サービス業、娯楽業	2,383	5.59%	37,462	6.77%	31,159	3.03%	288,799	3.65%
教育、学習支援業	651	1.53%	13,609	2.46%	17,753	1.73%	322,209	4.08%
医療、福祉	1,604	3.76%	30,073	5.43%	22,604	2.20%	444,246	5.62%
複合サービス事業	81	0.19%	1,392	0.25%	1,305	0.13%	15,230	0.19%
サービス業（他に分類されないもの）	4,174	9.78%	32,844	5.93%	117,936	11.47%	818,512	10.36%
公務（他に分類されるものを除く）	69	0.16%	1,335	0.24%	7,805	0.76%	206,640	2.62%

（資料）総務省統計局「平成21年経済センサス」より作成

(7) 住宅

「平成20年住宅・土地統計調査」によると、住宅総数は140,440戸、世帯総数は120,590世帯である。「専用住宅（居住のみを目的として建てられた住宅）」の建て方別にみると、港区は、「一戸建」が8.0%、「共同住宅」が88.4%で、「共同住宅」が「一戸建」の11倍を上回っている（図1-11）。特別区全体でみると、「一戸建」が22.7%、「共同住宅」が75.6%であり、また港区は「6階建以上」の比率が69.2%（特別区31.3%）と非常に高いことから、特別区の中でも、高層の「共同住宅」の比率が高いことがわかる。

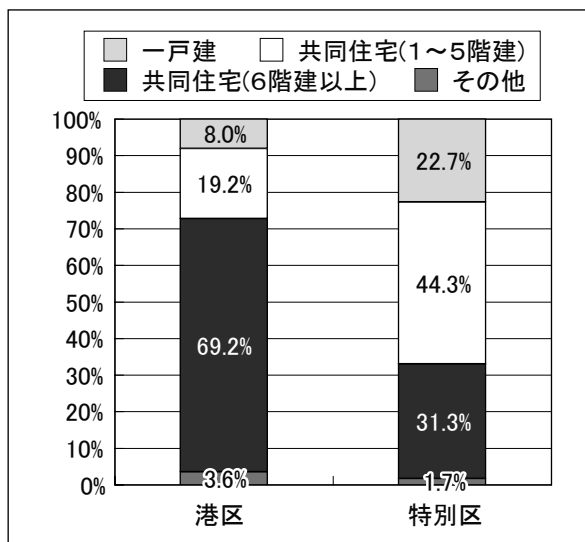
2 港区の子どもの状況

(1) 年少人口の推移

昭和55年当時34,959人であった港区の14歳以下の年少人口は、20年後の平成12年には15,951人と半分以下に減少したが、平成26年1月1日現在では、28,122人と増加し続けている。

また全人口に占める年少人口の割合は、昭和55年当時では17.5%であったが、平成10年の10.0%を下限に平成26年1月現在は11.9%と緩やかな増

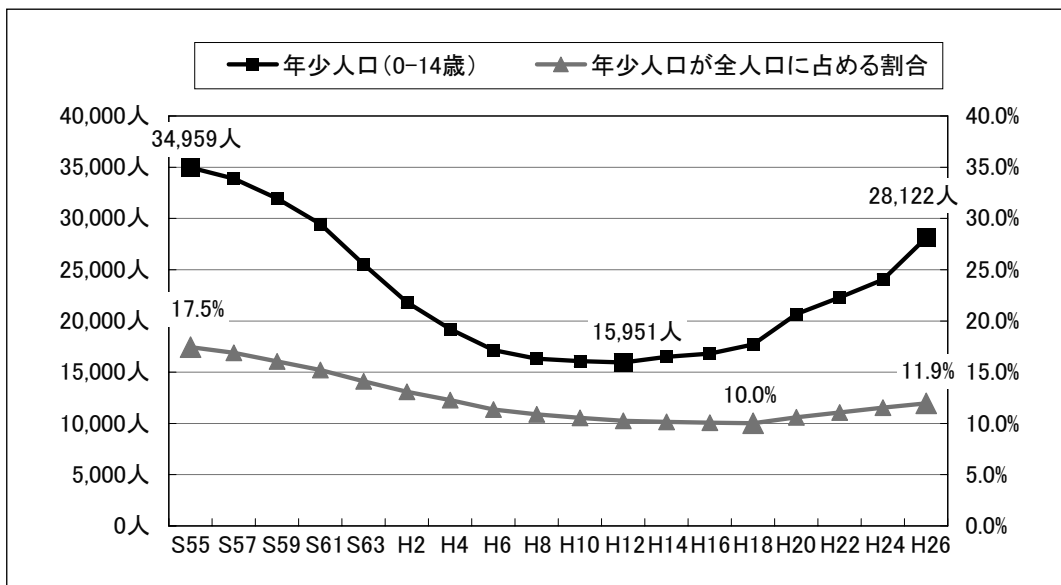
図1-11 港区と特別区全体の住宅の建て方の比較



(資料) 総務省統計局「平成20年住宅・土地統計調査」より作成

加傾向となっている（図1-12）。なお、東京都の全人口に占める年少人口の割合は、昭和60年では18.6%であったがその後減少し続け、平成23年を除き増加に転じることなく平成25年には11.8%となっている。

図1-12 年少人口（0-14歳人口）と全人口に占める割合の推移



※平成26年1月1日現在の人口は外国人を含んでいる。

## (2) 港区の出生の状況

港区の出生数と15～49歳女性人口の推移を示したのが図1-13である。

15～49歳女性人口の減少に合わせ出生数も減少していたが、この女性人口が増加に転じると出生数も増加傾向となっている。

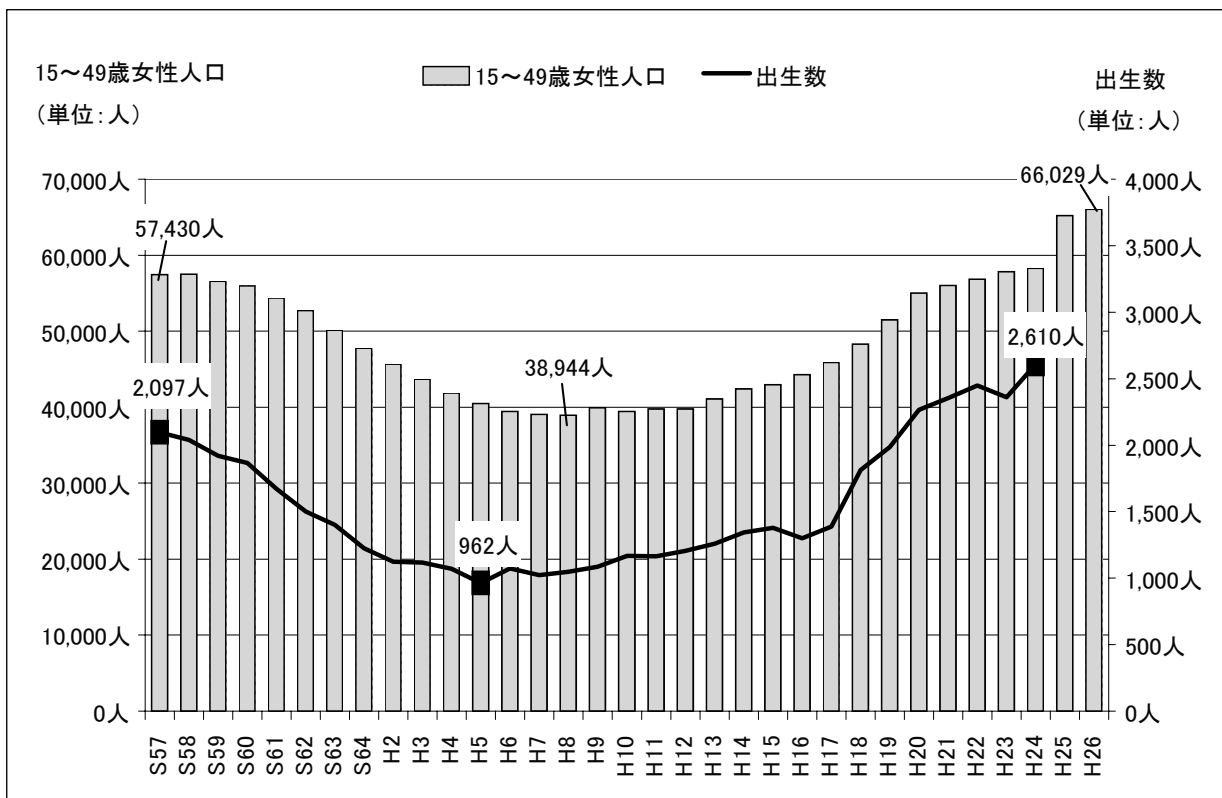
昭和57年当時57,430人であった15～49歳の女性人口は、14年後の平成8年には38,944人と7割弱

まで減少した。それ以降は、ほぼ毎年増加し、平成26年1月1日現在では66,029人となっている。

一方、出生数も15～49歳女性人口と同様、昭和57年当時から減少を続け、11年後の平成5年には962人と約45%にまで減少した。しかしそれ以降は、増加傾向にあり、平成24年には2,610人まで上昇している。

なお、平成24年の合計特殊出生率は1.27です。

図1-13 出生数と15～49歳女性人口の推移



(資料) 住民基本台帳、行政資料集から作成

※15～49歳女性人口は、各年1月1日現在の人数。出生数は、各年1月から12月に生まれた人数。

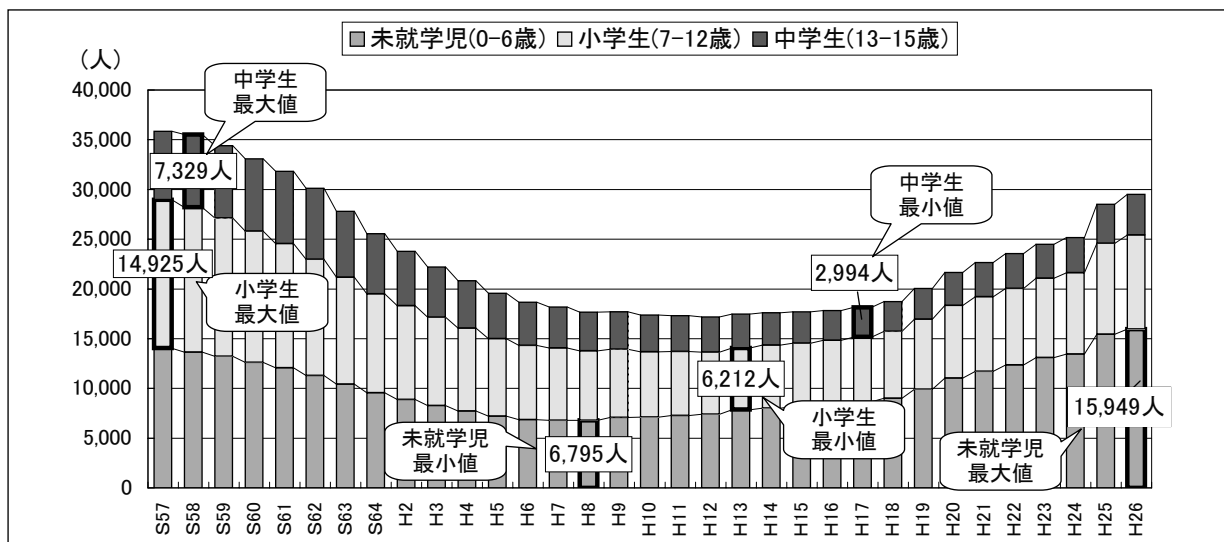
※平成25年と平成26年の人口は外国人を含んでいる。

## (3) 未就学児、小・中学生各年代の推移

住民基本台帳から、昭和57年以降の未就学児(0～6歳)、小学生(7～12歳)、中学生(13～15歳)の人口推移を見ると、未就学児は、平成26年が最も多く15,949人、最も少なかったのは平成

8年の6,795人であり、18年間で2.3倍に増えている。小学生は、昭和57年が最も多く14,925人、最も少なかったのは平成3年の6,212人、中学生は、昭和58年が最も多く7,329人、最も少なかったのは平成7年の2,994人であった。

図1-14 各世代の人口推移



(資料) 住民基本台帳から作成

※平成25年と平成26年の人口は外国人を含んでいる。

※図1-14では、便宜上各年1月1日時点の0～6歳を未就学児、7～12歳を小学生、13～15歳を中学生とみなした。

### 3 港区の地区ごとの特徴

#### (1) 芝地区

芝地区には、芝公園のように大規模な緑地がある一方で、新橋、汐留といった繁華街も存在する。新橋や虎ノ門、浜松町は多くの事業所が集積している地域であり、平成22年の国勢調査によると、芝地区は、夜間人口が32,369人なのに対し、昼間人口が388,819人となっており、昼夜間人口比率が港区全体で4倍強なのに対し、芝地区では約12倍と昼間人口が多いこともそれを示している。JRや地下鉄など交通網の整備も進んでいる。また大規模な開発等により、高層の事業所ビルやマンション等の建設が進められており、高層建築物も多い。

#### (2) 麻布地区

麻布地区は、地勢で見ると、高台や低地など起伏に富み、坂の多い地域である。区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な都市活動が展開されており、外国人居住者が区内で最も多い地域でもある。住宅地や地域に密着した工場や商業などの町並みが広がっていると同時に、六本木ヒルズ等に代表されるように新しく近代的なオフィス街や繁華街も数

多く存在する。

#### (3) 赤坂地区

赤坂地区は、青山通りが赤坂と青山を結ぶように東西に走り、多くの商業ビル、宿泊施設が立ち並び、国内有数の繁華街を形成している。地区内には、麻布地区同様、多くの大使館が存在するとともに、外国籍の人々が多数居住している。また地価の高騰時に大きく人口の減少した赤坂・青山地区では、子ども世代が地区から転出し、親世代が地区に留まったことと家族層が転入するには住居費の負担が高いことから、年少人口比率は低く、一方65歳以上の人が占める割合は高い。

#### (4) 高輪地区

高輪地区は、5つの地区の中では最も面積が狭く、土地の高低差が大きな港区の中でも起伏の多い地区である。また居住人口は、5つの地区の中では最大だが、昼夜間人口の差は少なくなっている。これは、住宅が多く、大きな事業所が少ないことを示している。居住人口は今後も増加すると想定されている。また高輪地区には、歴史的建造物が数多く立地している一方、近年、再開発やマンション建設も進んでいる。

### (5) 芝浦港南地区

芝浦港南地区は、近年の相次ぐ大規模マンションの建設等により、人口が急増している。平成26年1月1日現在の人口は50,002人で、人口の急増が始まった平成17年と比較すると2倍以上に増加しており、今後も人口の増加傾向が続くことが予想される。年齢別人口を見ると、年少人口と生産年齢人口の割合が高く、ファミリー層の多い地域であるといえる。また芝浦港南地区は、埋め立てによりできたことから、地区の大部分が標高10m未満の低地で、区内の他地区が高低差のある地形であることと比べると、起伏の少ない平らな地形となっている。

図1-15 各地区



## 第2章 基本集計

### A 未就学児の保護者に対するアンケート

#### 基本集計結果

#### 1 基本属性

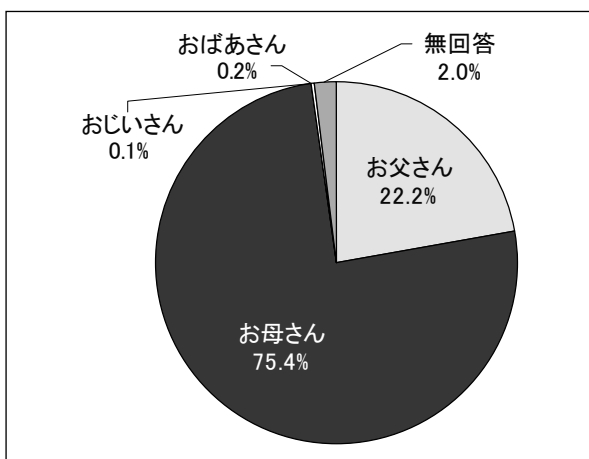
##### (1) 回答者の種類

アンケートに回答した人は、「お父さん」が22.2%、「お母さん」が75.4%で、母親が7割半を占めている（図2-1）。

おじいさんは0.1%（2ケース）、おばあさんは0.2%（5ケース）であった。

なお、父母の国籍については、父親の89.6%が日本国籍、7.8%が日本以外の国籍で、母親の93.7%が日本国籍、4.3%が日本以外の国籍をもつと回答している（表2-1参照）。

図2-1 回答者の種類



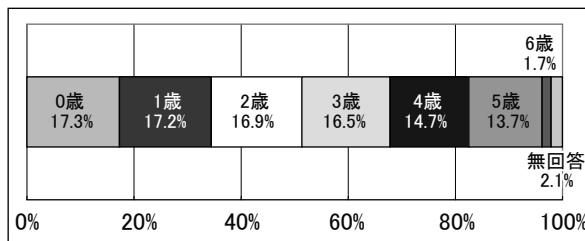
##### (2) 子どもの年齢・性別

子どもの年齢については、「0歳」が17.3%、「1歳」が17.2%、「2歳」が16.9%、「3歳」が16.5%、「4歳」が14.7%、「5歳」が13.7%、「6歳」が1.7%であった。

なお、年齢は調査時点（平成25年5月1日現在）のものである。

性別については、男児が48.6%、女児が49.4%であった（表2-2参照）。

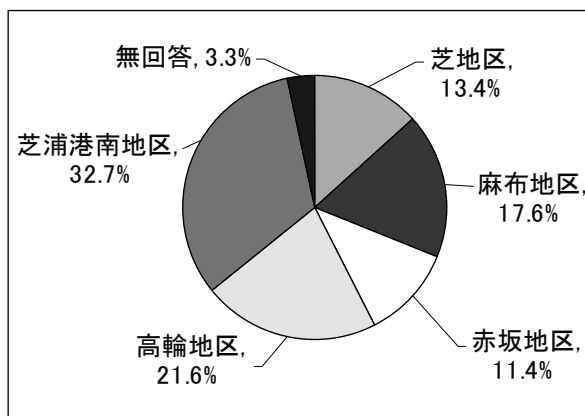
図2-2 子どもの年齢



##### (3) 居住している地域について

居住している地域について尋ねた。それを5総合支所別に区分して集計したものが図2-3である。「芝地区」は13.4%、「麻布地区」は17.6%、「赤坂地区」は11.4%、「高輪地区」は21.6%、「芝浦港南地区」は32.7%であった。調査対象者の地区別割合は表2-3のようである。このことから、今回のアンケートの回答者は、芝浦港南地区に居住する人の割合が高めで、赤坂地区に居住する人の割合が低めであったことがわかる。

図2-3 居住地区



本文中に掲載のない表については、別冊に掲載されている。

表2-3 調査対象者数と調査回答者数および回収率

	調査対象者【総数】		調査対象者【抽出】		調査回答者		回収率
	度数	%	度数	%	度数	%	
芝地区	1,210	14.1%	624	14.5%	317	13.9%	50.8%
麻布地区	1,767	20.6%	910	21.1%	416	18.2%	45.7%
赤坂地区	1,074	12.5%	533	12.4%	268	11.7%	50.3%
高輪地区	1,877	21.9%	928	21.5%	511	22.4%	55.1%
芝浦港南地区	2,636	30.8%	1,315	30.5%	771	33.8%	58.6%
合計	8,564	100.0%	4,310	100.0%	2,283	100.0%	53.0%

※調査回答者の構成割合からは、無回答者を除いている。

#### (4) 居住年数

居住年数については(表2-4)、「1年」が最も多く20.9%を占め、「2年」が16.1%、「3年」が14.0%であった。現住所に居住している年数が5年以下の世帯が73.4%と7割以上を占め、6年以上10年以下の世帯が19.5%と2割を占めている。現住所に居住して10年以下の世帯が9割以上を占めていることがわかる。

表2-4 現住所に住んでいる年数

	実数	%
1年	493	20.9%
2年	379	16.1%
3年	330	14.0%
4年	241	10.2%
5年	287	12.2%
6年	181	7.7%
7年	130	5.5%
8年	58	2.5%
9年	23	1.0%
10年	67	2.8%
11年以上	110	4.7%
無回答	62	2.6%
合計	2,361	100.0%

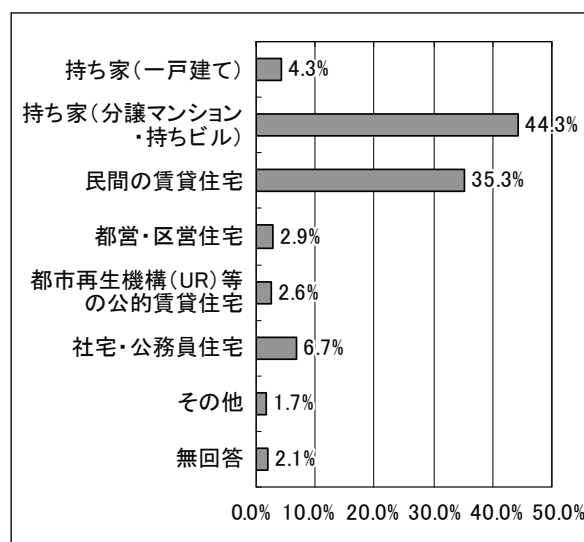
#### (5) 住宅の種類

住宅の種類については(図2-4)、「持ち家(分譲マンション・持ちビル)」が最も多く44.3%を占め、次いで「民間の賃貸住宅」が35.3%であった。「持ち家(一戸建て)」(4.3%)と「持ち家(分譲マンション・持ちビル)」を合わせて、

48.6%が持ち家に住んでいる。

一方、「都営・区営住宅」は2.9%、「都市再生機構(UR)等の公的賃貸住宅」は2.6%であった。ほか、「社宅・公務員住宅」は6.7%であった。

図2-4 住宅の種類

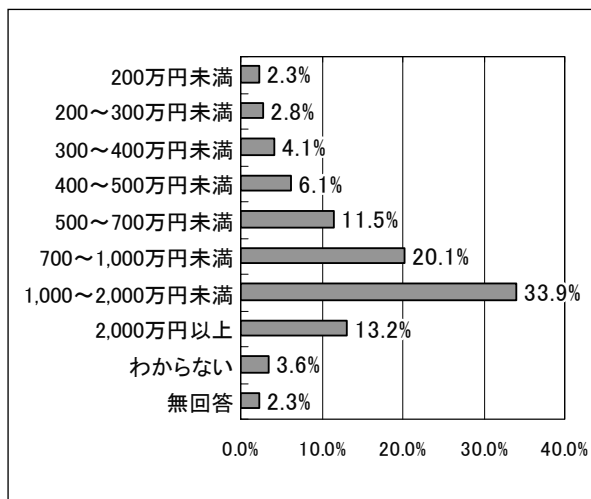


#### (6) 世帯年収

世帯年収については(図2-5)、最も割合が高かったのは「1,000~2,000万円未満」で全体の33.9%を占めた。次いで「700~1,000万円未満」が20.1%、「2,000万円以上」が13.2%、「500~700万円未満」が11.5%であった。

世帯年収が400万円未満の世帯は全体の9.2%であり、1,000万円以上の世帯は全体の47.1%と半分近くを占めている。

図2-5 世帯年収



## 2 家族の状況

### (1) 家族構成

同居している家族は、「父母と子」の構成が最も多く89.0%を占めた（表2-5）。ほか、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯が2.7%、「父と子」または「母と子」の世帯が合わせて4.5%であった。なお、「父と子」や「母と子」等の世帯には、父または母が単身赴任等の理由で現在同居していない家族も含まれている。

表2-5 家族構成

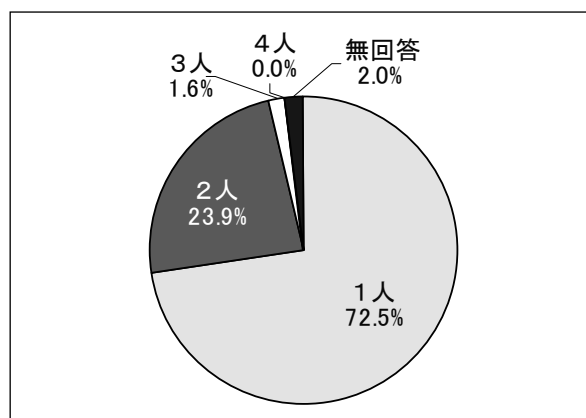
	実数	%
父母+子	2,102	89.0%
父母+子+祖父・祖母	63	2.7%
父+子	7	0.3%
父+子+祖父・祖母	3	0.1%
母+子	98	4.2%
母+子+祖父・祖母	29	1.2%
その他	14	0.6%
無回答	45	1.9%
合計	2,361	100.0%

### (2) 子どもの人数・障害の有無について

子どもの人数は（図2-6）、「1人」が圧倒的に多く72.5%を占め、次いで「2人」が23.9%を占めた。本調査の対象は、第1子が未就学児の世帯であることから、子どもが1人または2人の世帯が多いと考えられる。

世帯内の子どものうち、健康に不安がある、または障害がある子どもがいると回答した世帯は、全体の3.6%（86ケース）であった（表2-6）。

図2-6 子どもの人数



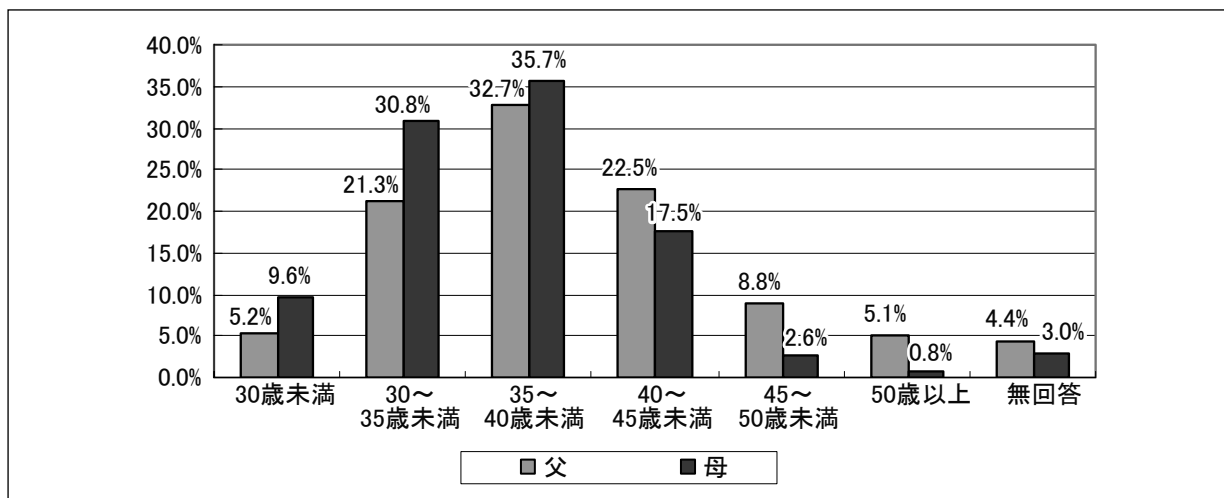
### (3) 父母の年齢

父母の年齢について集計した（図2-7）。父母ともに、最も割合が高かったのは「35～40歳未満」であり、父親の32.7%、母親の35.7%を占めた。父親は、「40～45歳未満」が22.5%、「30～35歳未満」が21.3%と続いた。一方、母親は「30～35歳未満」が30.8%、「40～45歳未満」が17.5%と続いた。全体的に、父親よりも母親の方が年齢が若い層に偏っている。

なお、平均年齢は、父親が38.4歳、母親が35.8歳であった。



図2-7 父母の年齢階層

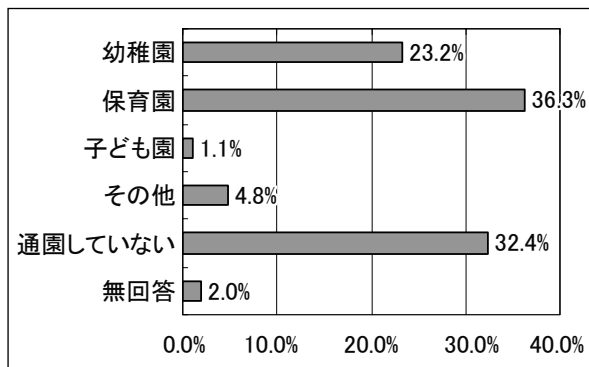


#### (4) 子どもの通園先

子どもの通園先については(図2-8)、「保育園」が36.3%、「通園していない」32.4%、「幼稚園」が23.2%であった。

「子ども園」は1.1%であった。

図2-8 子どもの通園先



### 3 祖父母について

#### (1) 祖父母の住まい

祖父母と同居しているかどうかについて尋ねた(表2-9)。父方・母方双方の祖父母とも、「同居していない」世帯の割合が9割を超えている。

同居していない世帯に対し、祖父母の住まいがどこかについて尋ねた(表2-10)。父方・母方の祖父母ともに、「都外」が最も多く、それぞれ70.4%、72.4%を占め、「都内」が19.8%(父方)、19.9%(母方)、「区内」は9.2%(父方)、6.9%(母方)であった。

表2-9 祖父母との同居有無

	父方の祖父母		母方の祖父母	
	実数	%	実数	%
同居している	50	2.1%	73	3.1%
同居していない	2,184	92.5%	2,216	93.9%
同居していない(死去など)	88	3.7%	53	2.2%
無回答	39	1.7%	19	0.8%
合計	2,361	100.0%	2,361	100.0%

表2-10 祖父母と同居していない場合のお住まい

	父方の祖父母		母方の祖父母	
	実数	%	実数	%
区内	200	9.2%	153	6.9%
都内	433	19.8%	441	19.9%
都外	1,538	70.4%	1,605	72.4%
無回答	13	0.6%	17	0.8%
合計	2,184	100.0%	2,216	100.0%

#### (2) 祖父母からの援助

祖父母からどのような援助を受けているかについて尋ねた(図2-9、複数回答)。

最も多くの人を選択したのは「子どもを預かるなどの援助」で、56.2%の人が回答した。次に「食料など物での援助」が46.0%で続いた。ほか、「金銭的援助」が17.5%、「掃除・家事などの援助」16.2%であった。

図2-9 祖父母からの援助（複数回答）

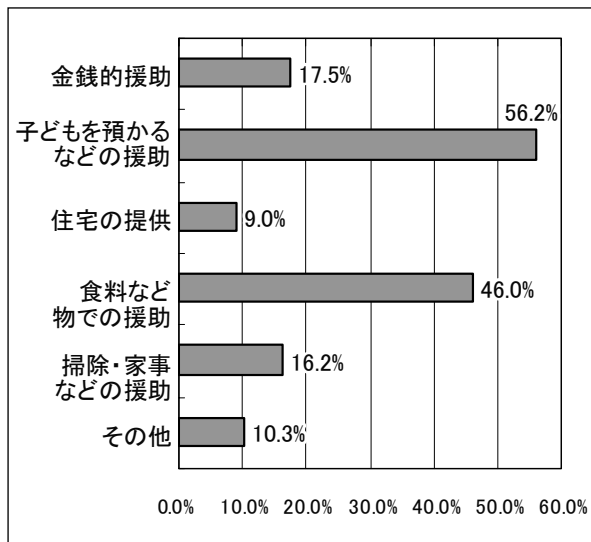
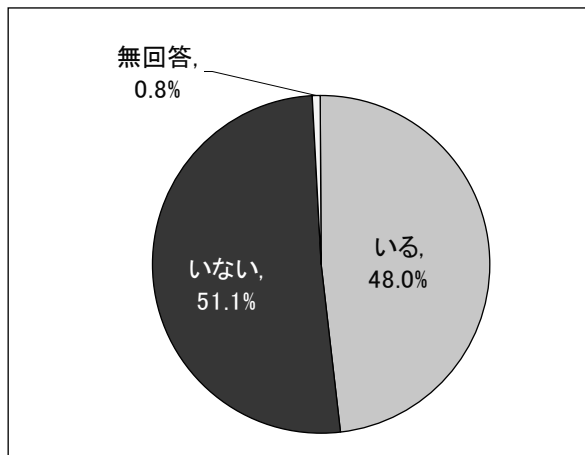


図2-11 祖父母以外に頼れる人

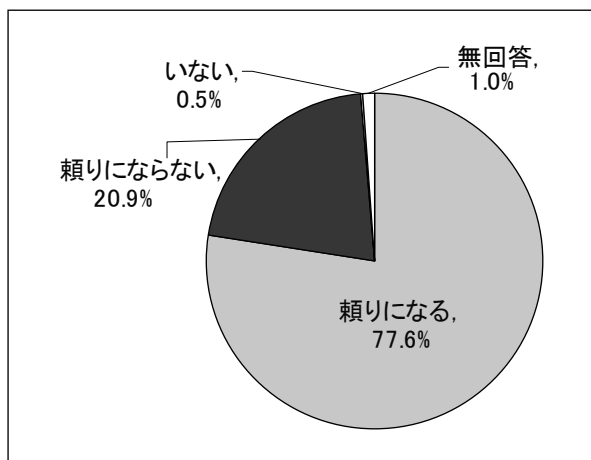


(3) 頼りにしている人

祖父母が頼りになるかどうか尋ねたところ、77.6%の人が「頼りになる」と回答した（図2-10）。「頼りにならない」と回答した人は20.9%であった。

祖父母以外に頼りになる人がいるかどうかについては（図2-11）、「いる」と回答した人が48.0%、「いない」と回答した人が51.1%であった。

図2-10 祖父母は頼りになるか

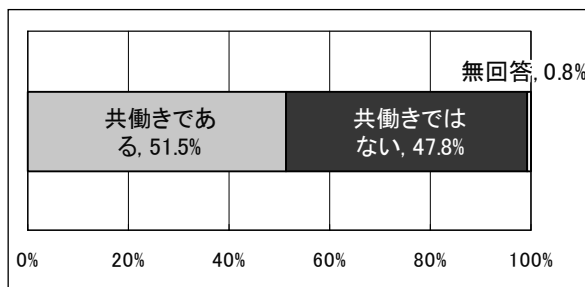


4 父母の仕事と地域活動の状況

(1) 共働きの有無と父母の仕事

保護者が共働きであるかどうかについては（図2-12）、51.5%が「共働きである」と回答し、「共働きではない」と回答した世帯は47.8%であった。共働き家庭の方がやや多いものの、およそ半分ずつに分かれた。

図2-12 共働きの有無



父母の職業については（表2-11）、父親の6割が「民間企業の常勤的勤務者」（61.3%）で、2割が「自営業・会社経営」（21.3%）であった。「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」は7.8%であった。母親の職業については、「就労していない」が最も多く43.7%を占め、次いで「民間企業の常勤的勤務者」が31.9%であった。ほか、「臨時・パートなどの勤務者」は7.3%、「自営業・会社経営」は6.2%、「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」は5.1%であった。

表2-11 父母の職業

	父親の職業		母親の職業	
	実数	%	実数	%
自営業・会社経営	504	21.3%	146	6.2%
公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者	183	7.8%	121	5.1%
民間企業の常勤的勤務者	1,447	61.3%	753	31.9%
臨時・パートなどの勤務者	16	0.7%	173	7.3%
その他の職業	92	3.9%	58	2.5%
就労していない	17	0.7%	1,031	43.7%
無回答	102	4.3%	79	3.3%
合計	2,361	100.0%	2,361	100.0%

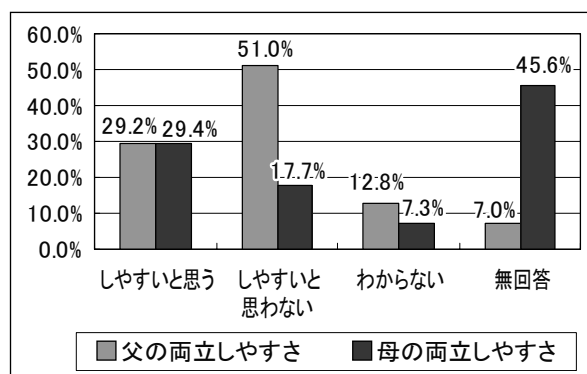
### (2) 仕事との両立のしやすさ

父母の仕事と子育ての両立のしやすさについて尋ねた(図2-13)。両立「しやすいと思う」と回答した人は、父親が29.2%、母親が29.4%で、ともに3割であった。一方、「しやすいと思わない」と回答した人の割合は、父親が51.0%と半分に達し、母親は17.7%であった。

父親の半分は仕事と子育ての両立がしにくいと感じていることがわかる。

なお、母親の無回答の割合が高いのは、仕事をしていない人がそこに含まれているためである。

図2-13 父母の仕事と子育ての両立のしやすさ

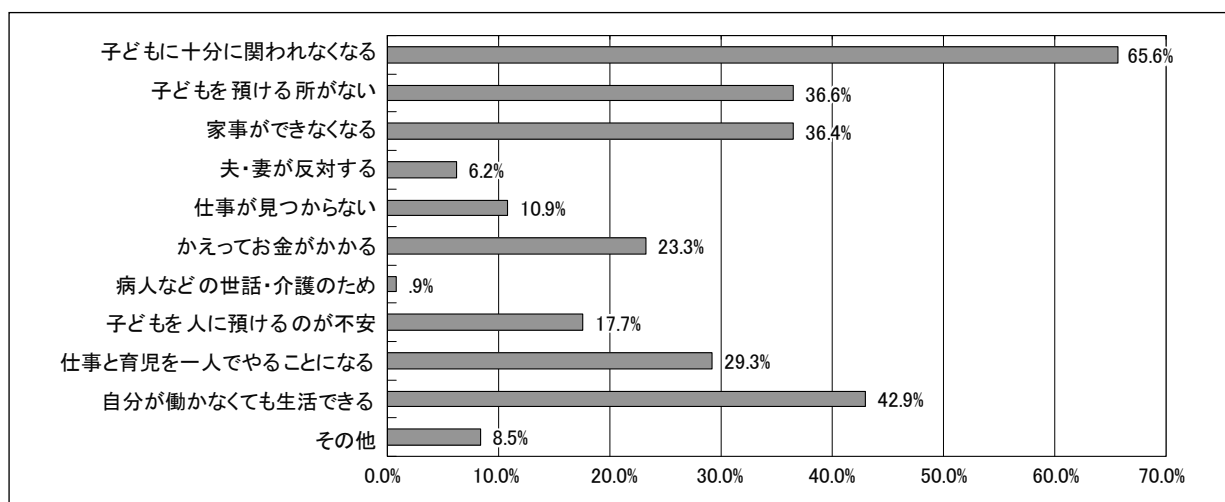


### (3) 仕事についていない理由

仕事に就いていない理由を尋ねた(図2-14、複数回答)。最も高かったのは「子どもに十分に関われない」で65.6%の人が回答した。次いで

「自分が働かなくても生活できる」が42.9%、「子どもを預ける所がない」が36.6%、「家事ができなくなる」が36.4%、「仕事と育児を一人でやることになる」が29.3%、「かえってお金がかかる」が23.3%であった。

図2-14 仕事に就いていない理由(複数回答)



#### (4) 父母が参加している地域活動

父母が地域で参加している団体や集まりについて、複数回答で尋ねた（図2-15）。

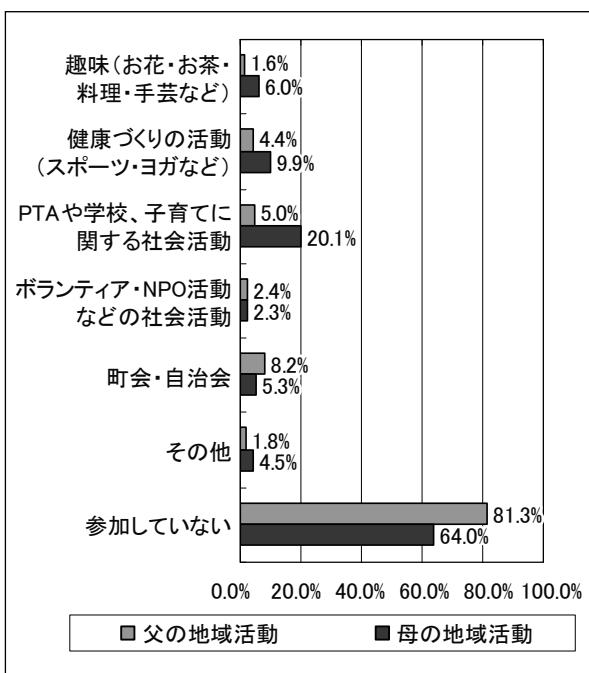
父母ともに「参加していない」人が最も多く、父親の81.3%、母親の64.0%を占めた。

父親は、「町会・自治会」に参加している人が8.2%で最も高かった。ほか、「PTAや学校、子育てに関する社会活動」が5.0%、「健康づくりの活動（スポーツ・ヨガなど）」が4.4%であった。

母親は、「PTAや学校、子育てに関する社会活動」が20.1%と高いほか、「健康づくりの活動（スポーツ・ヨガなど）」が9.9%、「趣味（お花・お茶・料理・手芸など）」が6.0%で、いずれも父親より高かった。「町会・自治会」は5.3%で父親より低かった。

父親の多くは地域活動に参加していないこと、母親は、PTAを中心とした活動に参加している人が父親より多いことがわかる。

図2-15 父母が参加している地域活動



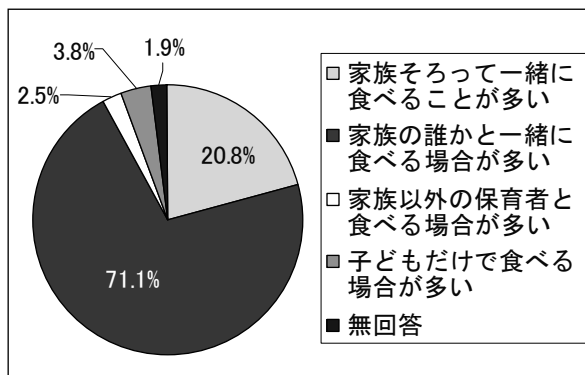
### 5 子育ての状況

#### (1) 子どもの夕食時の状況

子どもの夕食時の状況について尋ねた（図2-16）。最も割合が高かったのは「家族の誰かと一緒に食べる場合が多い」で71.1%を占めた。次

いで「家族そろって一緒に食べる場合が多い」が20.8%であった。

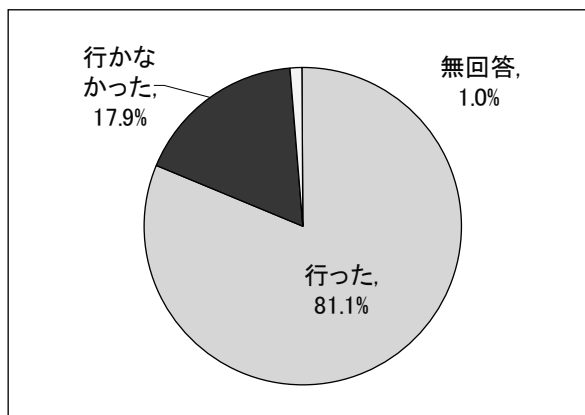
図2-16 子どもの夕食時の状況



#### (2) この1年のレジャーについて

この1年間に、親子で旅行やキャンプなどに出かけたかについては（図2-17）、「行った」と回答した人が81.1%、「行かなかった」と回答した人が17.9%であった。8割の人は、子どもとレジャーに出かけている。

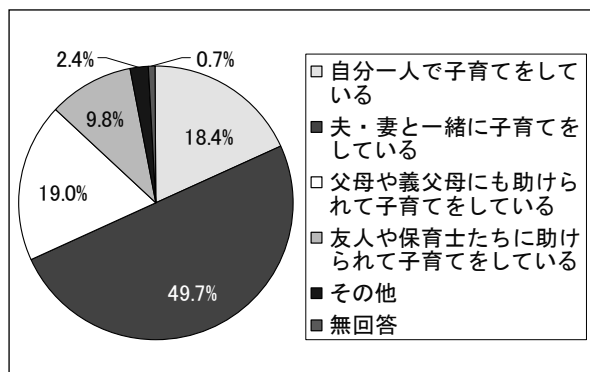
図2-17 1年間のレジャーについて



#### (3) 日頃の子育ての状況

日頃の子育ての状況については（図2-18）、「夫・妻と一緒に子育てをしている」が最も高く49.7%を占め、次いで「父母や義父母にも助けられて子育てをしている」が19.0%、「自分一人で子育てをしている」が18.4%と続いた。「友人や保育士たちに助けられて子育てをしている」と回答した人の割合は9.8%であった。

図2-18 日頃の子育ての状況



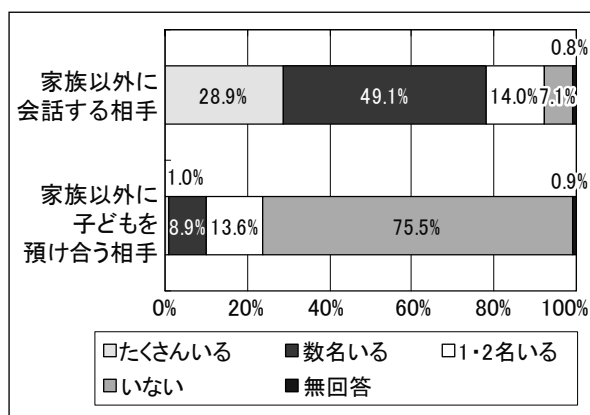
#### (4) 家族以外の付き合い

家族・親戚以外に子どもの話や世間話をする相手と、家族・親戚以外に子どもを預け合う相手について尋ねた(図2-19)。

家族や親戚以外に、子どもの話や世間話をする相手については、「たくさんいる」が28.9%、「数名いる」が49.1%、「1・2名いる」が14.0%で、「いない」と回答した人は7.1%であった。

一方、家族や親戚以外に、子どもを預け合う相手については、「いない」が75.5%と圧倒的に高く、「1・2名いる」が13.6%、「数名いる」が8.9%、「たくさんいる」についてはわずか1.0%であった。日常的に話す相手はいるが、子どもを預けたり預かったりするほど深くかかわる相手がいる人は少ないことがわかる。

図2-19 家族以外の付き合い



#### (5) 緊急時の支援者

回答者が病気のとくに、子どもや回答者の身の回りの世話をしてくれる人について尋ねた(表

2-12、複数回答)。

「同居の家族」が最も多く、53.5%の人が回答した。次に多かったのは「親戚(別居の家族を含む)」で29.5%であった。

「誰もいない」と回答した人は、191ケース、8.1%であった。

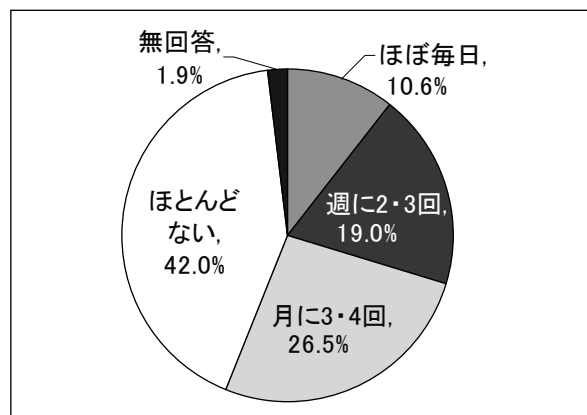
表2-12 病気のとくに身の回りの世話をしてくれる人(複数回答)

	実数	%
同居の家族	1,263	53.5%
親戚(別居の家族を含む)	697	29.5%
保育園・幼稚園の友人	22	0.9%
保育園・幼稚園以外で、子どもを通して知り合った友人	5	0.2%
職場の人	3	0.1%
職場の人以外のあなた自身の友人	8	0.3%
民間のベビーシッターなどのサービス	96	4.1%
こむすび、あい・ぼーなどのサービス	35	1.5%
その他	25	1.1%
誰もいない	191	8.1%
無回答	16	0.7%

#### (6) 近所の子どもとの遊び

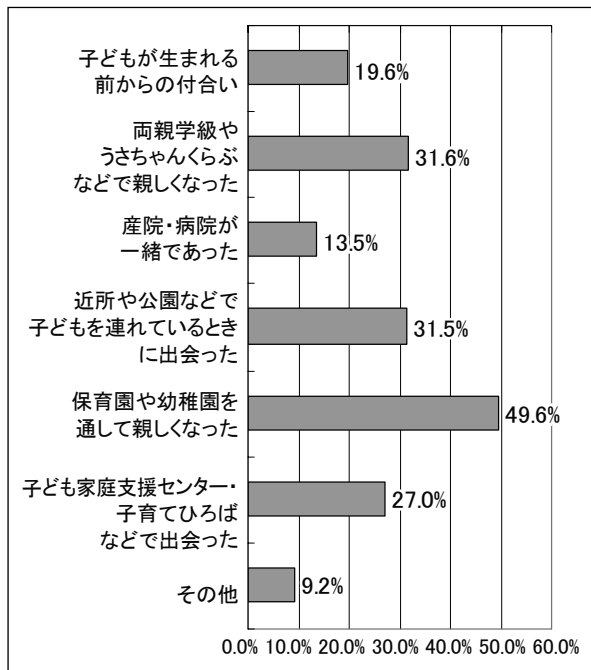
近所でほかの子どもと遊ばせる頻度について(図2-20)、「ほぼ毎日」は10.6%、「週に2、3回」は19.0%、「月に3、4回」は26.5%、「ほとんどない」は42.0%であった。4割の人は、ふだん近所でほかの子どもと遊ばせていないことがわかる。

図2-20 近所で他の子どもと遊ぶ頻度



この設問で「ほぼ毎日」「週に2、3回」「月に3、4回」遊ばせていると回答した人に対し、そのきっかけを尋ねた（図2-21、複数回答）。

図2-21 近所で他の子どもと遊ぶようになったきっかけ（複数回答）

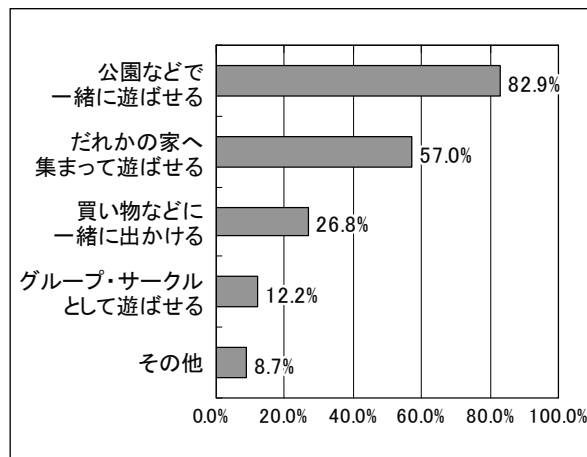


最も高かったのは「保育園や幼稚園を通して親しくなった」で49.6%であった。次いで、「両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった」が31.6%、「近所や公園などで子どもを連れているときに出会った」が31.5%、「子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った」が27.0%、「子どもが生まれる前からの付き合い」が19.6%、「産院・病院が一緒であった」が13.5%であった。

どのように遊んでいるかについては（図2-22、

複数回答）、「公園などで一緒に遊ばせる」が最も高く82.9%で、「だれかの家へ集まって遊ばせる」が57.0%、「買い物などに一緒に出かける」が26.8%であった。「グループ・サークルとして遊ばせる」は12.2%であった。公園や誰かの家で遊んでいる人が多いことがわかる。

図2-22 どのように遊んでいるか（複数回答）



### （7）子どもについての悩みと相談先

子どもに関することでの悩みの有無を、テーマ別に尋ねた（図2-23）。悩みが「ある」と回答した人の割合が高かったのは、「保育園・幼稚園について」（38.5%）、「学習・進路について」（34.5%）、「しつけについて」（35.5%）で、3割半から4割弱の人が「悩みがある」と回答した。そのほか、「友達関係について」（13.3%）、「発達について」（11.9%）悩みがあると回答した人が1割を超えた。「病気や障害について」は8.0%、「きょうだい関係について」は6.8%であった。

図2-23 子どもについての悩みの有無

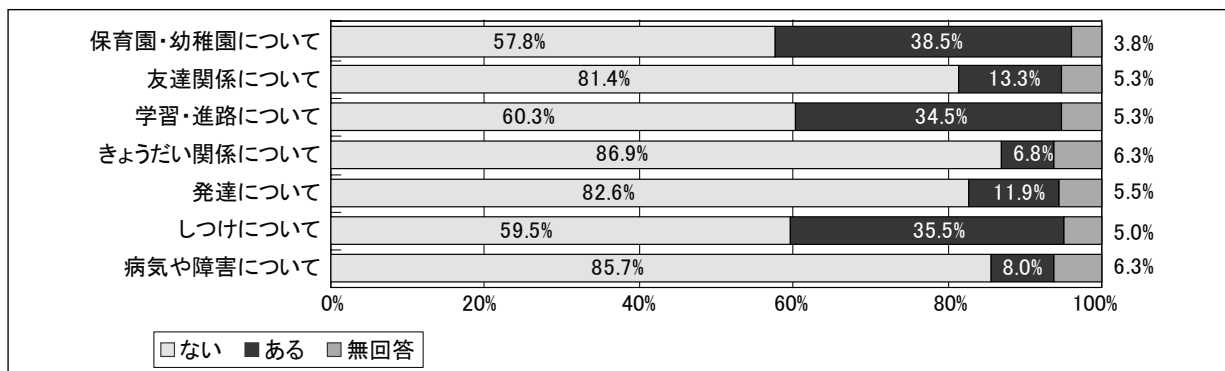
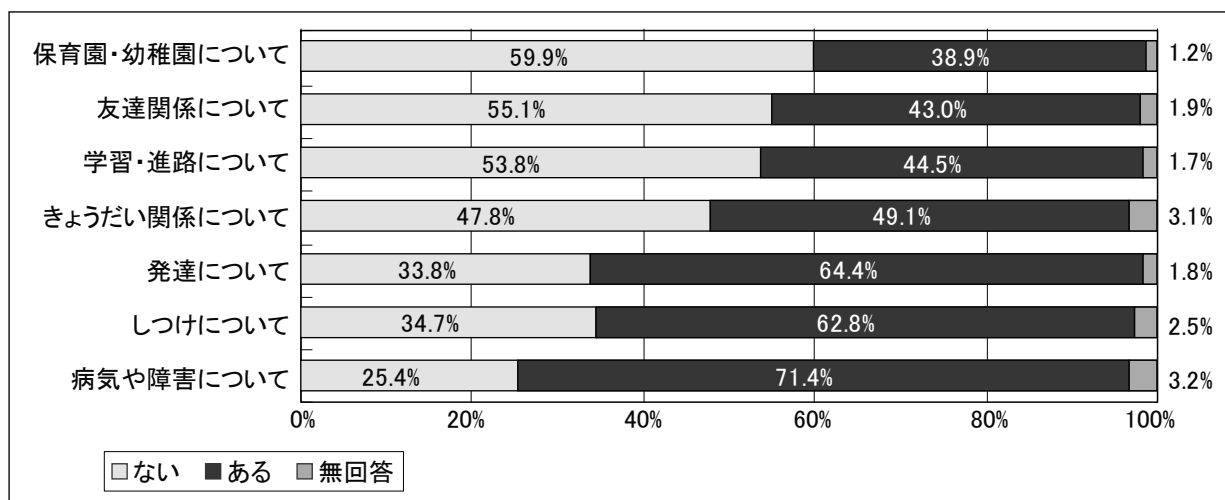


図2-24 悩みの相談先の有無



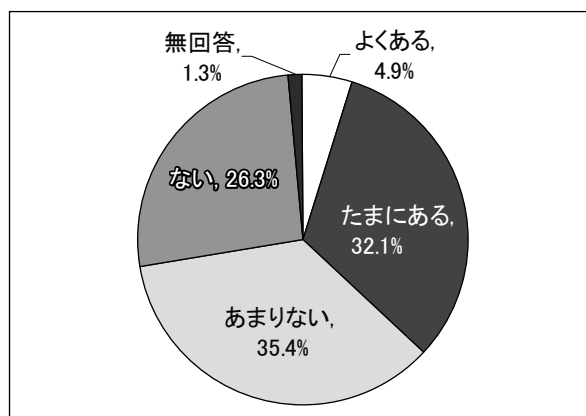
悩みの相談先については（図2-24）、「保育園・幼稚園について」の相談先がないと回答した人が59.9%と6割にのぼった。「友達関係について」（55.1%）、「学習・進路について」（53.8%）、「きょうだい関係について」（47.8%）、相談先が「ない」人が5割弱から5割半程度であった。

「発達について」（33.8%）、「しつけについて」（34.7%）、「病気や障害について」（25.4%）の相談先が「ない」人の割合は、2割半から3割半程度で、他の悩みに比べて、相談先がない人の割合が低く、6割から7割程度の人が、相談先があると回答している。

### （8）保護者の気持ちや様子

他の子どもと比較して気になることがあるかと尋ねた（図2-25）。「よくある」と回答した人は4.9%、「たまにある」が32.1%で、両者を合わせて他の子どもと比較して気になることが「ある」と回答した人は37.0%である。一方、「あまりない」は35.4%、「ない」は26.3%で、両者を合

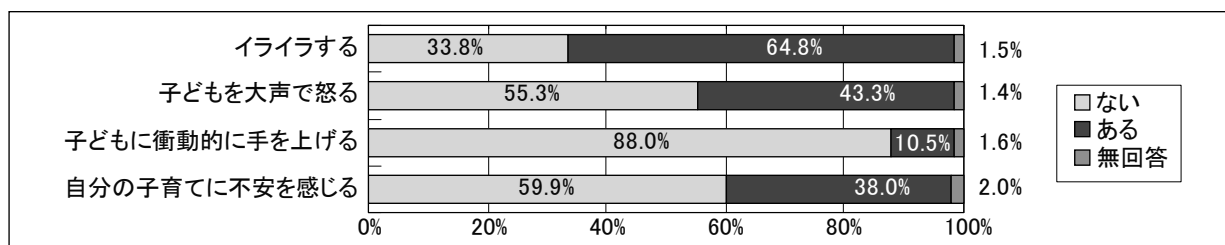
図2-25 他の子どもとの比較



せて他の子どもと比較して気になることが「ない」と回答した人は61.7%であった。およそ4割の人が、他の子どもと比較して気になることがわかる。

次に、ふだん「イライラする」「子どもを大声で怒る」「子どもに衝動的に手を上げる」「自分の子育てに不安を感じる」ようなことがあるか尋ねた（図2-26）。

図2-26 ふだんの様子（保護者）



「イライラする」ことが「ある」と回答した人は64.8%、「子どもを大声で怒る」ことが「ある」と回答した人は43.3%、「子どもに衝動的に手を上げる」ことが「ある」と回答した人は10.5%、「自分の子育てに不安を感じる」ことが「ある」と回答した人は38.0%であった。

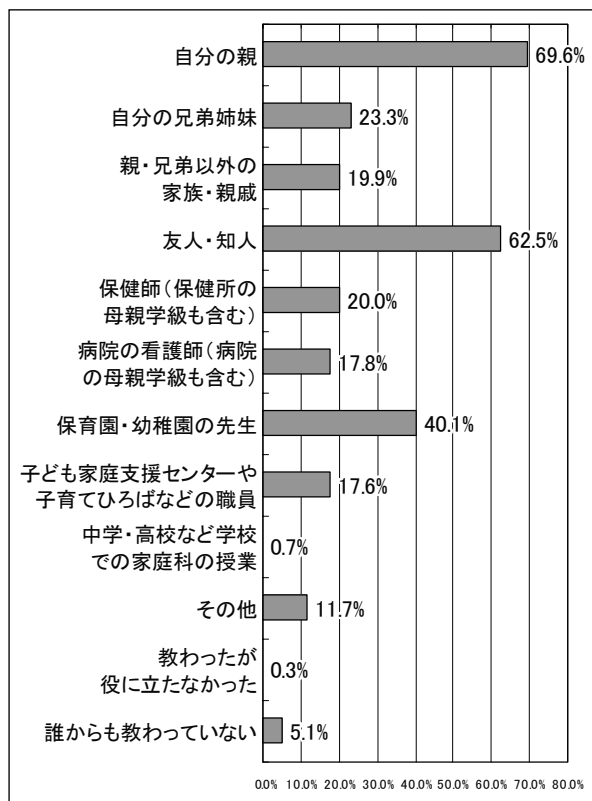
(9) 子育てについて教わった相手

子育てについて、だれに教わったことが役に立っているかを複数回答で尋ねた(図2-27、複数回答)。

最も多くの方が回答したのは「自分の親」で69.6%、次いで「友人・知人」で62.5%であった。ほか、「保育園・幼稚園の先生」が40.1%、「自分の兄弟姉妹」が23.3%、「保健師(保健所の母親学級も含む)」が20.0%、「親・兄弟以外の家族・親戚」が19.9%、「病院の看護師(病院の母親学級も含む)」が17.8%、「子ども家庭支援センターや子育てひろばなどの職員」が17.6%であった。

「誰からも教わっていない」と回答した人は5.1%(120人)であった。

図2-27 子育てについて教わった相手(複数回答)

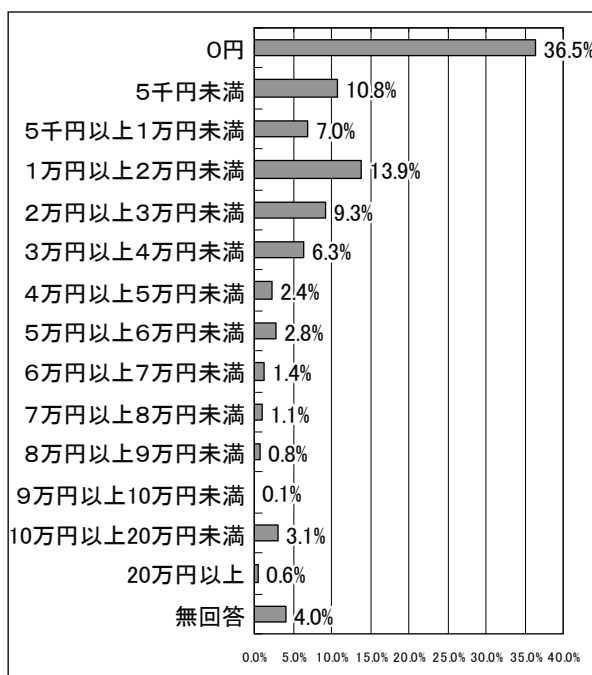


6 子どもの習い事について

(1) 習い事の費用

子ども1人(第1子)に対し、習い事や通信教育の費用を月にどのくらいかけているか尋ねた(図2-28)。

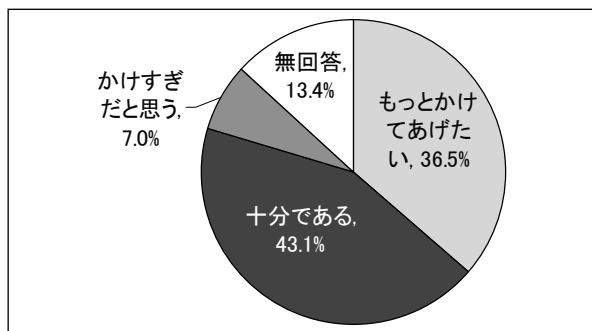
図2-28 習い事や通信教育等の費用(月額)



最も多かったのは「0円=ない」で36.5%を占めた。次いで「1万円以上2万円未満」が13.9%、「5千円未満」が10.8%で1割を超えた。「2万円以上3万円未満」は9.3%で1割弱であった。

この金額についての評価は(図2-29)、「十分である」が最も多く43.1%を占め、次いで「もっとかけてあげたい」が36.5%であった。「かけすぎだと思う」は7.0%であった。

図2-29 習い事費用の評価



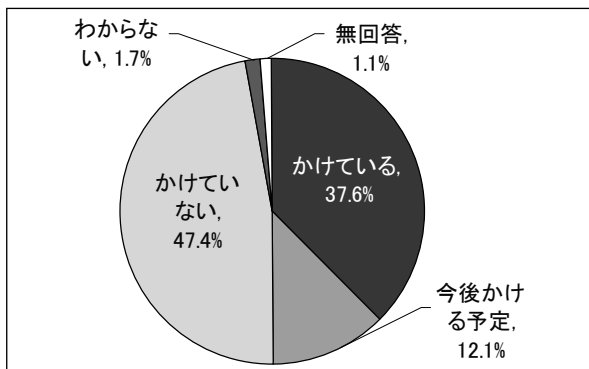


宛名の子どもを含めた習い事の費用の総額についてもほぼ同様の傾向を示し、「0円＝ない」が36.1%、「1万円以上2万円未満」が12.6%、「5千円未満」が10.6%で、「2万円以上3万円未満」は9.7%であった（表2-13）。

### (2) 子どもの教育費のための保険について

子どもの教育費のための保険をかけているかどうか尋ねた（図2-30）。「かけている」と回答した人が37.6%、「今後かける予定」と回答した人が12.1%、「かけていない」と回答した人が47.4%であった。半分近くが教育費のための保険をかけていないことがわかった。

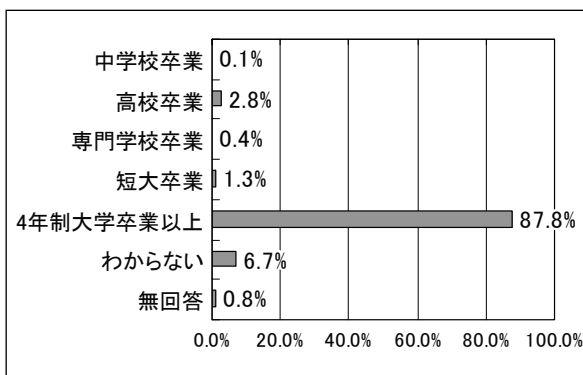
図2-30 子どもの教育費のための保険



### (3) 子どもの進学希望と親の学歴

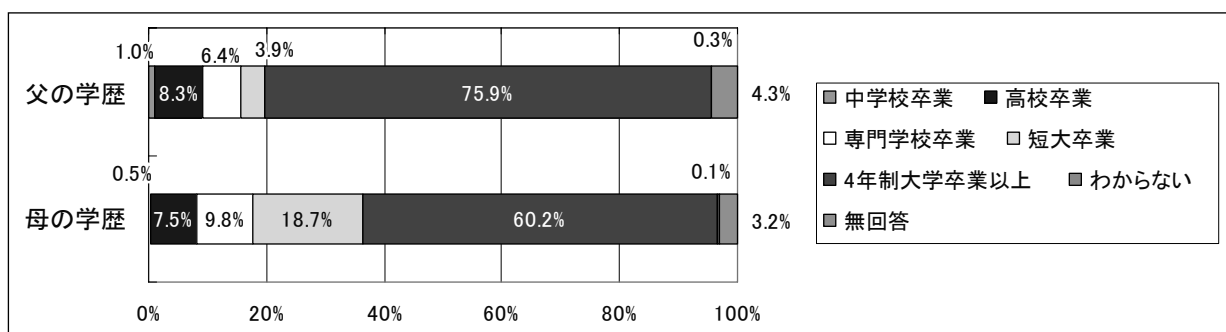
子どもにどの学校まで進学して欲しいかについて尋ねた（図2-31）。87.8%の人が「4年制大学卒業以上」を希望していた。

図2-31 子どもに望む進学先



両親の学歴について尋ねると（図2-32）、父親は「4年制大学卒業以上」が75.9%であったほかは、「短大卒業」が3.9%、「専門学校卒業」が6.4%、「高校卒業」が8.3%で、7割半が4年制大学卒業であった。母親は、「4年制大学卒業以上」が60.2%で父親より低い割合を示し、「短大卒業」（18.7%）と「専門学校卒業」（9.8%）については、父親よりも高い割合であった。

図2-32 父母の学歴



## 7 子育てに関する意見や施策

### (1) 子育ての意識

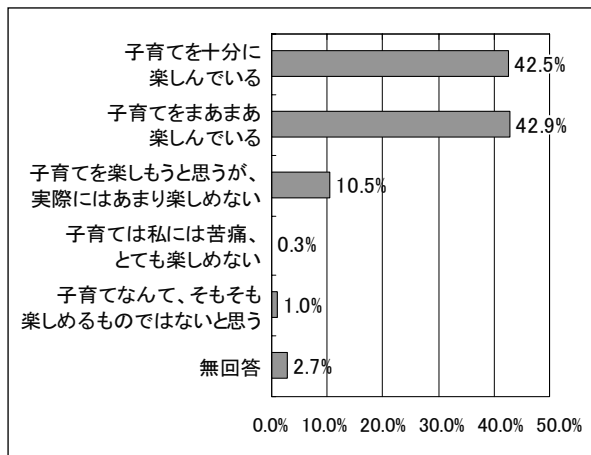
子育ての意識について尋ねた（図2-33）。

「子育てを十分に楽しんでいる」と回答した人は42.5%、「子育てをまあまあ楽しんでいる」と

回答した人は42.9%であった。両者を合わせて、子育てを楽しんでいる人は8割半にのぼっている。

一方、「子育てを楽しもうと思うが実際にはあまり楽しめない」と回答した人は10.5%で、1割を占めた。

図2-33 子育ての意識



(2) 子育て観

子育てに関する意見についての考え方(子育て観)を尋ねた(図2-34)。「子どもが小さいうちは、母親が育児に専念すべきである」との意見については、「とてもそう思う」(19.6%)と「まあそう思う」(30.7%)が半分程度を占め、「どちらともいえない」は22.0%であった。一方、「あまりそう思わない」(15.3%)と「まったくそう思わない」(9.7%)を合わせて4分の1を占めた。

「女性が仕事をするなら、家事・育児の責任を果たした上ですべきである」との意見については、「とてもそう思う」(6.6%)と「まあそう思う」(21.4%)を合わせて3割弱が「そう思う」と回答した。「どちらともいえない」は28.9%であった。

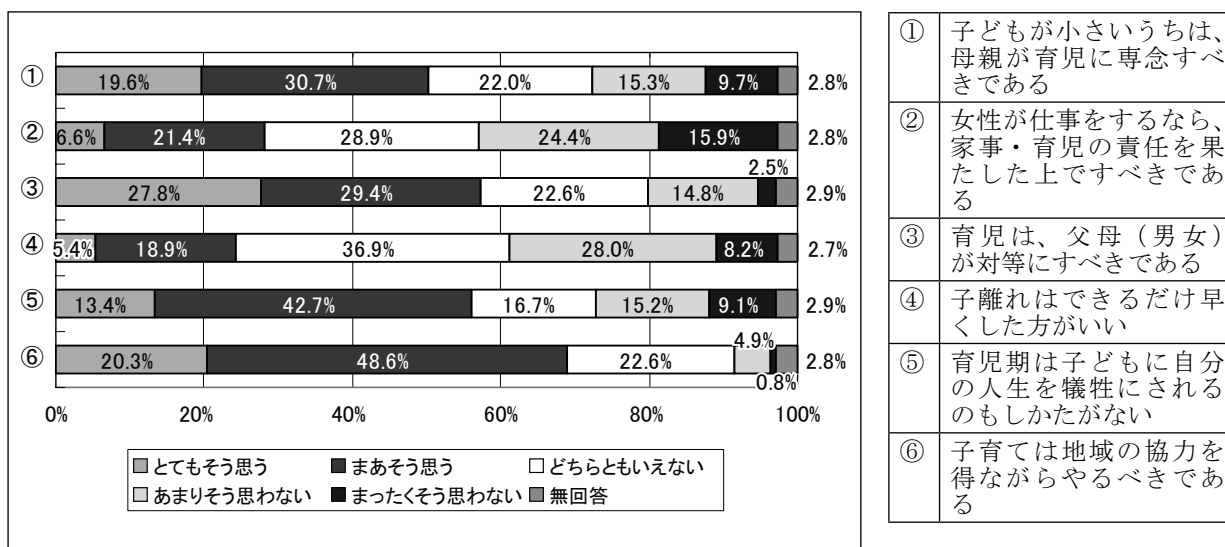
一方、「あまりそう思わない」(24.4%)と「まったくそう思わない」(15.9%)を合わせて4割は、「そう思わない」と回答した。

「育児は、父母(男女)が対等にすべきである」との意見については、「とてもそう思う」(27.8%)と「まあそう思う」(29.4%)を合わせて6割弱が「そう思う」と回答した。「どちらともいえない」は22.6%であった。一方、「あまりそう思わない」(14.8%)と「まったくそう思わない」(2.5%)を合わせて「そう思わない」と回答した人は17%程度であった。

「子離れはできるだけ早くした方がいい」との意見については、「とてもそう思う」(5.4%)と「まあそう思う」(18.9%)を合わせておよそ4分の1が「そう思う」と回答した。「どちらともいえない」は36.9%であった。一方、「あまりそう思わない」(28.0%)と「まったくそう思わない」(8.2%)を合わせて「そう思わない」と回答した人は3割半程度であった。

「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのしかたがない」との意見については、「とてもそう思う」(13.4%)と「まあそう思う」(42.7%)を合わせて5割半程度の人が「そう思う」と回答した。「どちらともいえない」は16.7%であった。一方、「あまりそう思わない」(15.2%)と「まったくそう思わない」(9.1%)を合わせて「そう思わない」と回答した人は4分

図2-34 子育て観



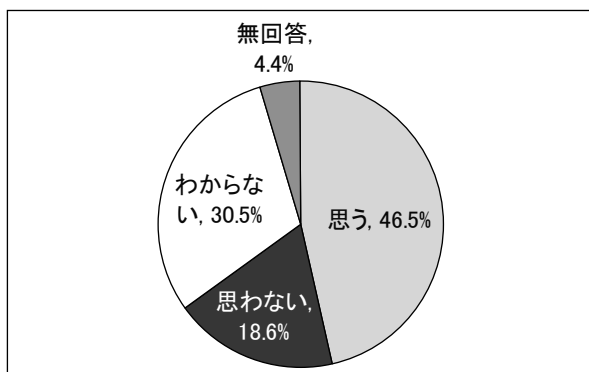
の1程度であった。

「子育ては地域の協力を得ながらやるべきである」との意見については、「とてもそう思う」(20.3%)と「まあそう思う」(48.6%)を合わせて7割弱程度の人が「そう思う」と回答した。「どちらともいえない」は22.6%であった。一方、「あまりそう思わない」(4.9%)と「まったくそう思わない」(0.8%)を合わせて「そう思わない」と回答した人はわずか6%程度であった。

### (3) 育児支援策・事業について

さまざまな育児支援策がためになっているか(役立っているか)について(図2-35)、「(ためになっている)と思う」と回答した人が46.5%、「(ためになっている)と思わない」と回答した人が18.6%であった。「わからない」は30.5%であった。

図2-35 育児支援策は役立っているか



次に、区の個別の事業について、「よく利用する」「たまに利用する」「知っているが利用したことはない」「知らない」のうちどれにあてはまるかについて尋ねた(図2-36)。

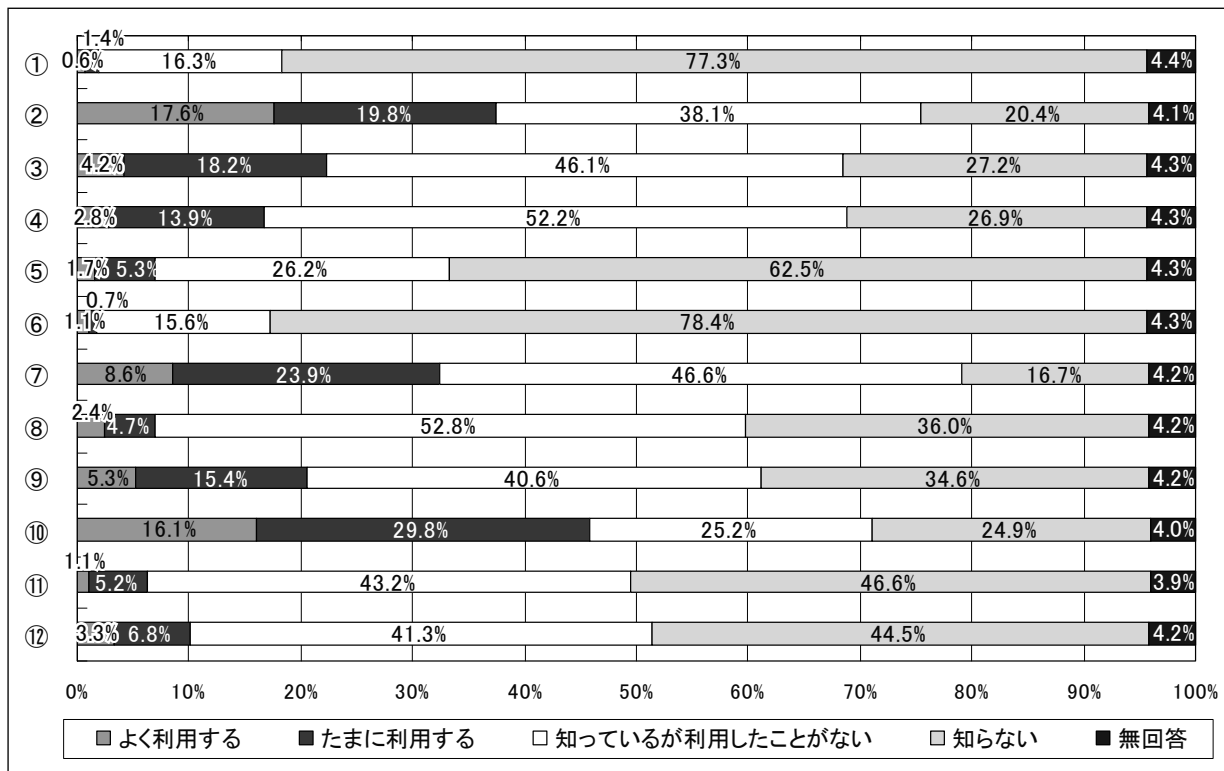
「よく利用する」「たまに利用する」を合わせて、利用している人の割合が高かったのは、「児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業」(45.9%)、「バースデイ歯科健診」(37.4%)、「乳幼児一時預かり・子育てひろば」(32.5%)であった。

「知らない」と回答した人の割合が高かった事業は、「発達支援センター」(77.3%)、「未就学児の会」(62.5%)、「障害保健福祉センターこども療育パオ」(78.4%)、「みなとっこ(区立保育園での在宅子育て支援)」(46.6%)、「養育支援訪問(妊娠出産時ホームヘルプサービス)」(44.5%)であった。

「知っているが利用したことがない」と回答した人の割合が高かった事業は、「バースデイ歯科健診」(38.1%)、「すすく育児相談(保健所)」(46.1%)、「保育園で遊ぼう」(52.2%)、「乳幼児一時預かり・子育てひろば」(46.6%)、「派遣型一時保育・育児サポート」(52.8%)、「子ども家庭支援センター」(40.6%)、「みなとっこ(区立保育園での在宅子育て支援)」(43.2%)、「養育支援訪問(妊娠出産時ホームヘルプサービス)」(41.3%)であった。

このように、子育て支援事業のメニューによっては、知っているが利用しているもの、知っているが利用していないもの、知らないものに分かれることがわかった。その背景には、設問で挙げた事業が、幅広く区内の乳幼児を対象としたものから、利用対象が比較的限られるものまで含まれているということもあろう。また、このような区の事業を利用していない人に対して、その理由を自由回答で尋ねた。その結果については、第4章196～204ページにまとめている。

図2-36 港区で実施している事業について



① 発達支援センター	⑦ 乳幼児一時預かり・子育てひろば
② バースデイ歯科健診（保健所）	⑧ 派遣型一時保育・育児サポート
③ すくすく育児相談（保健所）	⑨ 子ども家庭支援センター
④ 保育園で遊ぼう	⑩ 児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業
⑤ 未就学児の会	⑪ みなとっこ（区立保育園での在宅子育て支援）
⑥ 障害保健福祉センターこども療育パオ	⑫ 養育支援訪問（妊娠出産時ホームヘルプサービス）

### 8 母親の仕事・意識について

ここでは、母親にのみ回答を求めている（n=1,781）。

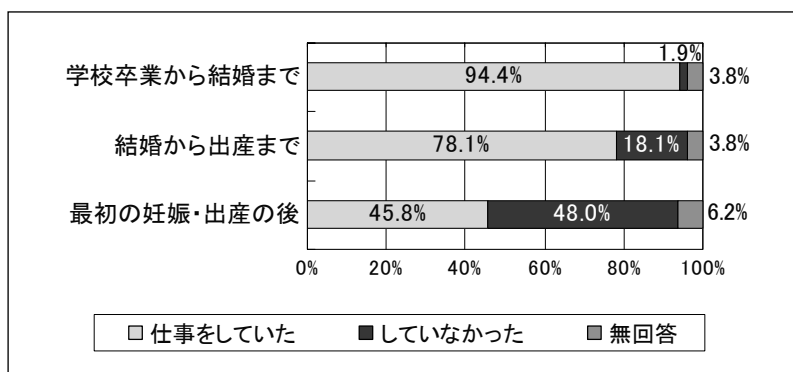
#### （1）母親のこれまでの仕事の状況

母親の学校卒業後の仕事について、「学校卒業後から結婚まで」「結婚してから出産するまで（最初の結婚について）」「最初の妊娠・出産の後」の3時点の状況を尋ねた（図2-37）。

「学校を卒業してから結婚するまで」の間、「仕

事をしていた」は94.4%、「していなかった」人は1.9%であった。「結婚してから出産するまで（最初の結婚について）」の間、「仕事をしていた」は78.1%と低くなり、「していなかった」人は18.1%と2割弱に高まっている。「最初の妊娠・出産の後」、「仕事をしていた」は45.8%とさらに割合が低くなり、「していなかった」人は48.0%にまで高まった。結婚前はほとんどの人が仕事をしているが、結婚や妊娠・出産の時期に、仕事を辞めている人の割合が高いことがわかった。

図2-37 母親の仕事の状況



(2) お父さん(夫)の様子

母親から見た父親の様子について尋ねた(図2-38)。

「育児・子育てをする」については、「よくある」が44.4%、「たまにある」が37.2%であった。回答した母親の8割が、父親は育児・子育てをしていると考えていることがわかる。

「家事をする」については、「よくある」は7項目中最も低く24.0%で、「たまにある」は32.3%であった。一方で、「あまりない」は18.4%、「まったくない」は14.8%で、7項目中どちらも最も高い割合を占めた。

「仕事が忙しい」については、「よくある」が

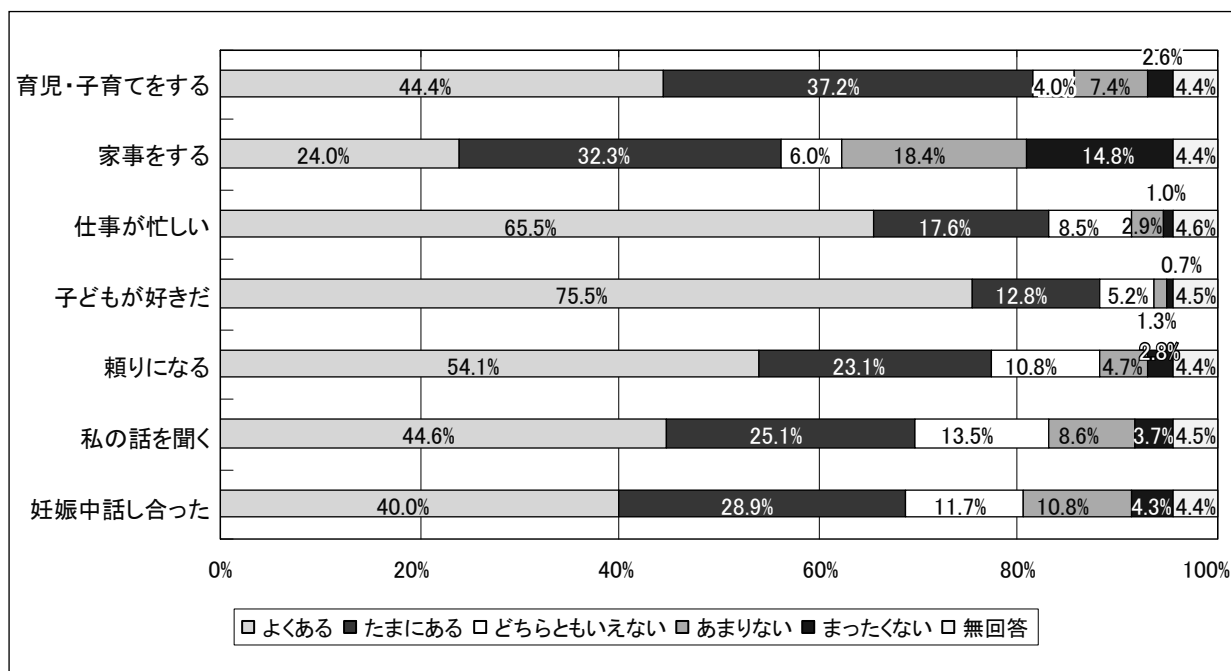
65.5%、「たまにある」が17.6%であった8割以上の母親が、父親は仕事が忙しいと感じていることがわかる。

「子どもが好きだ」については、「よくある」が75.5%と7項目中最も高く、「たまにある」は12.8%であった。

「頼りになる」については、「よくある」が54.1%、「たまにある」が23.1%であった。

「私の話を聞く」「妊娠中、子どもの将来や子育てについて話し合った」の2項目は、似通った傾向を示した。「よくある」が4割から4割半程度、「たまにある」が2割半から3割弱程度、「あまりない」は1割前後であった。

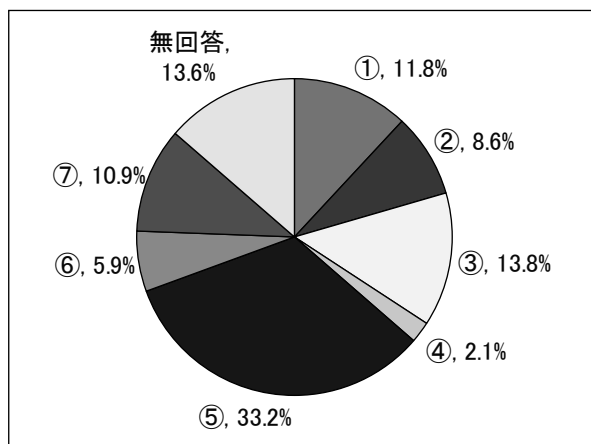
図2-38 父親(夫)の様子



(3) お父さん(夫)に望むこと

母親が父親(夫)に対して望むことを尋ねた(図2-39)。最も割合が高かったのは「今のままで満足」で33.2%とおよそ3分の1を占めた。ほか、「もう少し家事を手伝ってほしい」が13.8%、「もっと子どもの面倒を見てほしい」が11.8%で1割を超え、家事や育児などの手伝いを求めていることがわかる。「もっと私の話を聞いてほしい」は8.6%であった。「その他」の内容としては、「仕事の量を減らしてほしい」「もっと早く帰宅してほしい」「週に1度くらいは夕食を家族一緒に食べてほしい」など、仕事が忙しいことに由来する要望や、「自分のことは自分でしてほしい」などの意見が見られた。

図2-39 父親(夫)に望むこと



①	もっと子どもの面倒を見てほしい
②	もっと私の話を聞いてほしい
③	もう少し家事を手伝ってほしい
④	育児参加より仕事に専念してほしい
⑤	今のままで満足
⑥	もっと育児に対する考えを述べてほしい
⑦	その他

B 未就学児の保護者に対するアンケート  
父母別基本集計

ここでは、未就学児の保護者に対するアンケートの結果から、一部を父母別に集計しなおしたものを示す。先に述べたとおり、未就学児の保護者に対するアンケートの回答者は、「お父さん」が22.2% (525人)、「お母さん」が77.8% (1,781人)

であった。

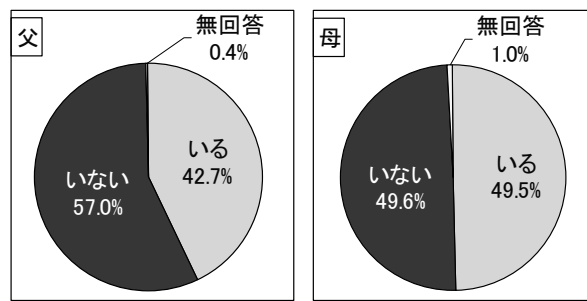
1 仕事の状況

(1) 祖父母以外に頼りになる人の有無

祖父母以外に頼りになる相手がいるかどうかについて尋ねた(図2-40)。父親が回答者のグループでは、祖父母以外に頼りになる人が「いる」と回答した人は42.7%、「いない」と回答した人は57.0%であった。

母親が回答者のグループでは、祖父母以外に頼りになる人が「いる」と回答した人は49.5%、「いない」と回答した人は49.6%であった。

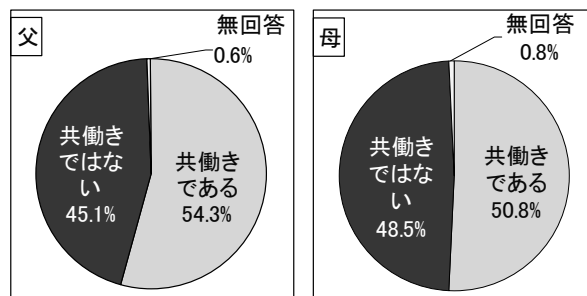
図2-40 祖父母以外に頼りになる人の有無



(2) 共働きの有無について

共働きの有無について、回答者全体では、51.5%が共働きであると回答していた。父親が回答者のグループでは、「共働きである」と回答した人の割合が54.3%、「共働きではない」と回答した人が45.1%であった。母親が回答者のグループでは、「共働きである」と回答した人の割合が50.8%でやや低く、「共働きではない」と回答した人は48.5%であった(図2-41)。

図2-41 共働きの有無



### (3) 仕事と子育ての両立について

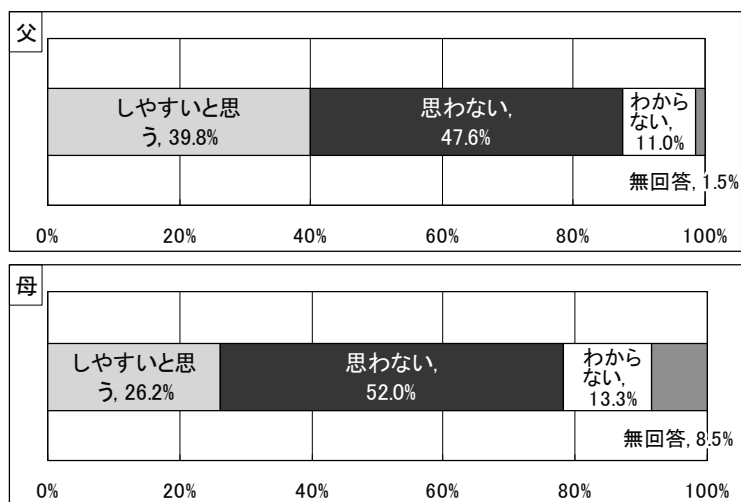
仕事と子育ての両立について、父と母それぞれの状況を尋ねている。その結果を、回答者別に集計したものが図2-42である。

父親が回答者のグループでは、「(父の) 仕事と子育ての両立のしやすさ」は、「しやすいと思う」と回答した人が39.8%、「思わない」と回答した人が47.6%であった。一方、母親が回答者のグ

ープでは、父親の仕事と子育ての両立について「しやすいと思う」と回答した人は26.2%、「思わない」は52.0%であった。家庭の父の仕事と子育ての両立についてのとらえ方は、回答者により傾向が異なることがわかる。

母親の仕事と子育ての両立については、回答者が父親であっても母親であっても、大きな差が見られなかった(表2-14)。

図2-42 お父さんの仕事と子育ての両立



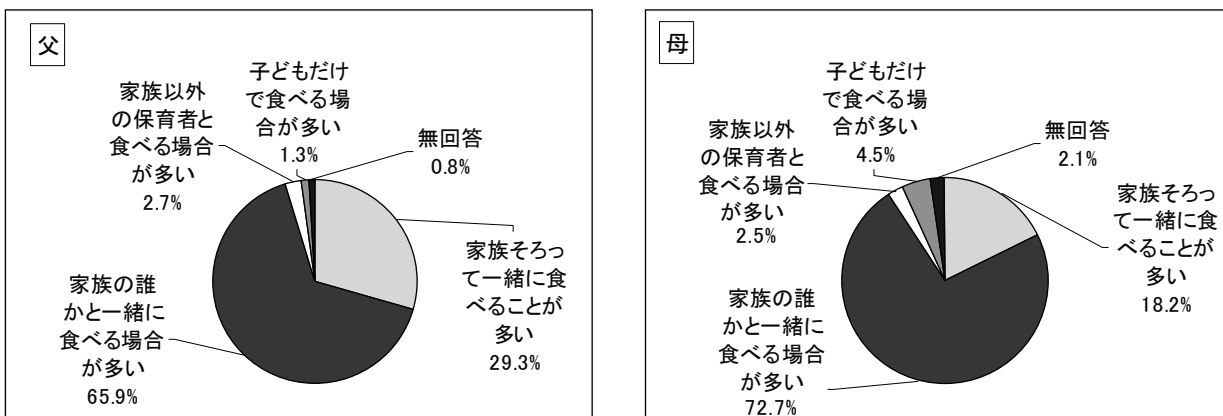
## 2 子育ての状況

### (1) 夕食の相手

夕食の相手については(図2-43)、父親が回答者のグループでは、「家族そろって一緒に食

べることが多い」が65.9%であった。母親が回答者のグループでは、「家族そろって一緒に食

図2-43 夕食の相手

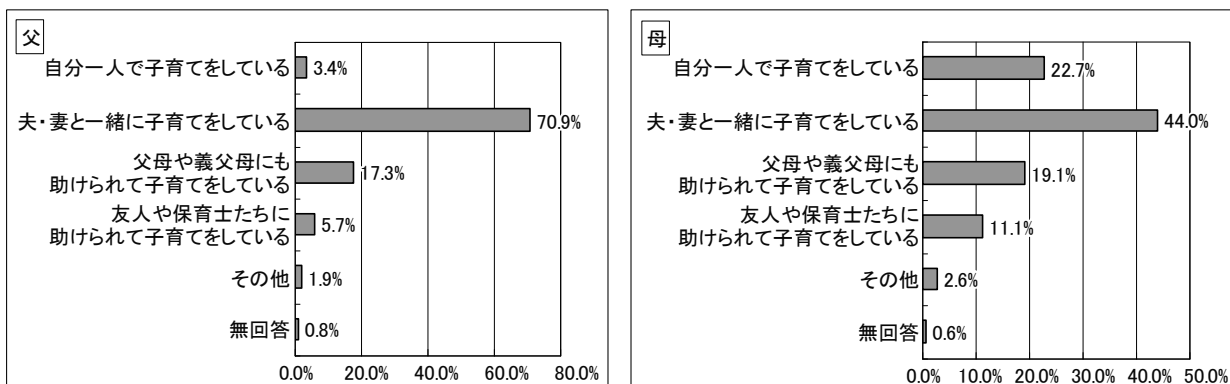


(2) 子育ての状況について

日頃の子育ての状況について尋ねた(図2-44)。父親が回答者のグループでは、「夫・妻と一緒に子育てをしている」が70.9%と最も高く、次いで「父母や義父母にも助けられて子育てをしている」が17.3%、「友人や保育士たちにも助けられて子育てをしている」が5.7%であった。母親が

回答者のグループでは、「夫・妻と一緒に子育てをしている」が最も高いが、その割合は44.0%で、父親が回答者グループより低い。次いで「自分一人で子育てをしている」が22.7%、「父母や義父母にも助けられて子育てをしている」が19.1%、「友人や保育士たちにも助けられて子育てをしている」が11.1%であった。

図2-44 日頃の子育ての状況



(3) 家族以外の人との付き合い

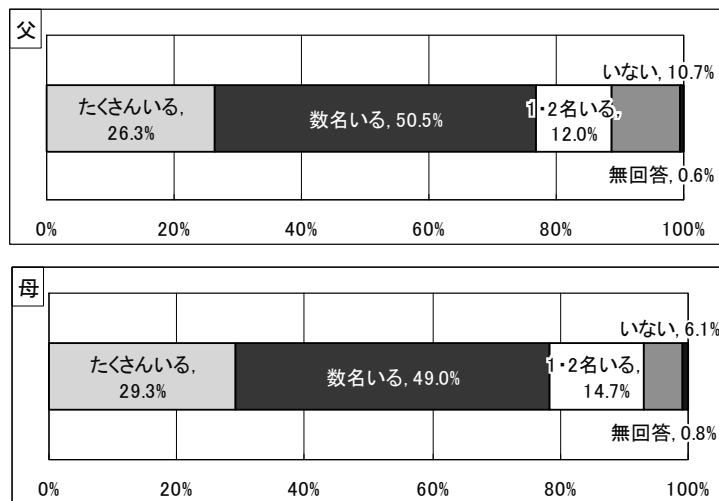
家族や親せき以外に、ふだん世間話をしたり、子どもの話をしたりする相手について尋ねた(図2-45)。

父親・母親ともに「数名いる」が最も多く、それぞれ50.5%、49.0%と半分を占めた。ほか、父親の場合は「たくさんいる」が26.3%、「1・2名いる」が12.0%、「いない」が10.7%であった。母親の場合は、「たくさんいる」29.3%、「1・2

名いる」が14.7%、「いない」が6.1%であった。

家族や親せき以外に、子どもを預けたり預かたりするような相手については(表2-15)、父親・母親ともに「いない」が最も多く、それぞれ79.0%、75.0%と7割半から8割を占めた。ほか、「1・2名いる」が、父親は11.2%、母親は14.1%、「数名いる」が父親は8.6%で、母親は8.8%であった。「たくさんいる」と回答した人は、父親が0.6%、母親が1.2%とごくわずかであった。

図2-45 家族以外の話し相手





#### (4) 緊急時の支援者

回答者が病気のときに、子どもや回答者の身の回りの世話をしてくれる人について尋ねた（表2-16、複数回答）。

回答者が父親のグループでは、「同居の家族」が最も高く67.2%と最も高く、次いで「親戚（別居の家族を含む）」が21.5%であった。また、「誰もいない」と回答した人は22人、4.2%であった。

回答者が母親のグループでは、父親と同様に「同居の家族」が最も高かったが、その割合は49.5%で父親が回答者のグループとはその割合が異なった。次いで高い割合を占めたのが「親戚（別居の家族を含む）」で31.7%を占め、父親が回答者のグループよりも高い割合を示した。「誰もいない」と回答した人は164人、9.2%であった。

表2-16 病気の時に身の回りの世話をしてくれる人（複数回答）

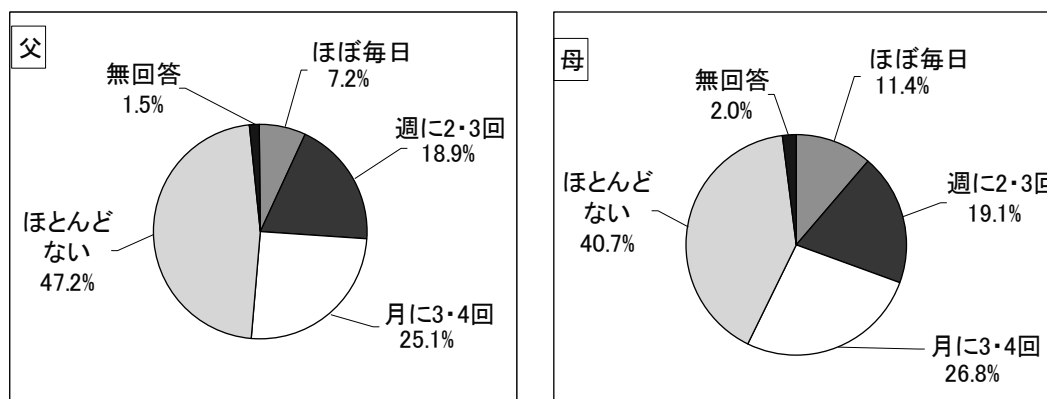
	父		母	
	実数	%	実数	%
同居の家族	353	67.2%	882	49.5%
親戚（別居の家族を含む）	113	21.5%	565	31.7%
保育園・幼稚園の友人	4	0.8%	18	1.0%
保育園・幼稚園の友人以外で、子どもを通して知り合った友人	0	0.0%	5	0.3%
職場の人	2	0.4%	1	0.1%
職場の人以外のあなた自身の友人	0	0.0%	7	0.4%
民間のベビーシッターなどのサービス	18	3.4%	78	4.4%
こむすび、あい・ぼーなどのサービス	10	1.9%	25	1.4%
その他	2	0.4%	23	1.3%
誰もいない	22	4.2%	164	9.2%
無回答	1	0.2%	13	0.7%
合計	525	100.0%	1,781	100.0%

#### (5) 近所の子どもの遊び

近所でほかの子どもと遊ばせる頻度について尋ねた（図2-46）。父親が回答者のグループでは、

「ほとんどどない」が最も高く47.2%を占め、次いで「月に3・4回」が25.1%、「週に2・3回」が18.9%、「ほぼ毎日」は7.2%であった。

図2-46 近所で他の子どもと遊ぶ頻度



母親が回答者のグループでは、「ほとんどない」が最も高く40.7%を占め、次いで「月に3・4回」が26.8%、「週に2・3回」が19.1%、「ほぼ毎日」は11.4%であった。

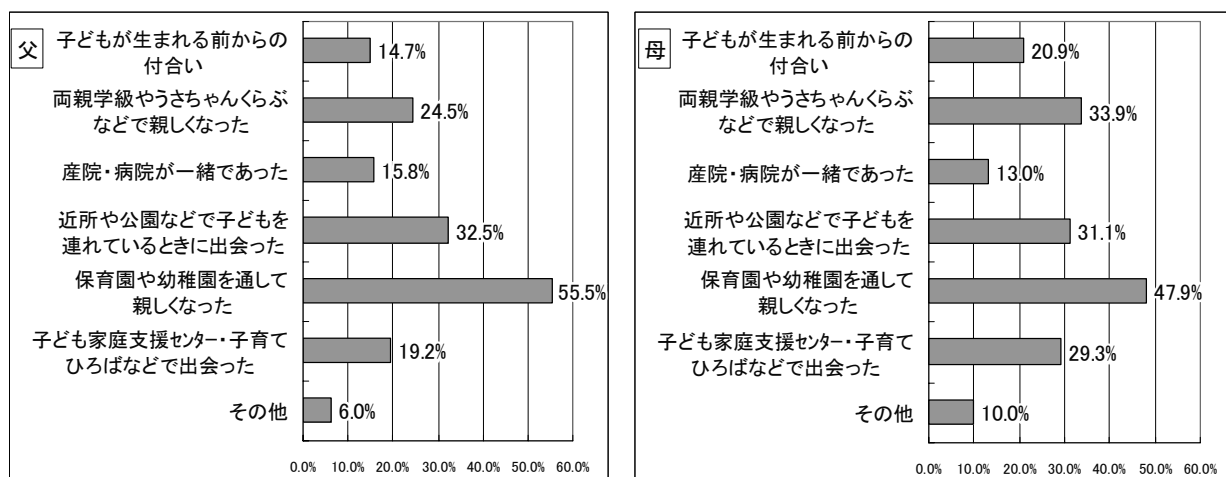
母親が回答者のグループの方が、近所で他の子どもと遊ぶ頻度がやや高いことがわかる。

この設問で「ほぼ毎日」「週に2・3回」「月に3・4回」遊ばせていると回答した人に対し、そのきっかけを尋ねた(図2-47、複数回答)。父親が回答者のグループでは、「保育園や幼稚園を通して親しくなった」が55.5%と最も高く、次いで「近所や公園などに子どもを連れてきている時に会った」が32.5%、「両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった」が24.5%、「子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った」が19.2%、「産院・病院が一緒であった」が15.8%、「子どもが生まれる前からの付き合い」が14.7%であった。

母親が回答者のグループでは、「保育園や幼稚園を通して親しくなった」が最も高く47.9%で、次いで「両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった」が33.9%、「近所や公園などに子どもを連れてきている時に会った」が31.1%、「子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った」が29.3%、「子どもが生まれる前からの付き合い」が20.9%、「産院・病院が一緒であった」が13.0%であった。

どのように遊んでいるかについては(表2-17、複数回答)、父親・母親ともに「公園などで一緒に遊ばせる」が最も高く8割であった。次いで「だれかの家へ集まって遊ばせる」が、父親が回答者のグループで54.1%、母親が回答者のグループで58.0%、「買い物などと一緒に出かける」がそれぞれ24.1%、27.6%、「グループ・サークルとして遊ばせる」が12.4%、12.2%であった。

図2-47 近所で他の子どもと遊ぶようになったきっかけ(複数回答)



#### (6) 子どもについての悩みと相談先

子どもに関することでの悩みの有無を、テーマ別に尋ねた(図2-48)。

回答者が父親のグループと、母親のグループでは、大まかな傾向は同じであった。両者の割合差が比較的大きかったものをいくつか挙げておきたい。

悩みが「ある」と回答した人の割合を比較した。「保育園・幼稚園について」は、回答者が父親の

グループでは35.0%、母親のグループでは39.6%であった。「友達関係について」は、それぞれ9.5%、14.5%、「学習・進路について」は、それぞれ31.4%、35.5%、「発達について」は、それぞれ14.1%、11.3%、「しつけについて」は、それぞれ29.7%、37.3%であった。

とくに開きが大きかったのは「しつけについて」であり、回答者が父親のグループと母親のグループでは7.6ポイントの差があった。また、多

くのテーマで、回答者が父親のグループの方が悩みが「ある」と回答した人の割合が、母親が回答者のグループに比べて低かったが、「発達について」と「病気・障害について」の2つについては、父親が回答者のグループの方が、悩みが「ある」と回答した人の割合が高かった。

悩みの相談先の有無については（図2-49）、回答者が父親のグループに比べ、母親のグループの方が、相談先が「ある」と回答した人の割合が高い。その差が最も小さかったのは、「保育園・幼稚園について」の相談先の有無であり、相談先が「ない」と回答した人の割合は、回答者が父親のグループで65.2%であったのに対して、母親のグループでは58.4%で、その差は7ポイント程度であった。両者の差が最も大きかったのは「しつけについて」で、相談先が「ない」と回答した人の割合は、回答者が父親のグループで52.6%であったのに対して、母親のグループでは30.4%で、その差は22ポイント程度であった。

### （7）保護者の気持ちや様子

他の子どもと比較して気になることがあるかと尋ねた（図2-50）。回答者が父親のグループでは、「あまりない」が36.4%と最も高く、次いで「ない」が33.0%、「たまにある」が25.3%、「よくある」が4.4%であった。「よくある」と「たまにある」を合わせて29.7%の人が、他の子どもと比べて気になることがあると回答している。

回答者が母親のグループでは、「あまりない」が35.0%、次いで「たまにある」が34.3%、「ない」が24.3%、「よくある」が5.0%であった。「よくある」と「たまにある」を合わせて39.3%の人が、他の子どもと比べて気になることがあると回答しており、父親が回答者のグループよりも高い割合を示した。

図2-48 子どもについての悩みの有無

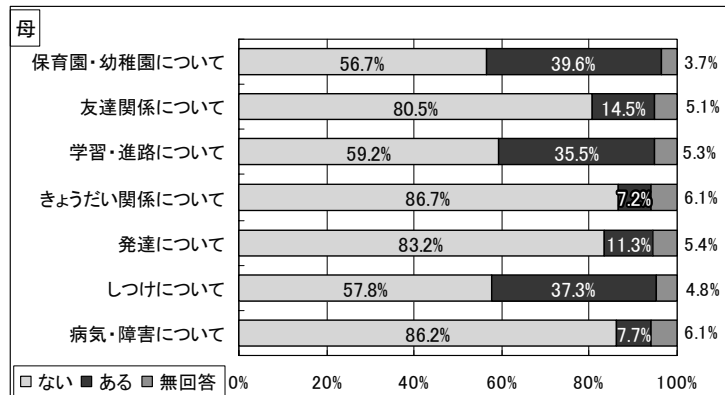
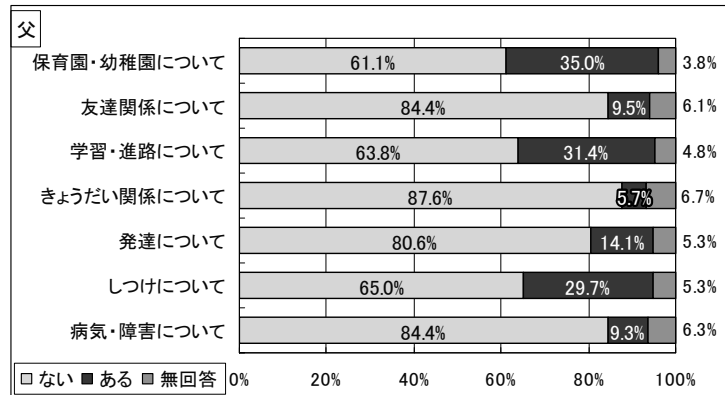


図2-49 悩みの相談先の有無

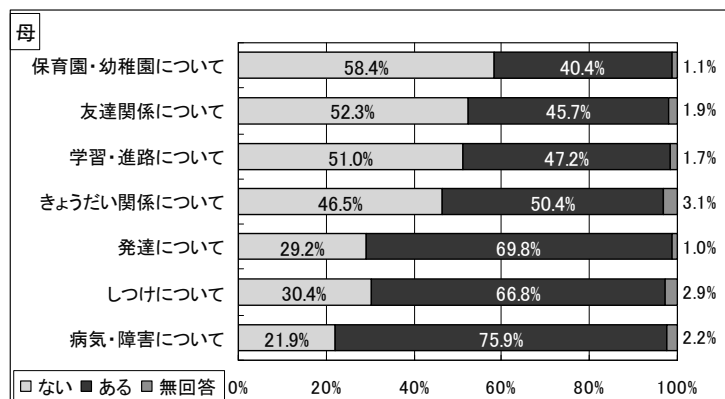
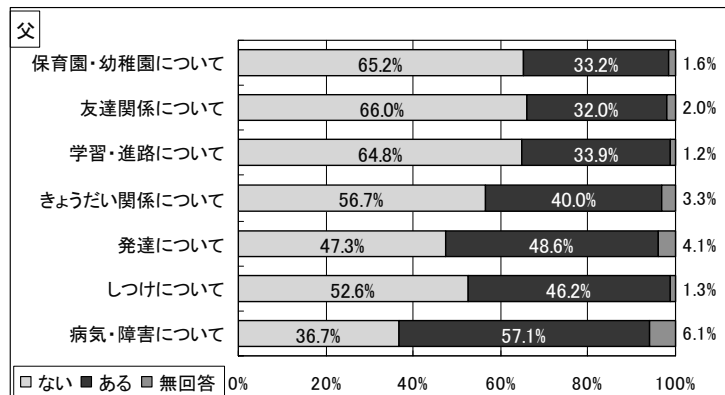
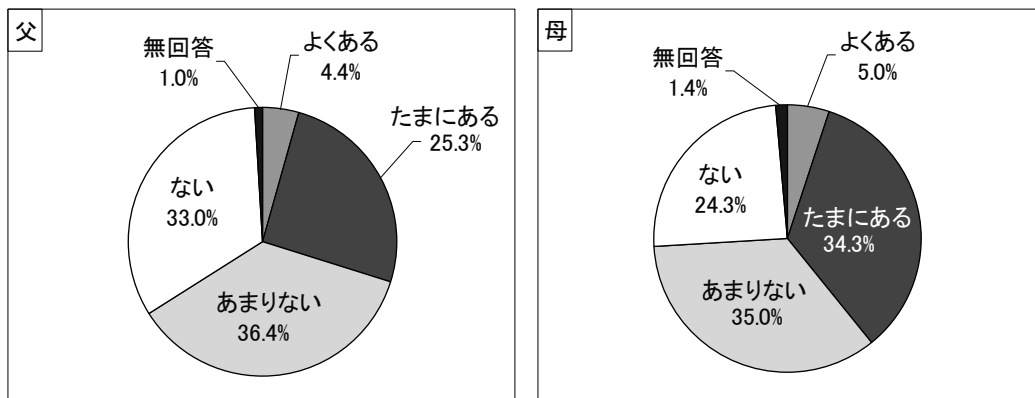


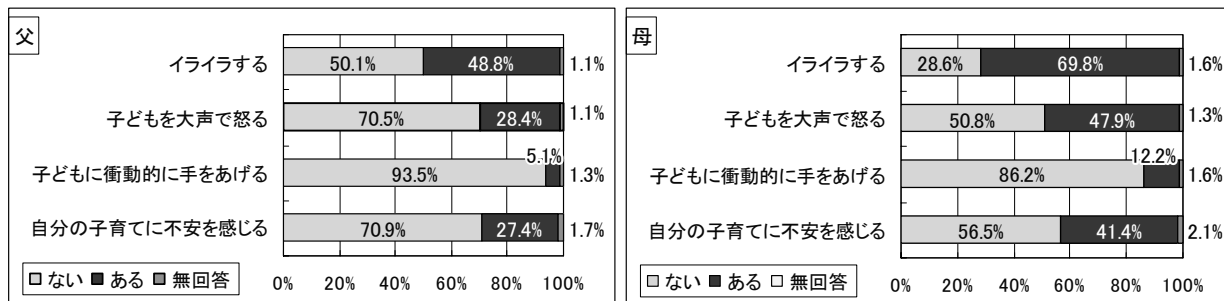
図2-50 他の子どもとの比較



次に、ふだん「イライラする」「子どもを大声で怒る」「子どもに衝動的に手を上げる」「自分の子育てに不安を感じる」ようなことがあるか尋ねた（図2-51）。「イライラする」ことが「ある」と回答した人は、回答者が父親のグループでは48.8%であったが、母親のグループでは69.8%にのぼった。「子どもを大声で怒る」ことが「ある」と回答した人は、回答者が父親のグループでは

28.4%であったが、母親のグループでは47.9%を占めた。「子どもに衝動的に手を上げる」ことが「ある」と回答した人は、回答者が父親のグループでは5.1%、母親のグループでは12.2%を占めた。「自分の子育てに不安を感じる」ことが「ある」と回答した人は、回答者が父親のグループでは27.4%であったが、母親のグループでは41.4%にのぼっている。

図2-51 ふだんの様子（保護者）



(8) 子育てについて教わった相手

子育てについて、だれに教わったことが役に立っているかを複数回答で尋ねた（表2-18、複数回答）。

回答者が父親・母親のグループともに「自分の親」と回答した人が最も多く、それぞれ69.7%、69.5%を占めた。

回答者が父親のグループでは、そのほか、「友人・知人」が48.4%、「保育園・幼稚園の先生」が34.9%、「自分の兄弟姉妹」が21.5%であった。回答者が母親のグループでは、「友人・知

人」が67.0%と高く、「保育園・幼稚園の先生」が41.8%、「自分の兄弟姉妹」が23.9%、「保健師（保健所の母親学級も含む）」が21.9%、「親・兄弟姉妹以外の家族・親戚」が20.9%、「子ども家庭支援センターや子育てひろばなどの職員」が19.8%、「病院の看護師（病院の母親学級も含む）」が18.5%であった。

「誰からも教わっていない」と回答した人は、回答者が父親のグループで58人（11.1%）、母親のグループで59人（3.3%）であった。

表2-18 子育てについて教わった相手（複数回答）

	父		母	
	実数	%	実数	%
自分の親	363	69.7%	1226	69.5%
自分の兄弟姉妹	112	21.5%	421	23.9%
親・兄弟姉妹以外の家族・親戚	85	16.3%	369	20.9%
友人・知人	252	48.4%	1181	67.0%
保健師（保健所の母親学級も含む）	72	13.8%	387	21.9%
病院の看護師（病院の母親学級も含む）	78	15.0%	327	18.5%
保育園・幼稚園の先生	182	34.9%	738	41.8%
子ども家庭支援センターや子育てひろばなどの職員	53	10.2%	349	19.8%
中学・高校など学校での家庭科の授業	3	0.6%	14	0.8%
その他	51	9.8%	219	12.4%
教わったが役に立たなかった	0	0.0%	8	0.5%
誰からも教わっていない	58	11.1%	59	3.3%

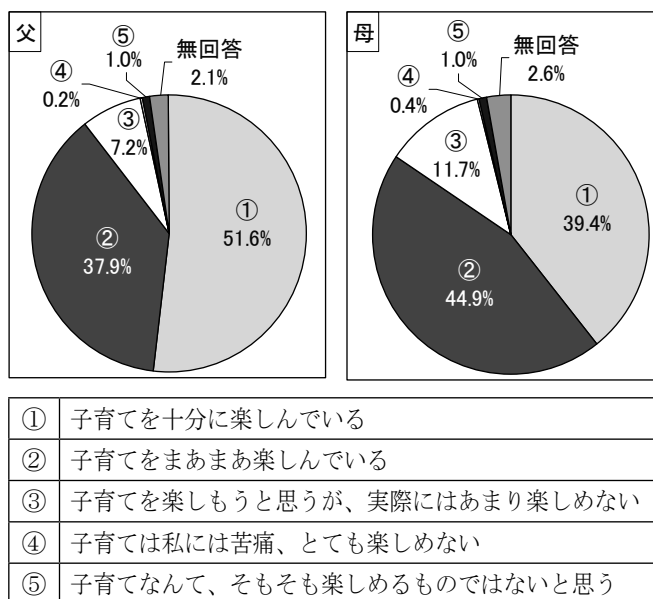
### 3 子育てに関する意見や施策

#### (1) 子育ての意識

子育ての意識について尋ねた（図2-52）。

父親が回答者のグループでは、「子育てを十分に楽しんでいる」と回答した人が最も多く、51.6%を占め、次いで「子育てをまあまあ楽しんでいる」と回答した人が37.9%であった。「子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない」と回答した人は7.2%であった。一方、母親が回答者のグループでは、「子育てをまあまあ楽しんでいる」と回答した人が44.9%と最も高く、次いで「子育てを十分に楽しんでいる」が39.4%であった。「子育てを楽しもうと思うが、実際にはあまり楽しめない」と回答した人は11.7%であった。

図2-52 子育ての意識



#### (2) 子育て観

子育てに関する意見についての考え方（子育て観）を尋ねた（図2-53）。「子どもが小さいうちは、母親が育児に専念すべきである」との意見については、回答者が父親のグループでは、「とてもそう思う」（16.8%）と「まあそう思う」（26.3%）を合わせて43.1%が「そう思う」と回答し、「あまりそう思わない」（16.0%）と「まったくそう思わない」（18.9%）を合わせて34.9%が「そう

思わない」と回答した。同様に計算すると、回答者が母親のグループでは、「そう思う」が52.4%と半分を超え、「そう思わない」は22.3%にとどまった。

「女性が仕事をするなら、家事・育児の責任を果たした上ですべきである」との意見についても、同様に計算を行った。回答者が父親のグループでは、「そう思う」が23.6%、「そう思わない」が49.3%であった。「どちらともいえない」は25.0%である。母親が回答者のグループでは、

「そう思う」が29.2%、「そう思わない」が38.0%であった。「どちらともいえない」は30.0%である。

「育児は、父母（男女）が対等にすべきである」との意見については、回答者が父親のグループでは、「そう思う」が65.5%、「そう思わない」が13.2%であった。母親が回答者のグループでは、「そう思う」が54.7%、「そう思わない」が18.8%であった。父親が回答者のグループの方が「そう思う」と回答した人の割合が高い。

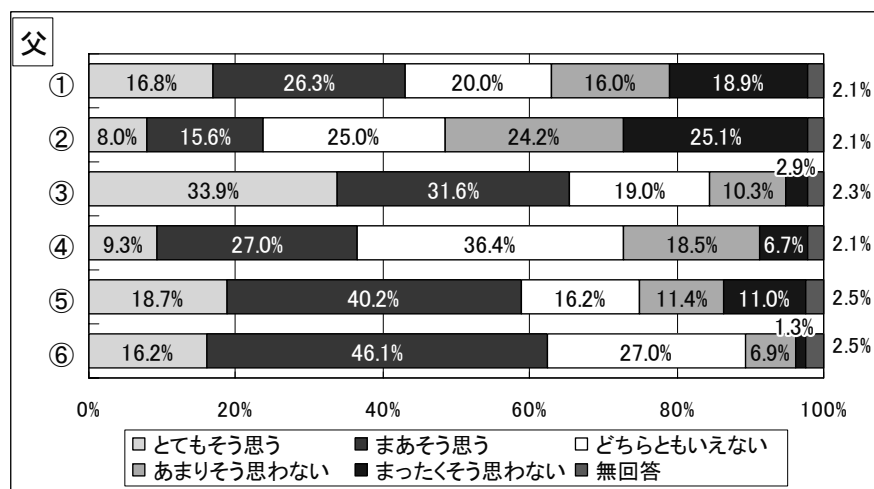
「子離れはできるだけ早くした方がいい」との意見については、回答者が父親のグループでは、「そう思う」が36.3%、「そう思わない」が25.2%であった。母親が回答者のグループでは、「そう思う」が20.8%、「そう思わない」が39.6%であっ

た。

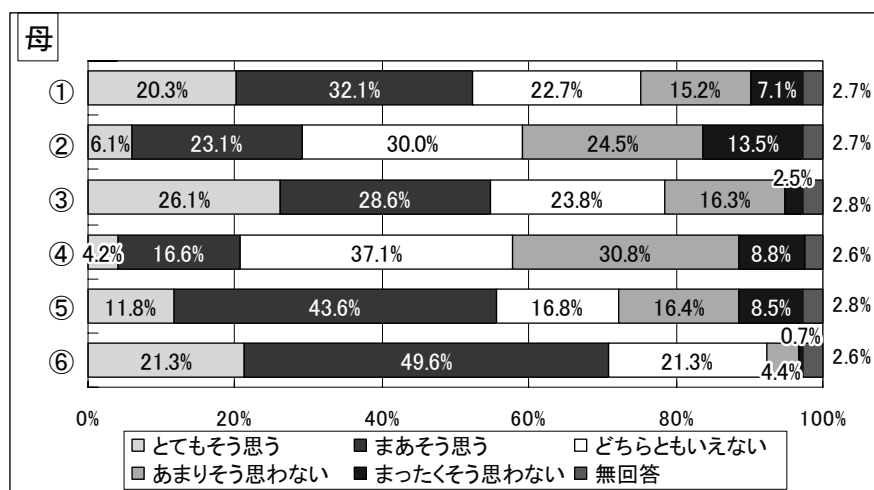
「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのもしかたがない」との意見については、回答者が父親のグループでは、「そう思う」が58.9%、「そう思わない」が22.4%であった。母親が回答者のグループでは、「そう思う」が55.4%、「そう思わない」が24.9%であった。

「子育ては地域の協力を得ながらやるべきである」との意見については、回答者が父親のグループでは、「そう思う」が62.3%、「そう思わない」が8.2%であった。母親が回答者のグループでは、「そう思う」が70.9%、「そう思わない」が5.1%であった。

図2-53 子育て観



- ① 子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである
- ② 女性が仕事をするなら、家事・育児の責任を果たした上ですべきである
- ③ 育児は、父母(男女)が対等にすべきである
- ④ 子離れはできるだけ早くした方がいい
- ⑤ 育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのもしかたがない
- ⑥ 子育ては地域の協力を得ながらやるべきである



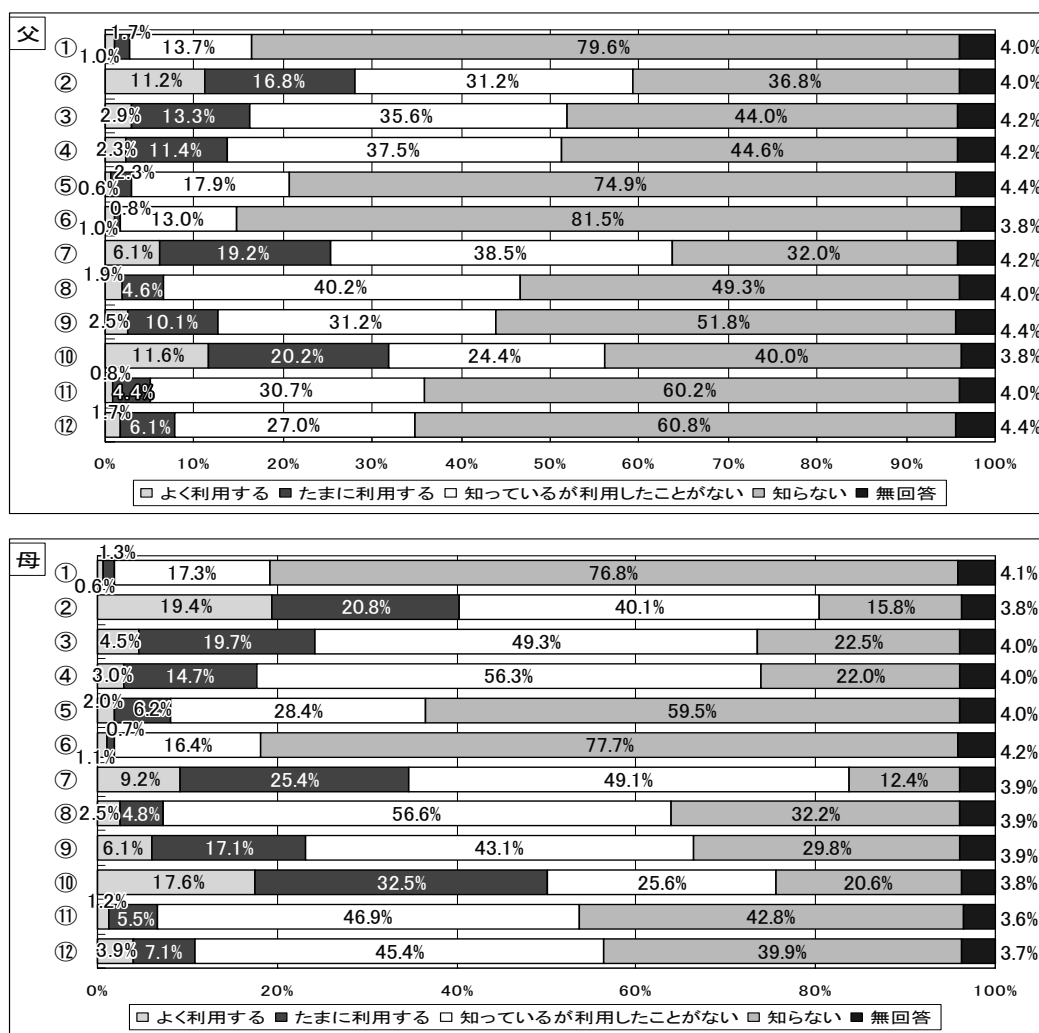
### (3) 育児支援策について

さまざまな育児支援策がためになっているか(役立っているか)については(表2-19)、「(ためになっていると思う)」と回答した人が、回答者が父親のグループで42.9%、母親のグループで47.7%であった。「(ためになっていると思う)」と回答した人は、それぞれ19.8%、18.4%であった。「わからない」はそれぞれ33.1%、29.7%であった。

次に、区の個別の事業について、「よく利用す

る」「たまに利用する」「知っているが利用したことはない」「知らない」のうちどれにあてはまるかについて尋ねた(図2-54)。回答者が父親のグループは、母親のグループに比べて全体的に「知らない」と回答する人の割合が高い傾向にある。父親のグループと母親のグループのどちらも、「知らない」と回答した人の割合が高かったのは、「発達支援センター」と「障害保健福祉センター 子ども療育パオ」であった。

図2-54 港区で実施している事業について



① 発達支援センター	⑦ 乳幼児一時預かり・子育てひろば
② バースデイ歯科健診(保健所)	⑧ 派遣型一時保育・育児サポート
③ すくすく育児相談(保健所)	⑨ 子ども家庭支援センター
④ 保育園で遊ぶ	⑩ 児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業
⑤ 未就学児の会	⑪ みなとっこ(区立保育園での在宅子育て支援)
⑥ 障害保健福祉センター子ども療育パオ	⑫ 養育支援訪問(妊娠出産時ホームヘルプサービス)

C 小学生・中学2年生の保護者に対するアンケート 基本集計結果

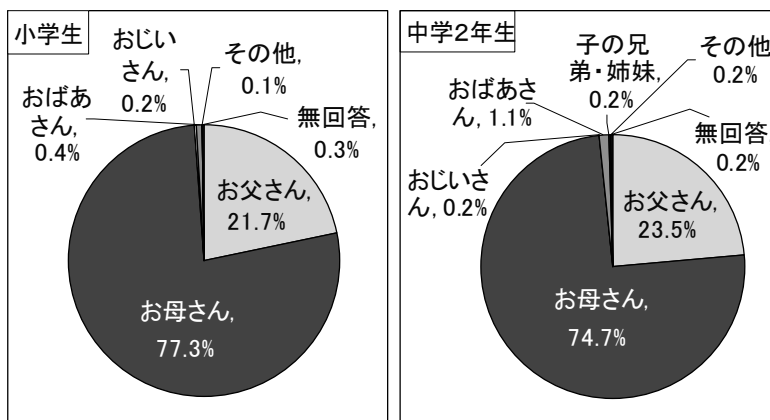
1 基本属性

(1) 回答者の種類

アンケートに回答した人は、子どもが小学生の

世帯では「お父さん」が21.7%、「お母さん」が77.3%であった。子どもが中学2年生の世帯では、「お父さん」が23.5%、「お母さん」が74.7%であった（図2-55）。

図2-55 回答者の種類



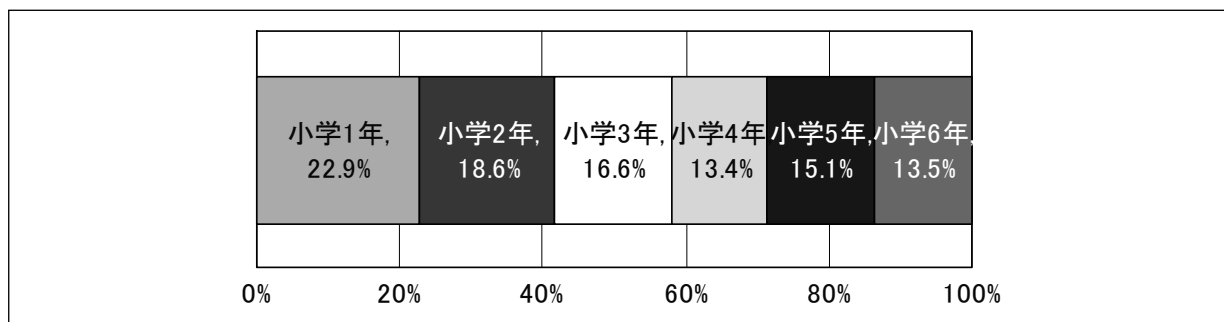
(2) 子どもの学年と性別について

子どもの学年については（図2-56）、「小学1年」が22.9%、次いで「小学2年」が18.6%、「小学3年」が16.6%、「小学4年」が13.4%、「小学5年」が15.1%、「小学6年」が13.5%であった。

中学生は2年生のみを調査対象としている。

性別については、小学生は男子が51.2%、女子が48.6%、中学2年生は男子が50.7%、女子が49.3%であった（表2-21）。

図2-56 子どもの学年（小学生）



(3) 居住している地域について

居住している地域について尋ね、それを5総合支所別に区分して集計したものが図2-57である。

子どもが小学生の世帯の場合、「芝地区」は10.6%、「麻布地区」は18.3%、「赤坂地区」が13.3%、「高輪地区」が25.1%、「芝浦港南地区」が31.1%であった。子どもが中学2年生の世帯の場合、「芝地区」が11.6%、「麻布地区」が17.8%、

「赤坂地区」が12.6%、「高輪地区」が30.1%、「芝浦港南地区」が26.7%であった。

調査対象者の地区別割合は表2-24・表2-25のとおりである。このことから、今回のアンケートの回答者は、子どもが小学生の世帯は「芝浦港南地区」が、子どもが中学2年生の世帯は「高輪地区」が最も割合が高いことがわかる。



図2-57 居住地区

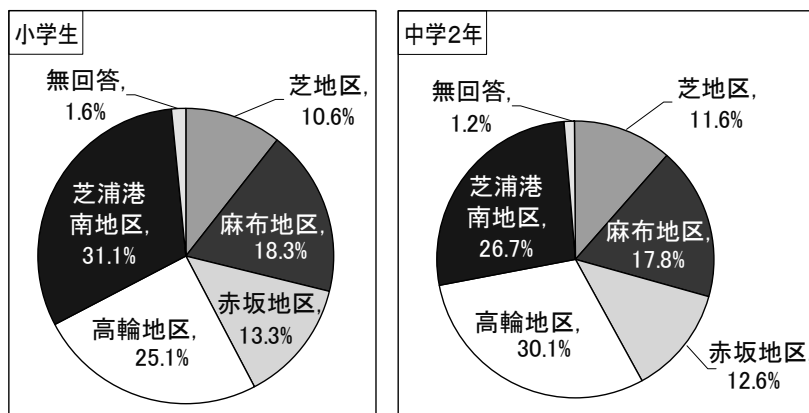


表2-24 【小学生】調査対象者数と調査回答者数および回収率

地区	調査対象者【総数】		調査対象者【抽出】		調査回答者		回収率
	度数	%	度数	%	度数	%	
芝地区	691	11.4%	320	10.6%	159	10.7%	49.7%
麻布地区	1,433	23.7%	718	23.8%	276	18.6%	38.4%
赤坂地区	840	13.9%	425	14.1%	200	13.5%	47.1%
高輪地区	1,462	24.1%	717	23.8%	378	25.5%	52.7%
芝浦港南地区	1,629	26.9%	838	27.8%	468	31.6%	55.8%
合計	6,055	100.0%	3,018	100.0%	1,481	100.0%	49.1%

※調査回答者の構成割合からは、無回答者を除いている。

表2-25 【中学2年】調査対象者数と調査回答者数および回収率

地区	調査対象者【総数】		調査対象者【抽出】		調査回答者		回収率
	度数	%	度数	%	度数	%	
芝地区	149	10.7%	149	10.7%	65	11.7%	43.6%
麻布地区	326	23.4%	326	23.4%	100	18.0%	30.7%
赤坂地区	215	15.4%	215	15.4%	71	12.8%	33.0%
高輪地区	384	27.6%	384	27.6%	169	30.5%	44.0%
芝浦港南地区	318	22.8%	318	22.8%	150	27.0%	47.2%
合計	1,392	100.0%	1,392	100.0%	555	100.0%	39.9%

※調査回答者の構成割合からは、無回答者を除いている。

#### (4) 居住年数

居住年数については(表2-26)、小学生・中学2年生ともに「1年」の割合が最も高く、それぞれ13.5%、12.6%であった。

子どもが小学生の世帯の場合、現住所に居住している年数が5年以下の世帯が43.6%、6年以上10年以下の世帯が39.9%であった。居住年数が10

年以下の世帯が全体の8割強を占めている。

子どもが中学2年生の世帯の場合、現住所に居住している年数が5年以下の世帯が32.3%、6年以上10年以下の世帯が30.5%、11年以上15年以下の世帯が22.0%であった。居住年数が10年以下の世帯が全体の6割強を占めている。

表2-26 居住年数

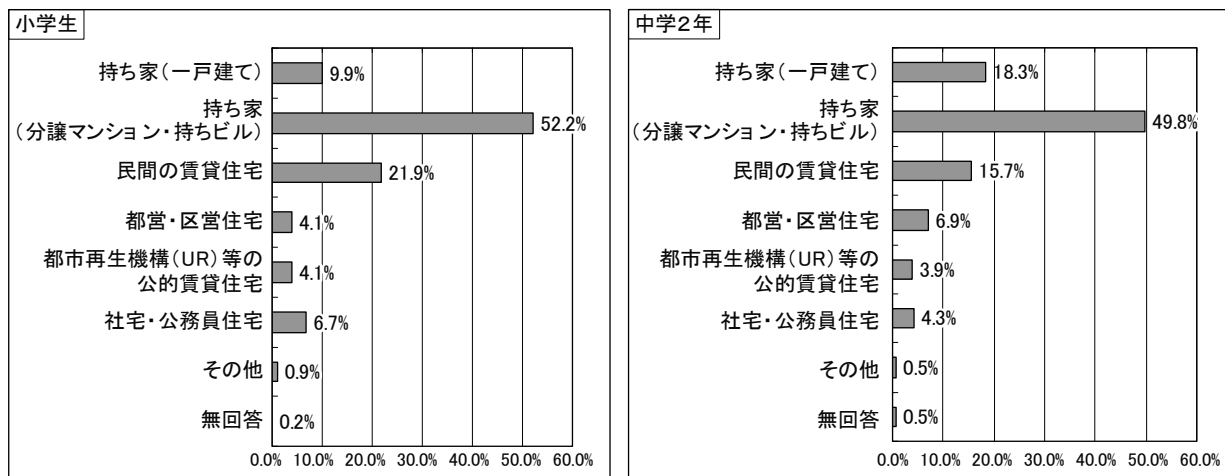
	小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
1年	203	13.5%	71	12.6%
2年	100	6.6%	25	4.4%
3年	117	7.8%	32	5.7%
4年	96	6.4%	20	3.6%
5年	140	9.3%	34	6.0%
6年	139	9.2%	30	5.3%
7年	140	9.3%	45	8.0%
8年	114	7.6%	30	5.3%
9年	57	3.8%	19	3.4%
10年	150	10.0%	48	8.5%
11年	29	1.9%	13	2.3%
12年	40	2.7%	20	3.6%
13年	39	2.6%	28	5.0%
14年	12	0.8%	24	4.3%
15年	40	2.7%	38	6.8%
16年	6	0.4%	12	2.1%
17年	6	0.4%	12	2.1%
18年	2	0.1%	7	1.2%
19年	1	0.1%	3	0.5%
20年	8	0.5%	7	1.2%
21年以上	52	3.5%	38	6.8%
無回答	14	0.9%	6	1.1%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%

## (5) 住宅の種類

住宅の種類については、子どもが小学生の世帯では、「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」が最も多く52.2%を占めた。次いで「民間の賃貸住宅」が21.9%、「持ち家（一戸建て）」が9.9%、「社宅・公務員住宅」が6.7%であった。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」を合わせて、62.1%が持ち家に住んでいる。ほか、「都営・区営住宅」「都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅」はともに4.1%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」が最も多く49.8%であった。次いで「持ち家（一戸建て）」が18.3%、「民間の賃貸住宅」が15.7%、「社宅・公務員住宅」が4.3%であった。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」を合わせて、68.1%が持ち家に住んでいる。ほか、「都営・区営住宅」は6.9%、「都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅」は3.9%であった。

図2-58 住宅の種類

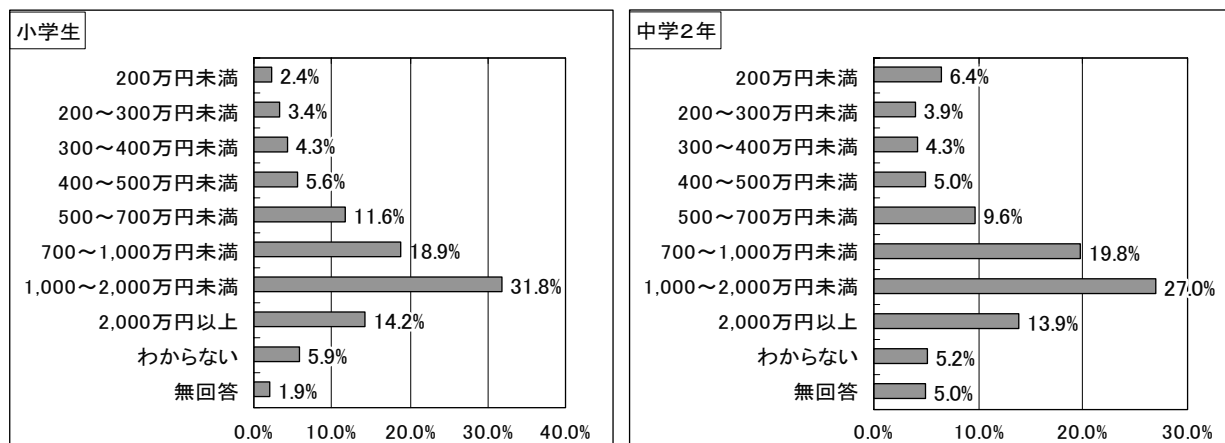


## (6) 世帯年収

世帯年収については（図2-59）、子どもが小学生の世帯・中学2年生の世帯ともに、最も割合が高かったのは「1,000万～2,000万円未満」で、それぞれ31.8%、27.0%を占めた。次いで「700万～1,000万円未満」がそれぞれ18.9%、19.8%、「2,000万円以上」がそれぞれ14.2%、13.9%を占めた。

世帯年収が400万円未満の世帯は、子どもが小学生の世帯の10.1%、子どもが中学2年生の世帯の14.6%であった。子どもが中学2年生の世帯の方が割合が高い。一方、世帯年収が1,000万円以上の世帯の割合は、子どもが小学生の世帯では46.0%で、子どもが小学生の世帯の方が割合が高かった。

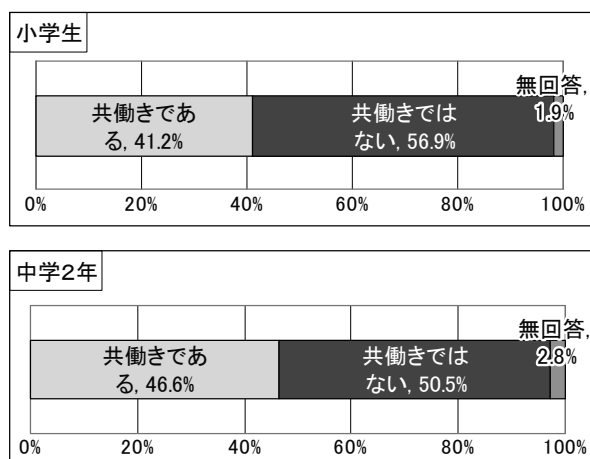
図2-59 世帯年収



(7) 共働きの有無と生計中心者の職業

共働きの有無については(図2-60)、子どもが小学生の世帯では41.2%、子どもが中学2年生の世帯では46.6%が「共働きである」と回答している。

図2-60 共働きの有無



おもに生計を支えている人の職業については(表2-27)、子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯どちらも「民間企業の常勤的勤務者」が最も多く、それぞれ58.4%、47.9%を占めた。次いで「自営業・会社経営」がそれぞれ24.8%、29.9%であった。

表2-27 生計を支えている方の職業

	小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
自営業・会社経営	373	24.8%	168	29.9%
公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者	140	9.3%	44	7.8%
民間企業の常勤的勤務者	879	58.4%	269	47.9%
臨時・パートなどの勤務者	28	1.9%	35	6.2%
その他の職業	47	3.1%	19	3.4%
就労していない	11	0.7%	8	1.4%
無回答	27	1.8%	19	3.4%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%

2 家族の状況

(1) 家族構成

同居している家族は(表2-28)、子どもが小学生の世帯では、「父母と子」の構成が最も多く、84.7%を占めた。ほか、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯が4.9%、「父と子」の世帯が0.4%、「母と子」の世帯が6.6%であった。

子どもが中学2年生の世帯でも、「父母と子」の構成が最も多かったが、その割合は76.0%で、子どもが小学生の世帯に比べて少し低い割合を示した。「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯は8.0%で、子どもが小学生の世帯よりも割合が高くなっている。ほか、「父と子」の世帯が0.9%、「母と子」の世帯は11.0%であった。

なお、どちらの世帯も、「父と子」や「母と子」等の世帯には、父または母が単身赴任等の理由で

現在同居していない家族も含まれている。

表2-28 家族構成

	小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
父母+子	1,274	84.7%	427	76.0%
父母+子+祖父・祖母	73	4.9%	45	8.0%
父+子	6	0.4%	5	0.9%
父+子+祖父・祖母	4	0.3%	1	0.2%
母+子	100	6.6%	62	11.0%
母+子+祖父・祖母	34	2.3%	15	2.7%
その他	10	0.7%	5	0.9%
無回答	4	0.3%	2	0.4%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%

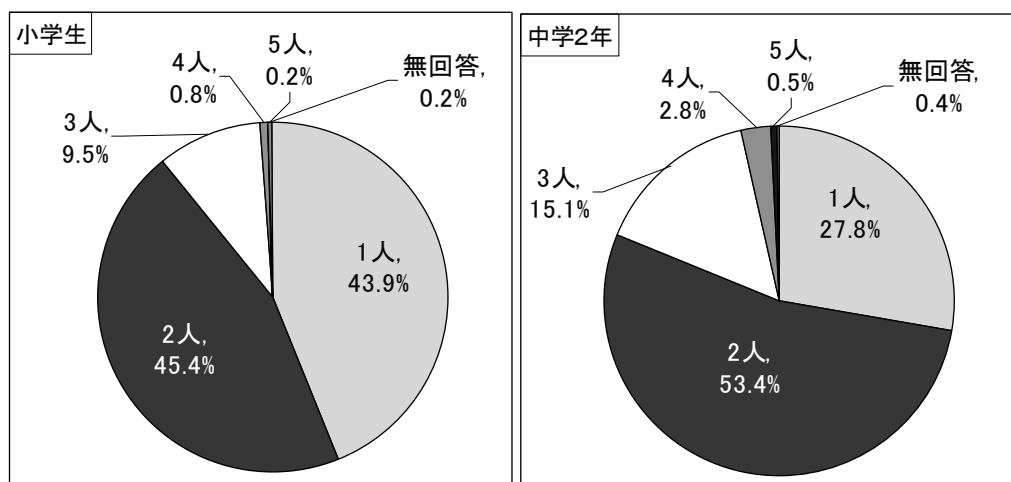
## (2) 子どもの人数・障害の有無について

子どもの人数について(図2-61)、子どもが小学生の世帯では、「1人」が43.9%、「2人」が45.4%、「3人」が9.5%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「1人」が27.8%、「2人」が53.4%、「3人」が15.1%であった。

世帯内の子どものうち、健康に不安がある、または障害がある子どもがいると回答した世帯は、子どもが小学生の世帯の7.6%、子どもが中学2年生の世帯の7.3%であった(表2-22)。

図2-61 子どもの人数



## (3) 父母の年齢

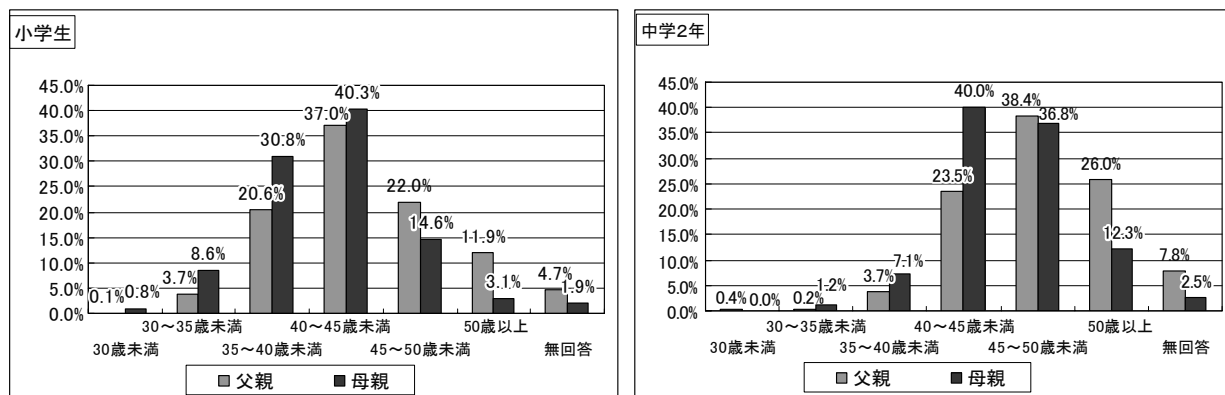
父母の年齢について集計した(図2-62)。小学生の親の場合、父母ともに最も割合が高かったのは「40～45歳未満」で、父親の37.0%、母親の40.3%を占めた。そのほか、父親は、「45～50歳未満」が22.0%、「35～40歳未満」が20.6%と続いた。母親は、「35～40歳未満」が30.8%、「45～50歳未満」が14.6%であった。

中学2年生の親の場合、父親は「45～50歳未満」が最も高く38.4%を占め、次いで「50歳以上」が26.0%、「40～45歳未満」が23.5%であった。一方、母親は「40～45歳未満」が最も高く40.0%を占め、次いで「45～50歳未満」が36.8%、「50

歳以上」が12.3%であった。

子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、父親の方が母親よりも年齢が高い傾向にある。また、子どもが小学生の世帯よりも、中学2年生の世帯の方が、年齢が高い方に寄っていることがわかる。これは、子どもの年齢が高くなる分、親の年齢も高くなることに加え、本調査の対象が、小学生の親については子どもが第1子である世帯を対象としているが、中学2年生の場合は第1子かどうかにかかわらず中学2年生の子どもがいる世帯すべてを対象としていることも影響していると考えられる。

図2-62 父母の年齢階層



### 3 祖父母について

#### (1) 祖父母との同居の有無と住まい

祖父母と同居しているかどうかについて尋ねた（表2-30）。子どもが小学生の世帯では、父方の祖父母と「同居していない」と回答した世帯が85.8%、母方の祖父母と「同居していない」と回答した世帯が89.2%であった。8割半から9割程度の世帯は、祖父母と同居していないことがわか

る。

子どもが中学2年生の世帯の場合は、父方の祖父母と「同居していない」と回答した世帯が77.8%、母方の祖父母と「同居していない」と回答した世帯が83.5%で、子どもが小学生の世帯と比較して、祖父母と同居していない世帯の割合がやや低くなっている。

表2-30 祖父母との同居有無

	小学生				中学生			
	父方の祖父母		母方の祖父母		父方の祖父母		母方の祖父母	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
同居している	61	4.1%	77	5.1%	41	7.3%	37	6.6%
同居していない	1,292	85.8%	1,343	89.2%	437	77.8%	469	83.5%
同居していない（死去など）	109	7.2%	67	4.5%	57	10.1%	52	9.3%
無回答	43	2.9%	18	1.2%	27	4.8%	4	0.7%
合計	1,505	100.0%	1,505	100.0%	562	100.0%	562	100.0%

同居していない世帯に対し、祖父母の住まいがどこかについて尋ねた（表2-31）。

子どもが小学生の世帯では、父方・母方の祖父母ともに「都外」が最も多く、それぞれ66.6%、66.7%を占めた。次いで「都内」がそれぞれ22.5%、22.4%、「港区内」はそれぞれ9.8%、10.0%であった。

子どもが中学2年生の世帯でも、父方・母方の祖父母ともに「都外」が最も高い割合を占めた（61.3%、61.8%）が、子どもが小学生の世帯に比べてやや低い割合となった。一方で、「港区内」が14.2%（父方）、12.2%（母方）と、子どもが小学生の世帯に比べて高い割合となった。

表2-31 祖父母と同居していない場合の親の住まい

	小学生				中学生			
	父方の祖父母		母方の祖父母		父方の祖父母		母方の祖父母	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
区内	126	9.8%	134	10.0%	62	14.2%	57	12.2%
都内	291	22.5%	301	22.4%	104	23.8%	120	25.6%
都外	860	66.6%	896	66.7%	268	61.3%	290	61.8%
無回答	15	1.2%	12	0.9%	3	0.7%	2	0.4%
合計	1,292	100.0%	1,343	100.0%	437	100.0%	469	100.0%

(2) 祖父母からの援助

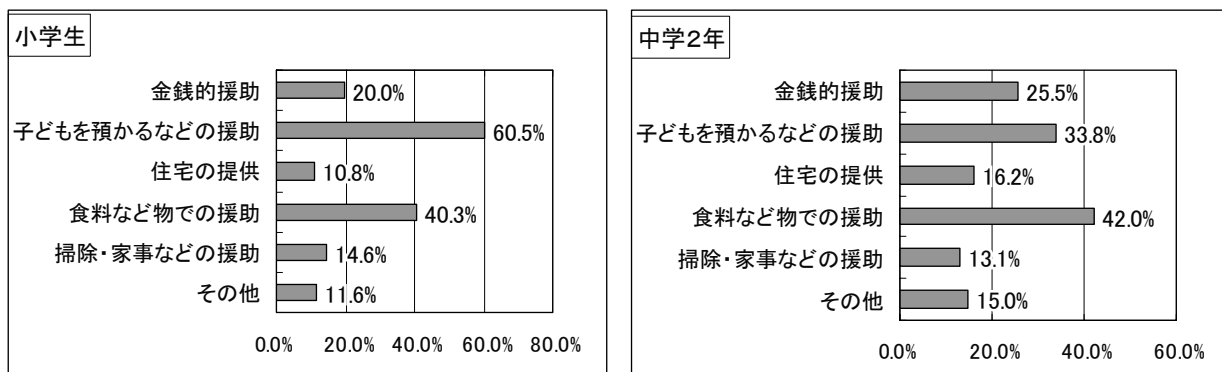
祖父母からどのような援助を受けているかについて尋ねた (図2-63、複数回答)。

子どもが小学生の世帯の場合、「子どもを預かるなどの援助」が60.5%と最も高く、次いで「食料など物での援助」が40.3%、「金銭的援助」が20.0%であった。ほか、「掃除・家事などの援助」

が14.6%、「住宅の提供」が10.8%であった。

子どもが中学2年生の世帯の場合、「食料など物での援助」が42.0%と最も高く、次いで「子どもを預かるなどの援助」が33.8%、「金銭的援助」が25.5%であった。ほか、「住宅の提供」が16.2%、「掃除・家事などの援助」が13.1%であった。

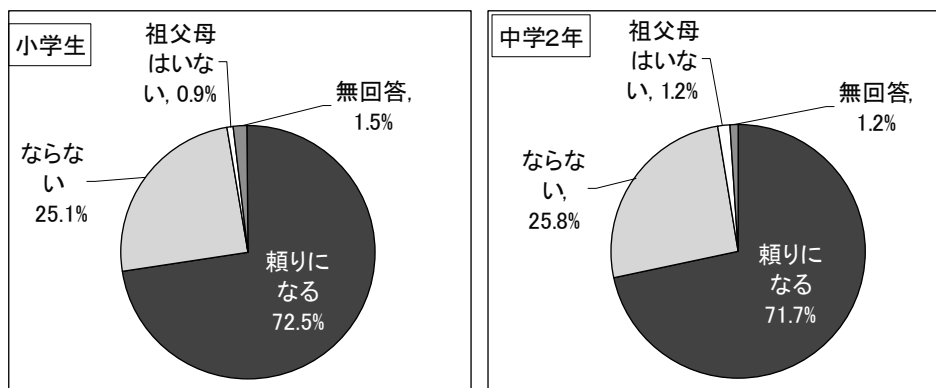
図2-63 祖父母からの援助 (複数回答)



また、祖父母は「頼りになるか」という問いに対しては (図2-64)、子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、「頼りになる」と回答し

た人が最も多く、それぞれ72.5%、71.7%を占めた。

図2-64 祖父母は頼りになるか



#### 4 子どものふだんの生活について

##### (1) 生活の様子

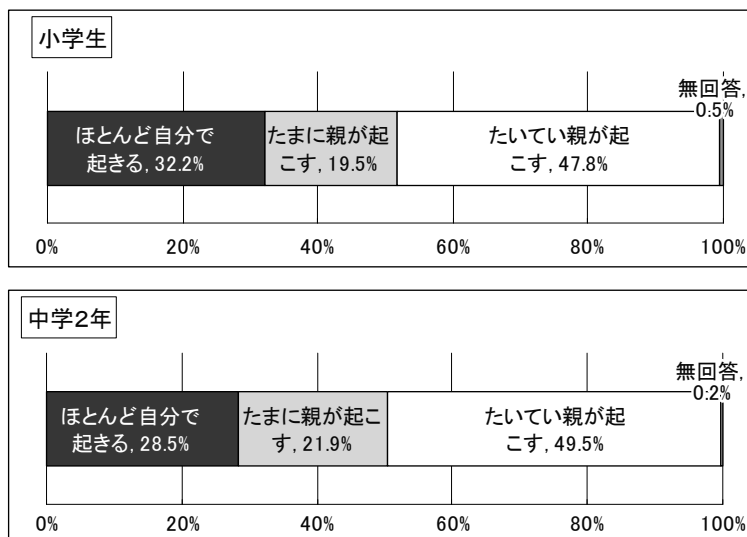
起床については、小学生・中学2年生ともに「たいてい親が起こす」が最も多く、それぞれ47.8%、49.5%と半分近くを占めた（図2-65）。

朝食については、小学生の96.5%、中学2年生

の88.1%が「毎日とってから（学校に）行く」と回答した（表2-32）。

毎日の登校については、小学生の97.9%、中学2年生の97.7%が「登校している」と回答した（表2-33）。

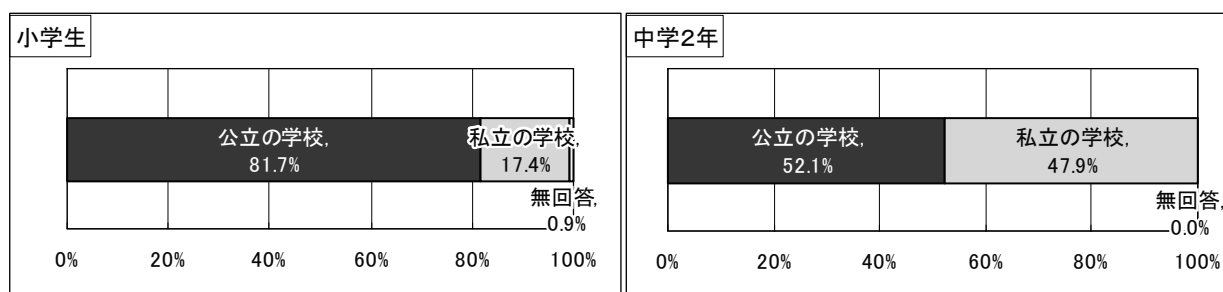
図2-65 毎朝自分で起きるか



通っている学校の種類については（図2-66）、小学生の場合には「公立の学校」が81.7%、「私立の学校」が17.4%であった。中学2年生の場合

には、「公立の学校」が52.1%、「私立の学校」が47.9%であった。中学生の方が、公立の学校に通う子どもの割合が低くなっていることがわかる。

図2-66 学校の種類



##### (2) 友だち関係・いじめについて

子どもに仲の良い友だちがいると思うかという問いに対しては、子どもが小学生、中学2年生の世帯でどちらも、およそ95%の世帯で「いると思う」と回答した（表2-34）。

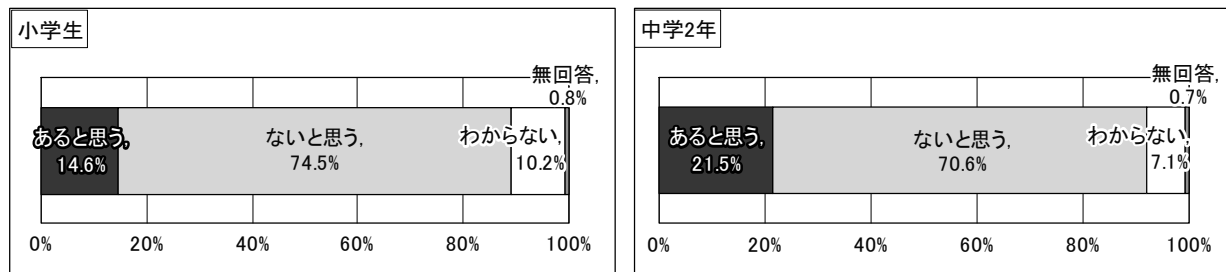
子どもが学校で「いじめ」にあったことがあると思うかという問いに対しては、子どもが小学生

の世帯では「あると思う」が14.6%、「ないと思う」が74.5%であった。「わからない」は10.2%である。子どもが中学2年生の世帯の場合、「あると思う」は21.5%で、子どもが小学生の世帯よりも高くなり、「ないと思う」は70.6%でやや低くなった。「わからない」は7.1%であった（図2-67）。

学校の対応に問題を感じたことがあるかという問いに対しては、子どもが小学生、中学2年生の世帯でどちらも、「ない」が75%程度を占め、「あ

る」は2割程度であった（表2-35）。なお、その内容については220～223ページにまとめている。

図2-67 「いじめ」の有無

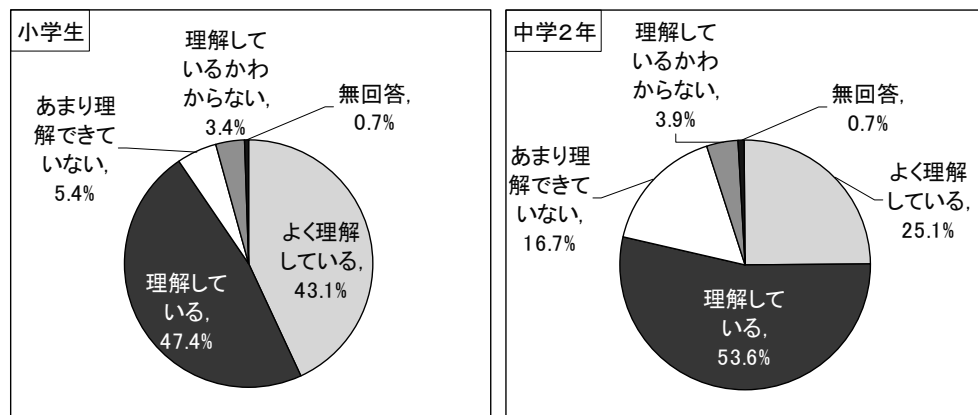


(3) 学校での勉強や学習塾・家庭教師について

子どもが学校の授業を理解していると思うかについて尋ねた（図2-68）。子どもが小学生の世帯では、「よく理解している」が43.1%、「理解して

いる」が47.4%で、両者を合わせて9割の世帯で、子どもが授業を理解していると思っていることがわかる。

図2-68 授業の理解



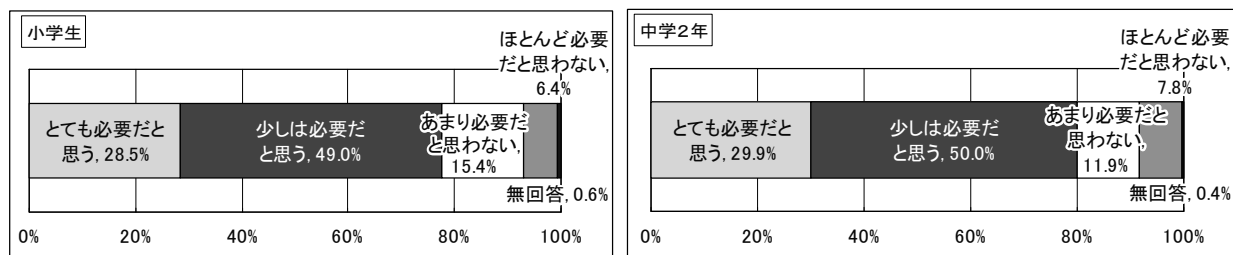
子どもが中学2年生の世帯では、「よく理解している」が25.1%、「理解している」が53.6%で、「あまり理解できていない」が16.7%であった。

次に、子どもに学習塾などでの勉強が必要だと思うかと尋ねた（図2-69）。子どもが小学生の世帯では、「少しは必要だと思う」が49.0%と最も高く、次いで「とても必要だと思う」が28.5%、「あまり必要だと思わない」が15.4%、「ほとんど必要だと思わない」が6.4%であった。「とても必要だと思う」と「少しは必要だと思う」を合わせ

て、77.5%の世帯で、塾などでの勉強が必要だと思っていることがわかる。子どもが中学2年生の世帯では、「少しは必要だと思う」が50.0%、次いで「とても必要だと思う」が29.9%、「あまり必要だと思わない」が11.9%、「ほとんど必要だと思わない」が7.8%であった。「とても必要だと思う」と「少しは必要だと思う」を合わせて、79.9%の世帯で、塾などでの勉強が必要だと思っていることがわかる。



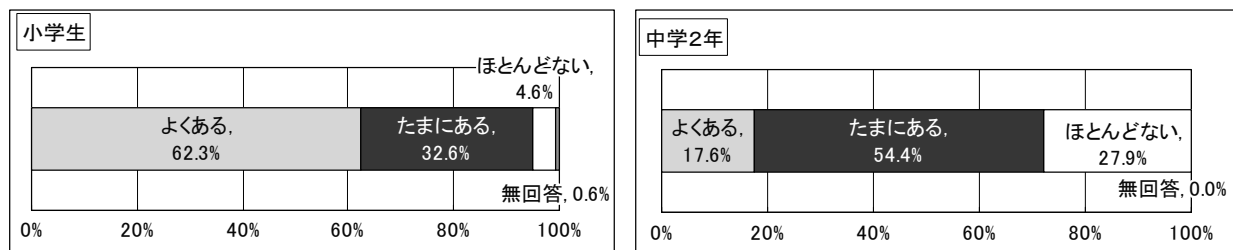
図2-69 塾などでの勉強の必要性



家族が子どもの勉強を見ることがあるかどうかという問いに対しては（図2-70）、子どもが小学生の世帯では、「よくある」が62.3%と最も高く。「たまにある」が32.6%、「ほとんどない」が4.6%であった。子どもが中学2年生の世帯では、「よ

くある」は17.6%にとどまり、「たまにある」が54.4%、「ほとんどない」が27.9%であった。子どもが小学生の間は家族が勉強を見る機会も多いが、中学2年生になると、その頻度が減っていることがわかる。

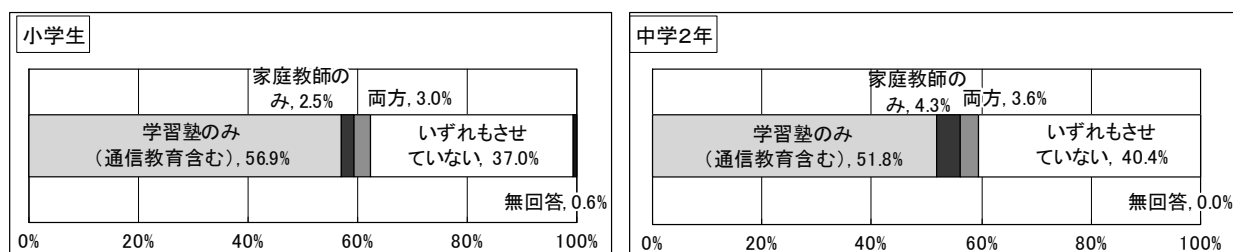
図2-70 家族が子どもの勉強をみる頻度



子どもを学習塾に通わせたり、家庭教師を頼んだりしているかについては（図2-71）、子どもが小学生の場合には、「学習塾のみ（通信教育含む）」が56.9%、「家庭教師のみ」が2.5%、「両方」が3.0%であり、「いずれもさせていない」は37.0%

であった。子どもが中学2年生の世帯では、「学習塾のみ（通信教育含む）」が51.8%で、「家庭教師のみ」が4.3%、「両方」が3.6%であり、「いずれもさせていない」は40.4%であった。

図2-71 学習塾や家庭教師について



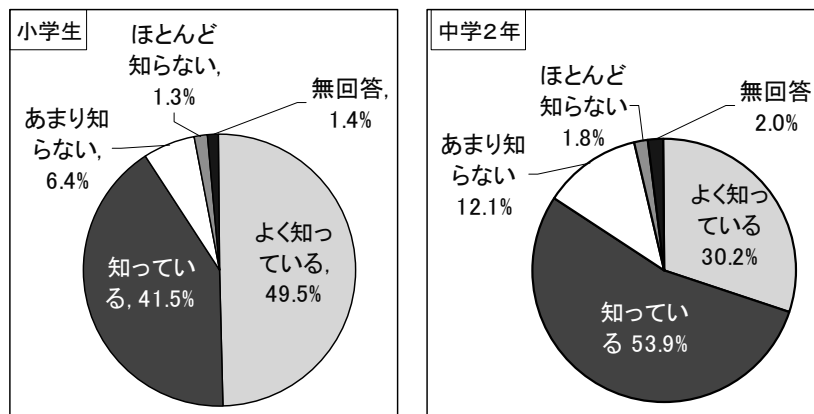
## 5 子どもの放課後の様子

### (1) 子どもの放課後の遊びの内容と場所

学校が終わったあと、子どもが何をして遊んでいるかを知っているか尋ねた（図2-72）。子どもが小学生の世帯では、「よく知っている」が

49.5%、「知っている」が41.5%で、両者を合わせて91%が子どもが何をして遊んでいるのか知っている」と回答した。一方、「あまり知らない」は6.4%、「ほとんど知らない」は1.3%であった。

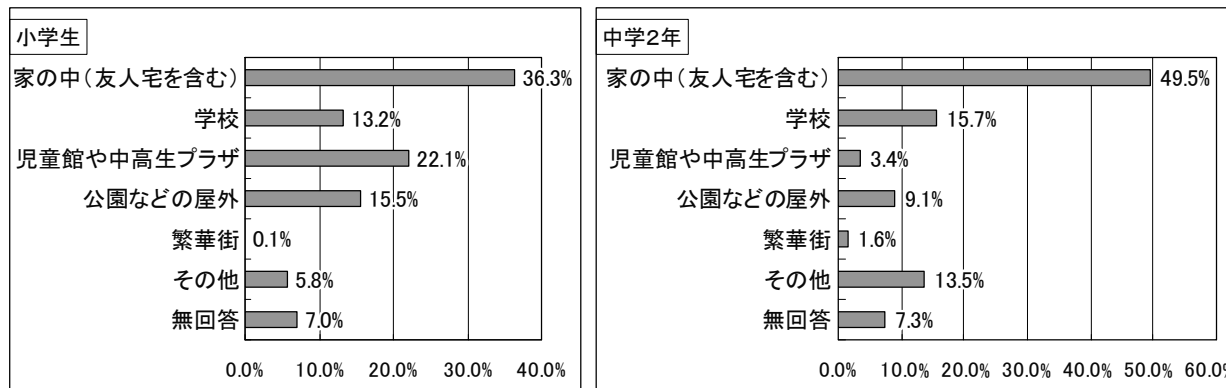
図2-72 放課後の子どもの遊びについて知っているか



子どもが中学2年生の世帯では、「よく知っている」が30.2%、「知っている」が53.9%で、子どもが何をして遊んでいるのか知っているという回答した人の割合は84.1%であり、子どもが小学生の世帯に比べてやや低くなった。一方、「あまり知らない」は12.1%で、子どもが小学生の世帯よりも高い割合を示した。「ほとんど知らない」は1.8%であった。

学校が終わったあと、子どもが遊ぶ場所について尋ねた(図2-73)。子どもが小学生の場合、「家の中(友人宅を含む)」が36.3%と最も高く、次いで「児童館や中高生プラザ」が22.1%、「公園などの屋外」が15.5%、「学校」が13.2%であった。子どもが中学2年生の場合、「家の中(友人宅を含む)」が49.5%と最も高く、次いで「学校」が15.7%、「公園などの屋外」が9.1%であった。

図2-73 放課後の遊び場所

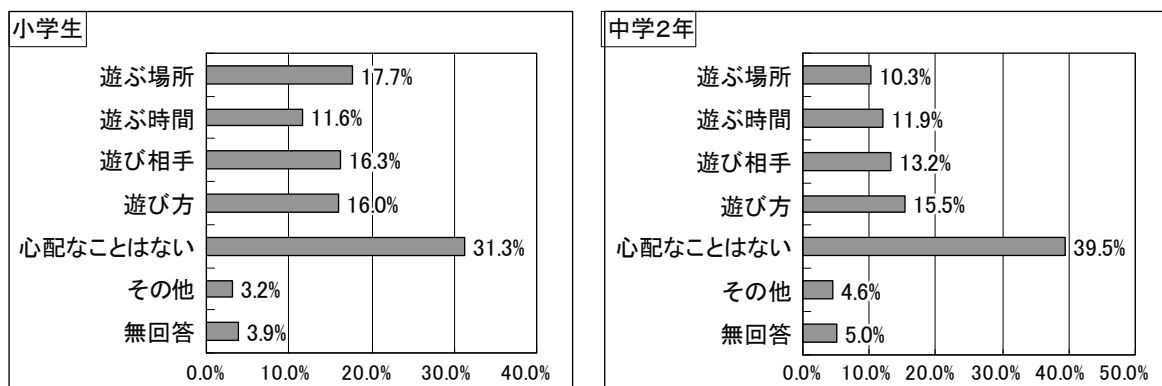


(2) 子どもの遊びや非行、性についての心配

子どもの遊びについて最も心配なことはなにかを尋ねた(図2-74)。子どもが小学生の場合、「遊ぶ場所」が17.7%、「遊び相手」が16.3%、「遊び方」が16.0%、「遊ぶ時間」が11.6%であった。「心配なことはない」と回答した人は31.3%であっ

た。子どもが中学2年生の場合、「遊び方」が15.5%、「遊び相手」が13.2%、「遊ぶ時間」が11.9%、「遊ぶ場所」が10.3%であった。「心配なことはない」は39.5%であった。

図2-74 子どもの遊びについて心配なこと



子どもの非行や性について、心配なことの有無を尋ねた（表2-36）。非行については、子どもが小学生、中学2年生である世帯どちらも、9割以上の保護者が「ない」と回答している。「性」については、子どもが小学生の世帯では「ない」と回答した人の割合が92.1%であったのに対して、

子どもが中学2年生の世帯では、「ない」と回答した人の割合が88.3%とやや低くなり、心配なことが「ある」と回答した人が9.6%と1割弱を占めた。心配事の具体的な内容については、本報告書第4章にその一部を掲載している。

表2-36 非行・性の心配の有無

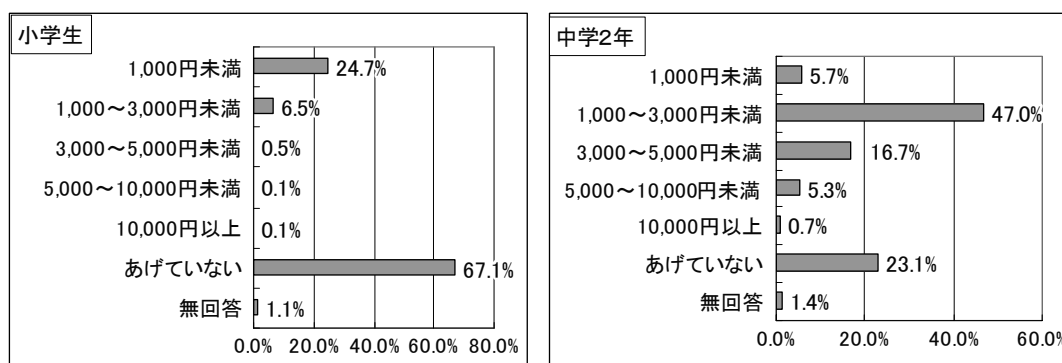
	非行の心配の有無				「性」の心配の有無			
	小学生		中学2年生		小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
ある	68	4.5%	33	5.9%	85	5.6%	54	9.6%
ない	1,401	93.1%	516	91.8%	1,386	92.1%	496	88.3%
無回答	36	2.4%	13	2.3%	34	2.3%	12	2.1%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%	1,505	100.0%	562	100.0%

### (3) おこづかいについて

子どもへの1か月のおこづかいの額については（図2-75）、子どもが小学生の世帯では「あげていない」が最も多く67.1%を占め、次いで「1,000

円未満」が24.7%であった。子どもが中学2年生の世帯では、「1,000～3,000円未満」が最も多く、47.0%を占め、次いで「あげていない」が23.1%、「3,000～5,000円未満」が16.7%であった。

図2-75 おこづかい月額



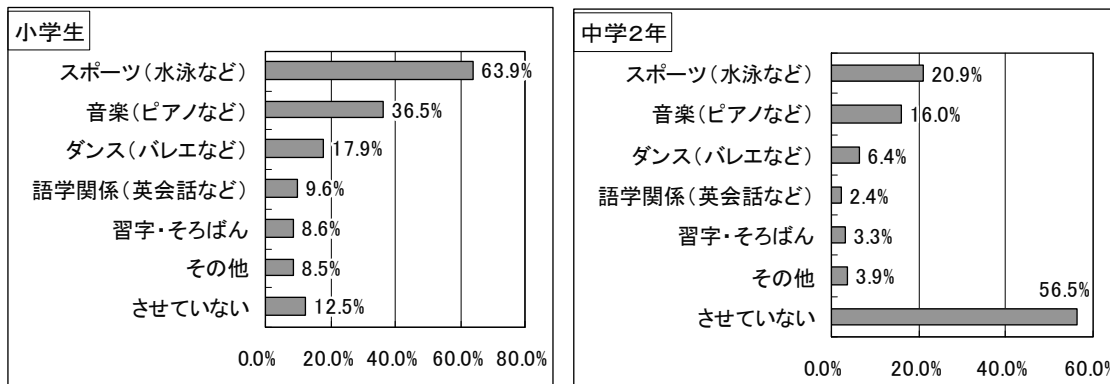
(4) 習いごとや地域活動への参加について

学習以外にさせている習いごとについて尋ねた(図2-76, 複数回答)。子どもが小学生の世帯では、「スポーツ(水泳など)」が63.9%と最も高く、次いで「音楽(ピアノなど)」が36.5%、「ダンス(バレエなど)」が17.9%であった。習いごとを

「させていない」と回答したのは12.5%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「スポーツ(水泳など)」が20.9%、「音楽(ピアノなど)」が16.0%、「ダンス(バレエなど)」が6.4%であった。習いごとを「させていない」と回答したのは56.5%で最も多かった。

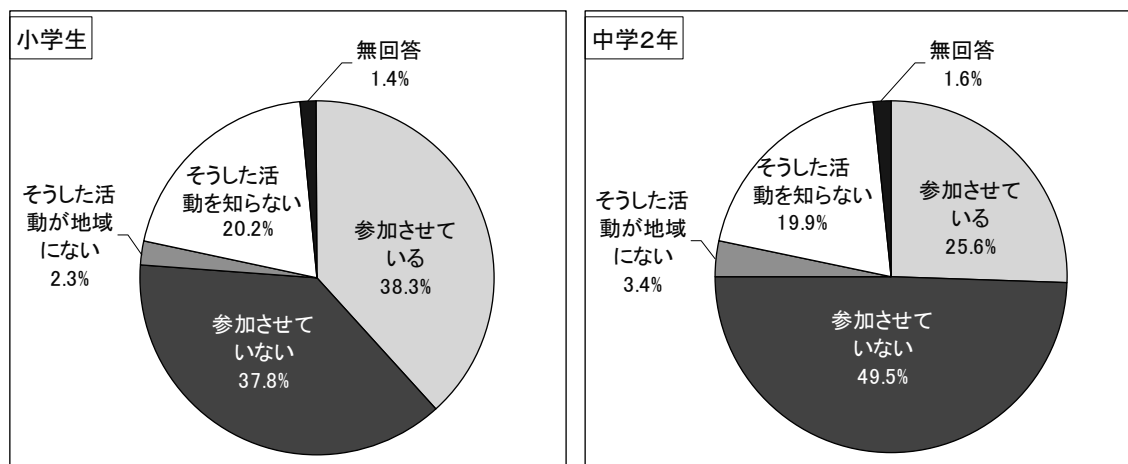
図2-76 学習以外の習いごと(複数回答)



地域の活動に参加させているか尋ねた(図2-77)。子どもが小学生の世帯では「参加させている」が最も高く38.3%で、「参加させていない」が37.8%、「そうした活動を知らない」が20.2%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「参加させていない」が49.5%と最も高く、次いで「参加させている」が25.6%、「そうした活動を知らない」が19.9%であった。

図2-77 地域の活動への参加



6 教育費と進学希望

(1) 学校教育以外の教育費について

調査対象となった子どもにかかる習い事や通信教育の費用(月額)について尋ねた(図2-78)。子どもが小学生の世帯では、「1万~2万円未満」

が18.0%と最も高く、次いで「2万~3万円未満」が17.7%、「3万~4万円未満」が15.9%であった。

子どもが中学2年生の世帯の場合、最も割合が高かったのは「かけていない(0円)」で21.2%を占め、次いで「3万~4万円未満」が15.8%、

「2万～3万円未満」が14.3%、「1万～2万円未満」が13.4%であった。

この金額についての評価は（図2-79）、子どもが小学生・中学2年生の世帯どちらも、「十分である」が最も高く、それぞれ54.6%、53.9%を占めた。「もっとかけてあげたい」はそれぞれ22.3%、26.3%、「かけすぎだと思う」はそれぞれ18.0%、10.3%であった。

宛名の子どもを含めた子ども全員にかかる習い事等の費用の総額（月額）は（図2-80）、宛名の

子どもが小学生の世帯では、「2万～3万円未満」が14.6%、「3万～4万円未満」が13.7%、「1万～2万円未満」が12.4%、「5万～6万円未満」が12.3%であった。宛名の子どもが中学2年生の世帯では、「かけていない（0円）」は12.7%と低くなり、「10万～20万円未満」が15.4%と高くなっている。ほか、「3万～4万円未満」が13.3%、「5万～6万円未満」が10.1%、「2万～3万円未満」が9.7%であった。

図2-78 習い事や通信教育等の費用（宛名の子ども1人）

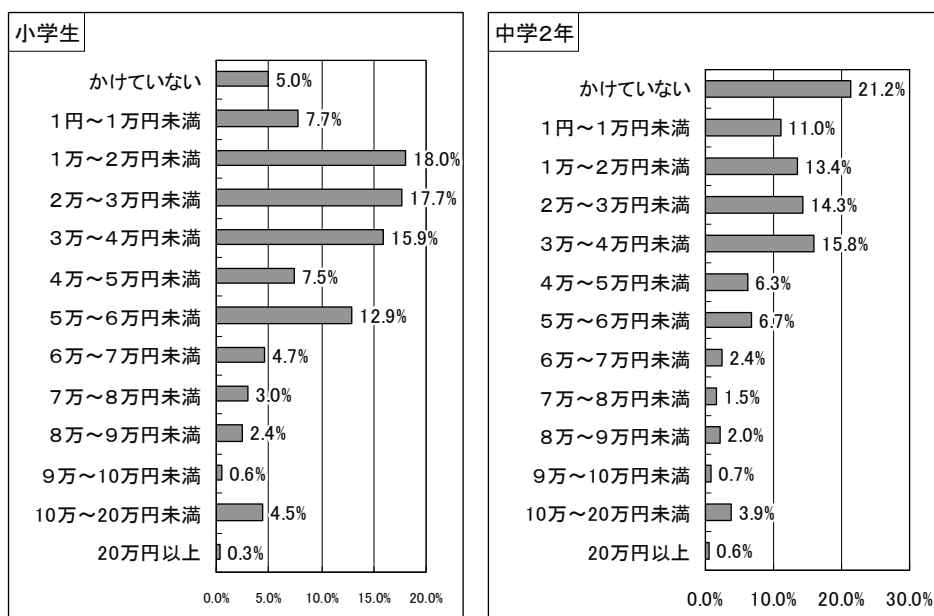


図2-79 習い事費用の評価

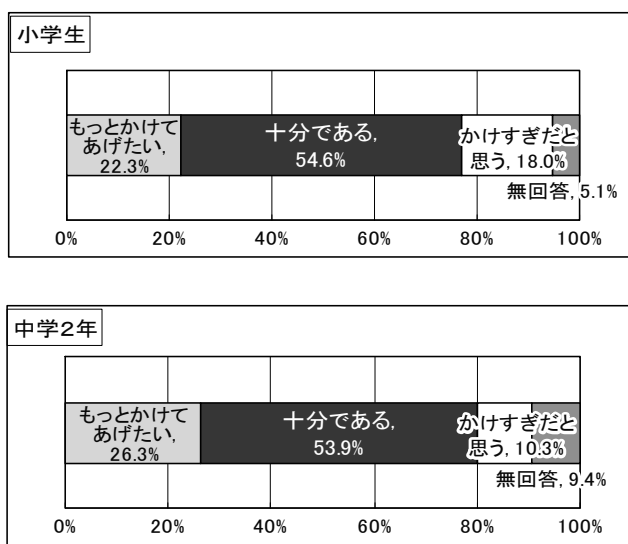
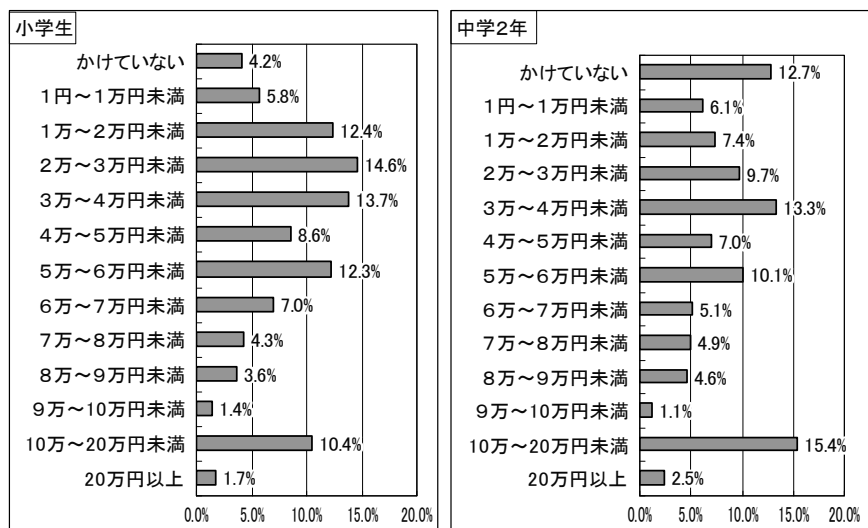


図2-80 習い事や通信教育の費用（子ども全員）



(2) 子どもの進学希望と父母の学歴

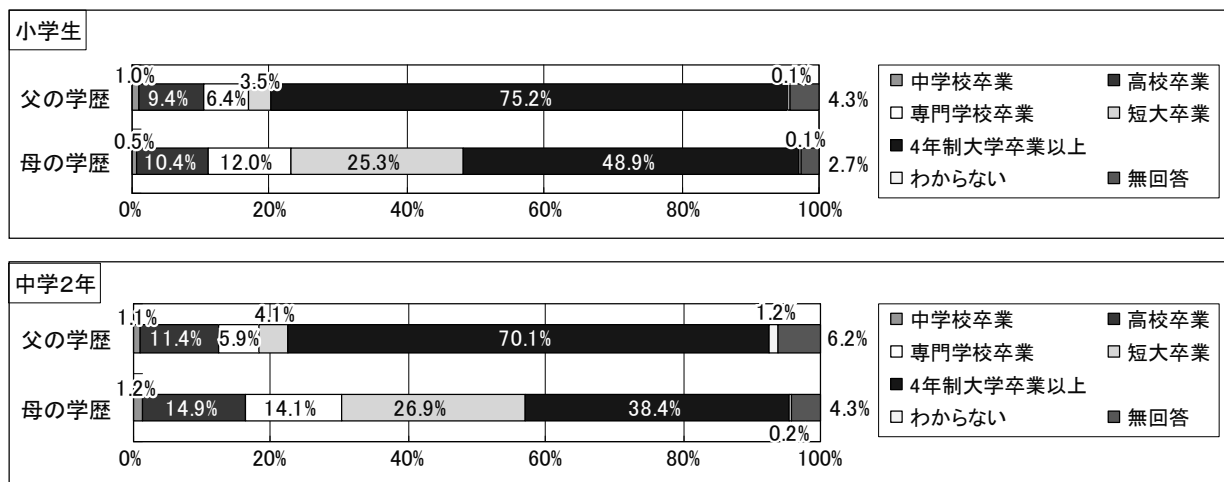
子どもにはどの学校まで進学してほしいと考えているかについては（表2-37）、子どもが小学生・中学2年生の世帯どちらも「4年制大学以上」が多くを占め、それぞれ88.6%、85.6%であった。

両親の学歴について尋ねたところ（図2-81）、子どもが小学生の世帯と中学2年生の世帯とでは、両親の学歴は大きく変わらないことがわかった。父親は「4年制大学卒業以上」が最も多く、子どもが小学生の世帯で75.2%、中学2年生の世帯で70.1%を占めた。母親は、「4年制大学卒業以上」の人の割合が、子どもが小学生の世帯で48.9%、中学2年生の世帯で38.4%であり、「短大卒業」がそれぞれ25.3%、26.9%であった。

表2-37 子どもの進学希望

	小学生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
中学校卒業	0	0.0%	1	0.2%
高校卒業	36	2.4%	18	3.2%
専門学校卒業	18	1.2%	12	2.1%
短大卒業	29	1.9%	8	1.4%
4年制大学卒業以上	1,333	88.6%	481	85.6%
わからない	74	4.9%	29	5.2%
無回答	15	1.0%	13	2.3%
合計	1,505	100.0%	562	100.0%

図2-81 父母の学歴

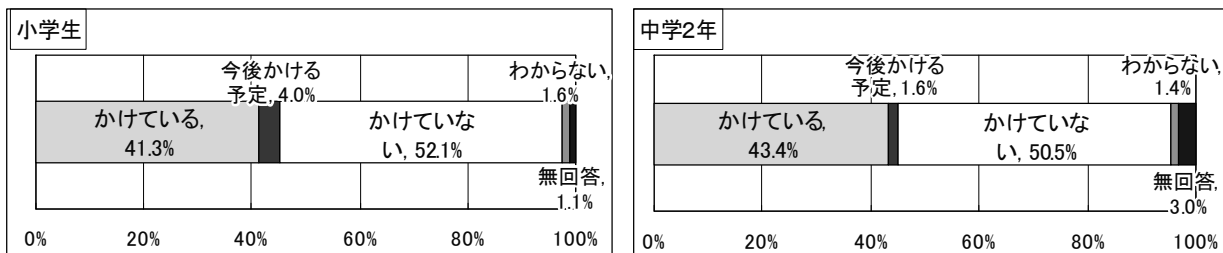


### (3) 子どもの教育費のための保険

子どもの教育費のための保険への加入については（図2-82）、子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、「かけていない」がおよそ半

分を占めた（52.1%、50.5%）。「かけている」と回答した世帯はそれぞれ41.3%、43.4%で、「今後かける予定」と回答した世帯はそれぞれ4.0%、1.6%であった。

図2-82 教育費のための保険



## 7 子育ての状況

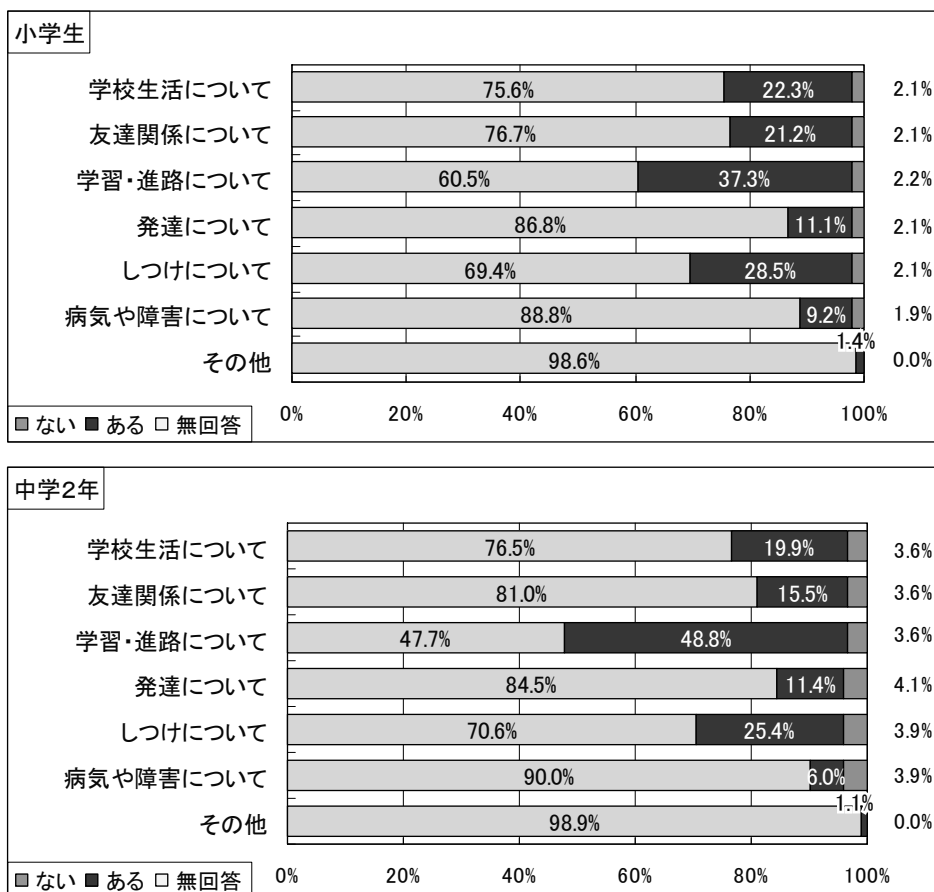
### (1) 子どもに関する悩みごとの有無について

子どもに関することでの悩みの有無を、テーマ別に尋ねた（図2-83）。

子どもが小学生の世帯では、悩みが「ある」と回答した人の割合が最も高かったのは「学習・進

路について」で、37.3%を占めた。次いで、「しつけについて」が28.5%、「学校生活について」が22.3%、「友達関係について」が21.2%であった。「発達について」（11.1%）や「病気・障害について」（9.2%）悩みが「ある」と回答した人は1割前後であった。

図2-83 子どもについての悩みの有無



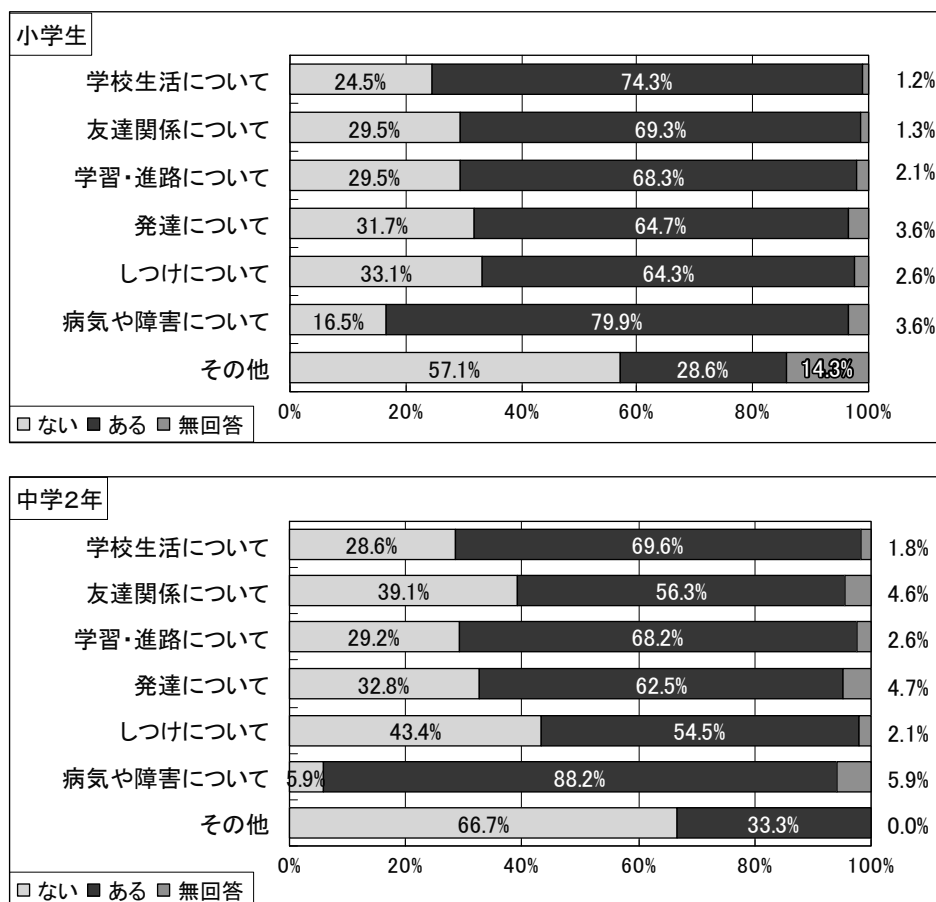
子どもが中学2年生の世帯では、「学習・進路について」悩みが「ある」と回答した人が最も多く、48.8%と半分近くを占めた。子どもが小学生の世帯に比べて高い割合である。そのほか、「しつけについて」が25.4%、「学校生活について」が19.9%、「友達関係について」が15.5%であった。「発達について」は11.4%、「病気・障害について」は6.0%であった。

悩みの相談先の有無について尋ねた(図2-84)。子どもが小学生の世帯では、相談先が「ない」と回答した人の割合は、「学校生活について」が24.5%、「友達関係について」が29.5%、「学習・進路について」が29.5%、「発達について」が31.7%、「しつけについて」が33.1%で、おおむ

ね2割半から3割半の間であった。「病気や障害について」相談する先が「ない」と回答した人の割合は16.5%で、他の悩みに比べてやや低かった。

子どもが中学2年生の世帯では、「しつけについて」の相談先が「ない」と回答した人の割合が43.4%で4割を超えた。また、「友達関係について」相談する先が「ない」と回答した人の割合は39.1%で4割近かった。そのほか、「学校生活について」(28.6%)、「学習・進路について」(29.2%)、「発達について」(32.8%)、は3割前後であった。「病気や障害について」相談先が「ない」と回答した人はわずか5.9%で、88.2%の人が相談先が「ある」と回答した。

図2-84 悩みの相談先の有無





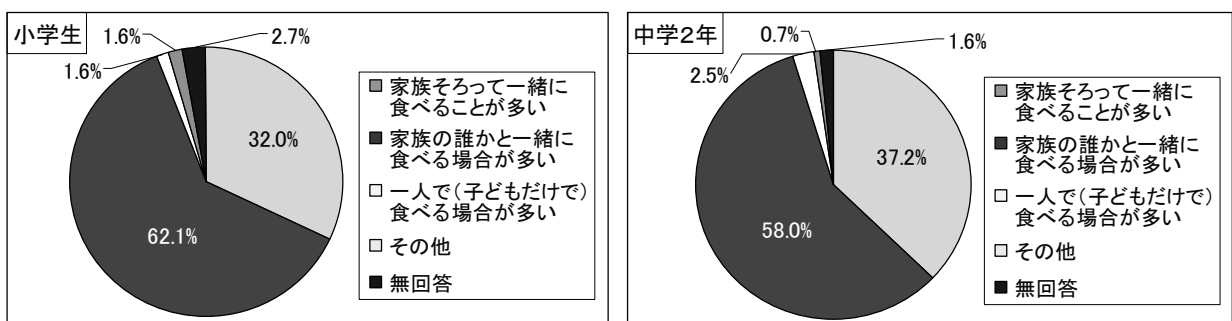
### (2) ふだんの夕食の相手・1年間のレジャーについて

ふだん子どもが誰と夕食を食べているかを尋ねたところ（図2-85）、子どもが小学生の世帯では、62.1%が「家族の誰かと一緒に食べる場合が多い」と回答した。次いで「家族そろって一緒に食べる場合が多い」が32.0%を占め、「1人で（子ども

だけで）食べる場合が多い」はわずか1.6%であった。

子どもが中学2年生の世帯でもその傾向は同様であり、「家族の誰かと一緒に食べる場合が多い」が58.0%、「家族そろって一緒に食べる場合が多い」が37.2%で、「1人で（子どもだけで）食べる場合が多い」は2.5%であった。

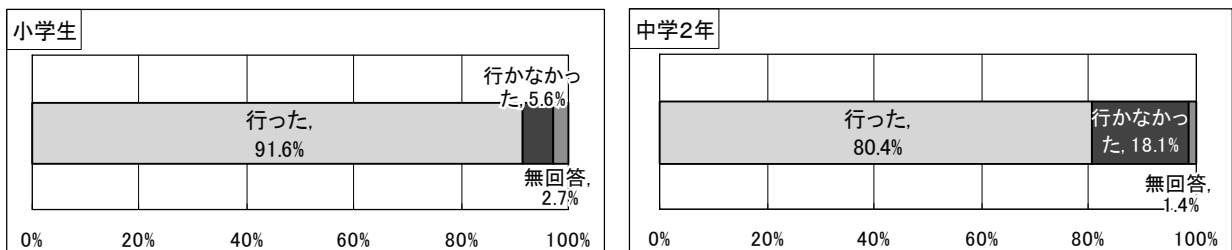
図2-85 夕食の相手



この1年間に旅行やキャンプに出かけたかどうかについては（図2-86）、子どもが小学生の世

帯では91.6%が、子どもが中学2年生の世帯では80.4%が、「行った」と回答した（表2-38）。

図2-86 この1年の旅行やキャンプ

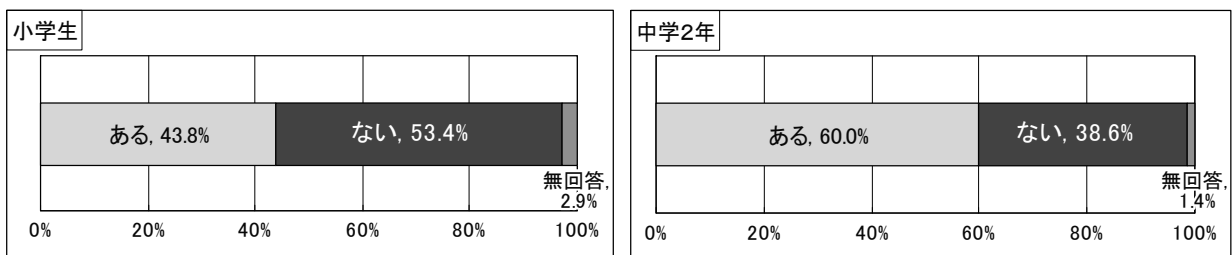


### (3) 子どもの部屋の有無

子ども専用の部屋の有無を尋ねた（図2-87）。子どもが小学生の世帯では、専用の部屋が「ある」と回答した世帯が43.8%、「ない」と回答した世帯が53.4%であった。子どもが中学2年生の

世帯では、専用の部屋が「ある」と回答した世帯は60.0%、「ない」と回答した世帯は38.6%であった。子どもが中学2年生の世帯の方が、子ども専用の部屋がある世帯の割合が高いことがわかる。

図2-87 子ども専用の部屋の有無



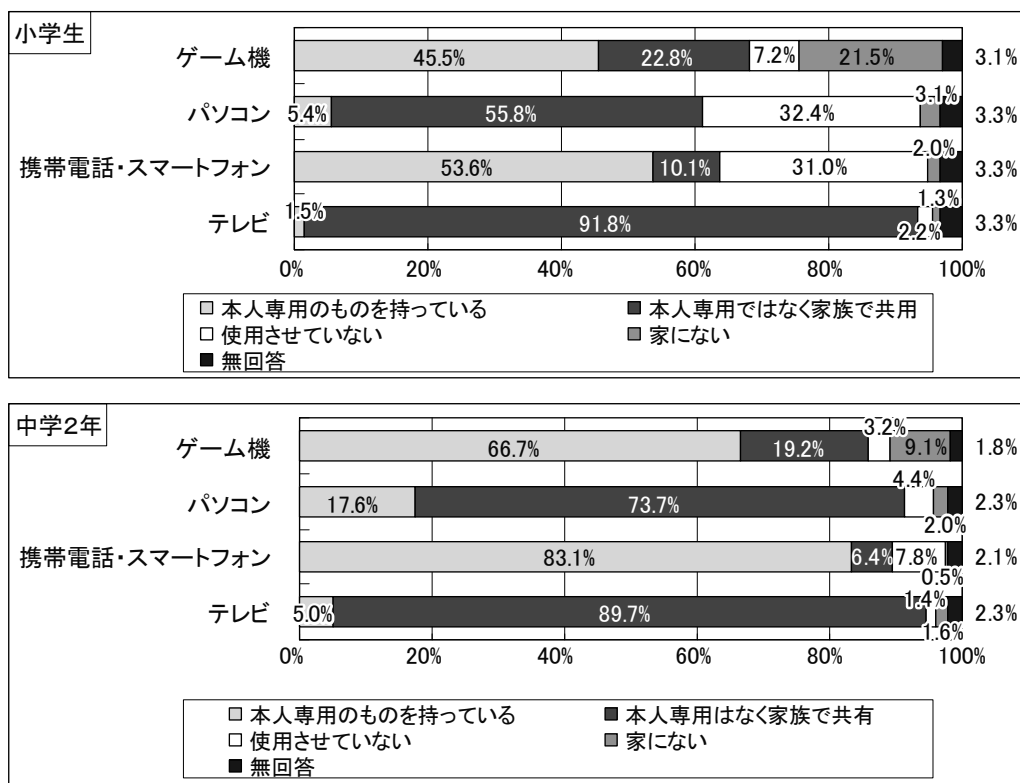
(4) テレビ・ゲーム・携帯電話・インターネットの所有や使用について

ゲーム機やパソコン、携帯電話・スマートフォン、テレビの所有について尋ねた(図2-88)。子どもが小学生の世帯の場合、「ゲーム機」と「携帯電話・スマートフォン」は「本人専用のもを持っている」と回答した世帯の割合が高く、それぞれ45.5%、53.6%であった。他方、「パソコン」と「テレビ」については、「本人専用ではなく家族で共用」と回答した世帯の割合が高く、それぞれ55.8%、91.8%であった。また、「パソコン」と「携帯電話・スマートフォン」は、「使用させていない」の割合が32.4%、31.0%であった。「ゲーム機」は「家がない」の割合がほかにならべて高く、21.5%であった。

子どもが中学2年生の世帯の場合も、小学生

の世帯と同様に「ゲーム機」と「携帯電話・スマートフォン」は「本人専用のもを持っている」と回答した世帯の割合が高かった。その割合は「ゲーム機」が66.7%、「携帯電話・スマートフォン」が83.1%で、子どもが小学生の世帯に比べて高い割合であった。「パソコン」と「テレビ」についても、小学生の世帯と同様に「本人専用ではなく家族で共用」が最も高く、それぞれ73.7%、89.7%を占めたが、「パソコン」については、「本人専用のもを持っている」割合が17.6%で、子どもが小学生の世帯に比べて高くなっている。また、「パソコン」「携帯電話・スマートフォン」について、「使用させていない」と回答した世帯の割合は、子どもが小学生の世帯に比べてぐっと低くなり、それぞれ4.4%、7.8%であった。

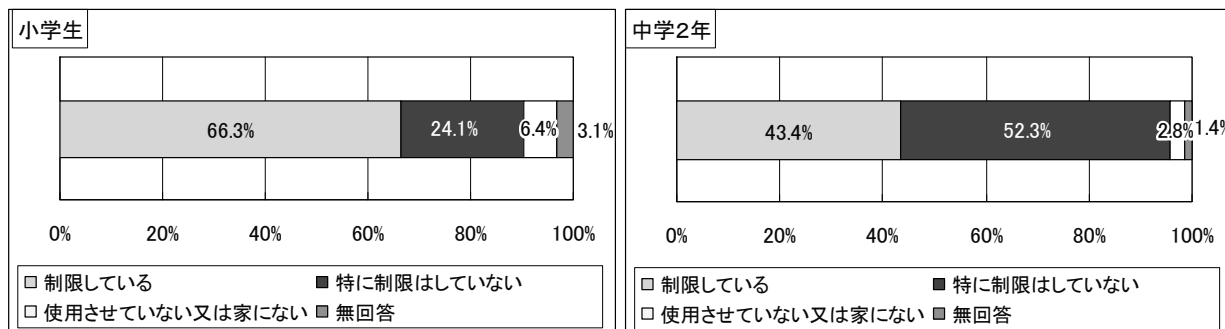
図2-88 ゲーム機等の所有



次に、テレビやゲームの時間の制限について尋ねた（図2-89）。子どもが小学生の世帯では、66.3%が「制限している」と回答、「特に制限はしていない」と回答した世帯は24.1%であった。

しかし、子どもが中学2年生の世帯では、「制限している」と回答した世帯は43.4%で、52.3%が「特に制限はしていない」と回答した。小学生と中学2年生では違いがあることがわかる。

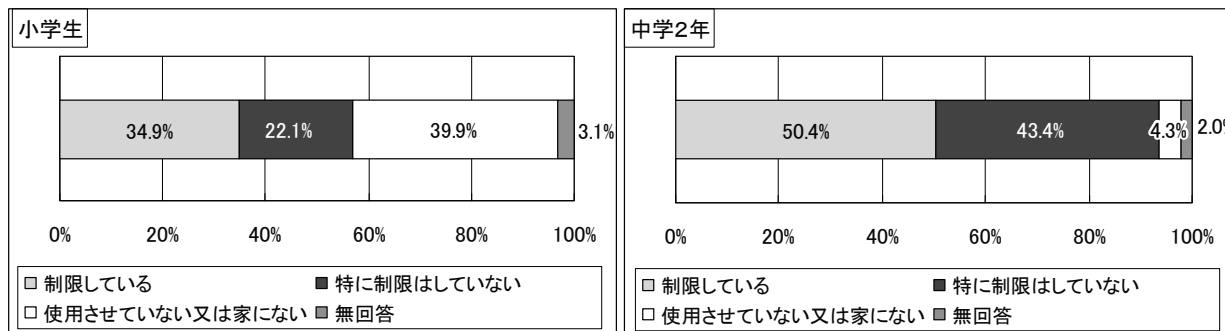
図2-89 テレビ・ゲームの時間制限



インターネットの閲覧制限については（図2-90）、子どもが小学生の世帯では、「制限している」が34.9%、「特に制限はしていない」が22.1%、「使用させていない又は家にはない」が39.9%であった。子どもが中学2年生の世帯の場合には、「制限している」が50.4%、「特に制限はしていない」が43.4%、「使用させていない又は家にはない」が4.3%であった。インターネットの閲覧制限の状況は、子どもが小学生か中学2年生かで大きく異なることがわかる。

合には、「制限している」が50.4%、「特に制限はしていない」が43.4%、「使用させていない又は家にはない」が4.3%であった。インターネットの閲覧制限の状況は、子どもが小学生か中学2年生かで大きく異なることがわかる。

図2-90 インターネットの閲覧制限について



(5) 子どもとの会話について

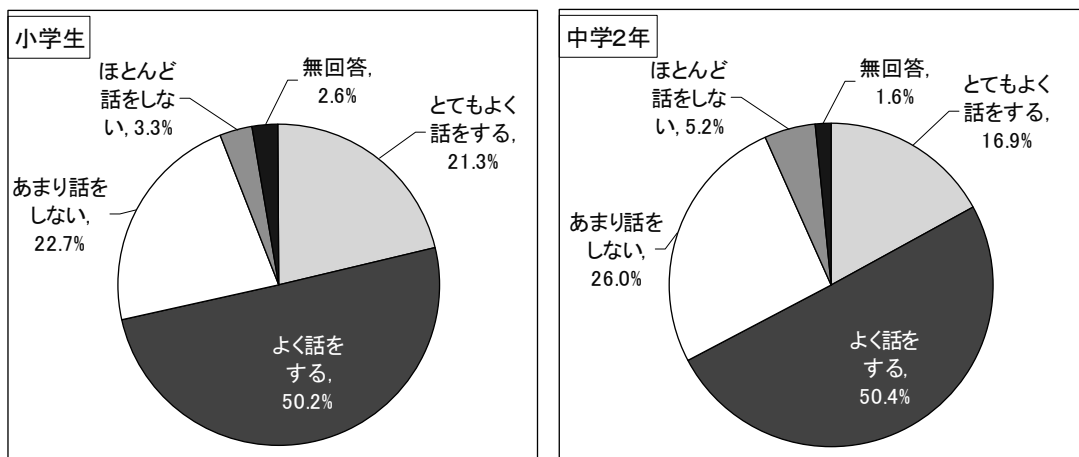
子どもがその日の出来事や悩みを話すかと尋ねた（図2-91）。子どもが小学生の場合、「とてもよく話をする」が21.3%、「よく話をする」が50.2%、「あまり話をしない」が22.7%で、「ほとんど話をしない」は3.3%であった。

「ほとんど話をしない」が26.0%で、「ほとんど話をしない」は5.2%であった。

子どもが中学2年生の場合、「とてもよく話をする」が16.9%、「よく話をする」が50.4%、「あ

子どもとの日常の会話の程度については、子どもが小学生の世帯と中学2年生の世帯で、大きな差は見られなかった（表2-39）。どちらも、「そう思う（十分だと思う）」が6割を超え、それぞれ61.5%、64.9%であった。

図2-91 子どもがその日の出来事や悩みを話すか

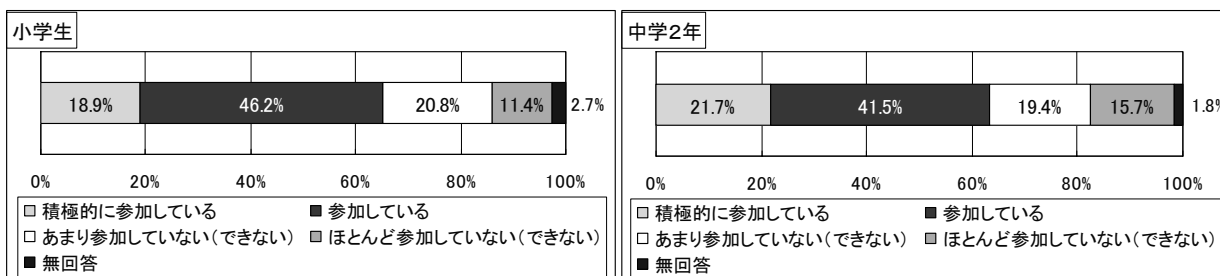


(6) 保護者の活動について

保護者がPTA活動などに参加しているかについては(図2-92)、子どもが小学生の世帯と中学2年生の世帯で大きな差は見られなかった。どちらも、「参加している」と回答した世帯の割合が

最も高く、それぞれ46.2%、41.5%を占め、「積極的に参加している」がそれぞれ18.9%、21.7%、「あまり参加していない(できない)」がそれぞれ20.8%、19.4%で、「ほとんど参加していない(できない)」がそれぞれ11.4%、15.7%であった。

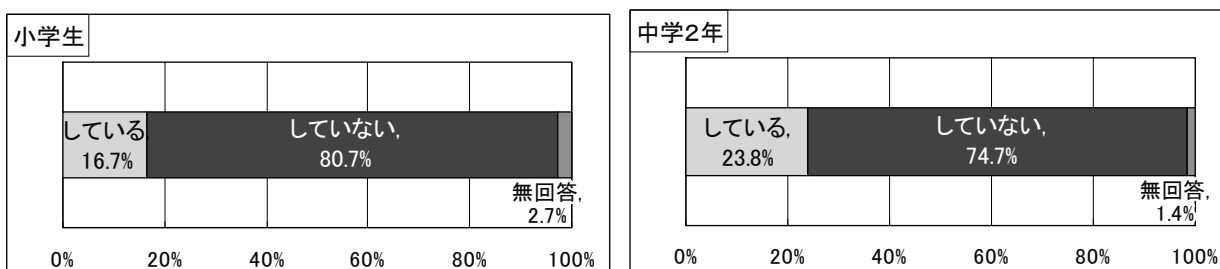
図2-92 PTA活動への参加



部活動や少年野球チームなどのお世話をしているかについては(図2-93)、「している」と回答した人の割合は、子どもが小学生の世帯では16.7%、子どもが中学2年生の世帯では23.8%であった。

子どもが小学生の世帯の80.7%、子どもが中学2年生の世帯の74.7%は、「していない」と回答している。

図2-93 部活動等のお世話

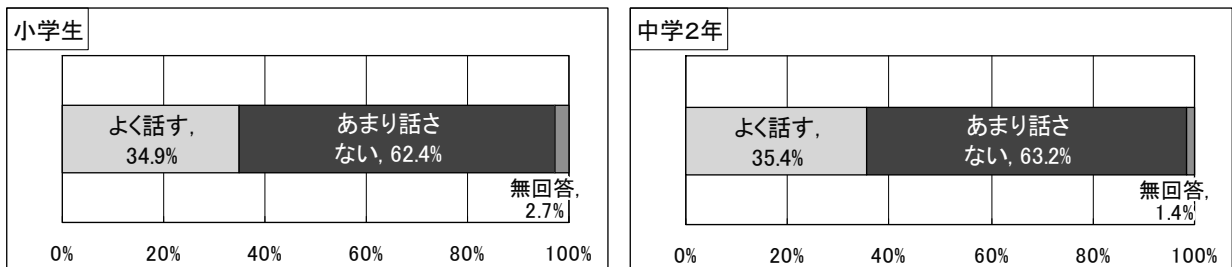


(7) 保護者の会話の相手について

学校の先生との会話の程度について（図2-94）、子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、

「よく話す」と回答した人が3割半程度（34.9%、35.4%）、「あまり話さない」と回答した人が6割強であった（62.4%、63.2%）。

図2-94 学校の先生とよく話すか



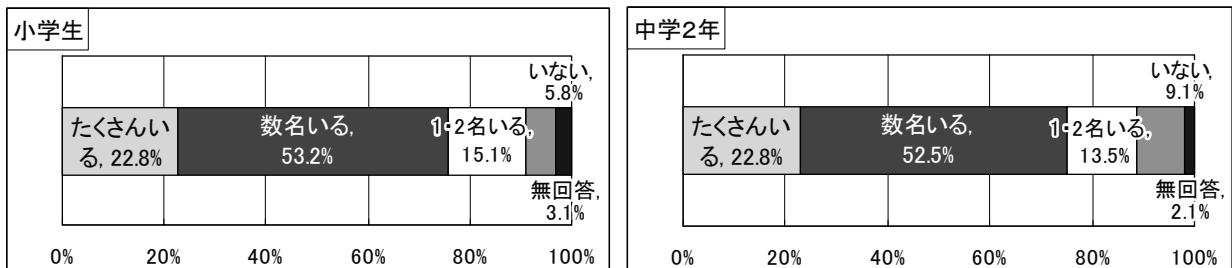
次に、家族や親族以外に、ふだん世間話をしたり、子どもの話をしたりする相手について尋ねた（図2-95）。

子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、「たくさんいる」が2割強（ともに22.8%）、「数名いる」が5割強（53.2%、52.5%）、「1・

2名いる」が1割半程度（15.1%、13.5%）であった。

話す相手が「いない」と回答した人は、子どもが小学生の世帯で5.8%、中学2年生の世帯で9.1%であった。

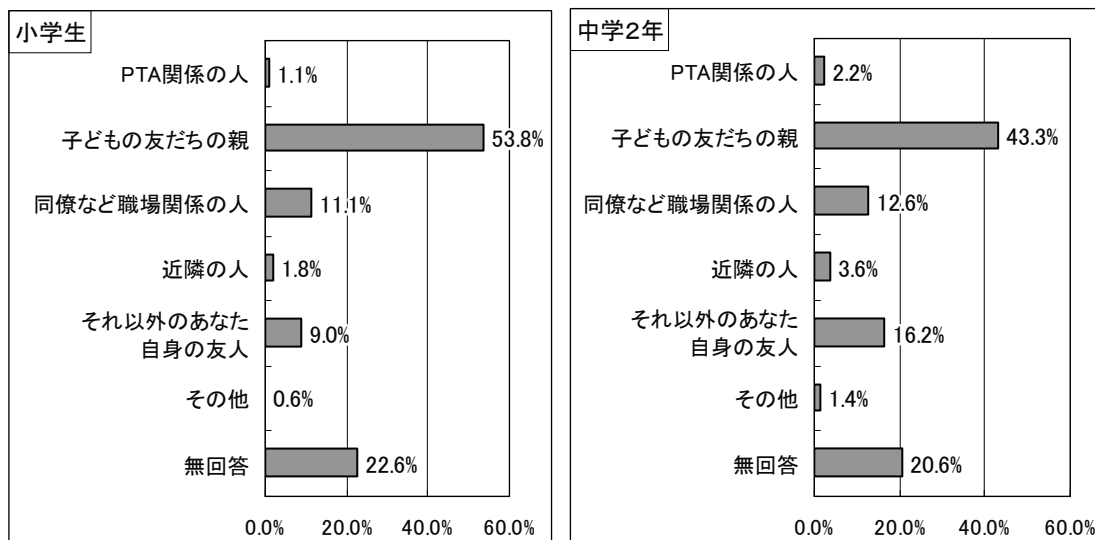
図2-95 話し相手



その話し相手はだれかについて尋ねた（図2-96）。子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯ともに、「子どもの友達の親」が最も多く、それぞれ53.8%、43.3%を占めた。そのほか、子どもが小学生の世帯では、「同僚など職場関係の人」が

11.1%、「あなた自身の友人」が9.0%であった。子どもが中学2年生の世帯では、「あなた自身の友人」が16.2%、「同僚など職場関係の人」が12.6%となっている。

図2-96 話し相手はだれか

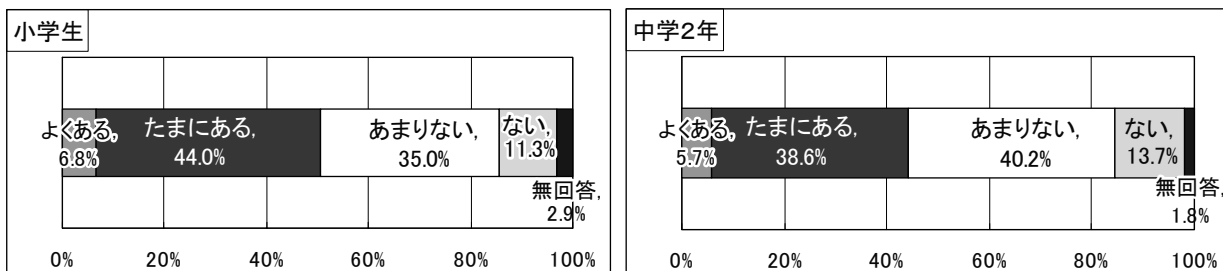


(8) 他の子どもとの比較について

自分の子どもを、他の家の子どもと比較して気になることがあるかどうかについて尋ねた（図2-97）。子どもが小学生の世帯では、「たまにある」が44.0%で最も高く、次いで「あまりない」が35.0%で最も高く、次いで「あまりない」

が35.0%、「ない」が11.3%、「よくある」が6.8%であった。子どもが中学2年生の世帯では、「あまりない」が40.2%で最も高く、次いで「たまにある」が38.6%、「ない」が13.7%、「よくある」が5.7%であった。

図2-97 他の子どもとの比較



(9) 子どものことで相談する相手

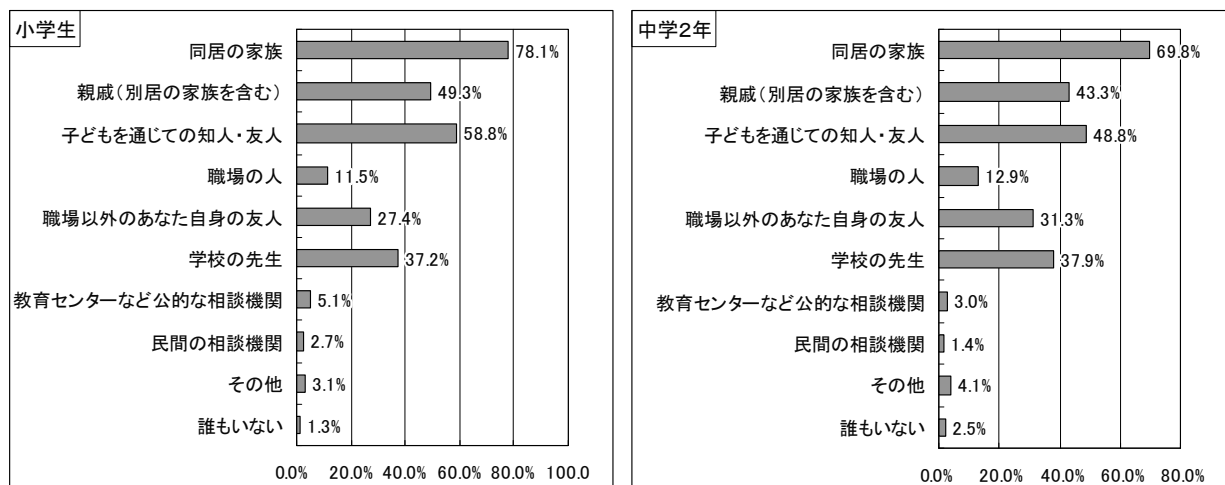
子どものことで困ったときに相談する相手について、複数回答で尋ねた（図2-98）。子どもが小学生の世帯、中学2年生の世帯のどちらも、傾向は大きく変わらなかった。

子どもが小学生の世帯では、「同居の家族」が78.1%と最も高く、次いで「子どもを通じての知人・友人」が58.8%、「親戚（別居の家族を含む）」

が49.3%、「学校の先生」が37.2%、「職場以外のあなた自身の友人」が27.4%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、最も高い割合を占めたのは「同居の家族」で69.8%であった。次いで「子どもを通じての知人・友人」が48.8%、「親戚（別居の家族を含む）」が43.3%、「学校の先生」が37.9%で「職場以外のあなた自身の友人」が31.3%であった。

図2-98 子どものことでの相談相手（複数回答）



D 小学4年生・中学2年生本人に対するアンケート 基本集計結果

1 基本属性（家庭の状況）

本人の回答に先立って、保護者に対し、住んでいる地域や住宅の種類など家庭の状況について尋ねた。

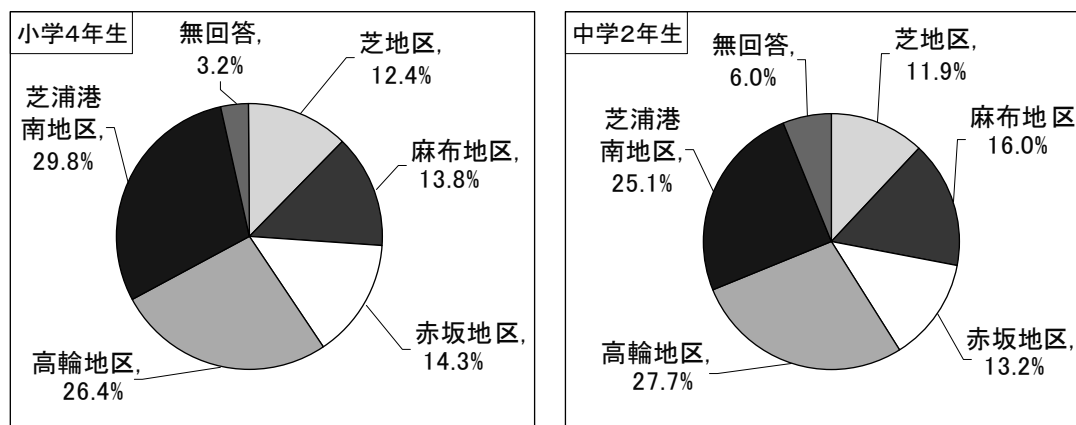
(1) 居住している地域

居住している地域について尋ね、それを5総合

支所別に区分して集計したものが図2-99である。

回答者が小学4年生の世帯は、「芝地区」が12.4%、「麻布地区」が13.8%、「赤坂地区」が14.3%、「高輪地区」が26.4%、「芝浦港南地区」が29.8%であった。回答者が中学2年生の世帯では、「芝地区」が11.9%、「麻布地区」が16.0%、「赤坂地区」が13.2%、「高輪地区」が27.7%、「芝浦港南地区」が25.1%であった。

図2-99 居住地区



調査対象者の地区別割合は表2-41・表2-42のとおりである。このことから、今回のアンケートの回答者は、子どもが小学4年生の世帯は「芝浦港

南地区」が、子どもが中学2年生の世帯は「高輪地区」が最も割合が高いことがわかる。

表2-41 【小学生】調査対象者数と調査回答者数および回収率

地区	調査対象者【総数】		調査対象者【抽出】		調査回答者		回収率
	度数	%	度数	%	度数	%	
芝地区	180	11.3%	180	11.3%	77	12.8%	42.8%
麻布地区	376	23.5%	376	23.5%	86	14.3%	22.9%
赤坂地区	242	15.1%	242	15.1%	89	14.8%	36.8%
高輪地区	384	24.0%	384	24.0%	164	27.3%	42.7%
芝浦港南地区	417	26.1%	417	26.1%	185	30.8%	44.4%
合計	1,599	100.0%	1,599	100.0%	601	100.0%	37.6%

※調査回答者の構成割合からは、無回答者を除いている。

表2-42 【中学2年】調査対象者数と調査回答者数および回収率

地区	調査対象者【総数】		調査対象者【抽出】		調査回答者		回収率
	度数	%	度数	%	度数	%	
芝地区	151	10.7%	151	10.7%	63	12.7%	41.7%
麻布地区	328	23.3%	328	23.3%	85	17.1%	25.9%
赤坂地区	219	15.5%	219	15.5%	70	14.1%	32.0%
高輪地区	389	27.6%	389	27.6%	147	29.5%	37.8%
芝浦港南地区	323	22.9%	323	22.9%	133	26.7%	41.2%
合計	1,410	100.0%	1,410	100.0%	498	100.0%	35.3%

※調査回答者の構成割合からは、無回答者を除いている。

## (2) 居住年数

世帯の居住年数については(表2-43)、子どもが小学4年生の世帯では、「10年」の割合が最も高く12.1%、次いで「1年」が10.3%であった。子どもが中学2年生の世帯では「1年」の割合が最も高く、11.9%であった。

子どもが小学4年生の世帯の場合、現住所に居住している年数が5年以下の世帯が38.3%、6年以上10年以下の世帯も38.3%であった。居住年数が10年以下の世帯が全体の7割半程度を占めている。

子どもが中学2年生の世帯の場合、現住所に居住している年数が5年以下の世帯は31.3%、6年以上10年以下の世帯が29.1%、11年以上15年以下の世帯が20.5%であった。居住年数が10年以下の世帯が全体の6割を占めている。

表2-43 居住年数

年数	小学4年生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
1年	64	10.3%	63	11.9%
2年	41	6.6%	23	4.3%
3年	44	7.1%	30	5.7%
4年	41	6.6%	18	3.4%
5年	48	7.7%	32	6.0%
6年	57	9.2%	28	5.3%
7年	53	8.5%	39	7.4%
8年	26	4.2%	28	5.3%
9年	27	4.3%	16	3.0%
10年	75	12.1%	43	8.1%
11年	11	1.8%	13	2.5%
12年	31	5.0%	13	2.5%
13年	16	2.6%	28	5.3%
14年	9	1.4%	25	4.7%
15年	20	3.2%	29	5.5%
16年	4	0.6%	11	2.1%
17年	3	0.5%	12	2.3%
18年	1	0.2%	5	0.9%
20年	5	0.8%	1	0.2%
21年以上	22	3.5%	40	7.5%
無回答	23	3.7%	33	6.2%
合計	621	100.0%	530	100.0%



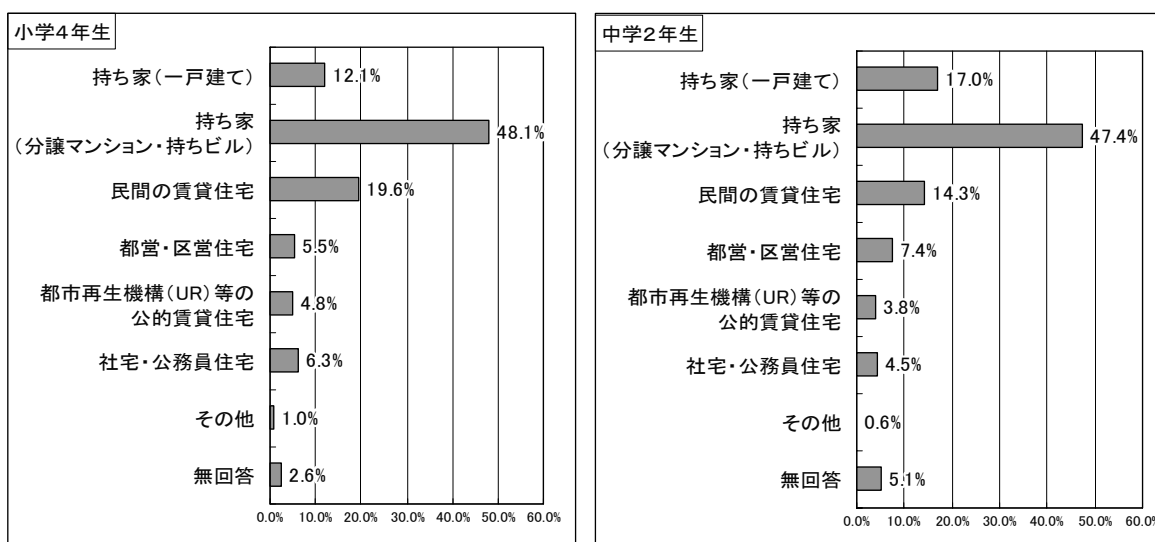
### (3) 住宅の種類

住宅の種類については（図2-100）、子どもが小学4年生の世帯では、「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」が最も多く48.1%を占めた。次いで「民間の賃貸住宅」が19.6%、「持ち家（一戸建て）」が12.1%、「社宅・公務員住宅」が6.3%であった。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」を合わせて、60.2%が持ち家に住んでいる。ほか、「都営・区営住宅」は5.5%、「都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅」は4.8%、「都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅」は4.8%であった。

」は4.8%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」が最も多く47.4%であった。次いで「持ち家（一戸建て）」が17.0%、「民間の賃貸住宅」が14.3%、「都営・区営住宅」が7.4%であった。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション・持ちビル）」を合わせて、64.4%が持ち家に住んでいる。ほか、「社宅・公務員住宅」は4.5%、「都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅」は3.8%であった。

図2-100 住宅の種類



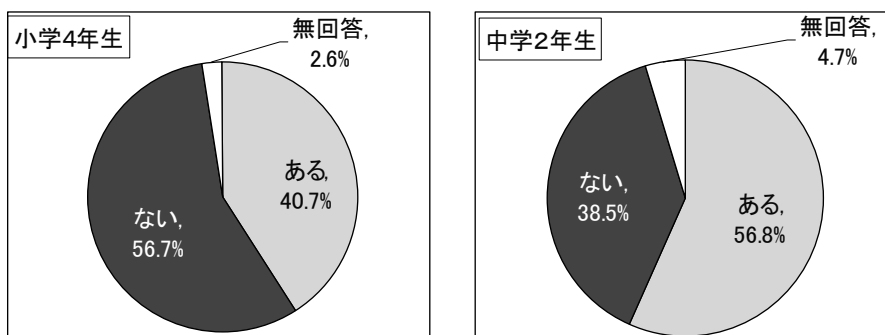
### (4) 子ども専用の部屋の有無

回答者である子ども本人専用の部屋があるか尋ねた（図2-101）。

子どもが小学4年生の世帯では、「ある」と回答した世帯が40.7%、「ない」と回答した世帯が56.7%であった。

子どもが中学2年生の世帯では、「ある」と回答した世帯が56.8%、「ない」と回答した世帯が38.5%であった。子どもが中学2年生の世帯の方が、子ども専用の部屋が「ある」と回答する世帯が多いことがわかる。

図2-101 子ども専用の部屋の有無



### (5) 家族構成

同居している家族は（表2-44）、子どもが小学4年生の世帯では、「父母と子」の構成が最も多く、80.5%を占めた。ほか、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯が6.0%、「父と子」の世帯が0.6%、「母と子」の世帯が7.1%であった。

子どもが中学2年生の世帯でも、「父母と子」の構成が最も多かったが、その割合は70.9%で、子どもが小学生の世帯に比べて低い割合を示した。「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯は9.2%で、子どもが小学生の世帯よりも割合が高くなっている。ほか、「父と子」の世帯が0.6%、「母と子」の世帯は10.4%であった。

なお、どちらの世帯も、「父と子」や「母と子」等の世帯には、父または母が単身赴任等の理由で現在同居していない家族も含まれている。

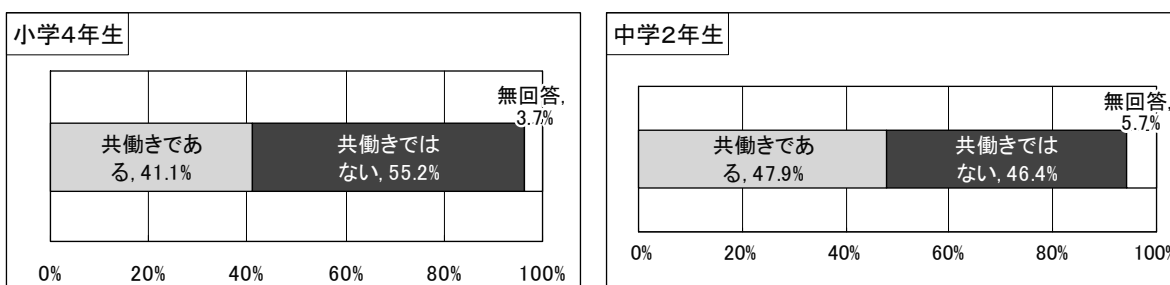
表2-44 家族構成

	小学4年生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
父母+子	500	80.5%	376	70.9%
父母+子+祖父・祖母	37	6.0%	49	9.2%
父+子	4	0.6%	3	0.6%
父+子+祖父・祖母	2	0.3%	1	0.2%
母+子	44	7.1%	55	10.4%
母+子+祖父・祖母	15	2.4%	13	2.5%
その他	5	0.8%	7	1.3%
無回答	14	2.3%	26	4.9%
合計	621	100.0%	530	100.0%

### (6) 共働きの有無と生計中心者の職業

共働きの有無については（図2-102）、子どもが小学生の世帯では41.1%、子どもが中学2年生の世帯では47.9%が「共働きである」と回答している。

図2-102 共働きの有無



おもに生計を支えている人の職業については（表2-45）、子どもが小学4年生の世帯、中学2年生の世帯どちらも「民間企業の常勤的勤務者」が最も多く、それぞれ57.8%、47.0%を占めた。次いで「自営業・会社経営」がそれぞれ25.8%、29.2%であった。

表2-45 主に生計を支えている方の職業

	小学4年生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
自営業・会社経営	160	25.8%	155	29.2%
公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者	42	6.8%	36	6.8%
民間企業の常勤的勤務者	359	57.8%	249	47.0%
臨時・パートなどの勤務者	19	3.1%	33	6.2%
その他の職業	15	2.4%	17	3.2%
就労していない	5	0.8%	9	1.7%
無回答	21	3.4%	31	5.8%
合計	621	100.0%	530	100.0%

## 2 回答者について

これ以降は、子ども本人の回答結果について見ていく。

### (1) 性別について

性別については（表2-46）、小学4年生は「男子」が48.1%、「女子」が51.9%であった。中学2年生は「男子」が50.8%、「女子」が49.2%であった。性別は、どちらも、ほぼ半分ずつに分かれた。

### (2) きょうだいの有無について

きょうだいの有無については（表2-47）、小学4年生の場合、「いる」と回答した人が72.9%、「いない」と回答した人が26.7%であった。中学

2年生の場合、「いる」と回答した人が74.0%、「いない」と回答した人が25.8%であった。

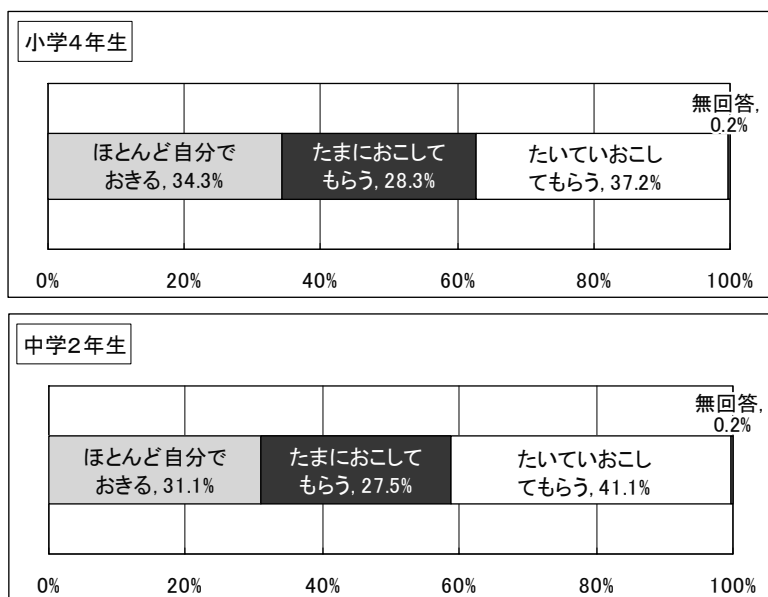
### (3) ふだんの生活の様子

起床については、小学4年生・中学2年生ともに「たいてい起こしてもらおう」が最も多く、それぞれ37.2%、41.1%を占めた（図2-103）。「ほとんど自分で起きる」はそれぞれ34.3%、31.1%であった。

朝の食欲について、小学4年生の66.0%、中学2年生の66.8%が「毎日ある」と回答した（表2-48）。

学校を休みたいと思うことがあるかについては、小学4年生の60.2%、中学2年生の59.6%が「ほとんどない」と回答した（表2-49）。

図2-103 朝自分で起きるか



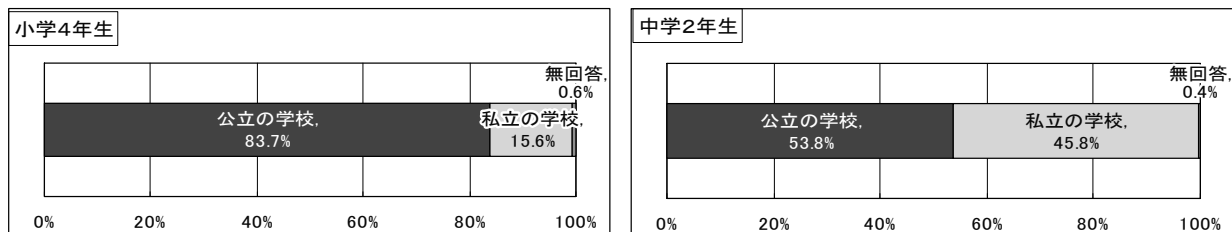
## 3 学校でのことについて

### (1) 通っている学校の種類

通っている学校の種類については（図2-104）、小学4年生の場合、「公立の学校」が83.7%、「私

立の学校」が15.6%であった。一方、中学2年生の場合には、「公立の学校」は53.8%、「私立の学校」は45.8%で、私立の学校に通う子どもの割合が高くなっている。

図2-104 通っている学校の種類



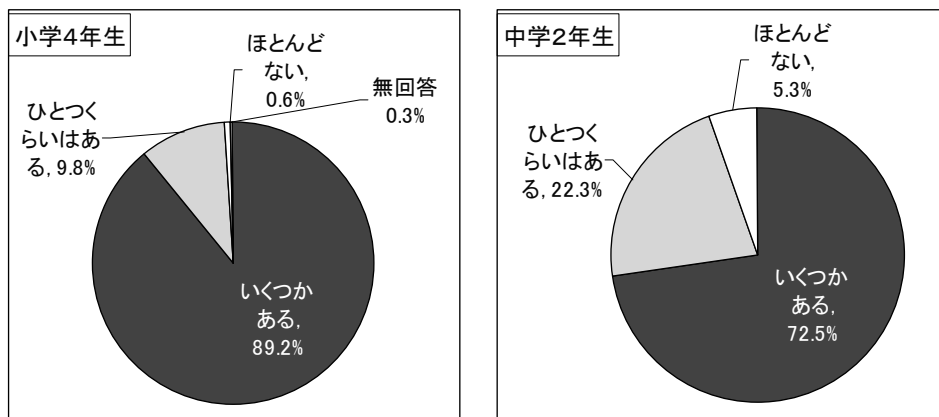
(2) 授業・スポーツについて

授業で好きな科目の有無を尋ねた (図2-105)。

小学4年生の場合、「いくつかある」と回答した人が89.2%、「ひとつくらいはある」と回答した人が9.8%であった。「ほとんどない」と回答した人はわずか0.6%であった。

中学2年生の場合、「いくつかある」と回答した人は72.5%で小学4年生に比べて低くなり、「ひとつくらいはある」と回答した人は22.3%を占めた。「ほとんどない」と回答した人は5.3%であった。

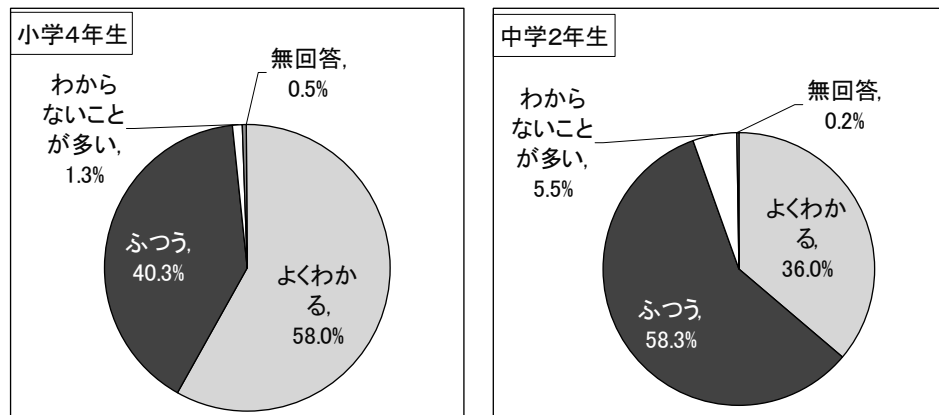
図2-105 好きな科目について



授業の内容については (図2-106)、小学4年生は「よくわかる」と回答した人が58.0%、「ふつう」と回答した人が40.3%で、「わからないことが多い」と回答した人はわずか1.3%であった。

中学2年生の場合、「よくわかる」と回答した人は36.0%で小学4年生に比べて低くなり、「ふつう」と回答した人が58.3%を占めた。「わからないことが多い」と回答した人は5.5%であった。

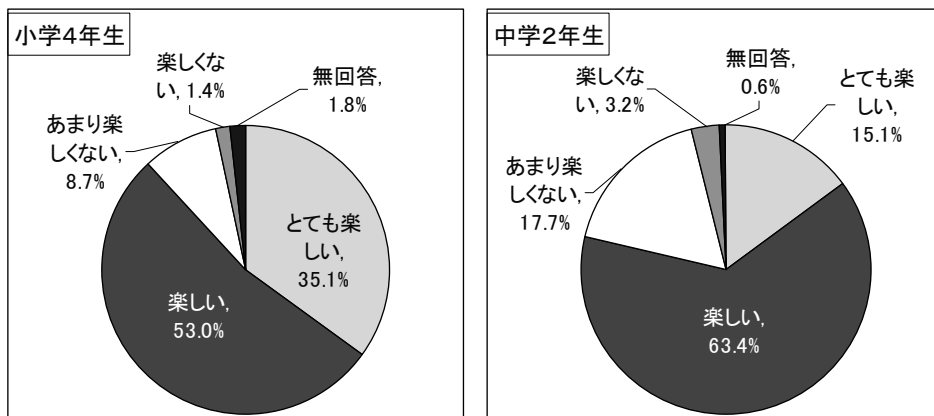
図2-106 授業内容の理解



ふだん受けている授業が楽しいかについては(図2-107)、小学4年生の場合は、「とても楽しい」と回答した人が35.1%、「楽しい」と回答した人が53.0%、「あまり楽しくない」と回答した人が8.7%、「楽しくない」と回答した人が1.4%であった。

中学2年生の場合には、「とても楽しい」と回答した人の割合は15.1%と低くなり、「楽しい」が63.4%と高くなっている。ほか、「あまり楽しくない」が17.7%、「楽しくない」が3.2%で、いずれも小学4年生に比べると、割合が高くなっていることがわかる。

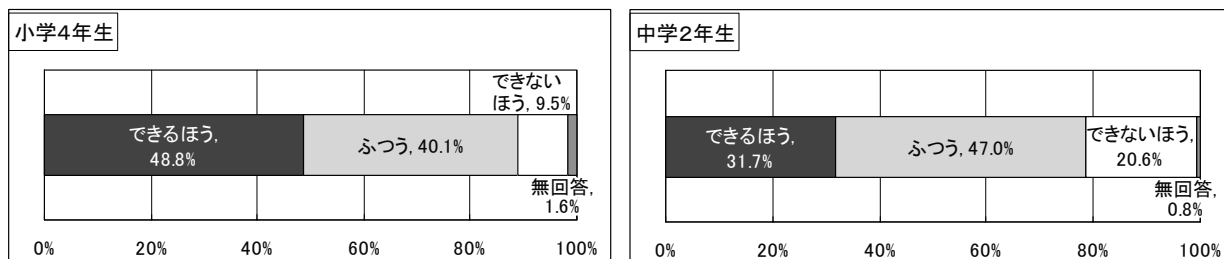
図2-107 授業は楽しいか



スポーツができるほうだと思うかという問いに対しては(図2-108)、小学4年生の48.8%が「できるほう」と回答し、「ふつう」は40.1%、「できないほう」は9.5%であった。中学2年生の場合、「できるほう」と回答した人の割合は31.7%、「ふ

つう」が47.0%で、「できないほう」と回答した人が20.6%であった。小学4年生に比べて、中学2年生のほうが、スポーツが「できないほう」と回答する人の割合が高くなっていることがわかる。

図2-108 スポーツはできるか



(3) 部活動について(中学2年生のみ)

中学2年生にのみ、部活動について尋ねた。

部活動への参加については(図2-109)、90.6%(480人)が「参加している」と回答した。

部活動に参加している人に対し、部活動が楽

しいか尋ねた(図2-110)。「とても楽しい」と回答した人が最も多く、54.6%と半分以上を占めた。「楽しい」は36.9%で、両者を合わせて9割以上の人が部活動は楽しいと回答している。

図2-109 部活動への参加有無

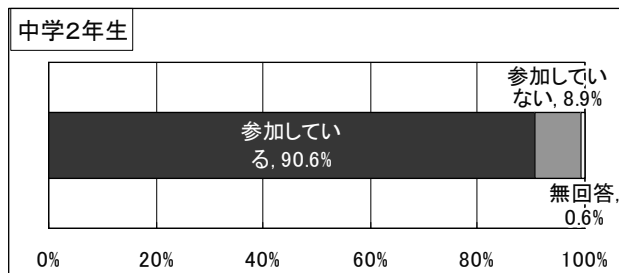
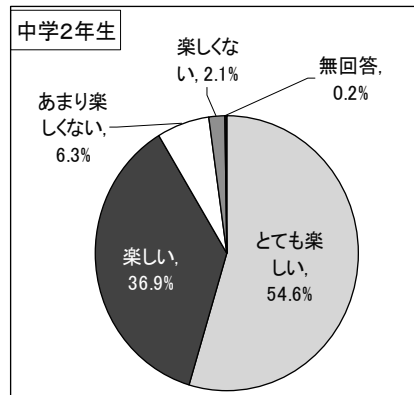


図2-110 部活動は楽しいか



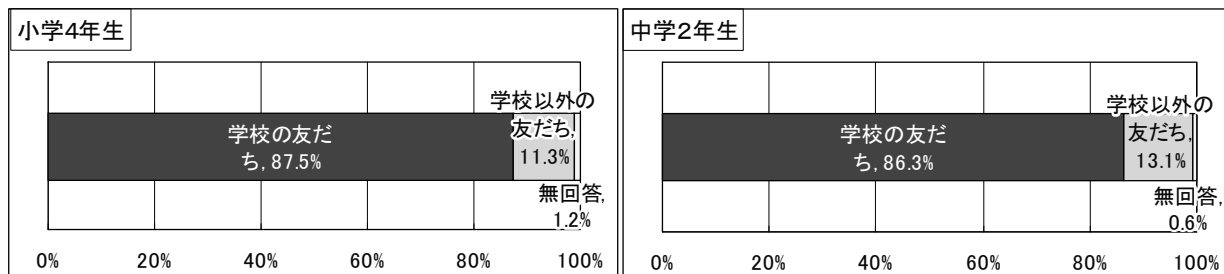
#### 4 友だちについて

##### (1) 信頼できる友だちについて

信頼できる友だちの有無について尋ねたところ、小学4年生、中学2年生ともに「いる」と回答した人が圧倒的に多く、それぞれ93.7%、93.6%を

占めた(表2-50)。その友だちは、「学校の友だち」だと回答した人は、小学4年生の87.5%、中学2年生の86.3%を占めた(図2-111)。ほとんどが学校の友だちであることがわかる。

図2-111 信頼できる友だちの種類



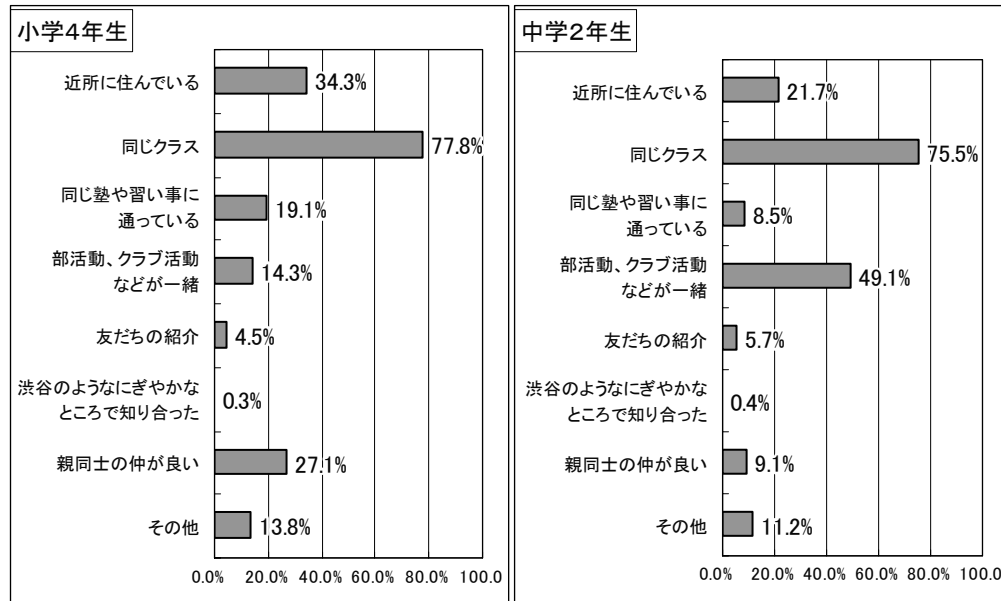
その友だちとどのように仲良くなったのかについて、複数回答で尋ねた(図2-112)。小学4年生、中学2年生ともに最も多かったのは「同じクラス」で、それぞれ77.8%、75.5%を占めた。

小学4年生の場合、その次に回答が多かったのは「近所に住んでいる」で34.3%、次いで「親同士の仲が良い」が27.1%、「同じ塾や習い事に通っている」が19.1%、「部活動、クラブ活動などが

一緒」が14.3%であった。

一方、中学2年生の場合には、「部活動、クラブ活動などが一緒」が49.1%と半分近くにのぼって高い割合を示した。ほか、「近所に住んでいる」が21.7%であった。小学4年生の場合には2割から3割弱程度だった「同じ塾や習い事に通っている」と「親同士の仲が良い」については、それぞれ8.5%、9.1%と1割に満たなかった。

図2-112 仲良くなったきっかけ（複数回答）

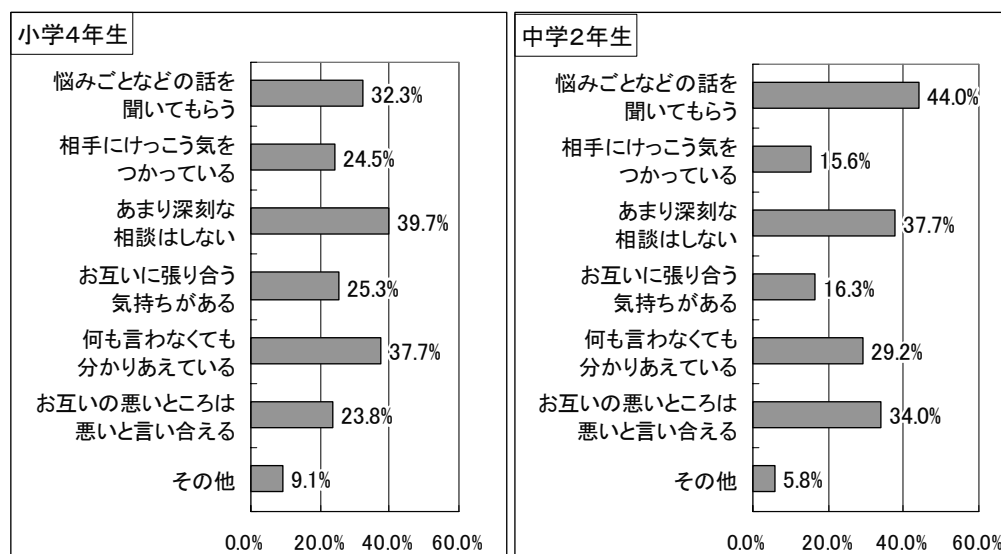


(2) 友だちとの関係について

友だちとはどのような関係なのかについて複数回答で尋ねた（図2-113）。小学4年生の場合には、「あまり深刻な相談はしない」が39.7%と最も高く、次いで「何も言わなくても分かり合えている」が37.7%、「悩みごとなどの話を聞いてもらう」が32.3%であった。ほか、「お互いに張り合う気持ちがある」が25.3%、「相手にけっこう気をつけている」が24.5%、「お互いの悪いところは悪いと言い合える」が23.8%であった。

中学2年生の場合には、「悩みごとなどの話を聞いてもらう」が44.0%と最も高かった。一方で「あまり深刻な相談はしない」が37.7%であった。ほか、「お互いの悪いところは悪いと言い合える」が34.0%、「何も言わなくても分かりあえている」が29.2%を占めた。「お互いに張り合う気持ちがある」は16.3%、「相手にけっこう気をつけている」は15.6%で、小学4年生の場合と比べて低くなっている。

図2-113 友だちとの関係（複数回答）



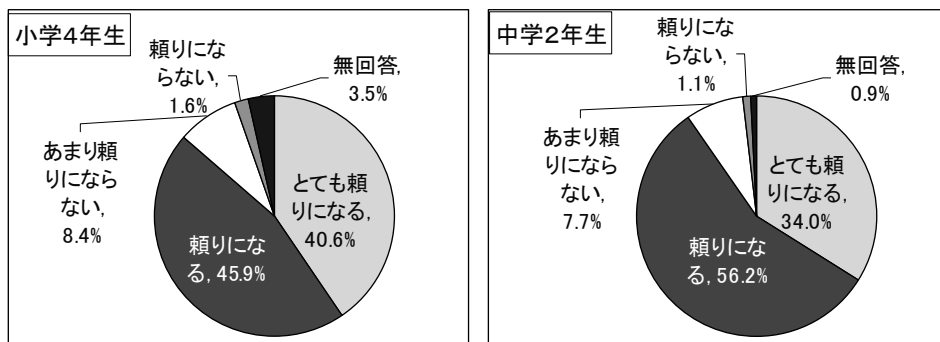
### (3) 友だちは頼りになるか

困ったときに友だちが頼りになるかについて尋ねた(図2-114)。小学4年生の場合、「頼りになる」が45.9%と最も高く、次いで「とても頼りになる」が40.6%、「あまり頼りにならない」が8.4%、「頼りにならない」は1.6%であった。「とても頼りになる」と「頼りになる」を合わせて、86.5%の人が、困ったときに友だちが頼りになると回答

している。

中学2年生の場合、「頼りになる」が56.2%と最も高く、次いで「とても頼りになる」が34.0%、「あまり頼りにならない」は7.7%、「頼りにならない」は1.1%であった。「とても頼りになる」と「頼りになる」を合わせて、90.2%の人が、困ったときに友だちが頼りになると回答している。

図2-114 友だちは頼りになるか



### (4) 友だちとの付き合いへの満足感

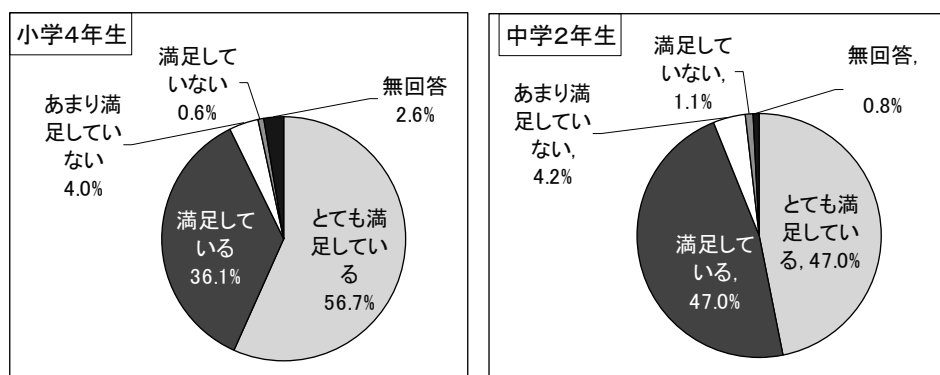
友だちとの付き合いにどのくらい満足しているか尋ねた(図2-115)。

小学4年生の場合、「とても満足している」が56.7%、「満足している」が36.1%、「あまり満足していない」が4.0%、「満足していない」が0.6%であった。「とても満足している」と「満足している」を合わせて、92.8%の人が友だちとの付き

合いに満足していると回答している。

中学2年生の場合、「とても満足している」と「満足している」がともに47.0%ずつを占め、「あまり満足していない」が4.2%、「満足していない」が1.1%であった。「とても満足している」と「満足している」を合わせて、94.0%の人が友だちとの付き合いに満足していると回答している。

図2-115 友だち付き合いへの満足



### (5) 友だちとの関係で困っていること

友だちとの関係で困っていることがあると回答した人の割合は、小学4年生では16.7%、中学2

年生では16.0%であった(表2-51)。

困っていることの内容について、複数回答で尋ねた(図2-116)。小学4年生は、「自分のする

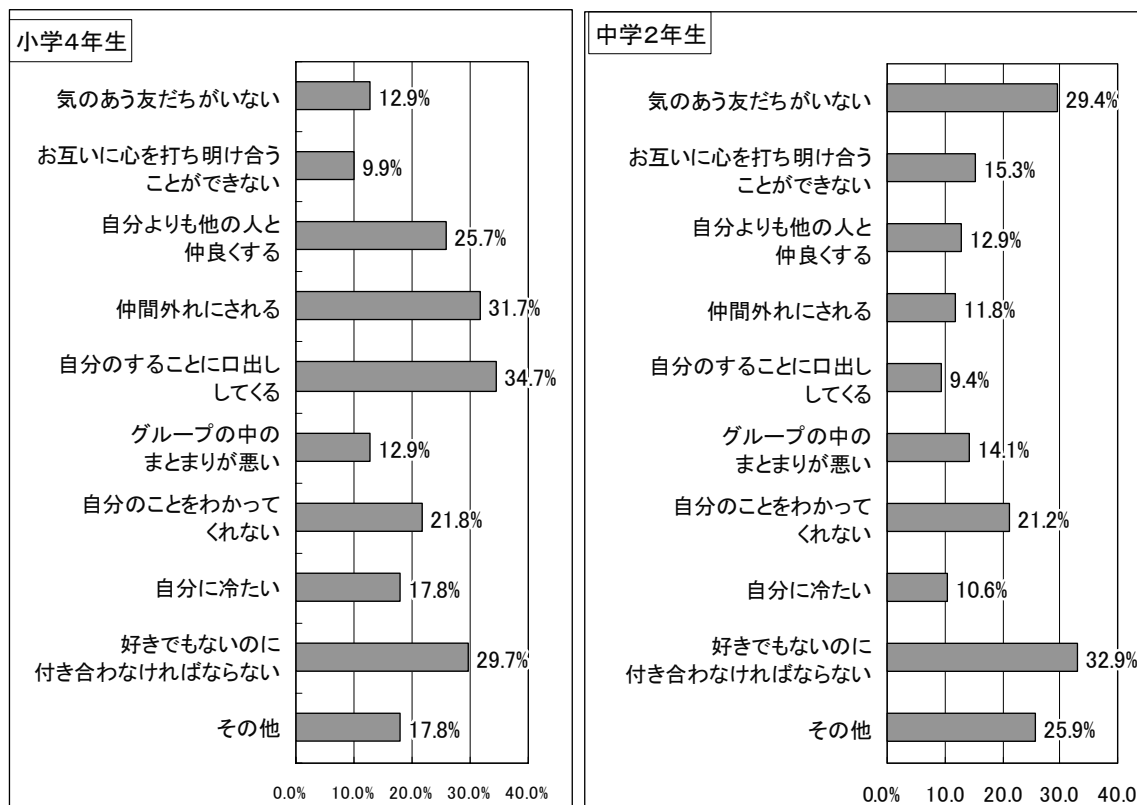


ことに口出ししてくる」が34.7%と最も高く、次いで「仲間外れにされる」が31.7%、「好きでもないのに付き合わなければならない」が29.7%、「自分よりも他の人と仲良くする」が25.7%、「自分のことをわかってくれない」が21.8%であった。

中学2年生の場合は、「好きでもないのに付き合わなければならない」が32.9%と最も高く、次いで「気のあう友だちがない」が29.4%であっ

た。ほか、「自分のことをわかってくれない」が21.2%、「お互いに心を打ち明け合うことができない」が15.3%、「グループの中のまとまりが悪い」が14.1%であった。小学4年生では回答の多かった「自分よりも他の人と仲良くする」(12.9%)や「仲間外れにされる」(11.8%)、「自分のことに口出ししてくる」(9.4%)については全体に少なくなった。

図2-116 友だち関係の困りごと（複数回答）



## 5 不安や心配、いじめについて

### (1) 不安や心配を感じていることがらついて

「授業や勉強・成績について」「先生との関係について」「異性について」「家族との関係について」「いじめについて」それぞれ不安や心配を感じているか尋ねた（図2-117）。

小学4年生の場合、「授業や勉強・成績について」不安や心配が「ある」と回答した人が28.0%で3割弱を占めた。「先生との関係について」は10.6%、「異性について」は9.7%、「家族との関係について」は8.5%の人が、不安や心配が「あ

る」と回答している。また、「いじめについて」不安や心配が「ある」と回答した人は13.8%であった。

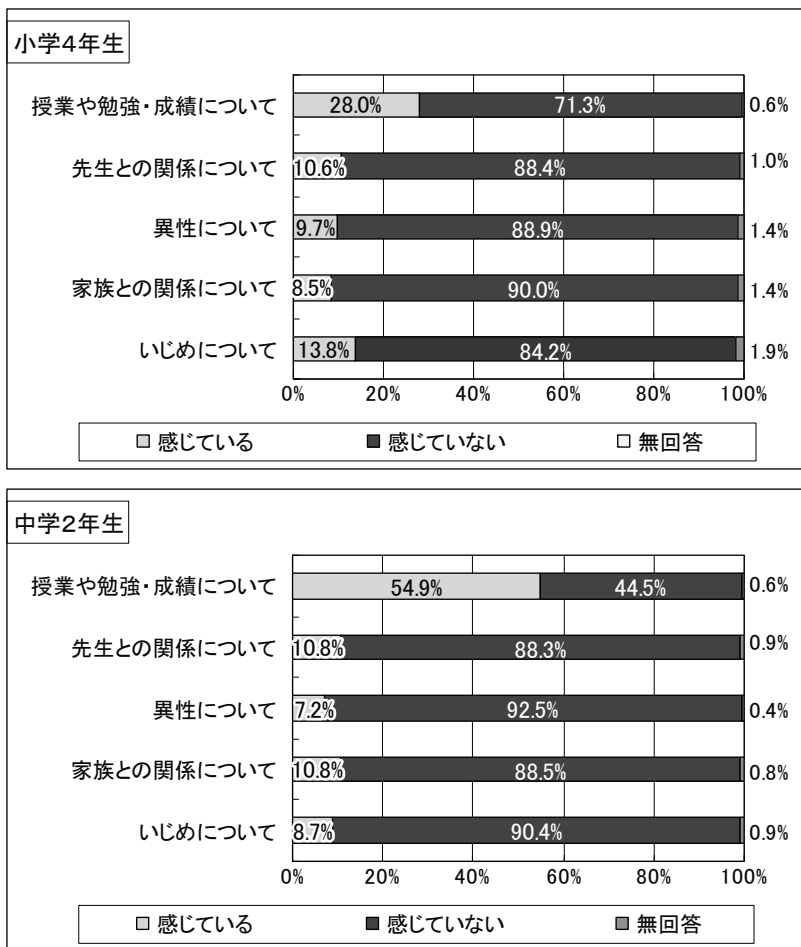
中学2年生の場合、「授業や勉強・成績について」不安や心配が「ある」と回答した人が54.9%と半分以上にのぼった。ほか、「先生との関係について」は10.8%、「異性について」は7.2%、「家族との関係について」は10.8%の人が、不安や心配が「ある」と回答しており、小学4年生とあまり変わらない割合であった。「いじめについて」不安や心配が「ある」と回答した人は8.7%で、

小学4年生に比べて低い割合であった。

次に、「いじめ」の目撃経験については（表2-52）、小学4年生の45.4%、中学2年生の46.8%がいじめを見たことが「ある」と回答した。

質問では、「あなたは「いじめ」を見たことがありますか」と尋ねており、これまでの数年間の学校生活の中での目撃経験を回答しているとも考えられる。

図2-117 不安や心配

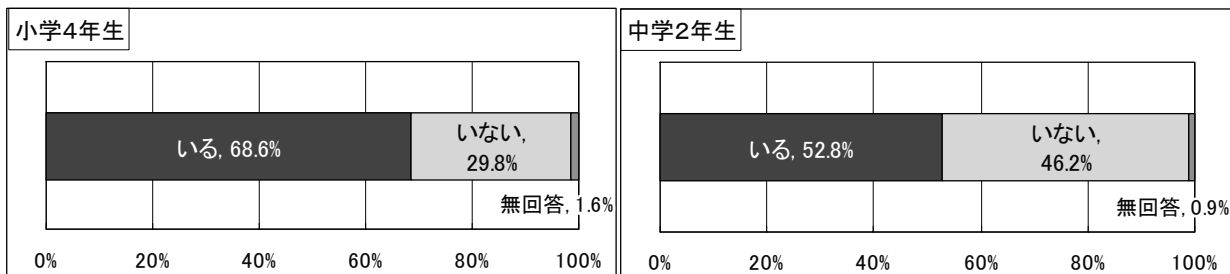


(2) 悩み・心配を話せる先生の有無

悩みごとや心配ごとを話せる先生の有無については（図2-118）、小学4年生の場合は68.6%が「いる」と回答し、「いない」と回答した人

は29.8%であった。一方、中学2年生の場合は、「いる」と回答した人は52.8%と低くなり、「いない」と回答した人の割合は46.2%にのぼった。

図2-118 悩み・心配を話せる先生の有無



## 6 放課後の生活について

### (1) 学校から帰ったあとの遊びについて

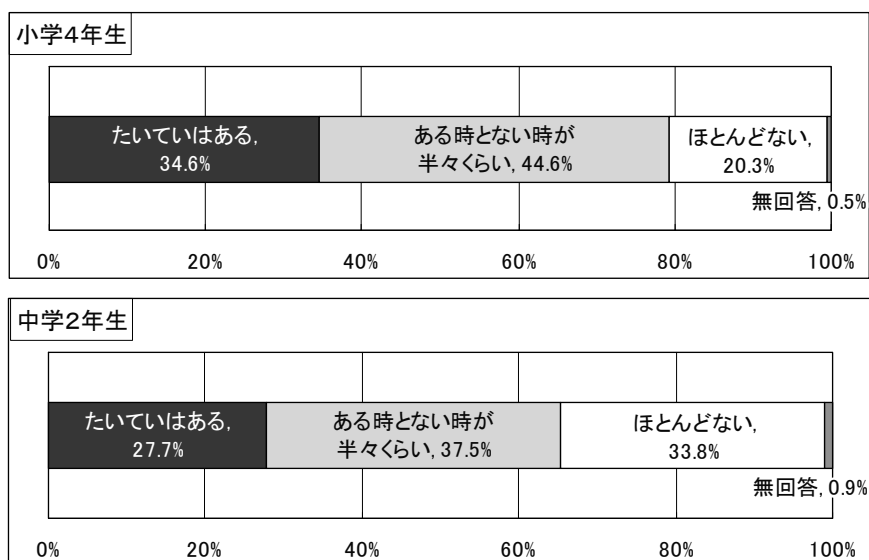
学校から帰ったあと夕食までの間に遊ぶ時間があるかどうか尋ねた (図2-119)。

小学4年生は、「たいていはある」が34.6%、

「ある時とない時が半々くらい」が44.6%、「ほとんどない」が20.3%であった。

中学2年生は、「たいていはある」が27.7%、「ある時とない時が半々くらい」が37.5%、「ほとんどない」が33.8%であった。

図2-119 学校から帰ったあとの遊び時間



### (2) 学校から帰ったあとの遊びについて

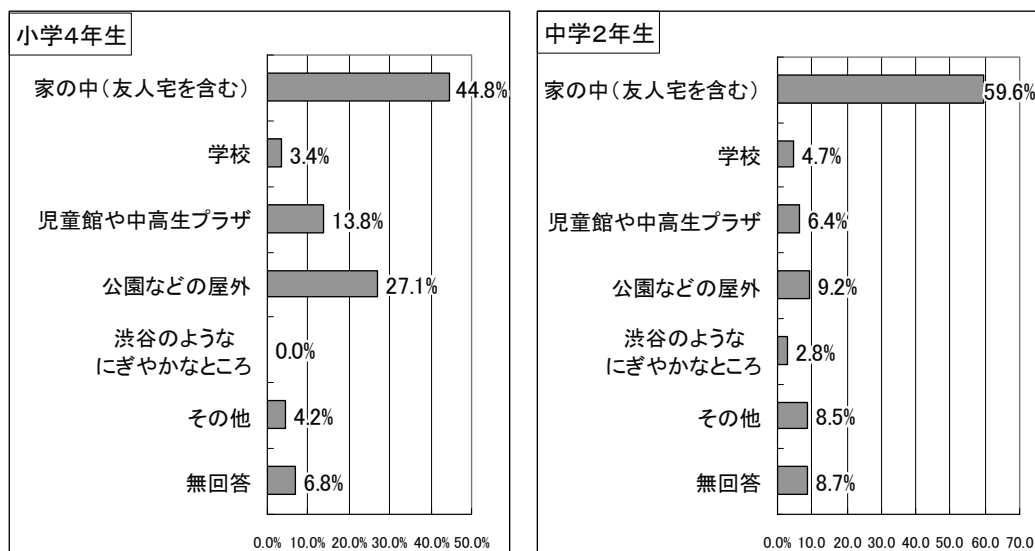
学校から帰ったあと、どこで遊ぶことが多いかと尋ねた (図2-120)。

小学4年生の場合、「家の中 (友人宅を含む)」が44.8%と最も高く、次いで「公園などの屋外」が27.1%、「児童館や中高生プラザ」が13.8%で

あった。

中学2年生の場合、「家の中 (友人宅を含む)」が突出して高く59.6%を占めた。そのほか、「公園などの屋外」は9.2%、「児童館や中高生プラザ」は6.4%であった。

図2-120 遊ぶ場所

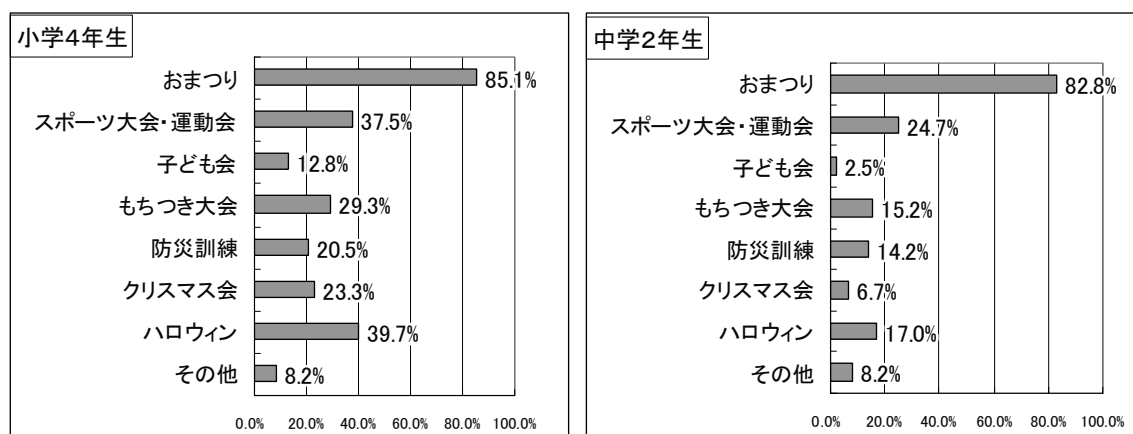


### (3) 地域の行事への参加

学校以外の地域の行事への参加について、複数回答で尋ねた(図2-121)。小学4年生の場合、「おまつり」が最も高く85.1%にのぼった。次いで「ハロウィン」が39.7%、「スポーツ大会・運動会」が37.5%、「もちつき大会」が29.3%、「防災訓練」が20.5%、「クリスマス会」が23.3%で

あった。中学2年生の場合も、同様に「おまつり」が最も高く82.8%であった。そのほかは全体に割合が低くなり、「スポーツ大会・運動会」が24.7%、「ハロウィン」が17.0%、「もちつき大会」が15.2%、「防災訓練」が14.2%であった。「クリスマス会」は6.7%であった。

図2-121 参加している地域の行事(複数回答)

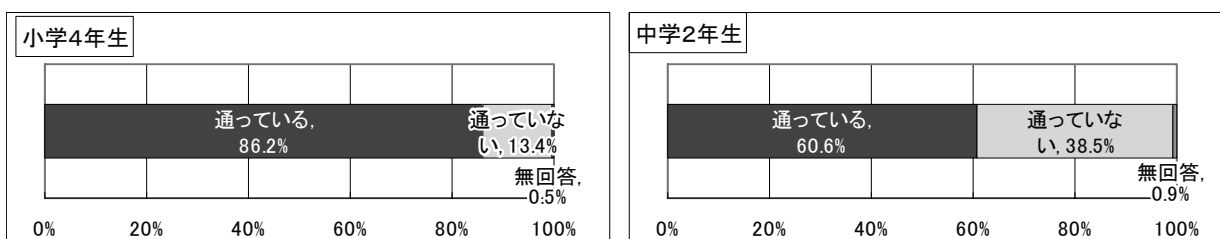


### (4) 学習塾や習いごとについて

学習塾や習いごとに通っている人の割合は、小学4年生では86.2%、中学2年生では60.6%で

あった(図2-122)。小学4年生の方が「通っている」と回答した人の割合が高いことがわかる。

図2-122 学習塾や習い事の有無

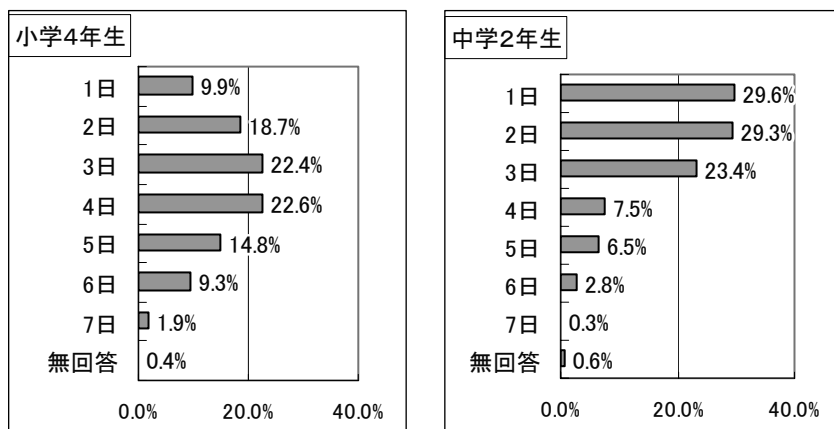


1週間のうち、学習塾や習い事に通う日数については(図2-123)、小学4年生の場合、「4日」が22.6%、「3日」が22.4%で並び、「2日」が18.7%、「5日」が14.8%であった。全体的には日数が分散している。

中学2年生の場合、「1日」が29.6%、「2日」が29.3%で、両者を合わせておよそ6割を占め、次いで「3日」が23.4%であった。

小学4年生より中学2年生の方が、学習塾や習い事に通う日数が多い傾向にあることがわかる。

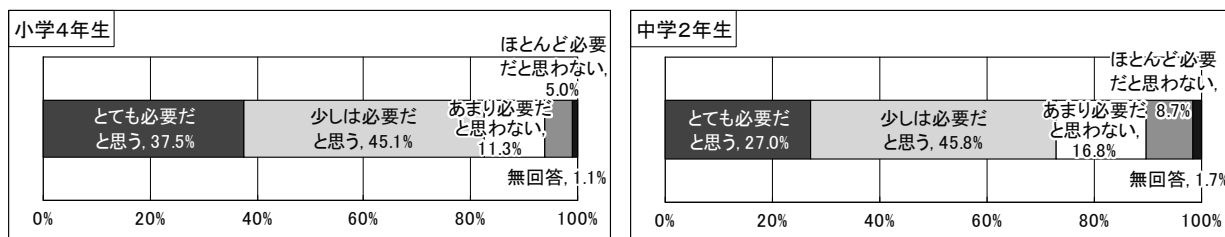
図2-123 1週間のうち塾・習いごとに通う日数



学習塾などでの勉強の必要性について尋ねた(図2-124)。小学4年生は、「少しは必要だと思う」が最も高く45.1%を占め、次いで「とても必要だと思う」が37.5%であった。両者をあわせて、82.6%の人が学習塾などでの勉強が必要だと思っていることがわかる。「あまり必要だと思わない」は11.3%、「ほとんど必要だと思わない」は5.0%であった。

中学2年生の場合、「少しは必要だと思う」は45.8%で、「とても必要だと思う」は27.0%であった。両者をあわせて学習塾などでの勉強が必要だと思っている人の割合は72.8%であり、小学4年生に比べて割合が少し低くなっている。「あまり必要だと思わない」は16.8%、「ほとんど必要だと思わない」は8.7%であった。

図2-124 学習塾などでの勉強の必要性

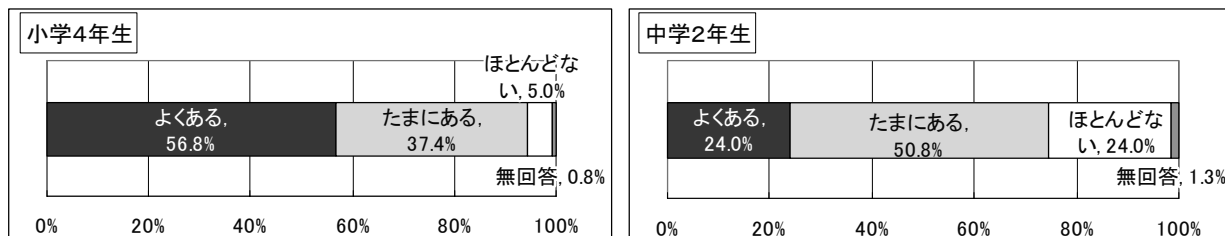


(5) 家族が勉強を見てくれるか

家族が勉強を見てくれる頻度について尋ねた(図2-125)。小学4年生の場合、「よくある」が56.8%、「たまにある」が37.4%、「ほとんどない」が5.0%であった。中学2年生の場合、「よくある」が24.0%と低くなり、「たまにある」が50.8%、「ほとんどない」が24.0%であった。中学2年生になると、家族が勉強を見る機会が少なくなる傾向にあることがわかる。

くある」が24.0%と低くなり、「たまにある」が50.8%、「ほとんどない」が24.0%であった。中学2年生になると、家族が勉強を見る機会が少なくなる傾向にあることがわかる。

図2-125 家族が勉強を見る頻度



(6) 希望する進学先

将来希望する進学先について尋ねた（表2-53）。

小学4年生、中学2年生ともに「大学」が最も多く、それぞれ61.0%、70.4%を占めた。

ほか、小学4年生は、「専門学校」が8.1%で、中学2年生の5.8%に比べてやや高く、「わからない」が21.6%で、中学2年生の16.2%に比べて高かった。

7 家庭での生活について

(1) 夕食の相手・1年間のレジャーについて

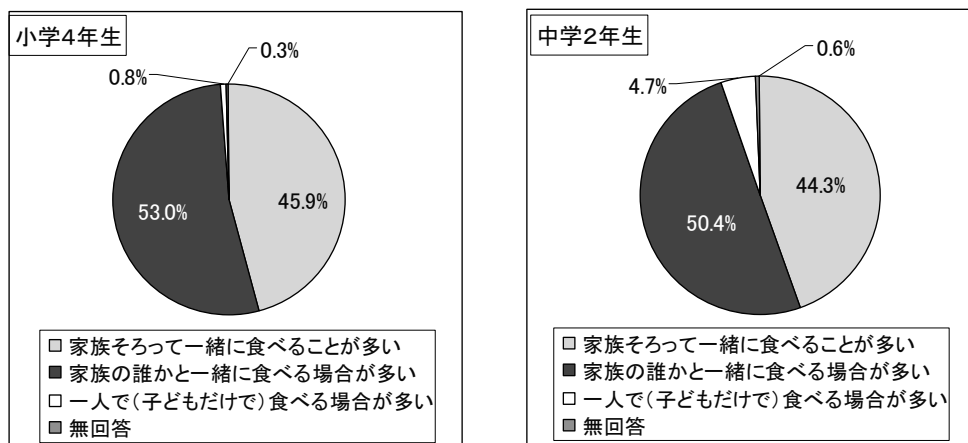
夕食を誰と食べているか尋ねた（図2-126）。小学4年生の場合、53.0%が「家族の誰かと一緒に食べる場合が多い」と回答し、次いで「家族そろって一緒に食べる場合が多い」が45.9%であった。

表2-53 将来の進学希望

	小学4年生		中学2年生	
	実数	%	実数	%
中学校	12	1.9%	2	0.4%
高校	29	4.7%	27	5.1%
専門学校（専門の技術を身に付ける学校）	50	8.1%	31	5.8%
短大（2年間の大学）	14	2.3%	8	1.5%
大学（4年間の大学）	379	61.0%	373	70.4%
わからない	134	21.6%	86	16.2%
無回答	3	0.5%	3	0.6%
合計	621	100.0%	530	100.0%

た。「一人で（子どもだけで）食べる場合が多い」はわずか0.8%であった。

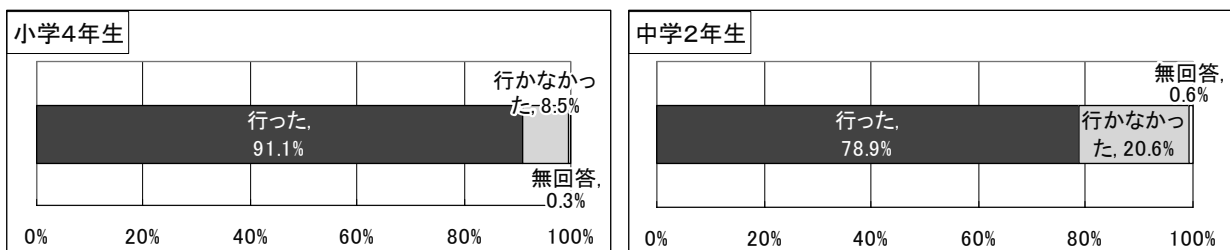
図2-126 夕食の相手



小学4年生の場合、「家族の誰かと一緒に食べる場合が多い」が53.0%、「家族そろって一緒に食べる場合が多い」が45.9%で、どちらも小学4年生に比べてやや低い割合であった。「一人で（子どもだけで）食べる場合が多い」はやや高く

なり4.7%であった。この1年間に旅行やキャンプに出かけたかについては（図2-127）、小学4年生は91.1%が、中学2年生は78.9%であった。

図2-127 この1年の旅行やキャンプ



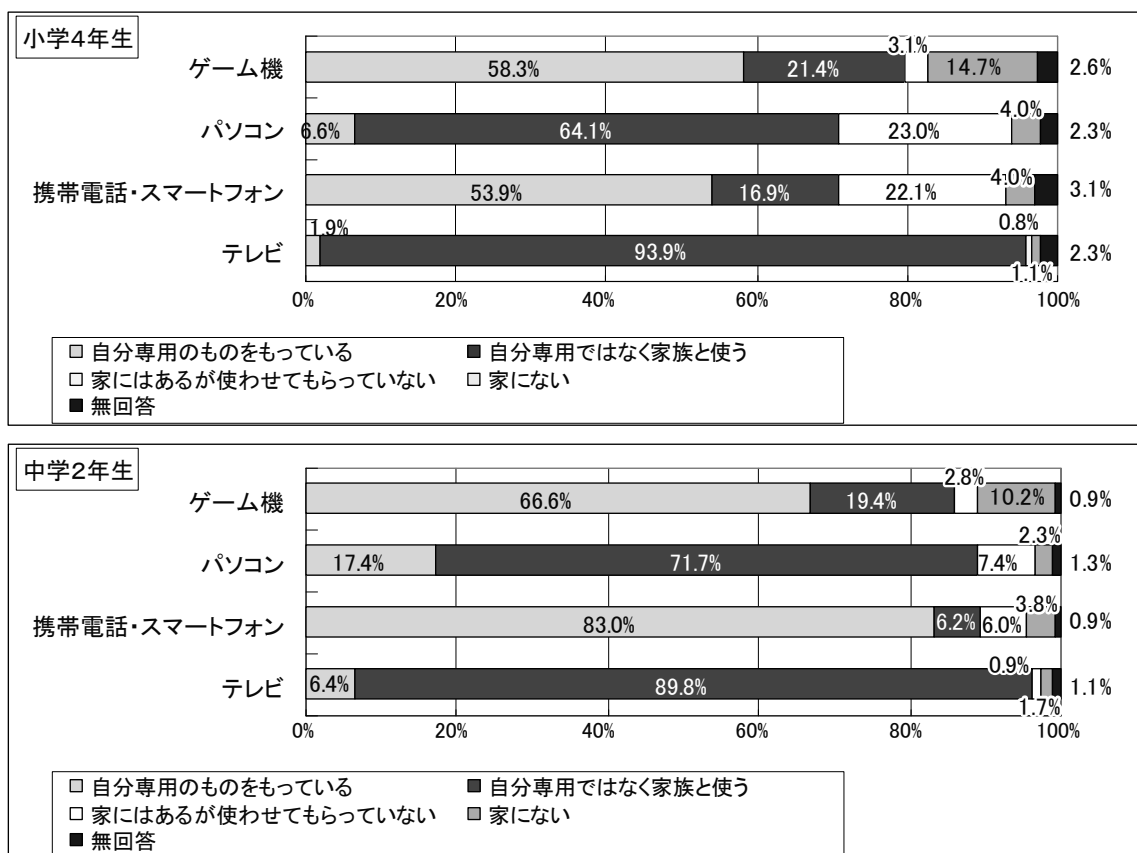
(2) ゲーム機・パソコン・携帯電話・テレビの所有や使用について

ゲーム機やパソコン、携帯電話・スマートフォン、テレビの所有について尋ねた(図2-128)。

小学4年生の場合、「ゲーム機」と「携帯電話・スマートフォン」は、「自分専用のもっている」と回答した人の割合が高く、それぞれ58.3%、53.9%を占めた。「パソコン」と「テレビ」は「自分専用ではなく家族と使う」と回答した人の割合が高く、それぞれ64.1%、93.9%であった。また、「パソコン」と「携帯電話・スマートフォン」は「家にはあるが使わせてもらっていない」と回答した人の割合が高く、それぞれ23.0%、22.1%であった。「ゲーム機」は、「家にはない」と回答した人の割合が他より高く、14.7%であった。

中学2年生の場合も、「ゲーム機」と「携帯電話・スマートフォン」は「自分専用のもっている」と回答した人の割合が高かった。さらに、その割合は小学4年生の場合に比べて高くなっており、「ゲーム機」は66.6%、「携帯電話・スマートフォン」は83.0%にのぼった。「パソコン」と「テレビ」についても、小学4年生の場合と同様に「自分専用ではなく家族と使う」が最も高く、それぞれ71.7%、89.8%を占めたが、「パソコン」については、「自分専用のもっている」と回答した人の割合が17.4%と、小学4年生に比べて高くなっている。また、「パソコン」と「携帯電話・スマートフォン」を「家にはあるが使わせてもらっていない」と回答した人の割合は、小学4年生に比べて大きく下がり、それぞれ7.4%、6.0%であった。

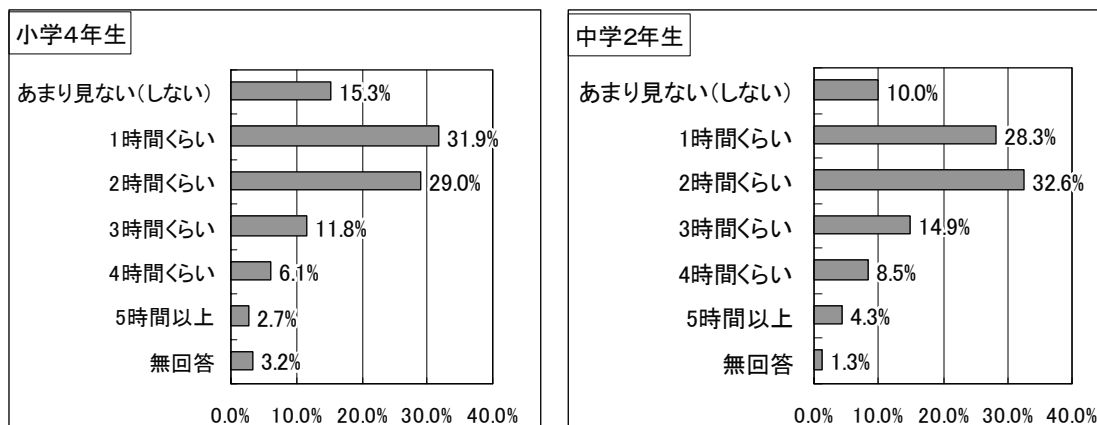
図2-128 ゲーム機等の所有



テレビやゲームを見る時間については（図2-129）、小学4年生は「1時間くらい」が31.9%と最も高く、次いで「2時間くらい」が29.0%、「あまり見ない（しない）」が15.3%であった。中

学2年生は、「2時間くらい」が32.6%と最も高く、次いで「1時間くらい」が28.3%、「3時間くらい」が14.9%となっている。

図2-129 テレビやゲームを見る（する）時間

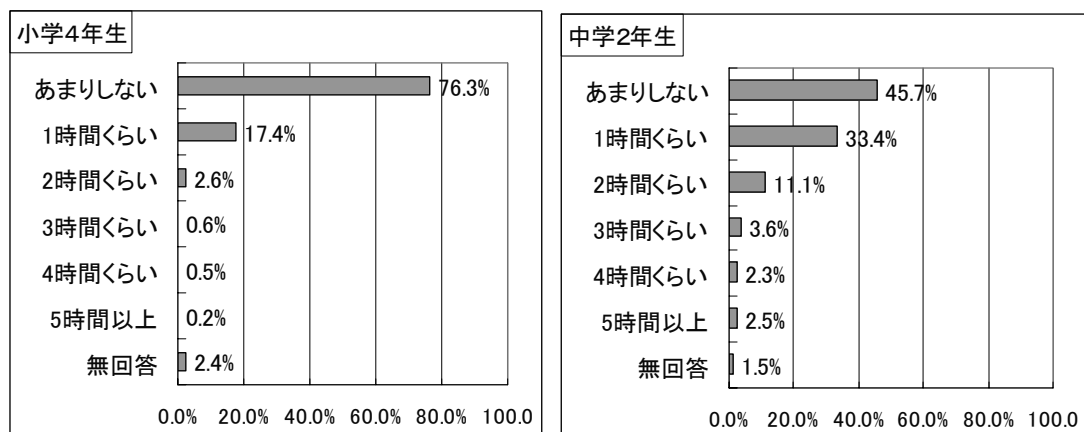


インターネットの利用について、勉強以外でのくらいの時間使っているかを尋ねた（図2-130）。

小学4年生は、「あまりしない」と回答した人の割合が圧倒的に高く、76.3%を占め、「1時間くらい」が17.4%であった。中学2年生の場合、割合としては「あまりしない」が最も高いも

の、小学4年生と比べて低く、45.7%であった。次いで「1時間くらい」が33.4%と3割強を占め、「2時間くらい」が11.1%であった。中学2年生の方が長い時間インターネットを使用していることがわかる。

図2-130 インターネットをする時間

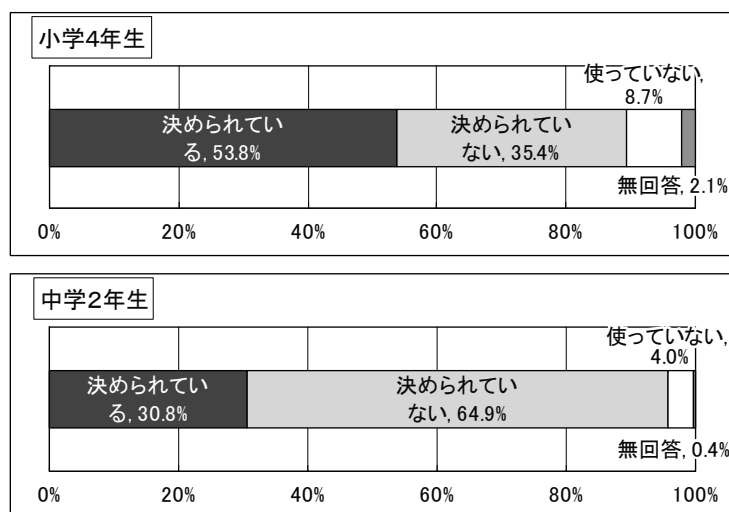


テレビやゲーム、インターネットなどの時間制限については（図2-131）、小学4年生は「決められている」が53.8%、「決められていない」が35.4%、「使っていない」が8.7%であった。中学

2年生の場合は、「決められている」が30.8%と低くなり、「決められていない」が64.9%と6割半にのぼった。「使っていない」は4.0%であった。



図2-131 テレビ・ゲーム・インターネットの時間制限

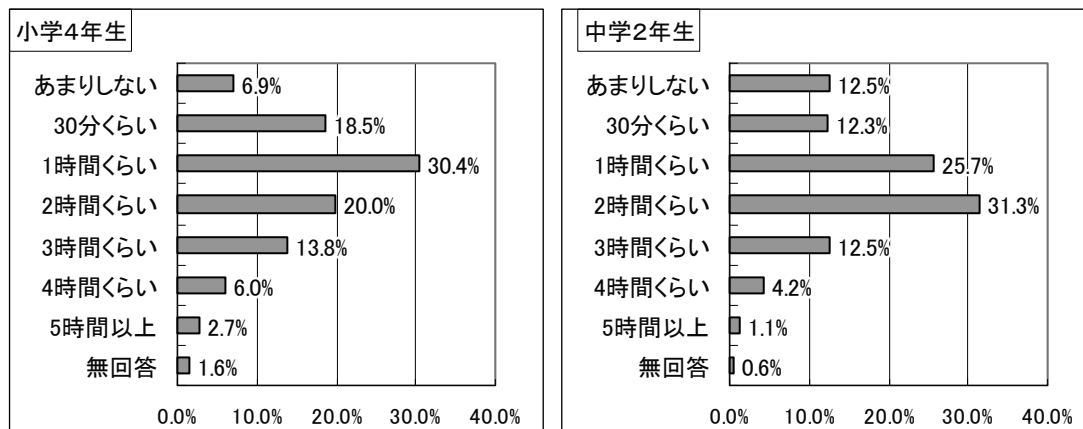


(3) 自宅や学習塾での勉強時間について

学校のある日に、自宅や学習塾でどのくらい勉強しているか尋ねた（図2-132）。小学4年生は、「1時間くらい」がと最も高く30.4%を占め、次いで「2時間くらい」が20.0%、「30分くらい」

が18.5%、「3時間くらい」が13.8%であった。中学2年生は、「2時間くらい」が最も高く31.3%を占め、次いで「1時間くらい」が25.7%であった。ほか、「あまりしない」と「3時間くらい」12.5%、「30分くらい」が12.3%であった。

図2-132 自宅・学習塾での勉強時間



(4) ふだん何をしている時が楽しいか

ふだん何をしている時が楽しいか、自由記述での回答を求め、それを分類したものが表2-54である。なお、集計にあたり、自由回答に複数の要素が入っている場合は、それぞれの項目で集計しているため、ケース数と回答者数は一致しない。また、件数が2に満たないものは掲載していない。

小学4年生の場合、最も多かったのは「遊んでいるとき」で54.6%であった。次いで「友達と

いるとき」が39.6%、「ゲーム・テレビを見ている（している）とき」が21.0%、「スポーツ（サッカーなど）をしているとき」が17.7%、「読書や勉強をしているとき」が14.7%、「家族といるとき」が13.2%であった。

中学2年生の場合、「友達といるとき」が最も多く32.9%、次いで「遊んでいるとき」が22.5%、「ゲーム・テレビを見ている（している）とき」が21.7%、「読書や勉強をしているとき」が

17.7%、「学校にいるとき」が16.8%、「スポーツ（サッカーなど）をしているとき」が14.7%であった。

表2-54 楽しいとき（自由回答・分類）

小学4年生 (n=538)		
項目	ケース数	%
遊んでいるとき	294	54.6%
友達といるとき	213	39.6%
ゲーム・テレビ	113	21.0%
スポーツをするとき	95	17.7%
読書・勉強	79	14.7%
家族と過ごす	71	13.2%
学校にいるとき	37	6.9%
食事・風呂・睡眠	29	5.4%
音楽	19	3.5%
おもちゃで遊ぶ	17	3.2%
ペットと遊ぶ	6	1.1%
中学2年生 (n=423)		
項目	ケース数	%
友達といるとき	139	32.9%
遊んでいるとき	95	22.5%
ゲーム・テレビ	92	21.7%
読書・勉強	75	17.7%
学校にいるとき	71	16.8%
スポーツをするとき	62	14.7%
音楽	39	9.2%
パソコン・ケータイ・インターネット	36	8.5%
食事・睡眠	31	7.3%
漫画を読む	21	5.0%
家族と過ごす	19	4.5%
ペットと遊ぶ	8	1.9%

### (5) 睡眠について

学校のある日の就寝時刻を尋ねた（図2-133）。小学4年生は、「10時ごろ」が最も多く47.3%、次いで「9時ごろ」が42.0%で、両者を合わせて89.3%の人が10時ごろまでに就寝していると回答した。「11時ごろ」は7.7%であった。

中学2年生の場合、最も割合が高かったのは「11時ごろ」で44.5%を占め、次いで「10時ごろ」が26.8%、「12時ごろ」が17.9%であった。全体的に就寝時刻は遅くなっており、「9時ごろ」に就寝している人はわずか4.0%で、「12時よりおそい」と回答した人は6.4%であった。

毎日よくねむっているかについては（図2-134）、小学4年生は「よくねむっている」が67.8%、「たまに寝不足になる」が27.9%、「寝不足が多い」は2.6%であった。中学2年生の場合、「よくねむっている」が47.5%、「たまに寝不足になる」が43.6%、「寝不足が多い」は8.5%であった。

図2-133 学校のある日の就寝時刻

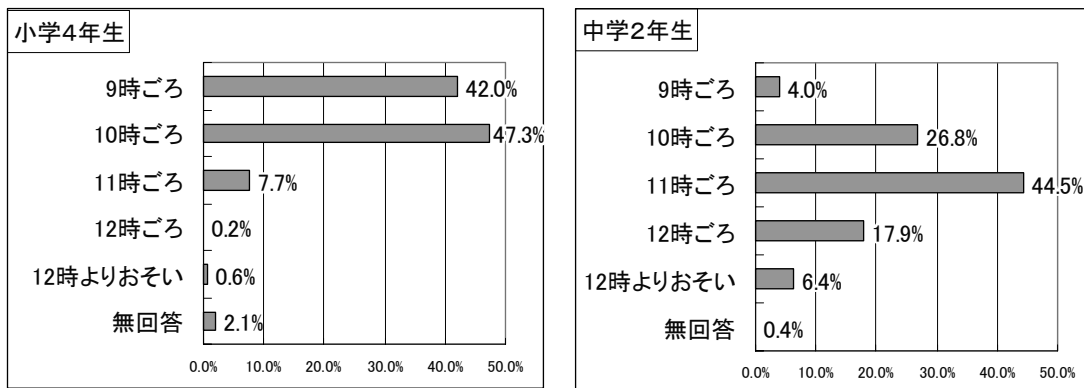
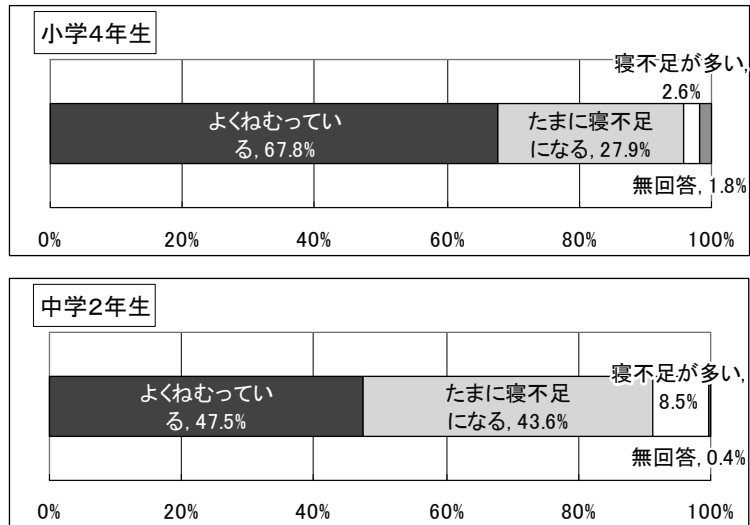


図2-134 よくねむっているか



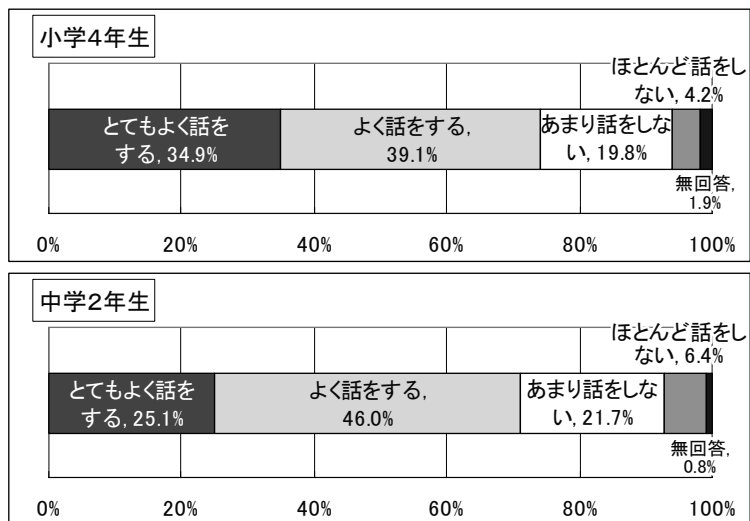
(6) 親との会話について

親に学校や友だちのことを話しているか尋ねた(図2-135)。小学4年生は、「とてもよく話をする」が34.9%、「よく話をする」が39.1%で、両者を合わせて74.0%の人が親に学校や友だちのことを話していると回答した。「あまり話をしない」は19.8%、「ほとんど話をしない」は4.2%であった。

た。

中学2年生の場合、「とてもよく話をする」は25.1%、「よく話をする」は46.0%で、両者を合わせて、親に学校や友だちのことを話している人の割合は71.1%であった。「あまり話をしない」は21.7%、「ほとんど話をしない」は6.4%であった。

図2-135 親に学校や友だちのことを話すか



次に、親に悩みごとや心配ごとを話すかについて尋ねた(図2-136)。小学4年生は、「とてもよく話をする」が20.8%、「よく話をする」が34.6%で、両者を合わせて55.4%の人が親に悩み

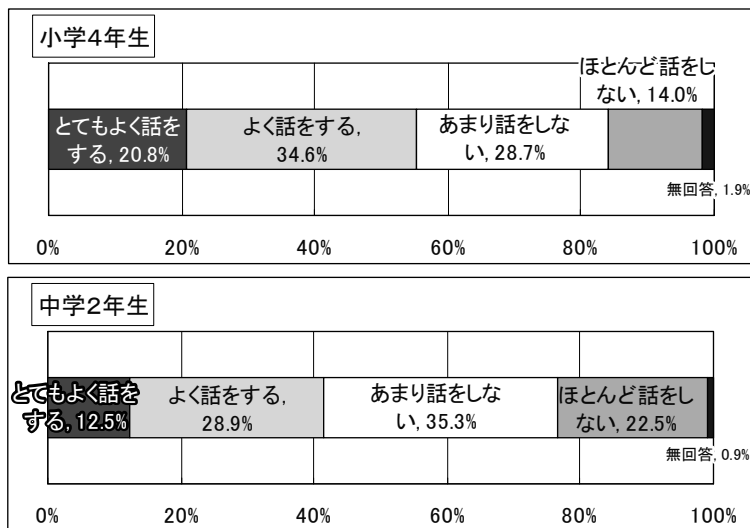
ごとや心配ごとを話していると回答した。「あまり話をしない」は28.7%、「ほとんど話をしない」は14.0%で、両者を合わせて42.7%の人は、親に悩みごとや心配ごとについて話をしていないと回

答した。

中学2年生の場合、「とてもよく話をする」が12.5%、「よく話をする」が28.9%で、両者を合わせて、親に悩みごとや心配ごとを話している

人の割合は41.4%であった。「あまり話をしない」は35.3%、「ほとんど話をしない」は22.5%で、両者を合わせて57.8%の人が、親に悩みごとや心配ごとについて話をしていないと回答した。

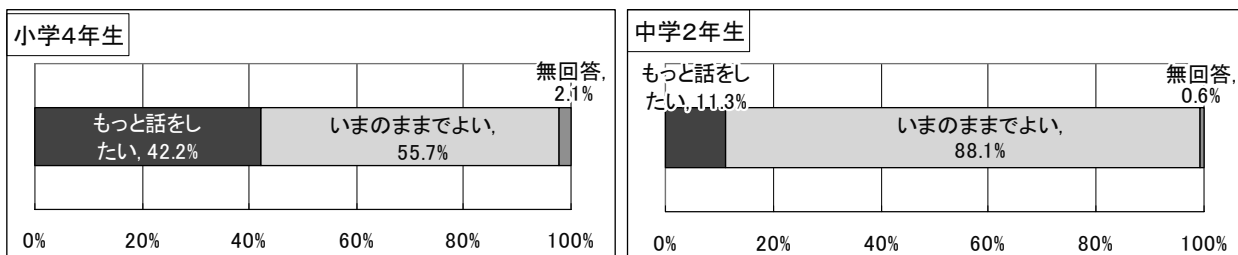
図2-136 親に悩みや心配を話すか



もっと親と話したいかについて尋ねた（図2-137）。小学4年生は、42.2%の人が「もっと話したい」と回答し、「いまのままでよい」と回答した人は55.7%であった。中学2年生の場

合、「もっと話したい」と回答した人は11.3%にとどまり、「いまのままでよい」と回答した人が88.1%を占めた。

図2-137 もっと親と話したいか

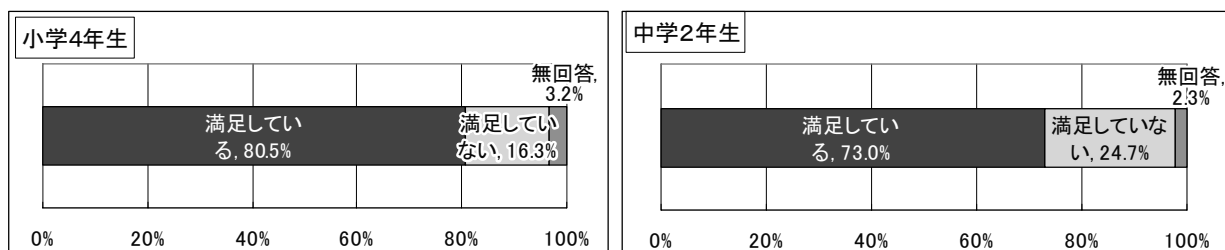


(7) 今の生活について

今の生活に満足しているか尋ねた（図2-138）。小学4年生の80.5%、中学2年生の73.0%が「満

足している」と回答した。「満足していない」と回答した人の割合は、小学4年生の16.3%、中学2年生の24.7%であった。

図2-138 今の生活に満足しているか

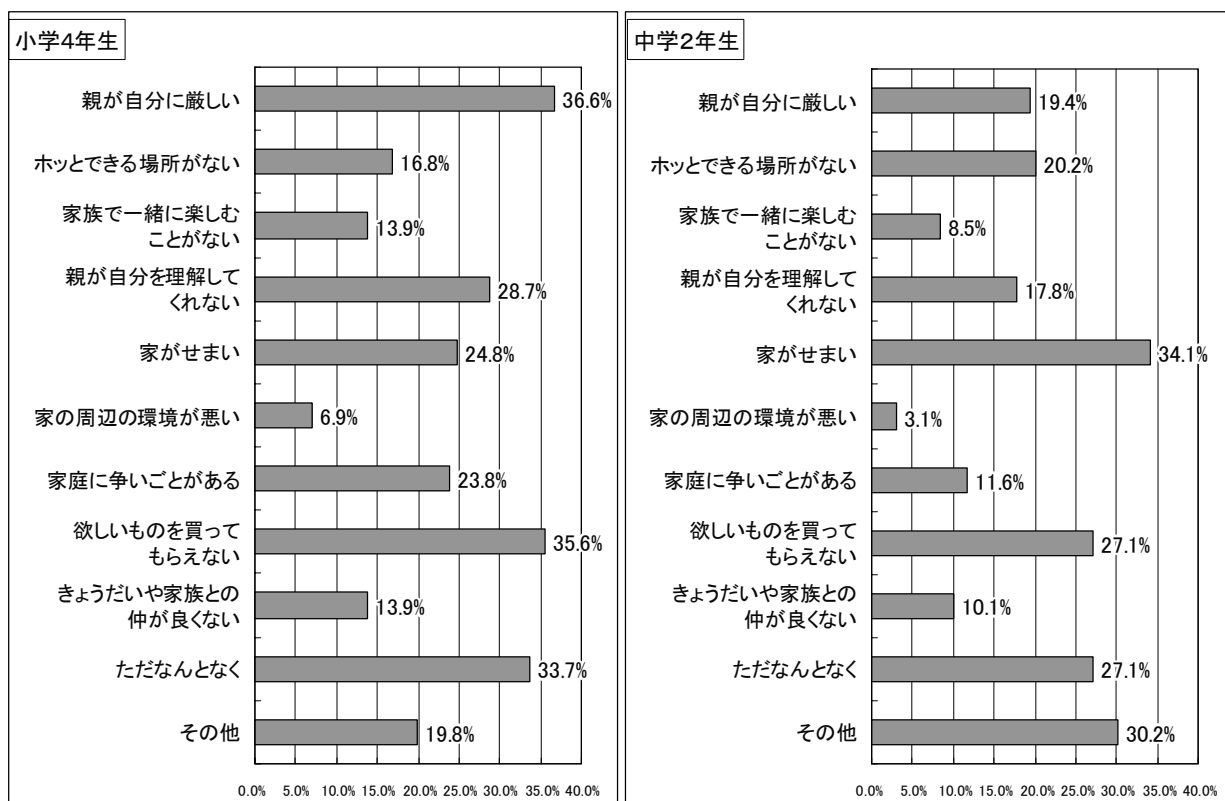


ここで「満足していない」と回答した人に対し、その理由を複数回答で尋ねた（図2-139）。小学4年生の場合、「親が自分に厳しい」が36.6%と最も高く、次いで「欲しいものを買ってもらえない」が35.6%、「ただなんとなく」が33.7%、「親が自分を理解してくれない」が28.7%、「家がせまい」が24.8%、「家庭に争いごとがある」が23.8%、「ホッとできる場所がない」が16.8%、「家族で一緒に楽しむことがない」と「きょうだ

いや家族との仲が良くない」がそれぞれ13.9%であった。

中学2年生の場合、「家がせまい」が34.1%と最も高く、次いで「欲しいものを買ってもらえない」と「ただなんとなく」がそれぞれ27.1%、「ホッとできる場所がない」が20.2%、「親が自分に厳しい」が19.4%、「親が自分を理解してくれない」が17.8%、「家庭に争いごとがある」が11.6%であった。

図2-139 満足していない理由（複数回答）



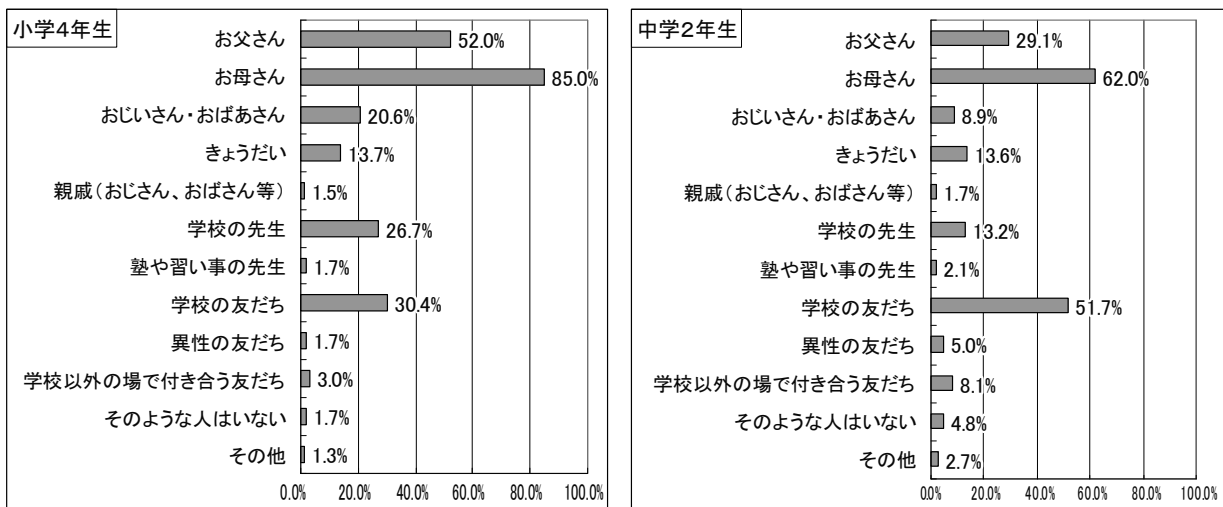
(8) 困ったことの相談相手について

困ったことについて相談に乗ってくれそうな人について尋ねた(図2-140)。小学4年生は、「お母さん」が最も高く85.0%、次いで「お父さん」が52.0%、「学校の友だち」が30.4%、「学校の先生」が26.7%、「おじいさん・おばあさん」が

20.6%、「きょうだい」が13.7%であった。

中学2年生の場合、「お母さん」が最も高いことは小学4年生と同様であるが、その割合は62.0%であった。次いで「学校の友だち」が51.7%、「お父さん」が29.1%、「きょうだい」が13.6%、「学校の先生」が13.2%であった。

図2-140 困ったことについて相談に乗ってくれそうな人



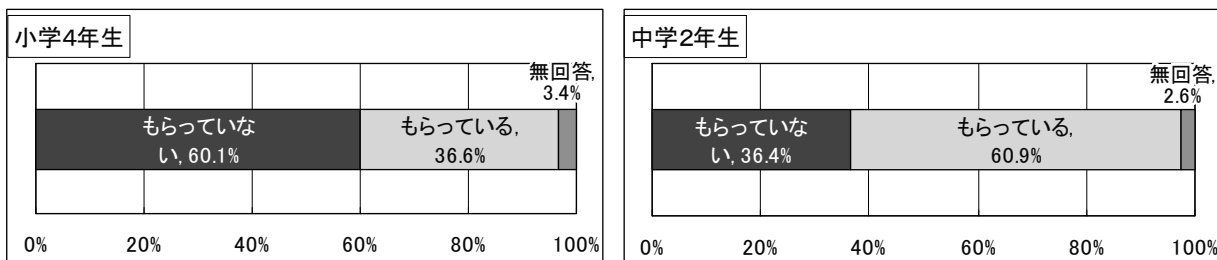
(9) おこづかいについて

月々のおこづかいをもらっているか尋ねた(図2-141)。小学4年生は60.1%が「もらっていない」と回答し、「もらっている」と回答したのは

36.6%であった。

中学2年生では36.4%が「もらっていない」と回答し、「もらっている」と回答したのは60.9%であった。

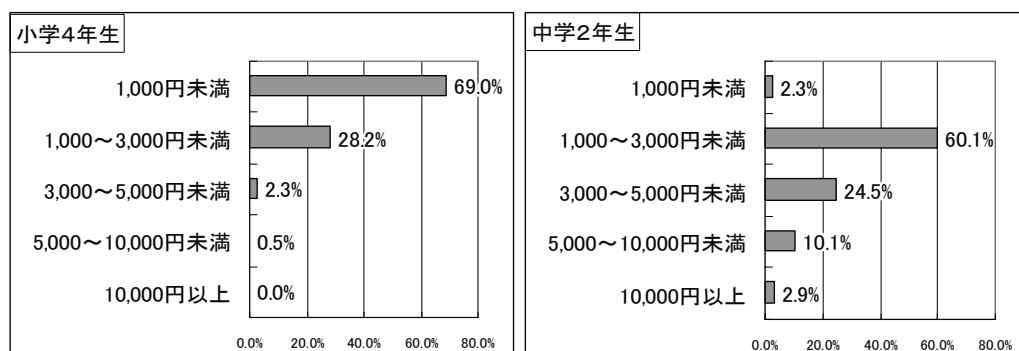
図2-141 おこづかいの有無



月々のおこづかいの額については(図2-142)、小学4年生は「1,000円未満」が最も多く69.0%を占め、次いで「1,000~3,000円未満」が28.2%であった。中学2年生は、「1,000~3,000円未満」

が最も多く60.1%、次いで「3,000~5,000円未満」が24.5%、「5,000~10,000円未満」が10.1%であった。

図2-142 おこづかいの額



(10) 家庭の経済状況や親の仕事について

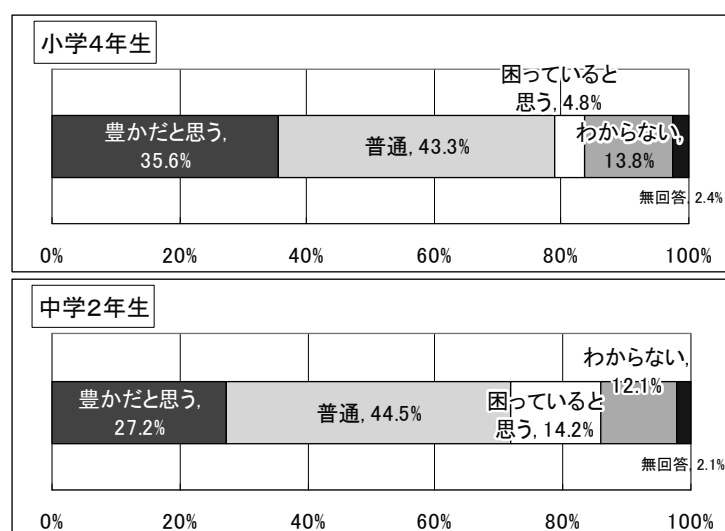
家庭の経済状況をどのように感じているか尋ねた(図2-143)。

小学4年生の場合、「豊かだと思う」が35.6%、「普通」が43.3%、「困っていると思う」が4.8%、「わからない」が13.8%であった。

「わからない」が13.8%であった。

中学2年生の場合、「豊かだと思う」が27.2%、「普通」が44.5%、「困っていると思う」が14.2%、「わからない」が12.1%であった。

図2-143 家庭の経済状況について



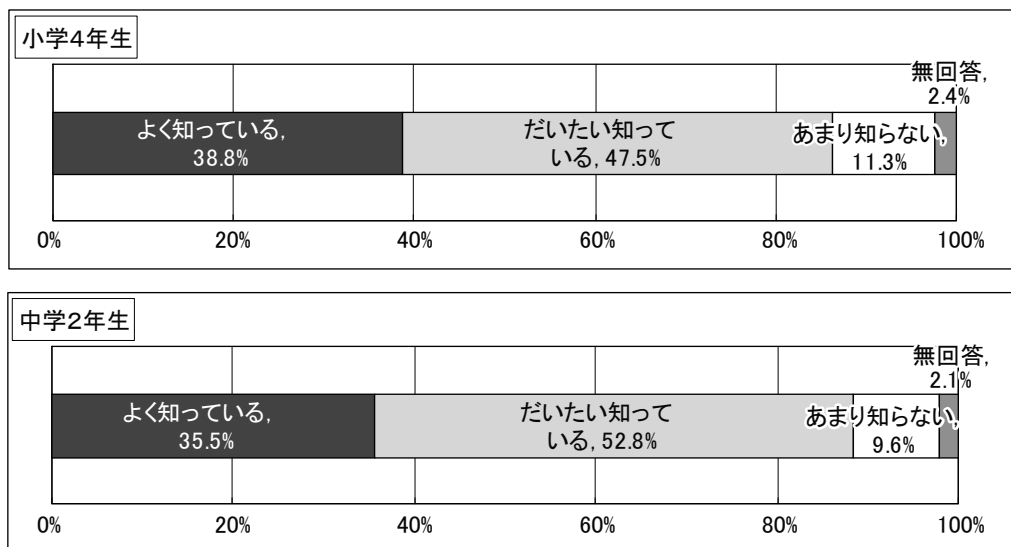
親の仕事の内容について知っているか尋ねた(図2-144)。

小学4年生の場合、「よく知っている」が38.8%、「だいたい知っている」が47.5%、「あまり知らない」は11.3%であった。

「よく知っている」が38.8%、「だいたい知っている」が47.5%、「あまり知らない」は11.3%であった。

中学2年生の場合、「よく知っている」が35.5%、「だいたい知っている」が52.8%、「あまり知らない」は9.6%であった。

図2-144 親の仕事について知っているか



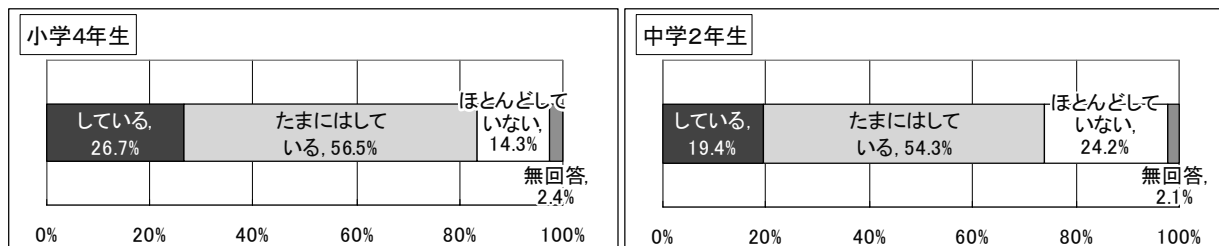
## (11) 家の手伝いについて

ふだん家の手伝いなどを行っているか尋ねた（図2-145）。小学4年生は、家の手伝いなどを「している」と回答した人の割合が26.7%、「たまにはしている」が56.5%、「ほとんどしていない」が14.3%、「ほとんどしていない」が

14.3%であった。

中学2年生の場合、家の手伝いなどを「している」と回答した人の割合が19.4%、「たまにはしている」が54.3%で、「ほとんどしていない」が24.2%と小学4年生よりも高い割合を示した。

図2-145 家の手伝いについて



## E 小学4年生・中学2年生の保護者と本人の回答結果の比較

本調査では、小学生の保護者と中学2年生の保護者、および小学4年生本人と中学2年生本人にそれぞれアンケート票を配布し、回答を得ている。ここでは、小学4年生と中学2年生の保護者と本人の調査から、ほぼ同様の内容を尋ねているものについて、その結果を保護者と本人とで比較していく。ただし、保護者と子ども本人へは、調査票を別々に郵送し、無記名で回収していることから、

家族単位でデータを突き合わせて集計することはできないことをあらかじめ断わっておく。

## 1 生活の様子と登校状況

## (1) 起床・朝食について

起床時の様子を尋ねた（図2-146、図2-147）。小学4年生の場合も中学2年生の場合も、保護者の方が「たいてい親が起す」と回答した人の割合が子ども本人より高かった。



図2-146 起床について（小学4年生）

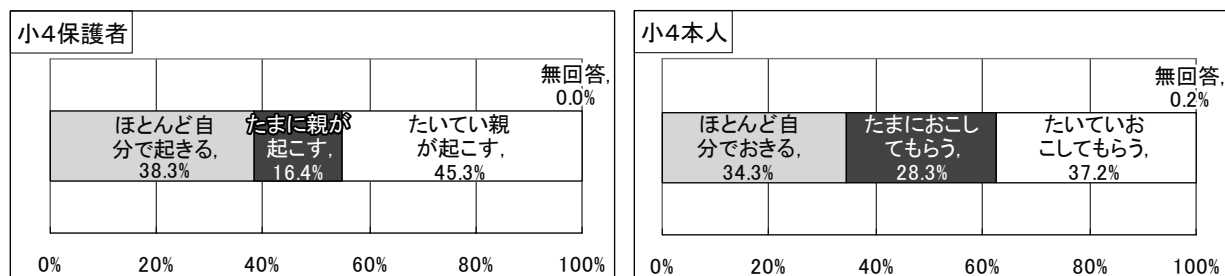
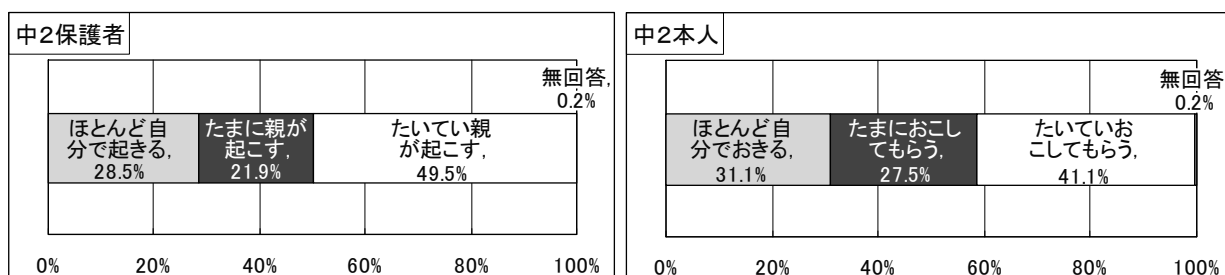


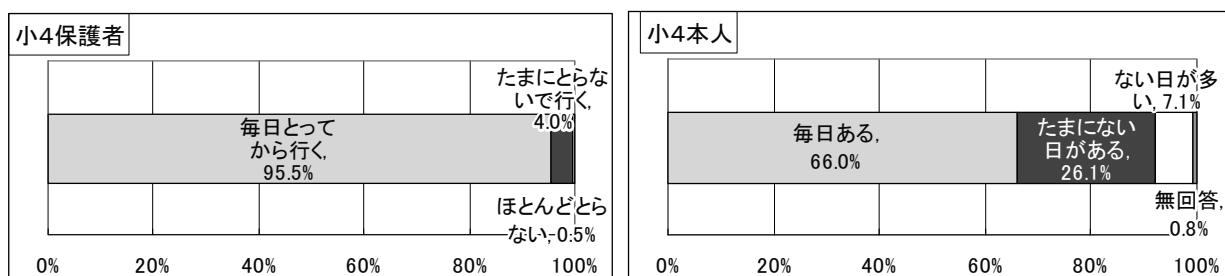
図2-147 起床について（中学2年生）



朝食については、保護者に対しては「朝食をとっているか」と尋ね、子ども本人に対しては「朝食欲があるか」を尋ねている。小学4年生の場合（図2-148）、朝食を「毎日とってから行く」と回答した人が95.5%を占めたが、子ども本人

は、食欲が「毎日ある」と回答したのは66.0%で、「たまにない日がある」と回答した人は26.1%であった。食欲がない日もあるが、朝食をとってから学校に行っていることがわかる。

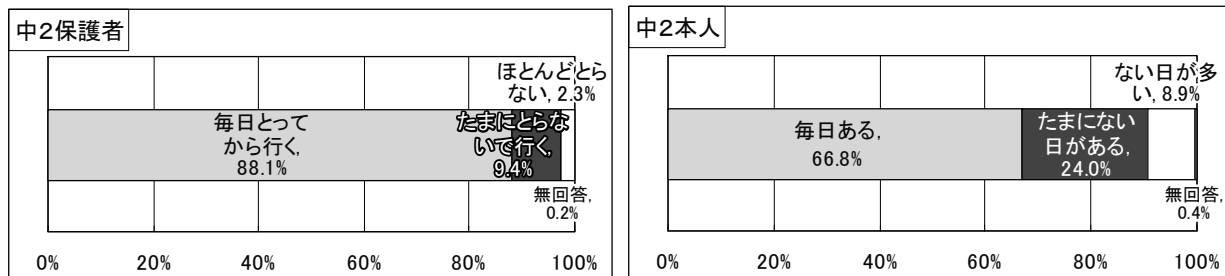
図2-148 朝食について（とっているか／食欲があるか）（小学4年生）



同様のことは、中学2年生についてもいえる（図2-149）。中学2年生本人の66.8%は「（食欲が）毎日ある」と回答しているが、24.0%は「たまにない日がある」と回答している。実際の行動とし

ては、「毎日とってから行く」が88.1%、「たまにとらないで行く」が9.4%である。たまに食欲がない日があっても、およそ9割の子どもは、毎日朝食をとってから学校へ行っていることがわかる。

図2-149 朝食について（とっているか／食欲があるか）（中学2年生）



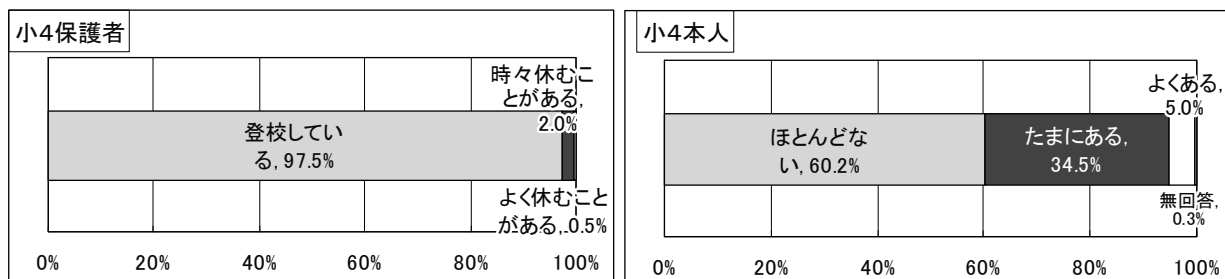
(2) 登校状況について

登校の状況について、保護者に対しては「毎日学校へ行っているか」と尋ね、子ども本人に対しては、「学校を休みたいと思うことがあるか」と尋ねている。

小学4年生の場合（図2-150）、「休みたいと思うこと」は、「ほとんどない」と回答した子ども

が60.2%、「たまにある」と回答した子どもが34.5%であった。実際の登校状況については、「（毎日）登校している」が97.5%で、「時々休むことがある」は2.0%であった。たまに休みたいと思うことがあっても、学校へはほぼ毎日登校していることがわかる。

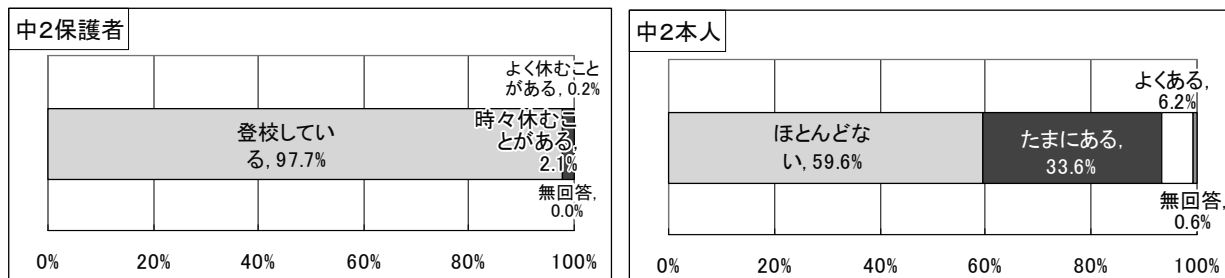
図2-150 登校状況（登校しているか／休みたいと思うことはあるか）（小学4年生）



同様のことは、中学2年生についても言える（図2-151）。中学2年生の場合、「休みたいと思うこと」が「ほとんどない」が59.6%、「たまにある」が33.6%、「よくある」が6.2%であった。実際の登校状況については、「（毎日）登校してい

る」が97.7%で、「時々休むことがある」は2.1%であった。やはり、たまに休みたいと思うことがあっても、学校へはほぼ毎日登校していることがわかる。

図2-151 登校状況（登校しているか／休みたいと思うことはあるか）（中学2年生）



## 2 友だち関係について

### (1) 友だち関係について

友だちについて、保護者に対しては「仲の良い友だちがいると思うか」と尋ね、子ども本人に対しては「信頼できる友だちがいるか」と尋ねた。

小学4年生の場合（図2-152）、保護者の95.0%が「(仲の良い友だちが) いると思う」と回答し、

子ども本人も、93.7%が「(信頼できる友だちが) いる」と回答している。同様に、中学2年生についても（図2-153）、保護者の94.8%が「(仲の良い友だちが) いると思う」と回答し、子ども本人の93.6%が「(信頼できる友だちが) いる」と回答している。

図2-152 仲の良い／信頼できる友だちの有無（小学4年生）

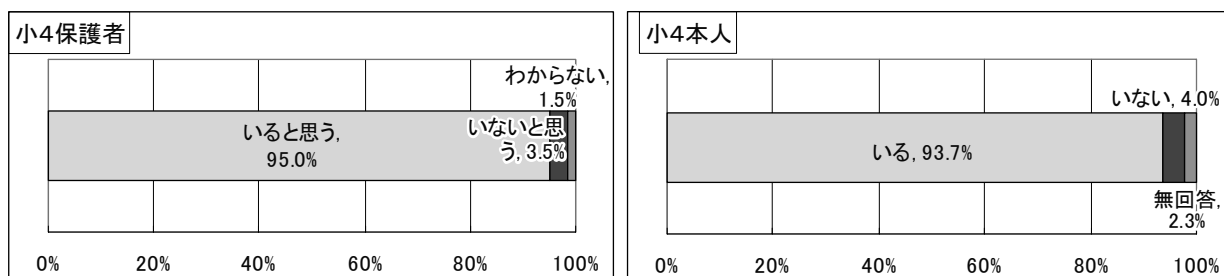
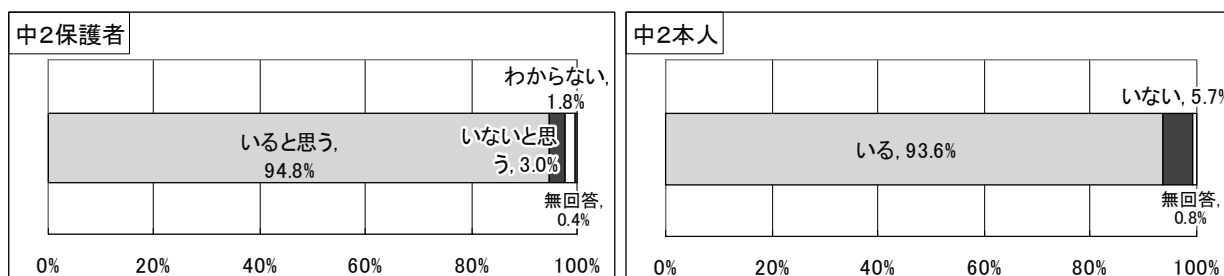


図2-153 仲の良い／信頼できる友だちの有無（中学2年生）

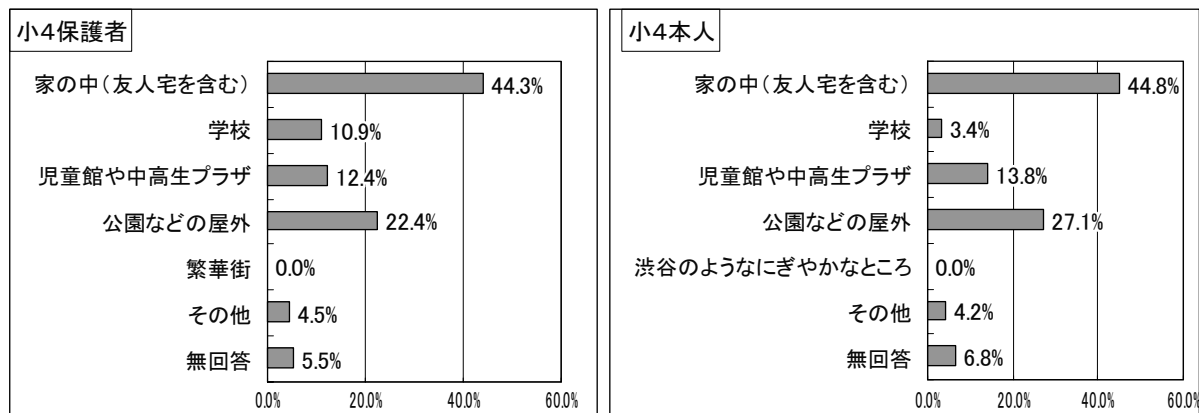


### (2) 放課後の遊び場所について

放課後の遊び場所について尋ねた。小学4年生の場合（図2-154）、保護者・本人ともに「家の中（友人宅を含む）」が最も高く、それぞれ44.3%、44.8%を占めており、「児童館や中高生プラザ」が12.4%、13.8%を占め、保護者と子ども本人でほぼ一致していた。一方、「公園などの屋外」については、保護者が22.4%であったのに

対して、子ども本人は27.1%を占め、また、「学校」については、保護者は10.9%を占めたが、子ども本人は3.4%にとどまり、その割合に差が見られた。このように、保護者の認識と子どもの実際の行動にずれが生じている面もあるものの、その差は大きくなく、保護者は子どもの遊び場所について、おおむね把握していると考えられる。

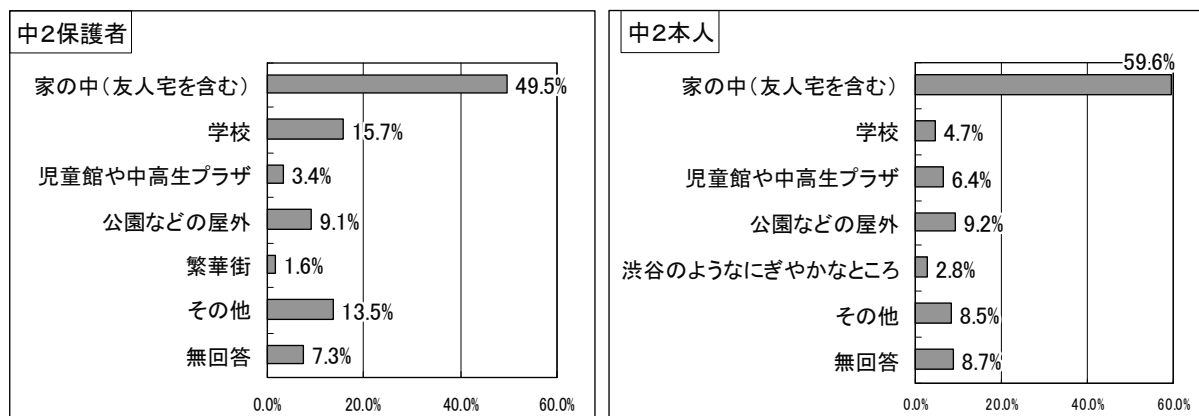
図2-154 放課後の遊び場所（小学4年生）



では、中学2年生ではどうだろうか（図2-155）。保護者、中学2年生本人のどちらの回答においても、最も高い割合を占めたのは「家中（友人宅を含む）」であった。保護者は49.5%、子ども本人は59.6%であり、その割合には10ポイント程度の差が見られた。また、「学校」と回答した人の割合は、保護者の場合は15.7%を占めたのに対して、子ども本人は4.7%にとどまり、ここでも10ポイント以上の差が見られた。「児童館や中高

生プラザ」については、保護者は3.4%であったが、子ども本人は6.4%とやや割合が高い。保護者が考えるよりも、子どもたちは学校ではなく家中や児童館等で過ごしていることがわかる。保護者と子ども本人の割合差がほとんどなかったのは「公園などの屋外」で、それぞれ9.1%、9.2%を占めた。小学4年生に比べて、中学2年生の方が、保護者が子どもの遊び場所をつかみにくい傾向にあるようだ。

図2-155 放課後の遊び場所（中学2年生）



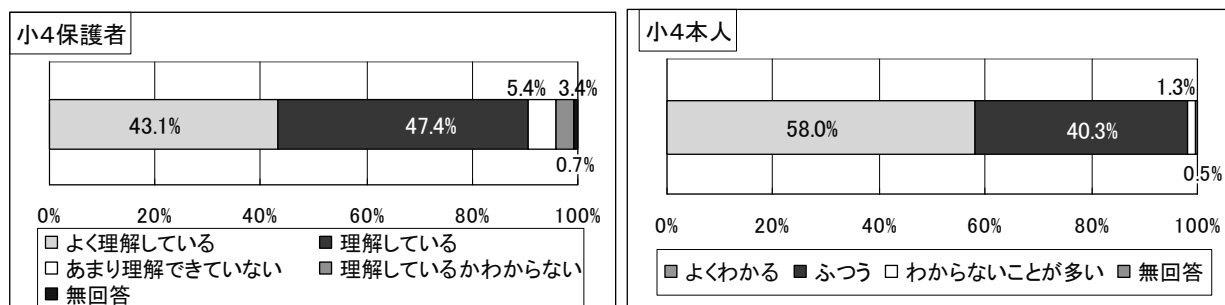
### 3 勉強や将来の進学について

#### (1) 学校の授業の理解度について

学校の授業の理解度について、保護者と子ども本人にそれぞれ尋ねた。小学4年生の場合（図2-156）、保護者は、43.1%が「よく理解している」、47.4%が「理解している」と回答し、「あま

り理解できていない」と回答した人は5.4%であった。子ども本人は、「よくわかる」と回答した人が58.0%で保護者より高い割合を示し、「ふつう」は40.3%であった。「わからないことが多い」と回答した子どもはわずか1.3%であった。

図2-156 授業の理解度（小学4年生）

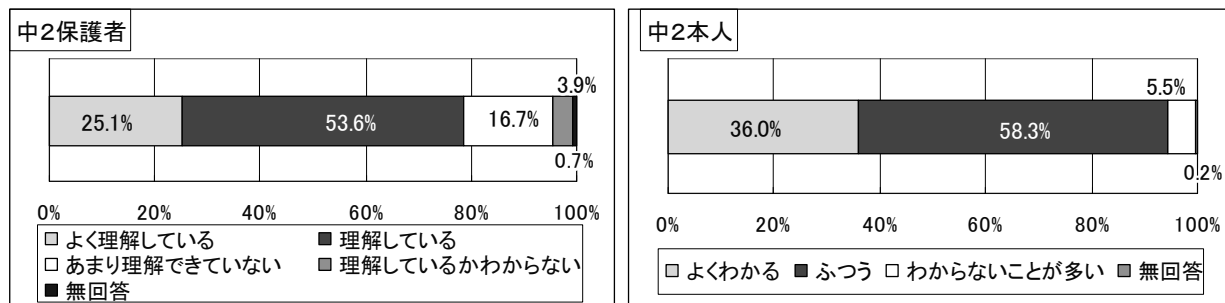


中学2年生の場合は（図2-157）、「よく理解している」と回答した保護者は25.1%、「理解している」と回答した保護者は53.6%で、16.7%の保護者が「あまり理解できていない」と回答した。「理解している」と回答した人の割合は、小学4年生の保護者に比べて高い割合になっているものの、「あまり理解できていない」と回答する保護者の割合も高くなっている。一方、子ども本人は、「よくわかる」が36.0%で、小学4年生に比べて

低くなり、「ふつう」が58.3%で、小学4年生よりも高くなっている。「わからないことが多い」は、わずか5.5%であったが、小学4年生に比べると、やや高くなっている。

小学4年生も、中学2年生も、子ども本人よりも保護者の方が、学校の授業の理解度について心配し、「理解できていないのではないか」と感じていることがうかがえる。

図2-157 授業の理解度（中学2年生）

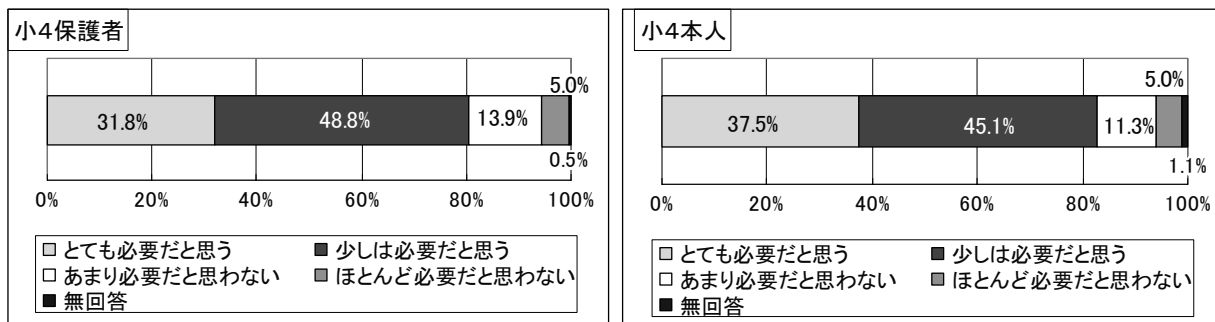


## （2）学習塾等での勉強の必要性について

学習塾などでの勉強が必要だと感じているか、保護者と子ども本人にそれぞれ尋ねた。小学4年生の場合（図2-158）、保護者の31.8%は「とても必要だと思う」と回答し、48.8%が「少しは必要だと思う」と回答した。両者を合わせて、学習塾等での勉強が必要だと思う保護者の割合は80.6%

にのぼった。小学4年生本人は、37.5%が「とても必要だと思う」と回答し、45.1%が「少しは必要だと思う」と回答した。両者を合わせて、学習塾等での勉強が必要だと思う子どもの割合は82.6%であった。保護者よりも子ども本人のほうが、必要だと思う人の割合がやや高かった。

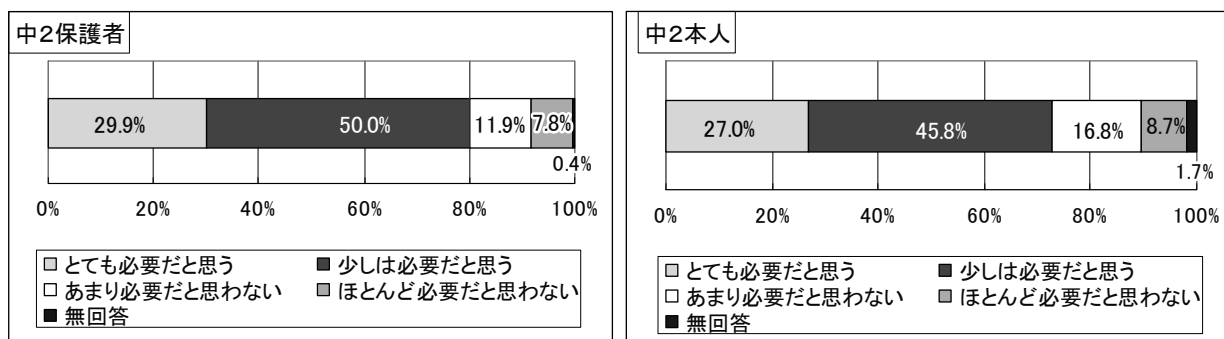
図2-158 学習塾等での勉強の必要性（小学4年）



中学2年生の場合（図2-159）、保護者の29.9%は「とても必要だと思う」と回答し、50.0%が「少しは必要だと思う」と回答した。両者を合わせて、学習塾等での勉強が必要だと思う保護者の割合は79.9%であった。中学2年生本人

は、27.0%が「とても必要だと思う」と回答し、45.8%が「少しは必要だと思う」と回答した。両者を合わせて、学習塾等での勉強が必要だと思う子どもの割合は72.8%で、小学4年生本人に比べてやや低くなっている。

図2-159 学習塾等での勉強の必要性（中学2年）

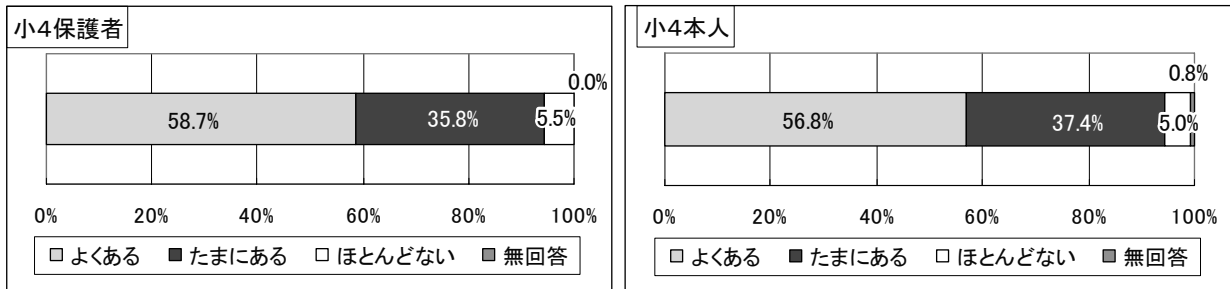


これらのことから、小学4年生の場合は、保護者よりも子ども本人の方が、学習塾等での勉強が必要だと感じている人の割合がやや高いが、中学2年生の場合は、子ども本人よりも保護者の方が、学習塾等での勉強が必要だと感じている人の割合が高いことがわかる。保護者については、子どもが小学4年生でも中学2年生でも、学習塾等での勉強が必要だと考える人の割合がほとんど変わらないため、子ども本人の意識が、小学4年生と中学2年生とで異なっていることが、このような違いとして現れていることがわかる。

### （3）家族が子どもの勉強を見ることについて

家族が子どもの勉強を見ることがあるか尋ねた。小学4年生の場合（図2-160）、保護者の58.7%、子ども本人の56.8%が、「よくある」と回答している。「たまにある」と回答した人は、保護者の35.8%、子ども本人の37.4%であった。「よくある」と「たまにある」を合わせて、家族が子どもの勉強を見ることがあると回答した人は、保護者の94.5%、子ども本人の94.2%にのぼった。とても多くの家庭で、家族が子どもの勉強を見ていることがわかる。

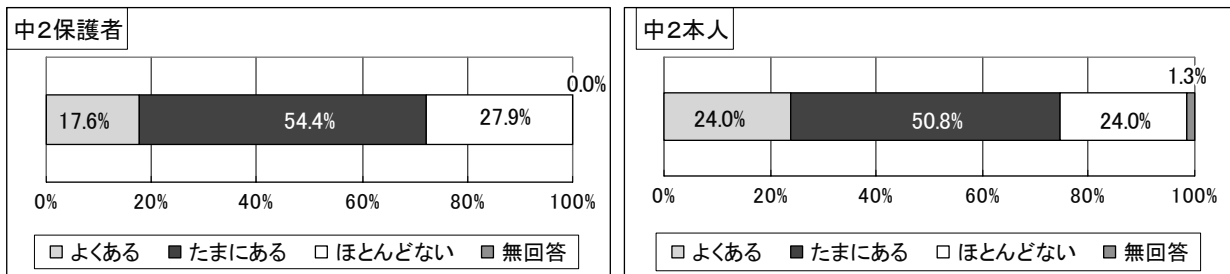
図2-160 家族が子どもの勉強を見ること（小学4年）



中学2年生の場合（図2-161）、家族が子どもの勉強を見るのが「よくある」と回答した保護者は17.6%にとどまり、「たまにある」が54.4%であった。両者を合わせて、子どもの勉強を見ることがあると回答した保護者は72.0%で、子どもが小学4年生の保護者と比較して20ポイント以上低くなっている。子どもの勉強を見るのが「ほ

とんどない」と回答した保護者は27.9%であった。中学2年生本人についても、家族が勉強を見てくれるのが「よくある」と回答した人は24.0%で、「たまにある」が50.8%、両者を合わせて、家族が勉強を見てくれると回答した人の割合は74.8%であった。「ほとんどない」と回答した子どもは24.0%であった。

図2-161 家族が子どもの勉強を見ること（中学2年）



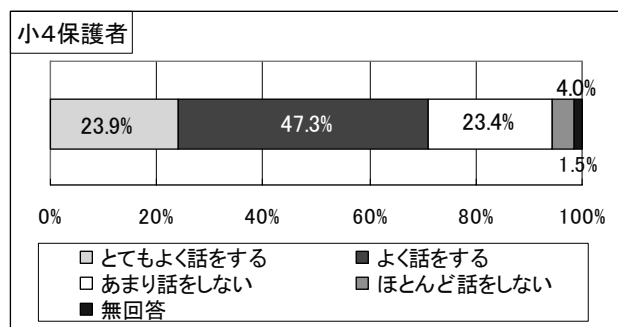
#### 4 親子の会話・コミュニケーションについて

##### (1) 悩みやその日の出来事についての会話

子どもから保護者に対して、悩んでいることやその日の出来事などについて会話がどの程度あるのか尋ねた。保護者へは、「その日の出来事や悩みごとを話すほうだと思いますか」と尋ねた。子どもに対しては、「親に学校や友だちのことについて話していますか」と「親に悩みごとや心配ごとを話しますか」の2つの質問をした。

小学4年生の結果を見ると（図2-162）、保護者の回答は「とてもよく話をする」が23.9%、「よく話をする」が47.3%、「あまり話をしない」が23.4%、「ほとんど話をしない」が4.0%であった。

図2-162 出来事や悩みを話すか（小4保護者）

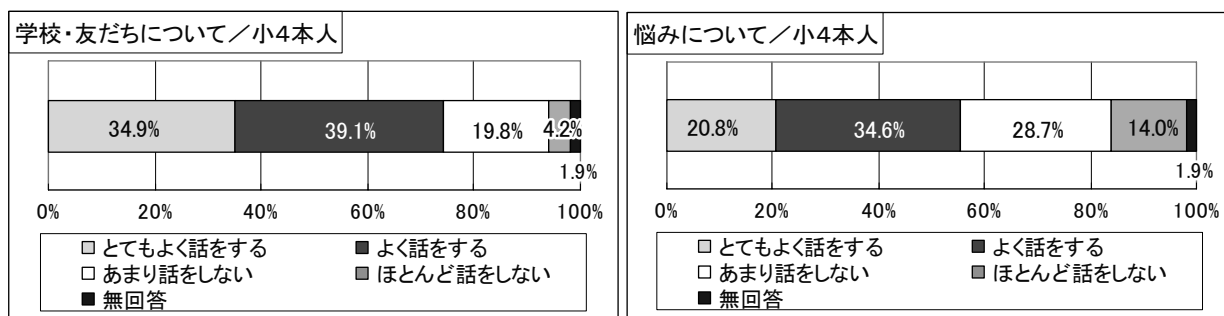


小学4年生本人の回答については（図2-163）、「学校や友だちのことを話すか」という問いに対しては、「とてもよく話をする」が34.9%、「よく話をする」が39.1%、「あまり話をしない」が19.8%、「ほとんど話をしない」が4.2%であった。「悩みごとや心配ごとを話すか」という問いに対しては、「とてもよく話をする」が20.8%、「よく話をする」

が34.6%、「あまり話をしない」が28.7%、「ほとんど話をしない」が14.0%であった。学校でのできごとや友だちについては良く話していても、悩みごとや心配ごとについては、親によく話す子どもの割合が低くなっていることがわかる。

保護者と子ども本人のとらえ方には、それほど大きな違いはないといえる。

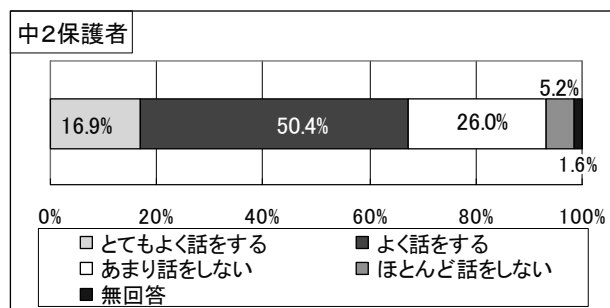
図2-163 学校・友だちについて／悩みについて親に話すか（小学4年）



中学2年生の場合、保護者の回答は「とてもよく話をする」が16.9%、「よく話をする」が50.4%、「あまり話をしない」が26.0%、「ほとんど話をしない」が5.2%であった（図2-164）。

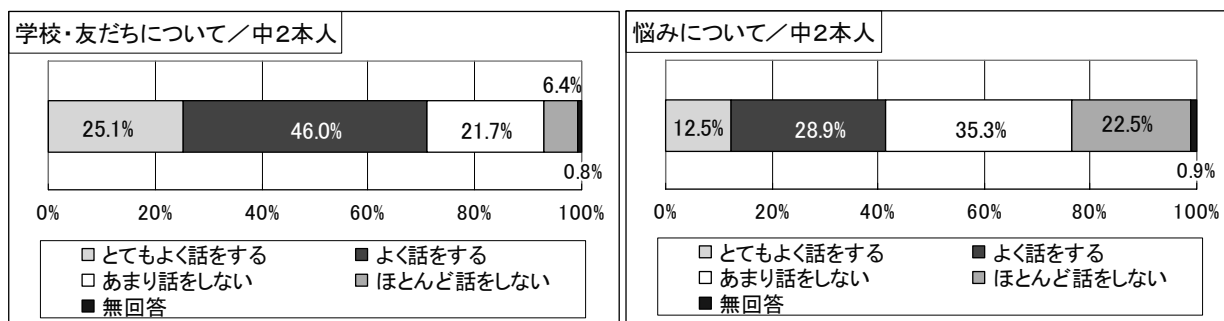
中学2年生本人の回答は（図2-165）、「学校や友だちのことを話すか」という問いに対しては、「とてもよく話をする」が25.1%、「よく話をする」が46.0%、「あまり話をしない」が21.7%、「ほとんど話をしない」が6.4%であった。「悩みごとや心配ごとを話すか」という問いに対しては、「とてもよく話をする」が12.5%、「よく話をする」が28.9%、「あまり話をしない」が35.3%、「ほとんど話をしない」が22.5%であった。全体的に、小学4年生の場合に比べて、親に話をする子ども

図2-164 出来事や悩みを話すか（中2保護者）



の割合が低くなっている。また、小学4年生の場合と同様に、学校でのできごとや友だちについては良く話していても、悩みごとや心配ごとについては、親によく話す子どもの割合が低くなっている。

図2-165 学校・友だちについて／悩みについて親に話すか（中学2年）



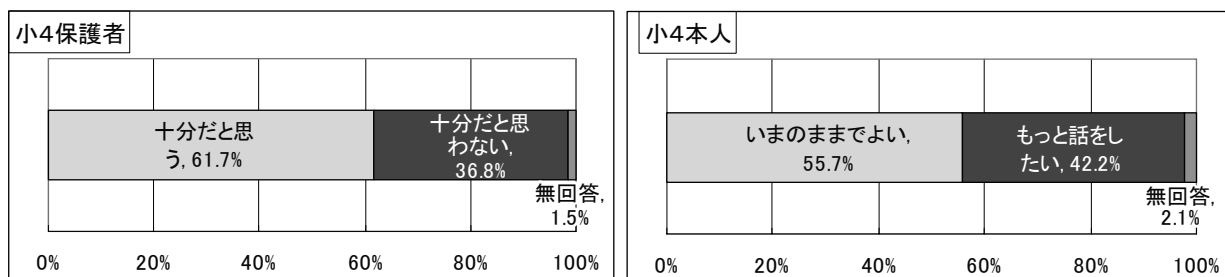


## (2) 親子の会話の程度について

親子の会話について、保護者に対しては「日ごろの会話は十分だと思うか」と尋ね、子ども本人に対しては、「もっと親と話をしたいか」と尋ねた。小学4年生の場合（図2-166）、保護者は「十分だと思う」と回答した人が61.7%、「十分だと思わない」と回答した人が36.8%であった。子ども本人は、「いまのままでよい」と回答した人が55.7%、「もっと話をしたい」と回答した人が42.2%であった。保護者と子どもで同じ指標を用いたのではないため、単純な比較はできないが、保護者に比べて子どものほうが、「もっと親と話をしたい」（会話が十分ではない）と感じている人の割合が高いことがわかる。

子ども本人は、「いまのままでよい」と回答した人が55.7%、「もっと話をしたい」と回答した人が42.2%であった。保護者と子どもで同じ指標を用いたのではないため、単純な比較はできないが、保護者に比べて子どものほうが、「もっと親と話をしたい」（会話が十分ではない）と感じている人の割合が高いことがわかる。

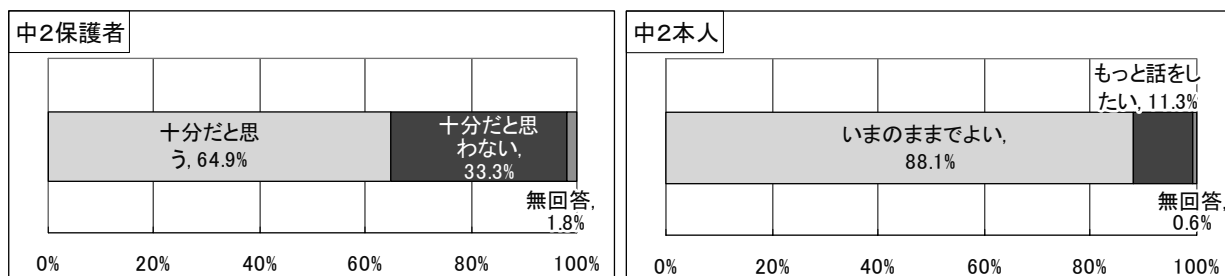
図2-166 親子の会話について（小学4年）



中学2年生の場合（図2-167）、保護者は「十分だと思う」と回答した人が64.9%、「十分だと思わない」と回答した人が33.3%であった。子ども本人は、「いまのままでよい」と回答した人が88.1%と高く、「もっと話をしたい」と回答した人は11.3%であった。小学4年生に比べて、中学

2年生の場合は、親子での意識の違いが大きい。親は会話が「十分ではない」と感じている人が3割だが、子どもは「もっと話をしたい」と感じる人は1割である。中学2年生の場合には、親のほうが、子どもとの会話を望む傾向にあるようだ。

図2-167 親子の会話について（中学2年）



## F 地域別の特性に関するクロス集計の結果

### 1 未就学児の保護者の地域別の特徴

未就学児の保護者に対するアンケート調査の結果から、港区内の5総合支所別の特性をとらえるため、総合支所の地区別（以下地区別という）にクロス集計を行った。以下、その結果を見ていく。

#### (1) 子どもの年齢の分布

子どもの年齢分布を、地区別に集計した表2-55

からは、地区により、子どもの年齢分布が異なっていることがわかる。0歳児が多い地区は、芝地区、麻布地区、高輪地区で、1歳児が多い地区は、芝地区、麻布地区、赤坂地区、2歳児が多い地区は赤坂地区、高輪地区、芝浦港南地区、3歳児が多い地区は芝地区、高輪地区、芝浦港南地区、4歳児が多い地区は麻布地区、赤坂地区、芝浦港南地区、5・6歳児が多い地区は、麻布地区、高輪地区、芝浦港南地区であった。

地区ごとに特徴をまとめると、芝地区は、0・1歳児、3歳児が比較的多く、3歳児未満児にやや偏っている。麻布地区は、0・1歳児と4・5・6歳児が比較的多い。赤坂地区は、1・2歳児が比較的多い。高輪地区は0・2・3・5・6

歳児が比較的多く、全体に散らばっている。芝浦港南地区は、2・3・4・5・6歳児が比較的多く、他地区に比べて0・1歳児が少ない傾向にある。

表2-55 地区×子どもの年齢

	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5・6歳		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	61	19.2%	72	22.7%	51	16.1%	55	17.4%	41	12.9%	37	11.7%	317	100.0%
麻布地区	79	19.1%	79	19.1%	59	14.3%	56	13.6%	66	16.0%	74	17.9%	413	100.0%
赤坂地区	44	16.5%	54	20.3%	54	20.3%	41	15.4%	41	15.4%	32	12.0%	266	100.0%
高輪地区	98	19.2%	75	14.7%	92	18.0%	91	17.8%	72	14.1%	83	16.2%	511	100.0%
芝浦港南地区	119	15.5%	121	15.8%	138	18.0%	137	17.8%	122	15.9%	131	17.1%	768	100.0%
合計	401	17.6%	401	17.6%	394	17.3%	380	16.7%	342	15.0%	357	15.7%	2,275	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=31.807$  自由度=20  $p=0.045^*$  \*  $p < 0.05$

## (2) 居住年数と住宅の種類

### ①居住年数

居住年数について地区別に集計した(表2-56)。芝地区は、居住年数が「1・2年」の世帯が40.1%と最も多く、次いで「3・4年」が31.5%で、両者を合わせて居住年数が5年未満の世帯がおよそ7割を占めた。

麻布地区は、居住年数が「1・2年」の世帯が45.2%と最も多く、次いで「3・4年」が26.4%で、両者を合わせて居住年数が5年未満の世帯が、芝地区と同様におよそ7割を占めた。

赤坂地区は、居住年数が「1・2年」の世帯が48.3%と半分弱を占め、「3・4年」(20.5%)と「5～9年」(19.0%)がそれぞれ2割を占めた。

居住年数が5年未満の世帯はおよそ7割である。

高輪地区は、居住年数が「1・2年」の世帯が41.3%と最も多く、「3・4年」(24.8%)と「5～9年」(25.0%)がそれぞれ2割半程度を占めた。居住年数が5年未満の世帯はおよそ6割半である。

この4つの地区は、居住年数が5年未満の比較的短い層が6割半から7割を占めていることが特徴である。それに加えて、麻布地区と赤坂地区は、居住年数が「10年以上」と長い世帯の割合が1割を超えている。

これらの地区とは異なる特徴が見られたのが芝浦港南地区である。芝浦港南地区は、最も高い割合を占めた居住年数は「5～9年」で、45.4%を占めた。次いで、「1・2年」が28.1%、「3・4

表2-56 地区×居住年数

	1・2年		3・4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	127	40.1%	100	31.5%	66	20.8%	24	7.6%	317	100.0%
麻布地区	185	45.2%	108	26.4%	73	17.8%	43	10.5%	409	100.0%
赤坂地区	127	48.3%	54	20.5%	50	19.0%	32	12.2%	263	100.0%
高輪地区	210	41.3%	126	24.8%	127	25.0%	46	9.0%	509	100.0%
芝浦港南地区	216	28.1%	173	22.5%	349	45.4%	31	4.0%	769	100.0%
合計	865	38.2%	561	24.7%	665	29.3%	176	7.8%	2,267	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=176.367$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

年」が22.5%であった。5年未満の居住年数の世帯はおよそ5割である。また、「10年以上」の世帯の割合は5地区中最も低く4.0%であり、居住年数が10年未満の世帯が圧倒的多数を占めていることも、大きな特徴のひとつである。

## ②住宅の種類

次に、住宅の種類について地区別に集計した表2-57を見てみよう。

芝地区は、「持ち家」が40.7%、「民間の賃貸住宅」が42.6%であった。ほか、「都営・区営・UR等」が7.3%と他地区に比べて高い割合を示した。「社宅・公務員住宅」は7.9%であった。

麻布地区は、「持ち家」が39.9%で5地区中最も低く、一方で「民間の賃貸住宅」が49.0%と5地区中最も高い割合を示した。ほか、「都営・区営・UR等」が1.0%、「社宅・公務員住宅」は8.0%であった。

赤坂地区は、「持ち家」が48.7%で、「民間の賃貸住宅」は36.6%と5地区中2番目に低い割合を示した。ほか、「都営・区営・UR等」が3.8%、「社宅・公務員住宅」は7.9%であった。

高輪地区は、「持ち家」が49.2%で5地区中2番目に高く、「民間の賃貸住宅」は40.4%であった。ほか、「都営・区営・UR等」は1.8%、「社宅・公務員住宅」は6.1%であった。

芝浦港南地区は、「持ち家」が59.3%で5地区中最も高く、「民間の賃貸住宅」は23.5%と5地区中最も低かった。また、「都営・区営・UR等」は10.2%で5地区中最も高かった。「社宅・公務員住宅」は6.2%であった。

「持ち家」が最も高い地区は芝浦港南地区、「民間の賃貸住宅」が最も高い地区は麻布地区、「都営・区営・UR等」が最も高い地区は芝浦港南地区、次いで芝地区という特徴が見られた。

表2-57 地区×住宅の種類

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	129	40.7%	135	42.6%	23	7.3%	25	7.9%	5	1.6%	317	100.0%
麻布地区	165	39.9%	203	49.0%	4	1.0%	33	8.0%	9	2.2%	414	100.0%
赤坂地区	129	48.7%	97	36.6%	10	3.8%	21	7.9%	8	3.0%	265	100.0%
高輪地区	251	49.2%	206	40.4%	9	1.8%	31	6.1%	13	2.5%	510	100.0%
芝浦港南地区	457	59.3%	181	23.5%	79	10.2%	48	6.2%	6	0.8%	771	100.0%
合計	1,131	49.7%	822	36.1%	125	5.5%	158	6.9%	41	1.8%	2,277	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=161.600 自由度=16 p=0.000\* \* p < 0.05

## ③世帯年収

世帯年収については（表2-58）、芝地区、麻布地区、高輪地区、芝浦港南地区は、「1,000～2,000万円未満」が最も割合が高く、それぞれ36.3%、36.7%、37.1%、38.7%を占めた。芝地区、麻布地区、高輪地区は、それに加えて、「2,000万円以上」が14～17%を占めた。一方、芝浦港南地区は、「2,000万円以上」は少なく7.9%で、「700～1,000万円未満」が27.5%と他地区よりも高い割合を示した。

赤坂地区は、「1,000～2,000万円未満」の割合が最も高いが、他地区に比べると割合は低く、27.0%であった。しかし「2,000万円以上」の割合は23.8%で5地区中最も高かった。

世帯年収が1,000万円以上の世帯の割合は、芝地区が54.1%、麻布地区が51.4%、赤坂地区が50.8%、高輪地区が51.4%、芝浦港南地区が46.6%であった。一方、「400万円未満」の世帯の割合は、芝浦港南地区を除く4地区で1割程度を占めたが、芝浦港南地区では6.8%と少なかった。

表2-58 地区×世帯年収

	400万円未満		400～500万円未満		500～700万円未満		700～1,000万円未満		1,000～2,000万円未満		2,000万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	32	11.0%	14	4.8%	33	11.3%	55	18.8%	106	36.3%	52	17.8%	292	100.0%
麻布地区	41	10.6%	24	6.2%	50	12.9%	73	18.9%	142	36.7%	57	14.7%	387	100.0%
赤坂地区	29	11.3%	22	8.6%	30	11.7%	45	17.6%	69	27.0%	61	23.8%	256	100.0%
高輪地区	59	12.1%	40	8.2%	53	10.9%	85	17.4%	181	37.1%	70	14.3%	488	100.0%
芝浦港南地区	50	6.8%	41	5.6%	98	13.4%	201	27.5%	283	38.7%	58	7.9%	731	100.0%
合計	211	9.8%	141	6.5%	264	12.3%	459	21.3%	781	36.3%	298	13.8%	2,154	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=86.646$  自由度=20  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### (3) 家族・祖父母の状況

#### ①家族構成

家族構成について地区別に集計した(表2-59)。5地区とも「父母と子」のいわゆる核家族の構成が最も高い。芝地区は90.2%、麻布地区は86.3%、赤坂地区は88.1%、高輪地区は91.4%、芝浦港南地区は94.3%であった。5地区中最も「父母と子」の割合が低かった麻布地区は、その一方で、「父母と子と祖父または祖母」の割合が5地区中最も高く、5.3%であった。また、赤坂地区は、「母と

子と祖父または祖母」の割合が5地区中最も高く、3.7%であった。芝浦港南地区は、「父母と子と祖父・祖母」の割合が1.4%で5地区中最も低く、「母と子」、「母と子と祖父または祖母」の割合も5地区中最も低かった。芝浦港南地区は5地区のなかで「父母と子」世帯の割合が最も高い地域であることがわかる。

なお、子どもの人数や父母の年齢については地区による差はほとんどなかった。

表2-59 地区×家族構成

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	286	90.2%	8	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	17	5.4%	5	1.6%	1	0.3%	317	100.0%
麻布地区	359	86.3%	22	5.3%	0	0.0%	1	0.2%	23	5.5%	5	1.2%	6	1.4%	416	100.0%
赤坂地区	236	88.1%	6	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	15	5.6%	10	3.7%	1	0.4%	268	100.0%
高輪地区	465	91.4%	15	2.9%	3	0.6%	2	0.4%	17	3.3%	4	0.8%	3	0.6%	509	100.0%
芝浦港南地区	726	94.3%	11	1.4%	3	0.4%	0	0.0%	22	2.9%	5	0.6%	3	0.4%	770	100.0%
合計	2,072	90.9%	62	2.7%	6	0.3%	3	0.1%	94	4.1%	29	1.3%	14	0.6%	2,280	100.0%

※無回答は集計から除く。

#### ②祖父母の居住地

祖父母との同居については、どの地区も9割以上の世帯が、父方・母方どちらの祖父母とも「同居していない」と回答している。同居していない世帯に、祖父母はどこに住んでいるかを尋ねたものを地区別に集計した(表2-60)。

父方の祖父母については、「区内」と回答した世帯の割合が高かったのは芝地区、高輪地区で、それぞれ1割を超えた。「都内」と回答した世帯

の割合は、高輪地区が23.4%と5地区中最も高く、そのほかの地区は18～20%程度であった。「都外」と回答した世帯の割合が高かったのは赤坂地区(75.0%)と芝浦港南地区(74.9%)で7割半を占め、麻布地区では7割、芝地区と高輪地区では6割半程度であった。

母方の祖父母については、「区内」と回答した世帯の割合が高かったのは高輪地区で10.3%、そのほかの4地区は1割に満たず、芝浦港南地区で

はわずか3.7%であった。「都内」と回答した世帯の割合は18%から20%程度であった。「都外」については、芝浦港南地区が75.5%で5地区中最も

高く、次いで麻布地区が74.4%、芝地区が73.8%、赤坂地区が70.6%、高輪地区が69.6%であった。

表2-60 地区×父方・母方の祖父母の住まい

	父方の祖父母							
	区内		都内		都外		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	38	13.1%	58	19.9%	195	67.0%	291	100.0%
麻布地区	33	8.9%	76	20.4%	263	70.7%	372	100.0%
赤坂地区	17	7.0%	44	18.0%	183	75.0%	244	100.0%
高輪地区	52	11.1%	110	23.4%	308	65.5%	470	100.0%
芝浦港南地区	51	7.0%	131	18.1%	542	74.9%	724	100.0%
合計	191	9.1%	419	19.9%	1,491	71.0%	2,101	100.0%
	母方の祖父母							
	区内		都内		都外		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	24	8.0%	55	18.3%	222	73.8%	301	100.0%
麻布地区	29	7.6%	69	18.0%	285	74.4%	383	100.0%
赤坂地区	19	7.7%	54	21.8%	175	70.6%	248	100.0%
高輪地区	48	10.3%	94	20.1%	325	69.6%	467	100.0%
芝浦港南地区	27	3.7%	151	20.7%	550	75.5%	728	100.0%
合計	147	6.9%	423	19.9%	1,557	73.2%	2,127	100.0%

※無回答は集計から除く。

父方の祖父母： $\chi^2=20.882$  自由度=8  $p=0.007^*$  \*  $p < 0.05$

母方の祖父母： $\chi^2=22.897$  自由度=8  $p=0.003^*$  \*  $p < 0.05$

### ③祖父母からの援助

祖父母からどのような援助を受けているか（複数回答）を地区別に集計した（表2-61）。「金銭的援助」については、赤坂地区が19.0%、そのほかの4地区は16から17%程度を占めた。「子どもを預かるなどの援助」は5地区とも最も高い割合を示し、赤坂地区（60.3%）、高輪地区（60.4%）、麻布地区（59.2%）では6割、芝地区では53.6%、芝浦港南地区では50.8%でやや低くなっていた。「住宅の提供」については、赤坂地区が13.4%で

最も高く、麻布地区と高輪地区は11%程度、芝地区は8.1%であった。芝浦港南地区は最も低く4.7%であった。「食料など物での援助」については、どの地区も4割を超えて高い割合を示した。そのなかで最も高かったのは芝浦港南地区の48.6%であった。「掃除・家事などの援助」については、麻布地区と赤坂地区が21%程度、高輪地区と芝地区が15%程度であったのに対し、芝浦港南地区では13.0%とやや低めであった。

表2-61 地区×祖父母からの援助（複数回答）

	金銭的援助		子どもを預かるなどの援助		住宅の提供		食料など物での援助		掃除・家事などの援助		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=222)	37	16.7%	119	53.6%	18	8.1%	102	45.9%	33	14.9%	20	9.0%
麻布地区 (n=294)	51	17.3%	174	59.2%	33	11.2%	121	41.2%	62	21.1%	31	10.5%
赤坂地区 (n=179)	34	19.0%	108	60.3%	24	13.4%	78	43.6%	39	21.8%	14	7.8%
高輪地区 (n=336)	58	17.3%	203	60.4%	38	11.3%	160	47.6%	53	15.8%	27	8.0%
芝浦港南地区 (n=508)	87	17.1%	258	50.8%	24	4.7%	247	48.6%	66	13.0%	70	13.8%
合計	267	17.3%	862	56.0%	137	8.9%	708	46.0%	253	16.4%	162	10.5%

※無回答は集計から除く。

#### ④頼りにしている人

祖父母が頼りになるかどうかについては地区による差は見られず、7～8割の世帯で「頼りになる」と回答していた。

祖父母以外に頼りになる人がいるかどうかについては、地区による違いが見られた（表2-62）。頼りになる人が「いる」と回答した人の割合は、高輪地区（54.8%）、麻布地区（53.9%）、赤坂地区（50.4%）では5割を超えたが、芝浦港南地区では43.9%、芝地区では39.5%と4割前後であった。芝地区では6割、芝浦港南地区では5割半が、祖父母以外に頼れる人が「いない」と回答している。

表2-62 地区×祖父母以外に頼れる人

	いる		いない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	124	39.5%	190	60.5%	314	100.0%
麻布地区	223	53.9%	191	46.1%	414	100.0%
赤坂地区	132	50.4%	130	49.6%	262	100.0%
高輪地区	278	54.8%	229	45.2%	507	100.0%
芝浦港南地区	337	43.9%	430	56.1%	767	100.0%
合計	1,094	48.3%	1,170	51.7%	2,264	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=29.856$  自由度=4  
 $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### （4）父母の仕事と地域活動の状況

#### ①共働きの有無

共働きの有無を地区別に集計した（表2-63）。「共働きである」と回答した世帯の割合は、芝地区（55.8%）、赤坂地区（53.8%）、高輪地区

（53.7%）、芝浦港南地区（52.7%）で5割を超え、麻布地区では45.0%で5地区中最も低かった。

表2-63 地区×共働きの有無

	共働きである		共働きではない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	174	55.8%	138	44.2%	312	100.0%
麻布地区	186	45.0%	227	55.0%	413	100.0%
赤坂地区	143	53.8%	123	46.2%	266	100.0%
高輪地区	273	53.7%	235	46.3%	508	100.0%
芝浦港南地区	404	52.7%	363	47.3%	767	100.0%
合計	1,180	52.1%	1,086	47.9%	2,266	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=10.881$  自由度=4  
 $p=0.028^*$  \*  $p < 0.05$

#### ②父母の職業について

父親の職業を地区別に集計した（表2-64）。5地区とも最も割合が高かったのは「民間企業の常勤的勤務者」で、次いで「自営業・会社経営」、「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」であった。その割合は、地区により異なっている。

「自営業・会社経営」の割合が高かったのは芝地区（28.6%）、麻布地区（27.9%）、赤坂地区（27.4%）で2割半を超え、次いで高輪地区では20.5%であった。芝浦港南地区では16.4%と5地区中最も低い割合を示した。一方、「民間企業の常勤的勤務者」の割合は、芝地区（56.3%）、麻布地区（57.5%）、赤坂地区（57.5%）では6割に満たなかったが、高輪地区では66.7%、芝浦港南地区では70.9%と高い割合を示した。

表2-64 地区×父親の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	87	28.6%	22	7.2%	171	56.3%	5	1.6%	16	5.3%	3	1.0%	304	100.0%
麻布地区	111	27.9%	37	9.3%	229	57.5%	1	0.3%	16	4.0%	4	1.0%	398	100.0%
赤坂地区	69	27.4%	23	9.1%	145	57.5%	1	0.4%	13	5.2%	1	0.4%	252	100.0%
高輪地区	101	20.5%	34	6.9%	329	66.7%	2	0.4%	23	4.7%	4	0.8%	493	100.0%
芝浦港南地区	122	16.4%	62	8.4%	526	70.9%	7	0.9%	22	3.0%	3	0.4%	742	100.0%
合計	490	22.4%	178	8.1%	1400	64.0%	16	0.7%	90	4.1%	15	0.7%	2,189	100.0%

※無回答は集計から除く。

次に、母親の職業を地区別に集計した（表2-65）。「自営業・会社経営」の割合が高かったのは赤坂地区で、11.2%であった。芝浦港南地区はわずか3.0%であった。「民間企業の常勤的勤務者」の割合は、3割弱から3割半程度で、5地区中最も割合が低かったのが麻布地区（28.6%）、高かつ

たのが芝浦港南地区（36.4%）であった。「就労していない」人の割合が高かったのは麻布地区で51.7%、次いで芝浦港南地区で45.3%、高輪地区が43.9%、赤坂地区が41.4%、芝地区が40.8%であった。

表2-65 地区×母親の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	25	8.2%	12	3.9%	106	34.9%	27	8.9%	10	3.3%	124	40.8%	304	100.0%
麻布地区	30	7.5%	16	4.0%	115	28.6%	25	6.2%	8	2.0%	208	51.7%	402	100.0%
赤坂地区	28	11.2%	18	7.2%	78	31.1%	16	6.4%	7	2.8%	104	41.4%	251	100.0%
高輪地区	33	6.6%	32	6.4%	158	31.8%	41	8.2%	15	3.0%	218	43.9%	497	100.0%
芝浦港南地区	23	3.0%	40	5.3%	275	36.4%	59	7.8%	16	2.1%	342	45.3%	755	100.0%
合計	139	6.3%	118	5.3%	732	33.1%	168	7.6%	56	2.5%	996	45.1%	2,209	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=46.644$  自由度=20  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### ③父母の地域活動について

父親が参加している地域活動について複数回答で尋ねた結果を、地区別に集計した（表2-66）。5地区とも「参加していない」が最も高く、芝

地区（79.9%）、麻布地区（79.1%）、高輪地区（80.0%）は8割程度で、赤坂地区は83.3%、芝浦港南地区は84.2%であった。

表2-66 地区×父親が参加している地域活動（複数回答）

	趣味（お花・お茶・料理・手芸など）		健康づくりの活動（スポーツ・ヨガなど）		PTAや学校、子育てに関する社会活動		ボランティア・NPO活動などの社会活動		町会・自治会		その他		参加していない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区（n=289）	2	0.7%	13	4.5%	16	5.5%	8	2.8%	32	11.1%	2	0.7%	231	79.9%
麻布地区（n=368）	8	2.2%	23	6.3%	23	6.3%	12	3.3%	35	9.5%	6	1.6%	291	79.1%
赤坂地区（n=240）	10	4.2%	10	4.2%	5	2.1%	5	2.1%	14	5.8%	3	1.3%	200	83.3%
高輪地区（n=456）	9	2.0%	18	3.9%	27	5.9%	8	1.8%	35	7.7%	12	2.6%	365	80.0%
芝浦港南地区（n=707）	3	0.4%	27	3.8%	30	4.2%	14	2.0%	46	6.5%	14	2.0%	595	84.2%
合計	32	1.6%	91	4.4%	101	4.9%	47	2.3%	162	7.9%	37	1.8%	1,682	81.7%

※無回答は集計から除く。

母親が参加している地域活動について地区別に集計したものが表2-67である。「参加していない」と回答した人の割合は、芝地区（66.0%）、赤坂地区（66.3%）、芝浦港南地区（66.6%）が6割半、麻布地区（59.8%）、高輪地区（61.7%）が6割程度であった。

「趣味（お花・お茶・料理・手芸など）」についてはどの地区も1割に満たず、なかでも芝浦港南地区は4.5%、高輪地区は5.3%でより低い割合であった。「健康づくりの活動（スポーツ・ヨ

ガなど）」については5地区とも1割前後であったが、麻布地区（11.1%）と赤坂地区（12.9%）では1割を超え、比較的高かった。「PTAや学校、子育てに関する社会活動」に参加している人の割合は、芝地区（18.5%）と芝浦港南地区（19.2%）では2割弱、麻布地区（22.3%）と高輪地区（23.8%）では2割強であったが、赤坂地区では13.7%で5地区中最も低い割合であった。

「町会・自治会」については芝浦港南地区は2.8%と低く、他の4地区も5～6%程度であった。

表2-67 地区×母親が参加している地域活動（複数回答）

	趣味（お花・お茶・料理・手芸など）		健康づくりの活動（スポーツ・ヨガなど）		PTAや学校、子育てに関する社会活動		ボランティア・NPO活動などの社会活動		町会・自治会		その他		参加していない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区（n=303）	23	7.6%	28	9.2%	56	18.5%	8	2.6%	19	6.3%	10	3.3%	200	66.0%
麻布地区（n=386）	23	6.0%	43	11.1%	86	22.3%	13	3.4%	25	6.5%	22	5.7%	231	59.8%
赤坂地区（n=255）	25	9.8%	33	12.9%	35	13.7%	6	2.4%	17	6.7%	5	2.0%	169	66.3%
高輪地区（n=470）	25	5.3%	41	8.7%	112	23.8%	11	2.3%	26	5.5%	28	6.0%	290	61.7%
芝浦港南地区（n=739）	33	4.5%	69	9.3%	142	19.2%	9	1.2%	21	2.8%	32	4.3%	492	66.6%
合計	129	6.0%	214	9.9%	431	20.0%	47	2.2%	108	5.0%	97	4.5%	1,382	64.2%

※無回答は集計から除く。



(5) 子育ての状況

①家族以外に預け合う相手

家族以外に子育てについて会話する相手については地区別に違いはなかったが、家族以外に子どもを預けたり預かったりする相手については、その有無の割合に違いが見られた(表2-68)。

「家族以外に預ける相手がいる」と回答した人の割合が5地区中最も高かったのは麻布地区で、27.6%であった。次いで高輪地区が24.1%、芝浦港南地区が23.5%、赤坂地区が22.6%であった。芝地区は16.9%と低く、83.1%の人が「家族以外に預ける相手はいない」と回答している。

表2-68 地区×家族以外に預け合う相手

	家族以外に預ける相手がいる		家族以外に預ける相手はいない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	53	16.9%	261	83.1%	314	100.0%
麻布地区	114	27.6%	299	72.4%	413	100.0%
赤坂地区	60	22.6%	206	77.4%	266	100.0%
高輪地区	122	24.1%	384	75.9%	506	100.0%
芝浦港南地区	180	23.5%	585	76.5%	765	100.0%
合計	529	23.4%	1,735	76.6%	2,264	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=11.785 自由度=4  
p=0.019\* \* p < 0.05

②緊急時の支援者

回答者が病気などの時に、子どもや回答者の身の回りの世話をしてくれる人について、地区別に集計した(表2-69)。

5地区とも、「同居の家族」と回答した人の割合が最も高かった。なかでも芝浦港南地区は57.5%で5地区中最も高く、次いで麻布地区が55.7%、高輪地区が53.0%であった。芝地区は50.5%でやや低く、赤坂地区は47.0%で5地区中

最も低い値を示した。

「親戚(別居の家族を含む)」については、「同居の家族」の割合が高かった麻布地区と芝浦港南地区で比較的低く、それぞれ26.6%、28.3%であった。そのほか、芝地区は30.2%、赤坂地区は32.0%、高輪地区は32.4%であった。

「誰もいない」と回答した人の割合は、5地区とも大きな差は見られ、7~8%程度であった。

表2-69 地区×病気の時に身の回りの世話をしてくれる人(複数回答)

	同居の家族		親戚(別居の家族を含む)		保育園・幼稚園の友人		3以外の子どもを通して知り合った友人		職場の人		5以外のあなた自身の友人		民間のベビーシッターなどのサービス		こむすび、あい・ぼーなどのサービス		その他		誰もいない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区(n=315)	159	50.5%	95	30.2%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	18	5.7%	7	2.2%	5	1.6%	28	8.9%
麻布地区(n=413)	230	55.7%	110	26.6%	1	0.2%	2	0.5%	0	0.0%	3	0.7%	24	5.8%	6	1.5%	5	1.2%	32	7.7%
赤坂地区(n=266)	125	47.0%	85	32.0%	5	1.9%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	14	5.3%	7	2.6%	5	1.9%	23	8.6%
高輪地区(n=509)	270	53.0%	165	32.4%	5	1.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%	23	4.5%	3	0.6%	3	0.6%	38	7.5%
芝浦港南地区(n=767)	441	57.5%	217	28.3%	10	1.3%	1	0.1%	0	0.0%	4	0.5%	16	2.1%	10	1.3%	5	0.7%	63	8.2%
合計	1,225	54.0%	672	29.6%	22	1.0%	5	0.2%	3	0.1%	8	0.4%	95	4.2%	33	1.5%	23	1.0%	184	8.1%

※無回答は集計から除く。

③近所で他の子どもと遊ぶ頻度

近所でほかの子どもと遊ばせる頻度について、地区別に集計した(表2-70)。

「ほぼ毎日/週に2・3回」と回答した世帯の

割合が最も低かったのは赤坂地区で23.7%であった。麻布地区と芝浦港南地区では33%であり、10ポイント程度の差がある。

「ほとんどない」と回答した世帯の割合につい

ては、より大きな差が見られた。芝地区と高輪地区では44%程度、芝浦港南地区では40.5%で、4割から4割半程度であったが、赤坂地区は53.4%

と半分を超え、5地区中最も高かった。一方、5地区中最も低かったのは麻布地区で38.4%で、赤坂地区とは15ポイントの差があった。

表2-70 他の子どもと遊ぶ頻度

	ほぼ毎日／週に2・3回		月に3・4回		ほとんどない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	83	26.6%	89	28.5%	140	44.9%	312	100.0%
麻布地区	135	33.3%	115	28.3%	156	38.4%	406	100.0%
赤坂地区	62	23.7%	60	22.9%	140	53.4%	262	100.0%
高輪地区	141	28.2%	139	27.8%	220	44.0%	500	100.0%
芝浦港南地区	254	33.4%	198	26.1%	308	40.5%	760	100.0%
合計	675	30.1%	601	26.8%	964	43.0%	2,240	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=22.167 自由度=8 p=0.005\* \* p<0.05

#### ④近所で他の子どもと遊ぶようになったきっかけ（複数回答）

近所でほかの子どもと遊ぶようになったきっかけについて複数回答で尋ね、その結果を地区別に集計した（表2-71）。

「子どもが生まれる前からの付き合い」の割合が5地区中最も高かったのは芝地区で26.2%であった。そのほか、麻布地区（23.0%）、赤坂地区（22.1%）、高輪地区（20.2%）の3地区も2割程度であった。一方、芝浦港南地区では13.7%と低い割合を示した。

「両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しく

なった」と回答した人の割合が高かったのは芝浦港南地区で40.1%と4割にのぼった。芝地区は33.1%、麻布地区は28.6%、高輪地区は27.4%で3割前後であった。最も割合が低かったのは赤坂地区で、18.0%と芝浦港南地区の半分以下であった。

「産院・病院が一緒であった」と回答した人の割合が最も高かったのは麻布地区で20.6%であった。次いで高輪地区が16.2%、赤坂地区が13.1%、芝地区が11.6%であった。芝浦港南地区は9.1%で最も低く、1割に満たなかった。

表2-71 地区×近所で他の子どもと遊ぶようになったきっかけ（複数回答）

	子どもが生まれる前からの付き合い		両親学級やうさちゃんくらぶなどで親しくなった		産院・病院が一緒であった		近所や公園などで子どもを連れていくときに出会った		保育園や幼稚園を通して親しくなった		子ども家庭支援センター・子育てひろばなどで出会った		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=172)	45	26.2%	57	33.1%	20	11.6%	49	28.5%	73	42.4%	46	26.7%	16	9.3%
麻布地区 (n=248)	57	23.0%	71	28.6%	51	20.6%	78	31.5%	115	46.4%	75	30.2%	26	10.5%
赤坂地区 (n=122)	27	22.1%	22	18.0%	16	13.1%	35	28.7%	59	48.4%	39	32.0%	9	7.4%
高輪地区 (n=277)	56	20.2%	76	27.4%	45	16.2%	93	33.6%	140	50.5%	63	22.7%	31	11.2%
芝浦港南地区 (n=451)	62	13.7%	181	40.1%	41	9.1%	147	32.6%	238	52.8%	124	27.5%	36	8.0%
合計	247	19.4%	407	32.0%	173	13.6%	402	31.7%	625	49.2%	347	27.3%	118	9.3%

※無回答は集計から除く。

### ⑤子どもについての悩みと相談先の有無

子どもについての悩みの有無は、テーマ別にみても地区による違いは見られない。しかし、悩みの相談先の有無については、「保育園・幼稚園に関する悩みの相談先」について、地区による違いが見られた（表2-72）。相談先が「ない」と回答した人の割合を見ると、芝地区、麻布地区、赤坂地区、高輪地区の4地区は、54～58%程度であるが、芝浦港南地区だけは68.1%と7割弱にものぼっており、10ポイント以上の差が見られた。

表2-72 地区×保育園・幼稚園についての悩みの相談先の有無

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	73	57.9%	53	42.1%	126	100.0%
麻布地区	91	57.6%	67	42.4%	158	100.0%
赤坂地区	62	54.9%	51	45.1%	113	100.0%
高輪地区	106	56.7%	81	43.3%	187	100.0%
芝浦港南地区	196	68.1%	92	31.9%	288	100.0%
合計	528	60.6%	344	39.4%	872	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=10.427 自由度=4  
p=0.034\* \* p < 0.05

### ⑥ふだんの様子（イライラや不安など）

「イライラする」「子どもを大声で怒る」「子どもに衝動的に手を上げる」「自分の子育てに不安を感じる」ようなことがあるか尋ねた結果を、地区別に集計した。このうち、「子どもに衝動的に手を上げる」以外の3項目については、地区により違いが見られた。

表2-73 地区×イライラする

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	121	38.8%	191	61.2%	312	100.0%
麻布地区	144	35.1%	266	64.9%	410	100.0%
赤坂地区	96	36.4%	168	63.6%	264	100.0%
高輪地区	183	36.2%	322	63.8%	505	100.0%
芝浦港南地区	222	29.3%	536	70.7%	758	100.0%
合計	766	34.1%	1,483	65.9%	2,249	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=12.680 自由度=4  
p=0.013\* \* p < 0.05

ふだん「イライラする」と回答した人の割合を地区別に示したものが表2-73である。ふだんイライラすることが「ある」と回答した人の割合は、芝地区、麻布地区、赤坂地区、高輪地区では6割から6割半程度であったが、芝浦港南地区では7割を占めている。

「子どもを大声で怒る」ことの有無について地区別に集計したものが表2-74である。ふだん子どもを大声で怒ることが「ある」と回答した人の割合は、芝地区、麻布地区、赤坂地区、高輪地区では4割前後であったのに対し、芝浦港南地区では48.3%と5割弱であった。

表2-74 地区×子どもを大声で怒る

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	189	60.6%	123	39.4%	312	100.0%
麻布地区	235	57.5%	174	42.5%	409	100.0%
赤坂地区	154	58.1%	111	41.9%	265	100.0%
高輪地区	292	58.1%	211	41.9%	503	100.0%
芝浦港南地区	394	51.7%	368	48.3%	762	100.0%
合計	1,264	56.2%	987	43.8%	2,251	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=10.033 自由度=4  
p=0.040\* \* p < 0.05

続く表2-75は、「自分の子育てに不安がある」についての回答を、地区別に集計したものである。自分の子育てに不安があるかについて「ある」と回答した人の割合は、芝地区では最も低く34.3%で、麻布地区（37.0%）、赤坂地区（38.5%）、高輪地区（36.3%）は3割半から4割弱程度を占めた。一方、芝浦港南地区は、44.6%と4割半近くを占めた。

表2-75 地区×自分の子育てに不安がある

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	205	65.7%	107	34.3%	312	100.0%
麻布地区	255	63.0%	150	37.0%	405	100.0%
赤坂地区	161	61.5%	101	38.5%	262	100.0%
高輪地区	320	63.7%	182	36.3%	502	100.0%
芝浦港南地区	418	55.4%	337	44.6%	755	100.0%
合計	1,359	60.8%	877	39.2%	2,236	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=15.175 自由度=4  
p=0.004\* \* p < 0.05

## ⑦子どもの習い事の費用について

宛名の子ども1人に対し、習い事や通信教育に費用を尋ね、地区別に集計した(表2-76)。

「0円=ない」と回答した世帯の割合が最も高かったのは芝地区で44.6%、次いで高輪地区が41.8%、赤坂地区が37.9%、芝浦港南地区が35.4%、麻布地区が34.6%であった。「5千円未満」と回答した世帯の割合は、芝浦港南地区が最も高く13.3%で、そのほかの4地区は1割前後であった。「5千円以上1万円未満」についても、

同様に芝浦港南地区がやや高めで9.3%、そのほかは5~6%程度であった。「1万円以上2万円未満」については、芝浦港南地区が17.8%と高く、赤坂地区は14.8%、芝地区、麻布地区、高輪地区は11~12%程度であった。「2万円以上3万円未満」については、麻布地区、高輪地区、芝浦港南地区が1割程度、そのほかは7~8%程度であった。「10万円以上」の世帯の割合が最も高かった地区は赤坂地区で7.4%、次いで麻布地区で6.4%であった。

表2-76 地区×習い事や通信教育の費用(月額)

	0円		5千円未満		5千円以上 1万円未満		1万円以上 2万円未満		2万円以上 3万円未満		3万円以上 5万円未満		5万円以上 10万円未満		10万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	135	44.6%	30	9.9%	17	5.6%	35	11.6%	21	6.9%	32	10.6%	23	7.6%	10	3.3%	303	100.0%
麻布地区	140	34.6%	42	10.4%	26	6.4%	48	11.9%	47	11.6%	38	9.4%	38	9.4%	26	6.4%	405	100.0%
赤坂地区	97	37.9%	29	11.3%	15	5.9%	38	14.8%	20	7.8%	19	7.4%	19	7.4%	19	7.4%	256	100.0%
高輪地区	204	41.8%	52	10.7%	33	6.8%	62	12.7%	51	10.5%	45	9.2%	28	5.7%	13	2.7%	488	100.0%
芝浦港南地区	263	35.4%	99	13.3%	69	9.3%	132	17.8%	74	10.0%	59	7.9%	30	4.0%	17	2.3%	743	100.0%
合計	839	38.2%	252	11.5%	160	7.3%	315	14.4%	213	9.7%	193	8.8%	138	6.3%	85	3.9%	2,195	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=71.803 自由度=28 p=0.000\* \* p<0.05

## (6) 港区で実施している事業について

港区で実施している子育て支援について「よく利用する」「たまに利用する」「知っているが利用したことはない」「知らない」と回答した人の割合を地区別に集計し、地区により違いが見られたものを以下に掲載する。

## ①バースデイ歯科健診(保健所)

バースデイ歯科健診については(表2-77)、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人の割合が高かったのは芝浦港南地区(21.5%、24.3%)で、最も低かったのは赤坂地区(13.8%、16.1%)であった。赤坂地区は、「知っているが利用したことがない」(43.7%)、「知らない」(26.4%)と回答した人の割合が5地区中最も高かった。

表2-77 地区×バースデイ歯科健診(保健所)

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用 したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	52	17.3%	61	20.3%	122	40.5%	66	21.9%	301	100.0%
麻布地区	75	18.7%	79	19.7%	163	40.5%	85	21.1%	402	100.0%
赤坂地区	35	13.8%	41	16.1%	111	43.7%	67	26.4%	254	100.0%
高輪地区	76	15.7%	90	18.6%	206	42.5%	113	23.3%	485	100.0%
芝浦港南地区	162	21.5%	183	24.3%	267	35.5%	140	18.6%	752	100.0%
合計	400	18.2%	454	20.7%	869	39.6%	471	21.5%	2,194	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=29.826 自由度=12 p=0.003\* \* p<0.05

### ②すくすく育児相談（保健所）

すくすく育児相談について（表2-78）、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人の割合が最も低かったのは赤坂地区（3.5%、14.5%）で、「知らない」と回答した人の割合も5地区中最も

高かった（37.5%）。そのほかの地区では、「よく利用する」と「たまに利用する」を合わせて、すくすく育児相談を利用している人の割合は2割から2割半程度であった。

表2-78 地区×すくすく育児相談（保健所）

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	21	7.0%	52	17.3%	147	48.8%	81	26.9%	301	100.0%
麻布地区	19	4.7%	77	19.1%	184	45.7%	123	30.5%	403	100.0%
赤坂地区	9	3.5%	37	14.5%	114	44.5%	96	37.5%	256	100.0%
高輪地区	24	4.9%	82	16.9%	242	49.9%	137	28.2%	485	100.0%
芝浦港南地区	22	3.0%	166	22.3%	369	49.5%	188	25.2%	745	100.0%
合計	95	4.3%	414	18.9%	1,056	48.2%	625	28.5%	2,190	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=30.451$  自由度=12  $p=0.002^*$  \*  $p < 0.05$

### ③乳幼児一時預かり・子育てひろば

乳幼児一時預かり・子育てひろばについて（表2-79）、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人の割合が高かったのは芝浦港南地区で、それぞれ11.3%、29.0%と5地区中最も高い値を示した。反対に、割合が低かったのは「よく利用する」については芝地区（6.3%）、「たまに利

用する」については高輪地区（18.1%）であった。芝地区と高輪地区は「知っているが利用したことがない」人の割合が高く（49.7%、54.8%）、事業は知っているものの、利用に至っていない人が多いことがわかる。一方、「知らない」と回答した人の割合が高かったのは麻布地区で、20.6%であった。

表2-79 地区×乳幼児一時預かり・子育てひろば

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	19	6.3%	78	26.0%	149	49.7%	54	18.0%	300	100.0%
麻布地区	26	6.5%	101	25.1%	193	47.9%	83	20.6%	403	100.0%
赤坂地区	23	9.1%	65	25.6%	122	48.0%	44	17.3%	254	100.0%
高輪地区	41	8.4%	89	18.1%	269	54.8%	92	18.7%	491	100.0%
芝浦港南地区	84	11.3%	216	29.0%	333	44.7%	112	15.0%	745	100.0%
合計	193	8.8%	549	25.0%	1,066	48.6%	385	17.6%	2,193	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=35.665$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### ④派遣型一時保育・育児サポート

派遣型一時保育・育児サポートについては、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人の割合は全体に低い。5地区とも、「知っている

が利用したことがない」と回答した人の割合が、5割強から6割弱を占めている。「知らない」と回答した人の割合が高かったのは芝浦港南地区で、40.2%であった。

表2-80 地区×派遣型一時保育・育児サポート

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	2	0.7%	12	4.0%	170	56.5%	117	38.9%	301	100.0%
麻布地区	15	3.7%	26	6.5%	213	53.1%	147	36.7%	401	100.0%
赤坂地区	7	2.7%	19	7.4%	150	58.6%	80	31.3%	256	100.0%
高輪地区	22	4.5%	22	4.5%	258	53.2%	183	37.7%	485	100.0%
芝浦港南地区	7	0.9%	26	3.5%	414	55.3%	301	40.2%	748	100.0%
合計	53	2.4%	105	4.8%	1,205	55.0%	828	37.8%	2,191	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=37.485$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### ⑤子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターについては（表2-81）、「よく利用する」と回答した人の割合が高かったのは芝地区（11.0%）、麻布地区（9.0%）であった。赤坂地区、高輪地区、芝浦港南地区は3～4%程度であった。「たまに利用する」についても、最も割合が高かったのは芝地区で26.1%であった。次いで麻布地区が17.3%、芝浦港南地区

が16.2%であった。「知っているが利用したことがない」人の割合は、芝浦港南地区が47.0%と最も高く、次いで高輪地区が44.5%、赤坂地区が41.4%であった。「知らない」と回答した人の割合が高かったのは赤坂地区で、45.3%にのぼった。子ども家庭支援センターへの行きやすさなど地理的な条件も影響しているのではと推測される。

表2-81 地区×子ども家庭支援センター

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	33	11.0%	78	26.1%	105	35.1%	83	27.8%	299	100.0%
麻布地区	36	9.0%	69	17.3%	143	35.8%	152	38.0%	400	100.0%
赤坂地区	10	3.9%	24	9.4%	106	41.4%	116	45.3%	256	100.0%
高輪地区	15	3.1%	61	12.6%	216	44.5%	193	39.8%	485	100.0%
芝浦港南地区	25	3.3%	121	16.2%	352	47.0%	251	33.5%	749	100.0%
合計	119	5.4%	353	16.1%	922	42.1%	795	36.3%	2,189	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=95.948$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### ⑥児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業

児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業については（表2-82）、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人の割合が高かったのは高

輪地区（21.7%、35.8%）であった。「知らない」と回答した人の割合が最も高かったのは麻布地区で35.2%であった。

表2-82 地区×児童館・子ども中高生プラザでの乳幼児事業

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	33	10.9%	85	28.1%	85	28.1%	99	32.8%	302	100.0%
麻布地区	50	12.5%	104	25.9%	106	26.4%	141	35.2%	401	100.0%
赤坂地区	41	16.0%	62	24.1%	73	28.4%	81	31.5%	257	100.0%
高輪地区	106	21.7%	175	35.8%	123	25.2%	85	17.4%	489	100.0%
芝浦港南地区	140	18.7%	250	33.5%	194	26.0%	163	21.8%	747	100.0%
合計	370	16.8%	676	30.8%	581	26.5%	569	25.9%	2,196	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=73.989 自由度=12 p=0.000\* \* p < 0.05

⑦みなとっこ（区立保育園での在宅子育て支援）

みなとっこ（区立保育園での在宅子育て支援）については（表2-83）、「知っているが利用したことがない」と回答した人の割合が最も高かったのは高輪地区で51.0%、次いで芝浦港南地区

で46.5%であった。また、「知らない」と回答した人の割合が5地区中最も高かったのは麻布地区で56.7%、次いで赤坂地区が53.9%、芝地区が52.3%であった。

表2-83 地区×みなとっこ（区立保育園での在宅子育て支援）

	よく利用する		たまに利用する		知っているが利用したことがない		知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	5	1.7%	10	3.3%	129	42.7%	158	52.3%	302	100.0%
麻布地区	2	0.5%	18	4.5%	155	38.4%	229	56.7%	404	100.0%
赤坂地区	2	0.8%	9	3.5%	107	41.8%	138	53.9%	256	100.0%
高輪地区	3	0.6%	25	5.1%	248	51.0%	210	43.2%	486	100.0%
芝浦港南地区	13	1.7%	56	7.5%	348	46.5%	332	44.3%	749	100.0%
合計	25	1.1%	118	5.4%	987	44.9%	1,067	48.6%	2,197	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=39.542 自由度=12 p=0.000\* \* p < 0.05

2 小学生の保護者の地域別の特徴

小学生の保護者に対するアンケート調査の結果についても、5総合支所の地区別にクロス集計を行った。

(1) 子どもの学年の分布

子どもの学年について、「1・2年生」、「3・4年生」、「5・6年生」の3つに分け、地区別の分布を見たものが表2-84である。

芝地区は「5・6年生」が最も多く41.5%を占め、次いで「1・2年生」が32.7%、「3・4年生」が25.8%であった。麻布地区は「1・2年生」が最も多く44.6%、次いで「3・4年生」

が28.6%、「5・6年生」が26.8%であった。赤坂地区は、「1・2年生」が最も多く46.5%を占め、5地区中でも最も高い割合を示した。次いで「3・4年生」が29.0%、「5・6年生」が24.5%であった。高輪地区は「1・2年生」が最も多く38.9%、次いで「5・6年生」が31.5%、「3・4年生」が29.6%であった。芝浦港南地区は「1・2年生」が最も多く42.5%、次いで「3・4年生」が32.5%、「5・6年生」が25.0%であった。

麻布地区、赤坂地区、高輪地区、芝浦港南地区の4地区は「1・2年生」の割合が高く、芝地区は「5・6年生」の割合が高いことがわかる。

表2-84 地区×学年（3区分）

	1・2年生		3・4年生		5・6年生		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	52	32.7%	41	25.8%	66	41.5%	159	100.0%
麻布地区	123	44.6%	79	28.6%	74	26.8%	276	100.0%
赤坂地区	93	46.5%	58	29.0%	49	24.5%	200	100.0%
高輪地区	147	38.9%	112	29.6%	119	31.5%	378	100.0%
芝浦港南地区	199	42.5%	152	32.5%	117	25.0%	468	100.0%
合計	614	41.5%	442	29.8%	425	28.7%	1,481	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=21.610$  自由度=8  $p=0.006^*$  \*  $p < 0.05$

## （2）居住年数と住宅の種類

### ①居住年数

居住年数について地区別に集計した（表2-85）。

芝地区は「5～9年」が最も高く35.8%を占め、次いで「10年以上」が28.9%であった。「1・2年」は19.5%、「3・4年」は15.7%であり、居住年数が5年未満の世帯は35.2%であった。麻布地区は、「1・2年」が31.0%、「10年以上」が31.4%でどちらも3割ずつを占めている。「1・2年」と「3・4年」を合わせて、居住年数が5年未満の世帯は47.1%で半分弱を占めた。赤坂地区は、「1・2年」が22.6%、「3・4年」が20.1%で、居住年数が5年未満の世帯は42.7%と4割程度を占め、「5～9年」は30.2%と最も高く、

「10年以上」は27.1%であった。比較的居住年数が長い方に寄っている。高輪地区は、「5～9年」が31.2%、「10年以上」が32.8%でどちらも3割ずつを占め、やはり比較的居住年数が長い方に寄っている。「1・2年」(23.2%)と「3・4年」(12.8%)を合わせて、36.0%の世帯が5年未満である。芝浦港南地区は、「1・2年」「3・4年」とともに11.2%で、居住年数が5年未満の世帯が22.4%と、5地区中最も低い。また、「10年以上」の世帯のわりあいは15.3%で、やはり5地区中最も低い割合である。一方で「5～9年」の世帯の割合は62.4%と突出して高くなっており、この時期に集中して入居してきていることがわかる。

表2-85 地区×居住年数

	1・2年		3・4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	31	19.5%	25	15.7%	57	35.8%	46	28.9%	159	100.0%
麻布地区	85	31.0%	44	16.1%	59	21.5%	86	31.4%	274	100.0%
赤坂地区	45	22.6%	40	20.1%	60	30.2%	54	27.1%	199	100.0%
高輪地区	87	23.2%	48	12.8%	117	31.2%	123	32.8%	375	100.0%
芝浦港南地区	52	11.2%	52	11.2%	290	62.4%	71	15.3%	465	100.0%
合計	300	20.4%	209	14.2%	583	39.6%	380	25.8%	1,472	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=172.153$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

### ②住宅の種類

次に、住宅の種類について地区別に集計した（表2-86）。どの地区も、最も高い割合を占めたのは「持ち家」である。芝地区は、「持ち家」が57.2%、「民間の賃貸住宅」が21.4%であっ

た。「都営・区営・UR等」は10.1%で、5地区中2番目に高い割合を示した。「社宅・公務員住宅」についても、10.7%で5地区中2番目に高かった。麻布地区は、「持ち家」が51.1%で、5地区中最も低い値であった。一方、「民間の賃貸



住宅」は39.5%で5地区中最も高かった。赤坂地区は、「持ち家」が55.0%、「民間の賃貸住宅」が20.5%、「都営・区営・UR等」が9.5%であった。また、「社宅・公務員住宅」が14.0%と5地区中最も高いことが特徴である。高輪地区は、「持ち家」が65.9%で5地区中2番目に高い割合を示し

た。「民間の賃貸住宅」は27.0%であった。芝浦港南地区は「持ち家」が70.4%で5地区中最も高く、「民間の賃貸住宅」は8.1%で5地区中最も低かった。また、「都営・区営・UR等」が15.8%で5地区中最も高い割合を示した。

表2-86 地区×住宅の種類

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	91	57.2%	34	21.4%	16	10.1%	17	10.7%	1	0.6%	159	100.0%
麻布地区	141	51.1%	109	39.5%	2	0.7%	19	6.9%	5	1.8%	276	100.0%
赤坂地区	110	55.0%	41	20.5%	19	9.5%	28	14.0%	2	1.0%	200	100.0%
高輪地区	249	65.9%	102	27.0%	10	2.6%	13	3.4%	4	1.1%	378	100.0%
芝浦港南地区	329	70.4%	38	8.1%	74	15.8%	24	5.1%	2	0.4%	467	100.0%
合計	920	62.2%	324	21.9%	121	8.2%	101	6.8%	14	0.9%	1,480	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ③世帯年収

世帯年収について地区別に集計した(表2-87)。

5地区とも、最も割合が高いのは「1,000～2,000万円未満」で、3割から3割半程度を占めている。「400万円未満」は、どの地区も1割程度を占めたが、赤坂地区は13.5%と他地区に比べてやや高い割合を示した。「500～700万円未満」については、麻布地区(9.7%)、赤坂地区(9.7%)、高輪地区(11.9%)が1割程度、芝地区がやや高く13.6%、芝浦港南地区が最も高く15.5%であっ

た。「700～1,000万円」については、芝地区と麻布地区が17.0%、赤坂地区(19.5%)と高輪地区(19.8%)が2割弱であったのに対し、芝浦港南地区は24.7%と5地区中最も高い割合を示した。「2,000万円以上」については、麻布地区が23.9%と5地区中最も高く、次いで赤坂地区が19.5%、芝地区が17.0%、高輪地区が15.3%であった。芝浦港南地区は8.2%で5地区中最も低い割合を示した。

表2-87 地区×世帯年収

	400万円未満		400～500万円未満		500～700万円未満		700～1,000万円未満		1,000～2,000万円未満		2,000万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	17	11.6%	14	9.5%	20	13.6%	25	17.0%	46	31.3%	25	17.0%	147	100.0%
麻布地区	27	10.9%	13	5.3%	24	9.7%	42	17.0%	82	33.2%	59	23.9%	247	100.0%
赤坂地区	25	13.5%	15	8.1%	18	9.7%	36	19.5%	55	29.7%	36	19.5%	185	100.0%
高輪地区	35	9.9%	21	5.9%	42	11.9%	70	19.8%	132	37.3%	54	15.3%	354	100.0%
芝浦港南地区	45	10.3%	21	4.8%	68	15.5%	108	24.7%	160	36.5%	36	8.2%	438	100.0%
合計	149	10.9%	84	6.1%	172	12.5%	281	20.5%	475	34.6%	210	15.3%	1,371	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=51.271$  自由度=20  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

## (3) 家族・祖父母の状況

## ① 家族構成

家族構成について地区別に集計した(表2-88)。5地区とも「父母と子」のいわゆる核家族の割合が圧倒的に高く、8割から9割であった。芝浦港南地区が90.8%と最も高い。「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居の世帯の割合は、赤坂地

区が8.5%で最も高く、芝浦港南地区が1.5%と最も低かった。「母と子」の世帯の割合は、5%から8%程度で、芝地区が8.8%と最も高く、芝浦港南地区が5.4%で最も低かった。「母と子と祖父または祖母」の世帯は、赤坂地区が4.5%で最も高く、次いで芝地区が3.8%であった。

表2-88 地区×家族構成

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	128	80.5%	8	5.0%	1	0.6%	0	0.0%	14	8.8%	6	3.8%	2	1.3%	159	100.0%
麻布地区	227	82.2%	15	5.4%	1	0.4%	1	0.4%	22	8.0%	6	2.2%	4	1.4%	276	100.0%
赤坂地区	158	79.0%	17	8.5%	0	0.0%	2	1.0%	14	7.0%	9	4.5%	0	0.0%	200	100.0%
高輪地区	318	84.1%	24	6.3%	2	0.5%	0	0.0%	25	6.6%	5	1.3%	4	1.1%	378	100.0%
芝浦港南地区	423	90.8%	7	1.5%	2	0.4%	1	0.2%	25	5.4%	8	1.7%	0	0.0%	466	100.0%
合計	1,254	84.8%	71	4.8%	6	0.4%	4	0.3%	100	6.8%	34	2.3%	10	0.7%	1,479	100.0%

※無回答は集計から除く。

## ② 祖父母の居住地

父方の祖父母との同居について、地区別に集計したものが表2-89である。

芝地区(86.5%)、麻布地区(85.8%)、赤坂地区(85.9%)、高輪地区(85.6%)では、8割半

程度が「同居していない」と回答しているが、芝浦港南地区は94.1%を占め、他の地区よりも高い割合を示した。芝浦港南地区は、父方の祖父母と同居する世帯の割合が、他地区に比べて低くなっている。

表2-89 地区×父方の祖父母との同居有無

	同居している		同居していない		同居していない(死去など)		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	5	3.2%	134	86.5%	16	10.3%	155	100.0%
麻布地区	16	6.0%	230	85.8%	22	8.2%	268	100.0%
赤坂地区	13	6.8%	165	85.9%	14	7.3%	192	100.0%
高輪地区	20	5.4%	315	85.6%	33	9.0%	368	100.0%
芝浦港南地区	5	1.1%	429	94.1%	22	4.8%	456	100.0%
合計	59	4.1%	1,273	88.5%	107	7.4%	1,439	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=27.236$  自由度=8  $p=0.001^*$  \*  $p<0.05$

母方の祖父母については、地区による差がなく、5地区とも9割前後が「同居していない」と回答している(表2-90)。

祖父母と同居していない世帯に対し、祖父母がどこに住んでいるかを尋ねたものを地区別に集計

した(表2-91)。

父方の祖父母については、「区内」と回答した世帯の割合が最も高かったのは芝地区で、14.3%であった。次いで、高輪地区(12.7%)、赤坂地区(12.5%)、麻布地区(11.0%)が1割強、芝

浦港南地区は4.7%であった。「都内」は2割から2割半程度であるが、5地区中最も低かったのは麻布地区で20.3%、最も高かったのは芝浦港南地区で25.0%であった。「都外」は、6割から7割を占めた。5地区中最も低かったのは芝地区で62.4%、最も高かったのは芝浦港南地区で70.3%であった。

母方の祖父母については、「区内」の割合にはばらつきが見られた。5地区中最も高かったのは高輪地区で14.4%、次いで芝地区で12.3%であったが、麻布地区では9.3%、芝浦港南地区は7.8%、赤坂地区は6.4%で1割未満であった。都内については、最も割合が高かったのは赤坂地区

で、30.2%にのぼった。次いで麻布地区が25.6%、5地区中最も低かったのは芝地区で18.1%であった。「都外」については、最も低かったのは赤坂地区で63.4%、最も高かったのは芝浦港南地区で71.3%であった。

芝浦港南地区は、父方・母方ともに祖父母が「都外」に居住する世帯の割合が高く、「区内」は1割に満たないことが特徴である。一方、芝地区、高輪地区はともに「区内」が1割を超えている。赤坂地区や麻布地区は、父方の祖父母は母方の祖父母に比べて「区内」の割合が高く、「都内」の割合が低い傾向にある。

表2-91 地区×父方・母方の祖父母の住まい

	父方の祖父母							
	区内		都内		都外		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	19	14.3%	31	23.3%	83	62.4%	133	100.0%
麻布地区	25	11.0%	46	20.3%	156	68.7%	227	100.0%
赤坂地区	20	12.5%	39	24.4%	101	63.1%	160	100.0%
高輪地区	40	12.7%	66	21.0%	208	66.2%	314	100.0%
芝浦港南地区	20	4.7%	106	25.0%	298	70.3%	424	100.0%
合計	124	9.9%	288	22.9%	846	67.2%	1,258	100.0%
	母方の祖父母							
	区内		都内		都外		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	17	12.3%	25	18.1%	96	69.6%	138	100.0%
麻布地区	23	9.3%	63	25.6%	160	65.0%	246	100.0%
赤坂地区	11	6.4%	52	30.2%	109	63.4%	172	100.0%
高輪地区	48	14.4%	71	21.3%	214	64.3%	333	100.0%
芝浦港南地区	33	7.8%	88	20.9%	301	71.3%	422	100.0%
合計	132	10.1%	299	22.8%	880	67.1%	1,311	100.0%

※無回答は集計から除く。

父方の祖父母： $\chi^2=21.821$  自由度=8  $p=0.005^*$  \*  $p < 0.05$

母方の祖父母： $\chi^2=21.015$  自由度=8  $p=0.007^*$  \*  $p < 0.05$

### ③祖父母からの援助

祖父母からどのような援助を受けているか（複数回答）を地区別に集計した（表2-92）。「金銭的援助」については2割前後を占め、芝地区では23.9%と5地区中最も高く、芝浦港南地区では18.8%と5地区中最も低かった。「子どもを預かるなどの援助」については、5地区とも最も

高い割合を示した。麻布地区（67.8%）、赤坂地区（65.0%）、高輪地区（64.7%）では6割半程度、芝地区では55.0%、芝浦港南地区では52.7%と5割台であった。「住宅の提供」については、芝地区（13.8%）、麻布地区（16.1%）、赤坂地区（16.3%）、高輪地区（12.5%）では1割強から1割半程度を占めたのに対して、芝浦港南地

区ではわずか2.5%であった。「食料など物での援助」については、どの地区も4割を占め、「子どもを預かるなどの援助」に次いで高い割合であった。「掃除・家事などの援助」については、1割強から2割弱程度であった。最も高かったのは赤

坂地区で18.7%、最も低かったのは芝浦港南地区で12.3%であった。

なお、「祖父母が頼りになるか」という設問については、地区による差はなく、7割の世帯で「頼りになる」と回答している（表2-93）。

表2-92 地区×祖父母からの援助（複数回答）

	金銭的援助		子どもを預かるなどの援助		住宅の提供		食料など物での援助		掃除・家事などの援助		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=109)	26	23.9%	60	55.0%	15	13.8%	45	41.3%	17	15.6%	14	12.8%
麻布地区 (n=174)	36	20.7%	118	67.8%	28	16.1%	70	40.2%	28	16.1%	14	8.0%
赤坂地区 (n=123)	24	19.5%	80	65.0%	20	16.3%	48	39.0%	23	18.7%	11	8.9%
高輪地区 (n=255)	50	19.6%	165	64.7%	32	12.5%	102	40.0%	35	13.7%	24	9.4%
芝浦港南地区 (n=277)	52	18.8%	146	52.7%	7	2.5%	112	40.4%	34	12.3%	45	16.2%
合計	188	20.0%	569	60.7%	102	10.9%	377	40.2%	137	14.6%	108	11.5%

※無回答は集計から除く。

#### （４）父母の仕事について

##### ①生計中心者の職業

生計を主に支えている人の職業を尋ね、地区別に集計した（表2-94）。芝地区、麻布地区は「自営業・会社経営」の割合が他地区よりも高く3割を占め、それぞれ31.0%、31.3%を占めた。赤坂地区は28.6%、高輪地区は24.1%、芝浦港南地区

は5地区中最も低く18.7%であった。「公務員・団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」については、芝地区と赤坂地区で12%であった。「民間企業の常勤的勤務者」の割合は、どの地区も最も高い割合を占めた。芝地区、麻布地区、赤坂地区では52%程度、高輪地区では62.4%、芝浦港南地区では66.8%を占めた。

表2-94 地区×生計中心者の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	49	31.0%	19	12.0%	83	52.5%	3	1.9%	3	1.9%	1	0.6%	158	100.0%
麻布地区	85	31.3%	20	7.4%	143	52.6%	6	2.2%	16	5.9%	2	0.7%	272	100.0%
赤坂地区	56	28.6%	24	12.2%	102	52.0%	6	3.1%	8	4.1%	0	0.0%	196	100.0%
高輪地区	89	24.1%	36	9.7%	231	62.4%	4	1.1%	8	2.2%	2	0.5%	370	100.0%
芝浦港南地区	86	18.7%	40	8.7%	308	66.8%	9	2.0%	12	2.6%	6	1.3%	461	100.0%
合計	365	25.1%	139	9.5%	867	59.5%	28	1.9%	47	3.2%	11	0.8%	1,457	100.0%

※無回答は集計から除く。

## ②共働きの有無

共働きの有無について、地区別に集計したものが表2-95である。

「共働きである」と回答した世帯の割合は、高輪地区が47.7%で5地区中最も高い割合を示した。次いで芝地区（44.3%）と赤坂地区（44.6%）が44%程度、芝浦港南地区が41.3%であった。麻布地区は31.9%で、5地区中最も低い割合であった。

表2-95 地区×共働きの有無

	共働きである		共働きではない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	70	44.3%	88	55.7%	158	100.0%
麻布地区	86	31.9%	184	68.1%	270	100.0%
赤坂地区	87	44.6%	108	55.4%	195	100.0%
高輪地区	177	47.7%	194	52.3%	371	100.0%
芝浦港南地区	190	41.3%	270	58.7%	460	100.0%
合計	610	42.0%	844	58.0%	1,454	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=17.366 自由度=4  
p=0.002\* \* p < 0.05

## (5) 子どもの学校について

### ①子どもが通っている学校の種類

子どもが通っている学校の公立の区分を尋ねたものを、地区別に集計した（表2-96）。「公立の学校」の割合が5地区中最も高かったのは芝浦港南地区で、91.2%を占めた。次いで、芝地区が83.5%、高輪地区が82.9%、赤坂地区が77.2%で、麻布地区は70.7%と5地区中最も低く、「私立の学校」の割合が29.3%とおよそ3割を占めた。

表2-96 地区×学校の種類

	公立の学校		私立の学校		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	132	83.5%	26	16.5%	158	100.0%
麻布地区	193	70.7%	80	29.3%	273	100.0%
赤坂地区	152	77.2%	45	22.8%	197	100.0%
高輪地区	311	82.9%	64	17.1%	375	100.0%
芝浦港南地区	424	91.2%	41	8.8%	465	100.0%
合計	1,212	82.6%	256	17.4%	1,468	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=54.839 自由度=4  
p=0.000\* \* p < 0.05

## ②学校の対応に問題を感じたことがあるか

いじめの有無については、地区による違いは見られなかったが、それに続く質問として、「学校の対応に問題を感じたことがあるか」については、地区による違いが見られた（表2-97）。

「ある」と回答した人の割合が5地区中最も高かったのは赤坂地区で、26.2%を占めた。次いで高輪地区が24.7%、芝地区が21.7%であった。麻布地区は17.9%とやや低く、芝浦港南地区は16.7%で、5地区中最も低い値であった。

表2-97 地区×学校の対応の問題

	ある		ない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	33	21.7%	119	78.3%	152	100.0%
麻布地区	46	17.9%	211	82.1%	257	100.0%
赤坂地区	49	26.2%	138	73.8%	187	100.0%
高輪地区	89	24.7%	272	75.3%	361	100.0%
芝浦港南地区	75	16.7%	374	83.3%	449	100.0%
合計	292	20.8%	1,114	79.2%	1,406	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=12.545 自由度=4  
p=0.014\* \* p < 0.05

### ③PTA活動への参加

保護者のPTA活動などへの参加について、地区別に集計した（表2-98）。「積極的に参加している」と回答した人の割合が高かったのは麻布地区で、25.9%であった。次いで、高輪地区が22.1%であった。5地区中最も低かったのは芝浦港南地区で、13.8%であった。

「参加している」と回答した人がどの地区も最も高い割合を占めている。5地区のなかでも最も高かったのは芝地区で、55.1%であった。5地区中最も低かったのは芝浦港南地区で、43.7%であった。

「あまり参加していない（できない）」については、芝浦港南地区が27.9%で最も高く、次いで赤坂地区が21.4%、最も低かったのは芝地区で16.7%であった。

「ほとんど参加していない（できない）」についても、最も高かったのは芝浦港南地区で14.6%、次いで赤坂地区で12.2%であった。

なお、部活動や少年野球チームなどのお世話を

表2-98 地区×保護者のPTAへの参加

	積極的に参加している		参加している		あまり参加していない(できない)		ほとんど参加していない(できない)		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	30	19.2%	86	55.1%	26	16.7%	14	9.0%	156	100.0%
麻布地区	69	25.9%	123	46.2%	47	17.7%	27	10.2%	266	100.0%
赤坂地区	37	18.9%	93	47.4%	42	21.4%	24	12.2%	196	100.0%
高輪地区	81	22.1%	182	49.7%	66	18.0%	37	10.1%	366	100.0%
芝浦港南地区	63	13.8%	200	43.7%	128	27.9%	67	14.6%	458	100.0%
合計	280	19.4%	684	47.4%	309	21.4%	169	11.7%	1,442	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=38.795$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

しているかどうかについては、地区による差は見られなかった。

#### (6) 子どもの様子

##### ①子どもの放課後の遊びの内容

学校が終わったあと、子どもが何をして遊んでいるか知っているかを尋ね、それを地区別に集計した(表2-99)。芝地区(50.6%)、赤坂地区(49.0%)、高輪地区(50.0%)では、「よく知っている」と回答した人が5割前後を占めた。芝浦港南地区は45.6%で5地区中最も低く、麻布地区は58.7%で5地区中最も高かった。次に「知って

いる」と回答した人の割合を見ると、芝浦港南地区(45.4%)と高輪地区(44.6%)では45%前後、赤坂地区では43.4%であったが、芝地区では38.0%とやや低くなり、麻布地区では34.9%で5地区中最も低かった。「よく知っている」と「知っている」合わせて、子どもが放課後何をして遊んでいるか知っていると回答した世帯の割合は、芝地区が88.6%で5地区中最も低く、麻布地区は93.6%、赤坂地区は92.4%、高輪地区は94.6%、芝浦港南地区は91.0%で、いずれも9割を超えた。芝地区では、「あまり知らない」と回答した人が10.8%で1割を超え、他地区に比べて高かった。

表2-99 地区×放課後の子どもの遊びについて知っているか

	よく知っている		知っている		あまり知らない		ほとんど知らない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	80	50.6%	60	38.0%	17	10.8%	1	0.6%	158	100.0%
麻布地区	158	58.7%	94	34.9%	12	4.5%	5	1.9%	269	100.0%
赤坂地区	96	49.0%	85	43.4%	12	6.1%	3	1.5%	196	100.0%
高輪地区	186	50.0%	166	44.6%	13	3.5%	7	1.9%	372	100.0%
芝浦港南地区	212	45.6%	211	45.4%	40	8.6%	2	0.4%	465	100.0%
合計	732	50.1%	616	42.2%	94	6.4%	18	1.2%	1,460	100.0%

※無回答は集計から除く。

##### ②子どもの放課後の遊び場所について

学校が終わったあと子どもが遊ぶ場所を、地区別に集計した(表2-100)。どの地区も「家の中(友人宅を含む)」の割合が最も高い。なかでも、

麻布地区は48.8%で5割弱を占め、次いで赤坂地区は46.2%、芝地区は42.6%であった。高輪地区はやや低くなり35.3%、芝浦港南地区は5地区中最も低く、31.9%であった。

「学校」と回答した人の割合は、芝地区（20.9%）、麻布地区（18.5%）で2割程度、赤坂地区（16.3%）、高輪地区（13.6%）で1割半程度を占めた。芝浦港南地区では9.0%と1割弱であった。

「児童館や中高生プラザ」については、芝浦港南地区では31.0%と「家の中（友人宅を含む）」とほぼ同じくらいの割合を占めた。高輪地区では28.3%で、3割近くを占めた。赤坂地区では23.4%、芝地区では16.2%と低くなり、麻布地区では9.4%と1割弱であった。

「公園などの屋外」については、芝浦港南地区で21.6%と2割を占め、高輪地区が18.2%で2割弱であった。麻布地区では15.4%と1割半、芝地区（10.1%）と赤坂地区（9.8%）は1割前後であった。

放課後の子どもたちの遊び場所については、「家の中」を中心として、地区により、学校や屋外、児童館等に分かれていることがわかる。なお、地区により学年の分布が異なるため、こうした違いに多少とも影響を与えているものと推測される。

表2-100 地区×放課後の遊び場所

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中 高生プラザ		公園などの 屋外		繁華街		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	63	42.6%	31	20.9%	24	16.2%	15	10.1%	0	0.0%	15	10.1%	148	100.0%
麻布地区	124	48.8%	47	18.5%	24	9.4%	39	15.4%	1	0.4%	19	7.5%	254	100.0%
赤坂地区	85	46.2%	30	16.3%	43	23.4%	18	9.8%	0	0.0%	8	4.3%	184	100.0%
高輪地区	122	35.3%	47	13.6%	98	28.3%	63	18.2%	0	0.0%	16	4.6%	346	100.0%
芝浦港南地区	142	31.9%	40	9.0%	138	31.0%	96	21.6%	0	0.0%	29	6.5%	445	100.0%
合計	536	38.9%	195	14.2%	327	23.7%	231	16.8%	1	0.1%	87	6.3%	1,377	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ③放課後の遊びについての心配ごと

子どもの遊びについて最も心配なことはなにかを尋ね、地区別に集計した（表2-101）。5地区とも、最も高かったのは「心配なことはない」で3割弱から3割半程度を占めた。

芝地区では、「心配なことはない」が29.4%と3割を占め、ほか、「遊ぶ場所」が19.6%で2割弱であったほか、「遊ぶ時間」（15.0%）、「遊び相手」（17.0%）、「遊び方」（15.7%）に分散した。

麻布地区では、「心配なことはない」が32.7%と最も高く、次いで「遊ぶ場所」が23.1%、「遊び方」が17.7%、「遊び相手」が12.3%、「遊ぶ時間」が10.8%であった。

赤坂地区では、「心配なことはない」が36.1%

で5地区中最も高かった。ほか、「遊ぶ場所」（19.4%）、「遊び方」（18.8%）が2割弱、「遊び相手」が12.6%であった。「遊ぶ時間」は9.9%で5地区中最も低かった。

高輪地区では、「心配なことはない」が29.2%で5地区中最も低い。「遊ぶ場所」については22.1%と5地区中2番目に高く、「遊び相手」が16.9%、「遊び方」が14.5%、「遊ぶ時間」が13.1%で分散した。

芝浦港南地区では、「心配なことはない」が34.8%で赤坂地区に次いで高い。次に、「遊び相手」が21.6%と5地区中最も高く、「遊び方」が17.2%でそれに続いた。「遊ぶ場所」は12.1%、「遊ぶ時間」は11.7%であった。

表2-101 地区×遊びについての心配ごと

	遊ぶ場所		遊ぶ時間		遊び相手		遊び方		心配なことはない		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	30	19.6%	23	15.0%	26	17.0%	24	15.7%	45	29.4%	5	3.3%	153	100.0%
麻布地区	60	23.1%	28	10.8%	32	12.3%	46	17.7%	85	32.7%	9	3.5%	260	100.0%
赤坂地区	37	19.4%	19	9.9%	24	12.6%	36	18.8%	69	36.1%	6	3.1%	191	100.0%
高輪地区	81	22.1%	48	13.1%	62	16.9%	53	14.5%	107	29.2%	15	4.1%	366	100.0%
芝浦港南地区	55	12.1%	53	11.7%	98	21.6%	78	17.2%	158	34.8%	12	2.6%	454	100.0%
合計	263	18.5%	171	12.0%	242	17.0%	237	16.6%	464	32.6%	47	3.3%	1,424	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=35.961$  自由度=20  $p=0.016^*$  \*  $p < 0.05$

#### ④習いごとについて

学習塾以外にどのような習いごとをしているか尋ね（複数回答）、地区別に集計した（表2-102）。

「スポーツ（水泳など）」については、6割弱から7割弱の世帯で習いごととしてさせていることがわかる。芝地区は57.4%で5地区中最も低く、赤坂地区（68.9%）と麻布地区（68.4%）は7割弱であった。

「音楽（ピアノなど）」については、3割から4割弱を占めた。高輪地区は32.4%で5地区中最も低く、赤坂地区（39.3%）、麻布地区（39.0%）は4割弱であった。

「ダンス（バレエなど）」については、1割半から2割弱であった。最も低かったのは麻布地区

で14.9%、最も高かったのは赤坂地区で19.9%であった。

「語学関係（英会話など）」については、芝浦港南地区が11.8%で5地区中最も高く、次いで高輪地区が10.2%、芝地区が9.7%で1割前後であった。

「習字・そろばん」については、赤坂地区が11.2%で5地区中最も高く、次いで高輪地区が10.5%、麻布地区が9.3%で1割前後を占めた。

習い事を「させていない」と回答した世帯の割合は、1割から1割半程度であった。芝浦港南地区は15.2%で5地区中最も高く、次いで芝地区が12.9%、高輪地区が11.8%、赤坂地区が11.2%、麻布地区が10.4%であった。

表2-102 地区×学習塾以外の習いごと（複数回答）

	スポーツ（水泳など）		音楽（ピアノなど）		ダンス（バレエなど）		語学関係（英会話など）		習字・そろばん		その他		させていない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=155)	89	57.4%	56	36.1%	27	17.4%	15	9.7%	11	7.1%	9	5.8%	20	12.9%
麻布地区 (n=269)	184	68.4%	105	39.0%	40	14.9%	19	7.1%	25	9.3%	26	9.7%	28	10.4%
赤坂地区 (n=196)	135	68.9%	77	39.3%	39	19.9%	16	8.2%	22	11.2%	20	10.2%	22	11.2%
高輪地区 (n=373)	242	64.9%	121	32.4%	68	18.2%	38	10.2%	39	10.5%	41	11.0%	44	11.8%
芝浦港南地区 (n=466)	284	60.9%	172	36.9%	87	18.7%	55	11.8%	29	6.2%	26	5.6%	71	15.2%
合計	934	64.0%	531	36.4%	261	17.9%	143	9.8%	126	8.6%	122	8.4%	185	12.7%

※無回答は集計から除く。



(7) 子育てに関する悩みや相談相手

①学校生活に関する悩み

子どもの学校生活でのようすについての悩みの有無を地区別に集計した(表2-103)。

悩みが「ある」と回答した人の割合は2割弱から3割弱程度であった。最も割合が低かったのは芝浦港南地区で19.4%、次いで低かったのは赤坂地区で19.8%であった。一方、割合が高かったのは高輪地区で28.9%を占めた。

この悩みに関する相談先の有無については、地区による差は見られなかった

表2-103 地区×学校生活についての悩みの有無

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	119	76.3%	37	23.7%	156	100.0%
麻布地区	210	79.2%	55	20.8%	265	100.0%
赤坂地区	158	80.2%	39	19.8%	197	100.0%
高輪地区	263	71.1%	107	28.9%	370	100.0%
芝浦港南地区	373	80.6%	90	19.4%	463	100.0%
合計	1,123	77.4%	328	22.6%	1,451	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=12.602 自由度=4  
p=0.013\* \* p < 0.05

②友達関係の悩み

子どもの友達関係についての悩みの有無を地区別に集計した(表2-104)。

悩みが「ある」と回答した人の割合が最も低かったのは赤坂地区で15.8%であった。芝地区(21.8%)、麻布地区(21.1%)、芝浦港南地区(20.1%)は2割程度であった。高輪地区は26.7%で5地区中最も高い割合を示した。

友達関係の相談先の有無については地区による差は見られなかった。

表2-104 地区×友達関係についての悩みの有無

	ない		ある		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	122	78.2%	34	21.8%	156	100.0%
麻布地区	210	78.9%	56	21.1%	266	100.0%
赤坂地区	165	84.2%	31	15.8%	196	100.0%
高輪地区	272	73.3%	99	26.7%	371	100.0%
芝浦港南地区	370	79.9%	93	20.1%	463	100.0%
合計	1,139	78.4%	313	21.6%	1,452	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=10.226 自由度=4  
p=0.037\* \* p < 0.05

③子どものことを相談する相手

子どものことで困った時に相談する相手は誰かについて複数回答で尋ね、地区別に集計した(表2-105)。

5地区とも最も割合が高かったのは「同居の家族」である。芝地区では74.2%、麻布地区では75.0%で7割半分程度を占め、赤坂地区(78.5%)、高輪地区(78.3%)は8割弱であった。芝浦港南地区は5地区中最も高く81.1%にのぼった。

「親族(別居の家族を含む)」については、どの地区も4割半から5割程度であったが、高輪地区は他地区よりも高く、56.1%であった。

「子どもを通じての知人・友人」については、赤坂地区が52.5%で他地区に比べて低く、高輪地区では61.6%で5地区中最も高い割合を示した。

「職場の人」については、麻布地区が8.7%で5地区中最も低く、高輪地区が14.3%、芝浦港南地区が12.0%でともに1割を超えた。

「職場以外のあなた自身の友人」については、麻布地区が34.4%で最も高い割合を示し、芝浦港南地区は23.9%、高輪地区は24.6%と10ポイント程度の差が見られた。

「学校の先生」については、高輪地区では42.3%と4割を超えたが、芝浦港南地区では31.2%で3割強にとどまっている。

表2-105 地区×子どものことを相談する相手（複数回答）

	同居の家族		親戚（別居の家族を含む）		子どもを通じての知人・友人		職場の人		職場以外のあなた自身の友人		学校の先生		教育センターなど公的な相談機関		民間の相談機関		その他		誰もいない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	118	74.2%	73	45.9%	86	54.1%	16	10.1%	47	29.6%	58	36.5%	11	6.9%	6	3.8%	7	4.4%	3	1.9%	159	100.0%
麻布地区	207	75.0%	125	45.3%	166	60.1%	24	8.7%	95	34.4%	108	39.1%	11	4.0%	8	2.9%	7	2.5%	4	1.4%	276	100.0%
赤坂地区	157	78.5%	102	51.0%	105	52.5%	20	10.0%	57	28.5%	78	39.0%	7	3.5%	5	2.5%	6	3.0%	5	2.5%	200	100.0%
高輪地区	296	78.3%	212	56.1%	233	61.6%	54	14.3%	93	24.6%	160	42.3%	26	6.9%	13	3.4%	8	2.1%	5	1.3%	378	100.0%
芝浦港南地区	377	81.1%	218	46.9%	278	59.8%	56	12.0%	111	23.9%	145	31.2%	20	4.3%	8	1.7%	18	3.9%	2	0.4%	465	100.0%
合計	1,155	78.1%	730	49.4%	868	58.7%	170	11.5%	403	27.3%	549	37.1%	75	5.1%	40	2.7%	46	3.1%	19	1.3%	1,478	100.0%

※無回答は集計から除く。

### 3 中学2年生の保護者の地域別の特徴

中学2年生の保護者に対するアンケート調査の結果について、5総合支所の地区別にクロス集計を行った。

#### （1）居住年数と住宅の種類と世帯年収

##### ①居住年数

居住年数について地区別に集計した（表2-106）。

芝浦港南地区を除く4地区は、「10年以上」の割合が最も高く、4割から5割半を占めている。

芝地区は、「10年以上」が43.1%、「5～9年」が23.1%であった。一方、居住年数が「1・2年」と短い世帯の割合は18.5%で、「3・4年」の世帯は15.4%と分散し、居住年数が5年未満の世帯の割合は33.9%であった。麻布地区は、「10年以上」と回答した世帯の割合が5地区中最も高く、54.1%を占めた。「1・2年」は14.3%と5

地区中2番目に低く、「3・4年」は8.2%であった。両者を合わせて、居住年数が5年未満の世帯は22.5%であった。赤坂地区は、「10年以上」が41.4%で5地区中2番目に低い。一方で「1・2年」は24.3%で5地区中最も高く、「3・4年」は11.4%で5地区中2番目に高かった。両者を合わせて、居住年数が5年未満の世帯の割合は35.7%で、5地区中最も高い。高輪地区は、「1・2年」の割合が23.7%で5地区中2番目に高いが、「10年以上」の割合は50.3%で、こちらも5地区中2番目に高い。居住年数の短い世帯と長い世帯に分かれていることがわかる。芝浦港南地区は、「1・2年」「3・4年」とともに8.1%と低く、一方で「10年以上」の割合も34.9%と他地区に比べて低い。「5～9年」（49.0%）が半分程度を占めており、他地区とは異なる傾向を示している。

表2-106 地区×居住年数

	1・2年		3・4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	12	18.5%	10	15.4%	15	23.1%	28	43.1%	65	100.0%
麻布地区	14	14.3%	8	8.2%	23	23.5%	53	54.1%	98	100.0%
赤坂地区	17	24.3%	8	11.4%	16	22.9%	29	41.4%	70	100.0%
高輪地区	40	23.7%	13	7.7%	31	18.3%	85	50.3%	169	100.0%
芝浦港南地区	12	8.1%	12	8.1%	73	49.0%	52	34.9%	149	100.0%
合計	95	17.2%	51	9.3%	158	28.7%	247	44.8%	551	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=54.418$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

## ②住宅の種類

次に、住宅の種類を地区別に集計した（表2-107）。どの地区も、最も高い割合を占めたのは「持ち家」である。芝地区は、「持ち家」が66.2%、「民間の賃貸住宅」が16.9%、「都営・区営・UR等」が12.3%であった。麻布地区は、「持ち家」が75.5%と5地区中最も高く、「民間の賃貸住宅」についても20.4%で5地区中最も高かった。赤坂地区は、「持ち家」が66.2%、「都営・区営・UR

等」が12.7%で、芝地区と似通った値を示した。「民間の賃貸住宅」は11.3%で5地区中最も低かった。高輪地区は、「持ち家」が75.1%で麻布地区に次いで高く、「民間の賃貸住宅」は16.6%であった。芝浦港南地区は、「持ち家」が59.1%で5地区中最も低く、「民間の賃貸住宅」についても12.1%で5地区中2番目に低い。その一方で、「都営・区営・UR等」が25.5%と4分の1を占め、5地区中最も高い割合を示した。

表2-107 地区×住宅の種類

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	43	66.2%	11	16.9%	8	12.3%	3	4.6%	0	0.0%	65	100.0%
麻布地区	74	75.5%	20	20.4%	2	2.0%	2	2.0%	0	0.0%	98	100.0%
赤坂地区	47	66.2%	8	11.3%	9	12.7%	6	8.5%	1	1.4%	71	100.0%
高輪地区	127	75.1%	28	16.6%	4	2.4%	8	4.7%	2	1.2%	169	100.0%
芝浦港南地区	88	59.1%	18	12.1%	38	25.5%	5	3.4%	0	0.0%	149	100.0%
合計	379	68.7%	85	15.4%	61	11.1%	24	4.3%	3	0.5%	552	100.0%

※無回答は集計から除く。

## ③世帯年収

世帯年収について地区別に集計した（表2-108）。5地区とも、最も高い割合を占めたのは「1,000～2,000万円未満」で、どの地区も3割前後を占めていた。芝地区は、「1,000～2,000万円未満」が32.1%で、5地区中2番目に高い割合を示し、次いで「700～1,000万円未満」は23.2%であった。一方で「400万円未満」の世帯は23.2%を占

め、5地区中最も高かった。麻布地区は「400万円未満」が20.0%と5地区中2番目に高い割合を示した一方で、「2,000万円以上」の世帯は28.2%と5地区中最も高い割合を示した。「1,000～2,000万円未満」も28.2%で、1,000万円以上の世帯が56.4%を占めている。赤坂地区は全体に分散したが、「1,000～2,000万円未満」が27.7%、「2,000万円以上」が20.0%で、半分程度が1,000万円以

表2-108 地区×世帯年収

	400万円未満		400～500万円未満		500～700万円未満		700～1,000万円未満		1,000～2,000万円未満		2,000万円以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	13	23.2%	2	3.6%	6	10.7%	13	23.2%	18	32.1%	4	7.1%	56	100.0%
麻布地区	17	20.0%	3	3.5%	7	8.2%	10	11.8%	24	28.2%	24	28.2%	85	100.0%
赤坂地区	11	16.9%	8	12.3%	6	9.2%	9	13.8%	18	27.7%	13	20.0%	65	100.0%
高輪地区	14	8.9%	8	5.1%	14	8.9%	39	24.8%	52	33.1%	30	19.1%	157	100.0%
芝浦港南地区	27	19.4%	7	5.0%	21	15.1%	38	27.3%	40	28.8%	6	4.3%	139	100.0%
合計	82	16.3%	28	5.6%	54	10.8%	109	21.7%	152	30.3%	77	15.3%	502	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=52.899$  自由度=20  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

上である。高輪地区は、「1,000～2,000万円未満」の世帯が33.1%で5地区中最も高く、「2,000万円以上」の世帯は19.1%で、やはり半分以上が1,000万円以上の世帯である。「400万円未満」の世帯は8.9%で、5地区中最も低かった。芝浦港南地区は、「700～1,000万円未満」の世帯の割合が27.3%と5地区中最も高く、「1,000～2,000万円未満」の世帯は28.8%であった。「400万円未満」の世帯は19.4%であった。

### (1) 家族・祖父母の状況

#### ① 家族構成

家族構成について地区別に集計した(表2-109)。5地区とも「父母と子」のいわゆる核家族の割合

が最も高かったが、地区によってその割合は6割から8割と開きがあった。高輪地区(81.7%)と芝浦港南地区(81.2%)はともに8割で高く、次いで麻布地区(72.0%)と赤坂地区(71.4%)は7割を占めた。芝地区は61.5%で5地区中最も低かった。一方で、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯については芝地区が5地区中最も高く、18.5%にのぼった。次いで赤坂地区が12.9%であった。「母と子」の世帯の割合は、芝浦港南地区が14.1%で5地区中最も高く、次いで芝地区(12.3%)と麻布地区(12.0%)が1割強であった。「母と子と祖父または祖母」の世帯の割合は全体に低い、赤坂地区では7.1%で他地区に比べてやや高い割合を示した。

表2-109 地区×家族構成

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	40	61.5%	12	18.5%	0	0.0%	0	0.0%	8	12.3%	3	4.6%	2	3.1%	65	100.0%
麻布地区	72	72.0%	9	9.0%	2	2.0%	1	1.0%	12	12.0%	3	3.0%	1	1.0%	100	100.0%
赤坂地区	50	71.4%	9	12.9%	0	0.0%	0	0.0%	6	8.6%	5	7.1%	0	0.0%	70	100.0%
高輪地区	138	81.7%	11	6.5%	2	1.2%	0	0.0%	14	8.3%	3	1.8%	1	0.6%	169	100.0%
芝浦港南地区	121	81.2%	4	2.7%	1	0.7%	0	0.0%	21	14.1%	1	0.7%	1	0.7%	149	100.0%
合計	421	76.1%	45	8.1%	5	0.9%	1	0.2%	61	11.0%	15	2.7%	5	0.9%	553	100.0%

※無回答は集計から除く。

#### ② 祖父母の居住地

父方・母方それぞれの祖父母との同居について、地区別に集計した(表2-110)。

父方の祖父母と「同居していない」と回答した世帯の割合は、赤坂地区が最も低く72.3%で、芝地区(77.8%)、麻布地区(76.8%)は8割弱、高輪地区(83.4%)は8割強であった。芝浦港南地区は5地区中最も高く、89.4%であった。反対に、「同居している」と回答した世帯の割合は、芝地区が最も高く17.5%、次いで赤坂地区では13.8%、麻布地区では10.5%であった。芝浦港南

地区は2.1%とわずかであった。

母方の祖父母との同居については、「同居していない」と回答した世帯の割合が高く、どの地区も8割を超えた。最も割合が高かったのは高輪地区で87.0%、次いで芝地区が84.1%であった。「同居している」と回答した世帯は、芝地区(14.3%)、赤坂地区(10.0%)の2地区で比較的高く、芝浦港南地区は2.7%と5地区中最も低い割合であった。

なお、同居していない祖父母の居住地については、地区による差は見られなかった。

表2-110 地区×祖父母との同居

父方の祖父母								
	同居している		同居していない		同居していない (死去など)		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	11	17.5%	49	77.8%	3	4.8%	63	100.0%
麻布地区	10	10.5%	73	76.8%	12	12.6%	95	100.0%
赤坂地区	9	13.8%	47	72.3%	9	13.8%	65	100.0%
高輪地区	8	4.9%	136	83.4%	19	11.7%	163	100.0%
芝浦港南地区	3	2.1%	127	89.4%	12	8.5%	142	100.0%
合計	41	7.8%	432	81.8%	55	10.4%	528	100.0%
母方の祖父母								
	同居している		同居していない		同居していない (死去など)		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	9	14.3%	53	84.1%	1	1.6%	63	100.0%
麻布地区	8	8.0%	81	81.0%	11	11.0%	100	100.0%
赤坂地区	7	10.0%	58	82.9%	5	7.1%	70	100.0%
高輪地区	9	5.3%	147	87.0%	13	7.7%	169	100.0%
芝浦港南地区	4	2.7%	124	83.2%	21	14.1%	149	100.0%
合計	37	6.7%	463	84.0%	51	9.3%	551	100.0%

※無回答は集計から除く。父方： $\chi^2=25.284$  自由度=8  $p=0.001^*$  \*  $p<0.05$   
母方： $\chi^2=20.029$  自由度=8  $p=0.010^*$  \*  $p<0.05$

### ③祖父母からの援助

祖父母からどのような援助を受けているか（複数回答）を地区別に集計した（表2-111）。「金銭的援助」については地区によりばらつきがあり、芝地区では13.6%であったが、麻布地区では32.0%であった。「子どもを預かるなどの援助」については、芝浦港南地区が最も低く21.1%、赤坂地区（30.8%）と高輪地区（35.6%）は3割台、芝地区（40.9%）と麻布地区（46.0%）は4割台であった。「住宅の提供」については、赤坂地区

が5地区中最も高く33.3%、次いで麻布地区が28.0%であった。芝浦港南地区は2.6%とごくわずかであった。「食料など物での援助」については、芝地区では29.5%で5地区中最も低い割合を示し、次いで赤坂地区では35.9%であった。麻布地区（42.0%）と芝浦港南地区（40.8%）は4割程度で、高輪地区は50.0%と半分にのぼった。

なお、「祖父母が頼りになるか」という質問については、地区による差は見られなかった。

表2-111 地区×祖父母からの援助（複数回答）

	金銭的援助		子どもを預かるなどの援助		住宅の提供		食料など物での援助		掃除・家事などの援助		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=44)	6	13.6%	18	40.9%	8	18.2%	13	29.5%	8	18.2%	6	13.6%
麻布地区 (n=50)	16	32.0%	23	46.0%	14	28.0%	21	42.0%	8	16.0%	5	10.0%
赤坂地区 (n=39)	10	25.6%	12	30.8%	13	33.3%	14	35.9%	4	10.3%	6	15.4%
高輪地区 (n=104)	27	26.0%	37	35.6%	14	13.5%	52	50.0%	13	12.5%	14	13.5%
芝浦港南地区 (n=76)	21	27.6%	16	21.1%	2	2.6%	31	40.8%	8	10.5%	16	21.1%
合計 (n=313)	80	25.6%	106	33.9%	51	16.3%	131	41.9%	41	13.1%	47	15.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=50.869$  自由度=24  $p=0.001^*$  \*  $p<0.05$

## (4) 父母の仕事について

## ①生計中心者の職業

生計を主に支えている人の職業について、地区別に集計した(表2-112)。麻布地区は「自営業・会社経営」の割合が最も高く、41.1%を占めた。ほか、芝地区(33.3%)、赤坂地区(35.7%)、高輪地区(31.3%)は3割台を占めた。芝浦港南地区は20.0%で2割であった。「民間企業の常勤的勤務者」の割合は、芝浦港南地区では57.9%と

5地区中最も高い。次いで、高輪地区では55.4%で、この2つの地区では「民間企業の常勤的勤務者」が半数を超えた。芝地区(41.3%)、麻布地区(38.9%)、赤坂地区(41.4%)では4割前後であった。「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」については、芝地区では11.1%、芝浦港南地区では9.7%とともに1割前後であった。

表2-112 地区×生計中心者の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	21	33.3%	7	11.1%	26	41.3%	5	7.9%	3	4.8%	1	1.6%	63	100.0%
麻布地区	39	41.1%	7	7.4%	37	38.9%	6	6.3%	4	4.2%	2	2.1%	95	100.0%
赤坂地区	25	35.7%	3	4.3%	29	41.4%	5	7.1%	5	7.1%	3	4.3%	70	100.0%
高輪地区	52	31.3%	12	7.2%	92	55.4%	6	3.6%	4	2.4%	0	0.0%	166	100.0%
芝浦港南地区	29	20.0%	14	9.7%	84	57.9%	13	9.0%	3	2.1%	2	1.4%	145	100.0%
合計	166	30.8%	43	8.0%	268	49.7%	35	6.5%	19	3.5%	8	1.5%	539	100.0%

※無回答は集計から除く。

## ②共働きの有無

共働きの有無について、地区別に集計した(表2-113)。

「共働きである」と回答した世帯の割合が5地区中最も高かったのは芝地区で、58.7%と6割弱にのぼった。次いで芝浦港南地区が52.4%、高輪地区が49.7%で5割前後であった。一方、麻布地区と赤坂地区は、それぞれ38.9%、38.6%で4割弱であった。

表2-113 地区×共働きの有無

	共働きである		共働きではない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	37	58.7%	26	41.3%	63	100.0%
麻布地区	37	38.9%	58	61.1%	95	100.0%
赤坂地区	27	38.6%	43	61.4%	70	100.0%
高輪地区	83	49.7%	84	50.3%	167	100.0%
芝浦港南地区	76	52.4%	69	47.6%	145	100.0%
合計	260	48.1%	280	51.9%	540	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=9.837$  自由度=4  
p=0.043\* \* p < 0.05

## (5) 子どもの様子について

## ①子どもが通っている学校の種類

子どもが通っている学校の種類について地区別に集計した(表2-114)。「公立の学校」の割合が5地区中最も高かったのは芝浦港南地区で、63.3%を占めた。次いで、芝地区は52.3%、赤坂地区は49.3%、高輪地区は49.1%であった。この3地区は公立と私立がほぼ半々である。麻布地区は、「公立の学校」が42.0%、「私立の学校」が

表2-114 地区×学校の種類

	公立の学校		私立の学校		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	34	52.3%	31	47.7%	65	100.0%
麻布地区	42	42.0%	58	58.0%	100	100.0%
赤坂地区	35	49.3%	36	50.7%	71	100.0%
高輪地区	83	49.1%	86	50.9%	169	100.0%
芝浦港南地区	95	63.3%	55	36.7%	150	100.0%
合計	289	52.1%	266	47.9%	555	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=12.501$  自由度=4  
p=0.014\* \* p < 0.05

58.0%で、6割弱が私立の学校に通っている。

### ②子どもの放課後の遊び場所

学校が終わったあと子どもが遊ぶ場所について、地区別に集計した（表2-115）。どの地区も、最も割合が高かったのは「家の中（友人宅を含む）」で、5割から6割弱を占めた。芝地区では57.1%、赤坂地区では57.8%と6割弱、麻布地区は55.3%で5割半、高輪地区（49.0%）と芝

浦港南地区（51.5%）は5割前後であった。「学校」については、赤坂地区（20.3%）、と高輪地区（22.3%）では2割程度を占めたが、麻布地区（14.9%）、芝浦港南地区（14.0%）は1割半程度で、芝地区では11.1%と低かった。「公園などの屋外」については、芝地区が20.6%と高い割合を占めた。「児童館や中高生プラザ」については、1から4%程度の地区が多い中、芝浦港南地区は8.1%と1割弱を占めた。

表2-115 地区×子どもの放課後の遊び場所

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		繁華街		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	36	57.1%	7	11.1%	1	1.6%	13	20.6%	0	0.0%	6	9.5%	63	100.0%
麻布地区	52	55.3%	14	14.9%	0	0.0%	7	7.4%	2	2.1%	19	20.2%	94	100.0%
赤坂地区	37	57.8%	13	20.3%	1	1.6%	5	7.8%	0	0.0%	8	12.5%	64	100.0%
高輪地区	77	49.0%	35	22.3%	6	3.8%	15	9.6%	3	1.9%	21	13.4%	157	100.0%
芝浦港南地区	70	51.5%	19	14.0%	11	8.1%	11	8.1%	4	2.9%	21	15.4%	136	100.0%
合計	272	52.9%	88	17.1%	19	3.7%	51	9.9%	9	1.8%	75	14.6%	514	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ③塾や家庭教師の有無

子どもを学習塾に行かせたり、家庭教師を頼んだりしているかについて、地区別に集計した（表2-116）。

「塾等に通っている」と回答した世帯の割合が高かったのは麻布地区で、70.0%にのぼった。次いで高輪地区が65.1%、赤坂地区が57.7%、芝浦港南地区が54.7%であった。芝地区は46.2%で、

「塾等に通っていない」と回答した世帯が53.8%と半分を超えている。地区により、子どもを学習塾に通わせたり、家庭教師を頼んだりしている世帯の割合に違いがあることがわかった。なお、塾等での学習が必要だと考える人の割合は、地区による差は見られなかった。

### ④学習塾以外の習い事

学習塾以外にどのような習いごとをしているかについて（複数回答）地区別に集計した（表2-117）。

どの地区も「させていない」の割合が最も高く、5割から6割半程度であった。

そのほか、芝地区は、「音楽（ピアノなど）」が20.3%で5地区中2番目に高く、「スポーツ（水泳など）」は12.5%で5地区中最も低かった。麻布地区は、「スポーツ（水泳など）」が最も高く29.0%、「音楽（ピアノなど）」が21.5%で5地区中最も高かった。赤坂地区は、「スポーツ（水泳など）」が最も高く25.0%、「音楽（ピアノな

表2-116 地区×塾や家庭教師の有無

	塾等に通っている		塾等に通っていない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	30	46.2%	35	53.8%	65	100.0%
麻布地区	70	70.0%	30	30.0%	100	100.0%
赤坂地区	41	57.7%	30	42.3%	71	100.0%
高輪地区	110	65.1%	59	34.9%	169	100.0%
芝浦港南地区	82	54.7%	68	45.3%	150	100.0%
合計	333	60.0%	222	40.0%	555	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=13.110 自由度=4  
p=0.011\* \* p<0.05

ど)」は14.7%、「ダンス（バレエなど）」は他地区に比べて割合が高く11.8%であった。高輪地区は、「スポーツ（水泳など）」が最も高く24.7%で、「音楽（ピアノなど）」が14.5%であった。芝浦港

南地区は、「させていない」の割合が5地区中最も高く66.7%であり、「スポーツ（水泳など）」は12.9%、「音楽（ピアノなど）」は11.6%でいずれも低い値を示している。

表2-117 地区×学習塾以外の習い事（複数回答）

	スポーツ（水泳など）		音楽（ピアノなど）		ダンス（バレエなど）		語学関係（英会話など）		習字・そろばん		その他		させていない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区（n=64）	8	12.5%	13	20.3%	3	4.7%	4	6.3%	2	3.1%	1	1.6%	36	56.3%
麻布地区（n=93）	27	29.0%	20	21.5%	1	1.1%	2	2.2%	3	3.2%	5	5.4%	49	52.7%
赤坂地区（n=68）	17	25.0%	10	14.7%	8	11.8%	2	2.9%	1	1.5%	1	1.5%	37	54.4%
高輪地区（n=166）	41	24.7%	24	14.5%	13	7.8%	8	4.8%	5	3.0%	8	4.8%	86	51.8%
芝浦港南地区（n=147）	19	12.9%	17	11.6%	10	6.8%	4	2.7%	2	1.4%	3	2.0%	98	66.7%
合計	112	20.8%	84	15.6%	35	6.5%	20	3.7%	13	2.4%	18	3.3%	306	56.9%

※無回答は集計から除く。

#### 4 小学4年生の地域別の特徴

小学4年生本人に対するアンケート調査の結果について、5総合支所の地区別にクロス集計を行った。なお、（1）居住年数と住宅の種類、（2）家族構成と仕事について、の2つの項目については、フェイスシート項目として保護者に回答を依頼したものである。（3）子どもの生活についての回答は、小学4年生本人によるものである。

##### （1）居住年数と住宅の種類

###### ①居住年数

居住年数について地区別に集計した（表2-118）。地区により、居住年数の分布にばらつきが見られ

る。

芝地区は、「10年以上」の割合が46.7%と最も高く、次いで「5～9年」が33.3%、「3・4年」が13.3%、「1・2年」はわずか6.7%であった。「10年以上」の割合は、5地区中でも最も高い。居住年数が長い世帯が多いことが特徴である。麻布地区は、「10年以上」は32.9%で最も高いが、「1・2年」も31.8%を占めており、割合は大きく変わらない。「3・4年」は12.9%、「5～9年」は22.4%であった。赤坂地区は、「1・2年」が20.2%、「3・4年」が28.1%、「5～9年」が22.5%、「10年以上」が29.2%と、全体に分散した。高輪地区は、「10年以上」が39.1%と最も高

表2-118 地区×居住年数

	1・2年		3・4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	5	6.7%	10	13.3%	25	33.3%	35	46.7%	75	100.0%
麻布地区	27	31.8%	11	12.9%	19	22.4%	28	32.9%	85	100.0%
赤坂地区	18	20.2%	25	28.1%	20	22.5%	26	29.2%	89	100.0%
高輪地区	31	19.3%	21	13.0%	46	28.6%	63	39.1%	161	100.0%
芝浦港南地区	24	13.2%	18	9.9%	99	54.4%	41	22.5%	182	100.0%
合計	105	17.7%	85	14.4%	209	35.3%	193	32.6%	592	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=73.610$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$



く、これは5地区中でも2番目の高さである。次いで「5～9年」が28.6%であった。芝浦港南地区は、「5～9年」が54.4%と最も高く、5地区中でも最も高い割合を占めた。そのほか、「10年以上」が22.5%、「1・2年」が13.2%、「3・4年」が9.9%で分散しているが、「5～9年」というこの5年間に集中していることが大きな特徴である。

## ②住宅の種類

住宅の種類を地区別に集計した(表2-119)。

どの地区も「持ち家」が最も高い割合を占めている。なかでも芝地区は「持ち家」と回答した世帯の割合が70.1%と5地区中最も高い。「民間の賃貸住宅」は14.3%で、芝浦港南地区に次い

で低い割合であった。麻布地区は、「持ち家」は54.1%で5地区中2番目に低い割合を示し、「民間の賃貸住宅」は34.1%で5地区中最も高かった。また、「社宅・公務員住宅」が11.8%で、赤坂地区と並んで高い割合を示した。赤坂地区は、「持ち家」の割合が51.7%で5地区中最も低い。「民間の賃貸住宅」は25.8%、「都営・区営・UR等」は11.2%で、5地区中2番目に高かった。「社宅・公務員住宅」は11.2%であった。高輪地区は、「持ち家」は62.8%で6割を超え、「民間の賃貸住宅」は24.4%であった。芝浦港南地区は、「持ち家」が65.8%で5地区中2番目に高く、「民間の賃貸住宅」は9.8%で5地区中最も低かった。一方、「都営・区営・UR等」は20.1%と2割にのぼり、5地区中最も高い割合を示している。

表2-119 地区×住宅の種類

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	54	70.1%	11	14.3%	6	7.8%	5	6.5%	1	1.3%	77	100.0%
麻布地区	46	54.1%	29	34.1%	0	0.0%	10	11.8%	0	0.0%	85	100.0%
赤坂地区	46	51.7%	23	25.8%	10	11.2%	10	11.2%	0	0.0%	89	100.0%
高輪地区	103	62.8%	40	24.4%	10	6.1%	6	3.7%	5	3.0%	164	100.0%
芝浦港南地区	121	65.8%	18	9.8%	37	20.1%	8	4.3%	0	0.0%	184	100.0%
合計	370	61.8%	121	20.2%	63	10.5%	39	6.5%	6	1.0%	599	100.0%

※無回答は集計から除く。

## (2) 家族構成と仕事について

### ①家族構成

家族構成について地区別に集計した(表2-120)。5地区とも、「父母と子」のいわゆる核家族世帯の割合が最も高かったが、地区によりその割合には差がみられる。芝地区は、「父母と子」の割合が76.6%で、5地区のなかでは2番目の低さであるが、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯の割合は、13.0%で5地区中最も高かった。麻布地区は、「父母と子」の世帯が86.0%で、

5地区中2番目に高かった。赤坂地区は、「父母と子」の世帯の割合が71.9%で5地区中最も低く、「母と子」の世帯の割合が14.6%で、5地区中最も高かった。高輪地区は、「父母と子」の世帯の割合が78.0%と5地区中3番目の高さで、そのほかも港区全域の平均とほぼ変わらない傾向を示した。芝浦港南地区は、「父母と子」の世帯の割合が91.8%と5地区中最も高く、「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居世帯がわずか1ケースと少なかった。

表2-120 地区×家族構成

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	59	76.6%	10	13.0%	0	0.0%	1	1.3%	4	5.2%	2	2.6%	1	1.3%	77	100.0%
麻布地区	74	86.0%	5	5.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.7%	3	3.5%	0	0.0%	86	100.0%
赤坂地区	64	71.9%	7	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	13	14.6%	4	4.5%	1	1.1%	89	100.0%
高輪地区	128	78.0%	13	7.9%	2	1.2%	0	0.0%	15	9.1%	4	2.4%	2	1.2%	164	100.0%
芝浦港南地区	169	91.8%	1	0.5%	2	1.1%	1	0.5%	8	4.3%	2	1.1%	1	0.5%	184	100.0%
合計	494	82.3%	36	6.0%	4	0.7%	2	0.3%	44	7.3%	15	2.5%	5	0.8%	600	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ②生計中心者の職業

生計を主に支えている人の職業について、地区別に集計した（表2-121）。どの地区も、「民間企業の常勤的勤務者」の割合が最も高い。地区別に見ると、芝地区は、「民間企業の常勤的勤務者」が51.9%で、5地区中では2番目に低く、「自営業・会社経営」が36.4%で5地区中最も高かった。麻布地区は、「民間企業の常勤的勤務者」の割合が56.0%で5地区中3番目だが、「自営業・会社経営」は34.5%で、芝地区に次いで高い割合を占めた。赤坂地区は、「民間企業の常勤的勤務者」

は43.7%で5地区中最も低く、「自営業・会社経営」は32.2%であった。「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」の割合が12.6%で、5地区中最も高かった。高輪地区は、「民間企業の常勤的勤務者」が65.6%で5地区中2番目に高く、「自営業・会社経営」が23.3%で5地区中2番目に低かった。芝浦港南地区は「民間企業の常勤的勤務者」が68.3%と5地区中最も高く、「自営業・会社経営」の割合が18.6%で5地区中最も低かった。

表2-121 地区×生計中心者の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	28	36.4%	7	9.1%	40	51.9%	1	1.3%	0	0.0%	1	1.3%	77	100.0%
麻布地区	29	34.5%	4	4.8%	47	56.0%	2	2.4%	2	2.4%	0	0.0%	84	100.0%
赤坂地区	28	32.2%	11	12.6%	38	43.7%	6	6.9%	3	3.4%	1	1.1%	87	100.0%
高輪地区	38	23.3%	5	3.1%	107	65.6%	5	3.1%	6	3.7%	2	1.2%	163	100.0%
芝浦港南地区	34	18.6%	14	7.7%	125	68.3%	5	2.7%	4	2.2%	1	0.5%	183	100.0%
合計	157	26.4%	41	6.9%	357	60.1%	19	3.2%	15	2.5%	5	0.8%	594	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ③共働きの有無

共働きの有無について、地区別に集計した（表2-122）。「共働きである」と回答した世帯の割合は、5地区中芝地区は最も高く、53.3%であった。芝地区は、共働き世帯の方が、共働きではない世

帯よりも多い。高輪地区は「共働きである」世帯は48.8%で、芝地区に次いで高い。芝浦港南地区は41.5%が「共働きである」と回答している。共働きの世帯の割合が低かったのは麻布地区と赤坂地区で、それぞれ30.2%、36.4%であった。

表2-122 地区×共働きの有無

	共働きである		共働きではない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	40	53.3%	35	46.7%	75	100.0%
麻布地区	26	30.2%	60	69.8%	86	100.0%
赤坂地区	32	36.4%	56	63.6%	88	100.0%
高輪地区	78	48.8%	82	51.3%	160	100.0%
芝浦港南地区	76	41.5%	107	58.5%	183	100.0%
合計	252	42.6%	340	57.4%	592	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=12.875 自由度=4  
p=0.012\* \* p < 0.05

表2-123 地区×学校の種類

	公立の学校		私立の学校		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	69	90.8%	7	9.2%	76	100.0%
麻布地区	57	66.3%	29	33.7%	86	100.0%
赤坂地区	72	80.9%	17	19.1%	89	100.0%
高輪地区	135	82.8%	28	17.2%	163	100.0%
芝浦港南地区	169	92.3%	14	7.7%	183	100.0%
合計	502	84.1%	95	15.9%	597	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=33.142 自由度=4  
p=0.000\* \* p < 0.05

### (3) 子どもの生活について

以下は、小学4年生本人が回答した結果である。

#### ①通っている学校の種類

通っている学校の種類については(表2-123)、どの地区も「公立の学校」の割合が高いが、その割合には地区による違いが見られる。「公立の学校」の割合が9割だったのは芝地区(90.8%)と芝浦港南地区(92.3%)で、赤坂地区(80.9%)と高輪地区(82.8%)は8割であった。麻布地区は、「公立の学校」が66.3%で、5地区の中でも格段に低い割合であった。

#### ②友達について

信頼できる友だちの有無については、地区による違いは見られなかったが、その友だちとどのように仲良くなったかについて(複数回答)は、地

区による違いが見られた(表2-124)。

どの地区も最も割合が高かったのは「同じクラス」で7割半から8割半であった。なかでも赤坂地区は85.9%で、5地区中最も高かった。「近所に住んでいる」も比較的多くの回答があった。芝浦港南地区は、5地区中最も高く43.0%であった。次いで赤坂地区は38.8%で高かった。同様に、全体的に高い割合を占めたのは「親同士の仲が良い」で、麻布地区では27.5%、赤坂地区では28.2%、高輪地区では23.1%、芝浦港南地区では33.7%であった。芝地区は17.4%で、5地区の中では最も低い割合であった。「同じ塾や習い事に通っている」については、赤坂地区が28.2%で5地区中最も高く、次いで芝浦港南地区が22.1%で高かった。他の3地区は1割半程度であった。「部活動、クラブ活動などが一緒」については、麻布地区が21.3%で5地区中最も高かった。

表2-124 地区×仲良くなったきっかけ(複数回答)

	近所に住んでいる		同じクラス		同じ塾や習い事に通っている		部活動、クラブ活動などが一緒		友だちの紹介		渋谷のようなにぎやかなところで知り合った		親同士の仲が良い		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=69)	16	23.2%	54	78.3%	11	15.9%	11	15.9%	2	2.9%	0	0.0%	12	17.4%	10	14.5%
麻布地区 (n=80)	22	27.5%	62	77.5%	11	13.8%	17	21.3%	3	3.8%	0	0.0%	22	27.5%	10	12.5%
赤坂地区 (n=85)	33	38.8%	73	85.9%	24	28.2%	13	15.3%	2	2.4%	0	0.0%	24	28.2%	9	10.6%
高輪地区 (n=156)	49	31.4%	118	75.6%	21	13.5%	18	11.5%	5	3.2%	2	1.3%	36	23.1%	25	16.0%
芝浦港南地区 (n=172)	74	43.0%	131	76.2%	38	22.1%	22	12.8%	14	8.1%	0	0.0%	58	33.7%	26	15.1%
合計	194	34.5%	438	77.9%	105	18.7%	81	14.4%	26	4.6%	2	0.4%	152	27.0%	80	14.2%

※無回答は集計から除く。

### ③放課後の遊び場所

放課後の遊び場所について、地区別に集計した(表2-125)。5地区とも最も割合が高かったのは「家の中(友人宅を含む)」であった。なかでも芝地区は56.2%と5地区中最も高く、次いで麻布地区が54.3%であった。芝浦港南地区は39.0%で5地区中最も低い割合であった。「公園などの屋外」については、赤坂地区を除く4地区で高い割合を示した。芝地区は26.0%、麻布地区は28.4%

で、この2地区は2割台であった。一方、高輪地区は31.1%、芝浦港南地区は35.6%で3割台であった。赤坂地区は12.3%で5地区中最も低かった。その赤坂地区の割合が高かったのは、「児童館や中高生プラザ」である。赤坂地区では28.4%と3割近い割合を占めている。次いで芝浦港南地区が18.1%、高輪地区が11.9%であった。芝地区(6.8%)と麻布地区(7.4%)は1割に満たなかった。

表2-125 地区×放課後の遊び場所

	家の中(友人宅を含む)		学校		児童館や中高生プラザ		公園などの屋外		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	41	56.2%	6	8.2%	5	6.8%	19	26.0%	2	2.7%	73	100.0%
麻布地区	44	54.3%	4	4.9%	6	7.4%	23	28.4%	4	4.9%	81	100.0%
赤坂地区	40	49.4%	2	2.5%	23	28.4%	10	12.3%	6	7.4%	81	100.0%
高輪地区	76	50.3%	3	2.0%	18	11.9%	47	31.1%	7	4.6%	151	100.0%
芝浦港南地区	69	39.0%	6	3.4%	32	18.1%	63	35.6%	7	4.0%	177	100.0%
合計	270	48.0%	21	3.7%	84	14.9%	162	28.8%	26	4.6%	563	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ④学校以外の地域の行事への参加

学校以外の地域の行事への参加について(複数回答)、地区別に集計した(表2-126)。芝地区は、「おまつり」への参加が91.9%で5地区中最も高く、ほかに「子ども会」が18.9%、「もちつき大会」が36.5%で比較的高い割合であった。他地区に比べると、「クリスマス会」(16.2%)や「ハロウィン」(28.4%)への参加が低めである。麻布地区は、「ハロウィン」への参加が64.1%と5地区中最も高いことが特徴的である。一方で、「クリスマス会」への参加は14.1%で5地区中最も低い。また、「おまつり」は80.8%で、参加している人の割合は高いが、5地区中では2番目の低さである。「子ども会」への参加は7.7%で1割に満たず、5地区中でも最も低い割合であった。赤坂地区は「おまつり」への参加が75.9%と5地区中最も低い、全体的に活動への参加割合が高い。「スポーツ大会、運動会」は43.4%で5地区中2番目に高く、「もちつき大会」は37.3%で5地区中最も高い。「防災訓練」(21.7%)や「クリ

スマス会」(22.9%)、「ハロウィン」(53.0%)への参加も、5地区中2番目に高かった。高輪地区は、「おまつり」への参加は86.4%と高かったが、5地区のなかでは3番目の高さである。「子ども会」は11.0%、「もちつき大会」は25.3%で5地区中2番目に低く、「防災訓練」は12.3%で5地区中最も低かった。「クリスマス会」は22.7%で赤坂地区とほぼ並び、「ハロウィン」は38.3%で5地区中3番目の高さであった。芝浦港南地区は、「もちつき大会」(22.9%)、「ハロウィン」(28.0%)への参加が5地区中最も低い、そのほかの活動への参加割合が高い。「おまつり」は87.4%で5地区中2番目に高く、「スポーツ大会、運動会」は44.0%で5地区中最も高い。「クリスマス会」(30.9%)や「防災訓練」(28.6%)への参加も5地区中最も高く、また、他地区との差も大きい。

地区により、全体的に活動への参加率が高い地区や、特定の活動のみ参加率が高い地区などに分かれた。

表2-126 地区×地域の行事への参加（複数回答）

	おまつり		スポーツ大会、運動会		子ども会		もちつき大会		防災訓練		クリスマス会		ハロウィン		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=74)	68	91.9%	24	32.4%	14	18.9%	27	36.5%	14	18.9%	12	16.2%	21	28.4%	7	9.5%
麻布地区 (n=78)	63	80.8%	20	25.6%	6	7.7%	25	32.1%	15	19.2%	11	14.1%	50	64.1%	4	5.1%
赤坂地区 (n=83)	63	75.9%	36	43.4%	11	13.3%	31	37.3%	18	21.7%	19	22.9%	44	53.0%	10	12.0%
高輪地区 (n=154)	133	86.4%	55	35.7%	17	11.0%	39	25.3%	19	12.3%	35	22.7%	59	38.3%	11	7.1%
芝浦港南地区 (n=175)	153	87.4%	77	44.0%	25	14.3%	40	22.9%	50	28.6%	54	30.9%	49	28.0%	14	8.0%
合計	480	85.1%	212	37.6%	73	12.9%	162	28.7%	116	20.6%	131	23.2%	223	39.5%	46	8.2%

※無回答は集計から除く。

## 5 中学2年生の地域別の特徴

中学2年生本人に対するアンケート調査の結果について、5総合支所の地区別にクロス集計を行った。なお、(1)居住年数と住宅の種類、(2)家族構成と仕事についてのうち①から③までについては、フェイスシート項目として保護者に回答を依頼したものである。(2)④家庭の経済状況と(3)子どもの生活についての回答は、中学2年生本人によるものである。

### (1) 居住年数と住宅の種類

#### ①居住年数

居住年数について地区別に集計した(表2-127)。地区により、居住年数の分布が異なっている。

芝地区は、居住年数が「10年以上」の世帯の割

合が44.4%で、「5～9年」が23.8%、「3・4年」が12.7%、「1・2年」が19.0%であった。

麻布地区は「10年以上」が54.2%で最も高く、5地区中でも最も高かった。次いで「5～9年」が22.9%、「1・2年」は13.3%であった。赤坂地区は、「10年以上」が38.8%と最も高く、「1・2年」および「5～9年」がともに23.9%で、「3・4年」が13.4%と全体に分散した。高輪地区は、「10年以上」が最も高く50.7%を占め、5地区中2番目に高い割合を示した。次いで「1・2年」が25.3%と5地区中最も高かった。芝浦港南地区は、「5～9年」が最も高く52.7%で、5地区中でも最も高い割合であった。次いで「10年以上」が32.1%であった。

表2-127 地区×居住年数

	1・2年		3・4年		5～9年		10年以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	12	19.0%	8	12.7%	15	23.8%	28	44.4%	63	100.0%
麻布地区	11	13.3%	8	9.6%	19	22.9%	45	54.2%	83	100.0%
赤坂地区	16	23.9%	9	13.4%	16	23.9%	26	38.8%	67	100.0%
高輪地区	37	25.3%	12	8.2%	23	15.8%	74	50.7%	146	100.0%
芝浦港南地区	10	7.6%	10	7.6%	69	52.7%	42	32.1%	131	100.0%
合計	86	17.6%	47	9.6%	142	29.0%	215	43.9%	490	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=61.911$  自由度=12  $p=0.000^*$  \*  $p < 0.05$

## ②住宅の種類

居住年数について地区別に集計した（表2-128）。どの地区も「持ち家」の割合が最も高かった。その割合については、6割から8割弱まで開きがある。5地区中最も持ち家率が高いのは麻布地区で、78.3%にのぼり、次いで高輪地区が70.1%、芝地区が67.7%、赤坂地区が64.3%、芝浦港南地区が60.2%であった。「民間の賃貸住宅」について

は、芝地区（17.7%）、麻布地区（18.1%）、高輪地区（17.7%）が比較的高く、赤坂地区は11.4%、芝浦港南地区は12.0%でやや低い割合であった。「都営・区営・UR等」については、芝浦港南地区が24.1%と突出して高く、ほか、赤坂地区で14.3%、芝地区では11.3%であった。「社宅・公務員住宅」は、赤坂地区が10.0%で1割を占めている。

表2-128 地区×住宅の種類

	持ち家		民間の賃貸住宅		都営・区営・UR等		社宅・公務員住宅		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	42	67.7%	11	17.7%	7	11.3%	2	3.2%	0	0.0%	62	100.0%
麻布地区	65	78.3%	15	18.1%	2	2.4%	1	1.2%	0	0.0%	83	100.0%
赤坂地区	45	64.3%	8	11.4%	10	14.3%	7	10.0%	0	0.0%	70	100.0%
高輪地区	103	70.1%	26	17.7%	6	4.1%	9	6.1%	3	2.0%	147	100.0%
芝浦港南地区	80	60.2%	16	12.0%	32	24.1%	5	3.8%	0	0.0%	133	100.0%
合計	335	67.7%	76	15.4%	57	11.5%	24	4.8%	3	0.6%	495	100.0%

※無回答は集計から除く。

## (2) 家族構成と仕事について

## ①家族構成

家族構成について地区別に集計した（表2-129）。5地区とも、「父母と子」のいわゆる核家族世帯の割合が最も高く、6割強から8割を占めている。「父母と子」の割合が5地区中最も高いのは芝浦港南地区で、80.3%を占め、次いで高輪地区でも79.6%とどちらもおよそ8割を占めた。赤坂地区では71.4%、麻布地区では67.9%で、7割前後が核家族世帯で占められている。芝地区は63.5%で、

5地区中最も低い値であった。「父母と子と祖父または祖母」の3世代同居の世帯の割合は、芝地区が5地区中で最も高く、20.6%を占めている。麻布地区（11.9%）、赤坂地区（11.4%）では1割程度、高輪地区では8.2%で1割弱であった。芝浦港南地区は4.5%とごくわずかである。そのほか、「母と子」の割合が、麻布地区（14.3%）と芝浦港南地区（12.9%）で比較的高い割合を示した。

表2-129 地区×家族構成

	父母+子		父母+子+祖父・祖母		父+子		父+子+祖父・祖母		母+子		母+子+祖父・祖母		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	40	63.5%	13	20.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	9.5%	3	4.8%	1	1.6%	63	100.0%
麻布地区	57	67.9%	10	11.9%	0	0.0%	0	0.0%	12	14.3%	2	2.4%	3	3.6%	84	100.0%
赤坂地区	50	71.4%	8	11.4%	0	0.0%	0	0.0%	6	8.6%	5	7.1%	1	1.4%	70	100.0%
高輪地区	117	79.6%	12	8.2%	2	1.4%	0	0.0%	13	8.8%	2	1.4%	1	0.7%	147	100.0%
芝浦港南地区	106	80.3%	6	4.5%	1	0.8%	0	0.0%	17	12.9%	1	0.8%	1	0.8%	132	100.0%
合計	370	74.6%	49	9.9%	3	0.6%	0	0.0%	54	10.9%	13	2.6%	7	1.4%	496	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ②生計中心者の職業

生計を主に支えている人の職業について、地区別に集計した（表2-130）。芝地区では「民間企業の常勤的勤務者」の割合が最も高く、43.5%を占めた。次いで「自営業・会社経営」の割合が35.5%であった。芝地区と似通った構成割合であったのが赤坂地区で、「民間企業の常勤的勤務者」の割合が41.4%、「自営業・会社経営」の割合が34.3%であった。一方、麻布地区は「自営業・会社経営」の割合が46.4%と5地区中で最も高く、「民間企業の常勤的勤務者」（34.5%）を

上回っていることが特徴である。高輪地区と芝浦港南地区は、「自営業・会社経営」の割合がそれぞれ27.8%、20.6%と他地区に比べて低く、そのかわり「民間企業の常勤的勤務者」の割合がそれぞれ56.9%、58.8%と半分を超えて高いことが特徴である。なお、「公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者」の割合は、麻布地区（4.8%）、赤坂地区（4.3%）では低く、芝地区（9.7%）、高輪地区（8.3%）、芝浦港南地区（8.4%）では1割近くであった。

表2-130 地区×生計中心者の職業

	自営業・会社経営		公務員、団体職員などの民間企業以外の常勤的勤務者		民間企業の常勤的勤務者		臨時・パートなどの勤務者		その他の職業		就労していない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	22	35.5%	6	9.7%	27	43.5%	4	6.5%	3	4.8%	0	0.0%	62	100.0%
麻布地区	39	46.4%	4	4.8%	29	34.5%	6	7.1%	3	3.6%	3	3.6%	84	100.0%
赤坂地区	24	34.3%	3	4.3%	29	41.4%	6	8.6%	5	7.1%	3	4.3%	70	100.0%
高輪地区	40	27.8%	12	8.3%	82	56.9%	7	4.9%	3	2.1%	0	0.0%	144	100.0%
芝浦港南地区	27	20.6%	11	8.4%	77	58.8%	10	7.6%	3	2.3%	3	2.3%	131	100.0%
合計	152	31.0%	36	7.3%	244	49.7%	33	6.7%	17	3.5%	9	1.8%	491	100.0%

※無回答は集計から除く。

### ③共働きの有無

共働きの有無について、地区別に集計した（表2-131）。「共働きである」と回答した世帯の割合は、芝地区では63.5%と5地区中最も高く、次いで高輪地区と芝浦港南地区では、ともに53.4%を占めた。この3地区は、「共働きである」世帯の方が、「共働きではない」世帯に比べて、割合が高い。一方、麻布地区では「共働きである」世帯の割合は43.4%、赤坂地区は5地区中最も低く37.7%であり、この2地区は「共働きではない」世帯の割合が5割を超えて高かった。

表2-131 地区×共働きの有無

	共働きである		共働きではない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	40	63.5%	23	36.5%	63	100.0%
麻布地区	36	43.4%	47	56.6%	83	100.0%
赤坂地区	26	37.7%	43	62.3%	69	100.0%
高輪地区	78	53.4%	68	46.6%	146	100.0%
芝浦港南地区	70	53.4%	61	46.6%	131	100.0%
合計	250	50.8%	242	49.2%	492	100.0%

※無回答は集計から除く。χ<sup>2</sup>=11.410 自由度=4  
p=0.022\* \* p < 0.05

#### ④家庭の経済状況について（中学2年生本人の回答）

家庭の経済状況についてどのように感じているかを地区別に集計した（表2-132）。なお、この設問は、保護者ではなく中学2年生本人に尋ねたものである。この表から、芝地区（23.1%）と芝浦港南地区（23.7%）では、家庭の経済状況を「困っている」と感じている子どもの割合が高いことがわかる。

表2-132 地区×家庭の経済状況（中学2年生本人回答）

	豊か・普通		困っている		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	40	76.9%	12	23.1%	52	100.0%
麻布地区	68	89.5%	8	10.5%	76	100.0%
赤坂地区	54	87.1%	8	12.9%	62	100.0%
高輪地区	109	87.9%	15	12.1%	124	100.0%
芝浦港南地区	87	76.3%	27	23.7%	114	100.0%
合計	358	83.6%	70	16.4%	428	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=10.265$  自由度=4  
 $p=0.036^*$  \*  $p < 0.05$

#### （3）子どもの生活について

以下は、中学2年生本人が回答した結果から、子ども本人の生活の様子を見ていく。

##### ①通っている学校の種類

通っている学校の種類について、地区別に集計した（表2-133）。「公立の学校」の割合が「私立の学校」の割合を上回ったのは、麻布地区を除く4地区である。なかでも、芝浦港南地区は「公立

表2-133 地区×通っている学校の種類

	公立の学校		私立の学校		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	35	55.6%	28	44.4%	63	100.0%
麻布地区	36	42.9%	48	57.1%	84	100.0%
赤坂地区	36	52.2%	33	47.8%	69	100.0%
高輪地区	78	53.1%	69	46.9%	147	100.0%
芝浦港南地区	86	64.7%	47	35.3%	133	100.0%
合計	271	54.6%	225	45.4%	496	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=10.433$  自由度=4  
 $p=0.034^*$  \*  $p < 0.05$

の学校に」通う人の割合が64.7%で、5地区中最も高かった。ほか、芝地区では55.6%、赤坂地区では52.2%、高輪地区では53.1%が「公立の学校」に通っている。一方、麻布地区では、「私立の学校」に通っている人の割合が高く57.1%を占めている。

##### ②いじめについての不安や心配

不安や心配を感じていることのうち、「いじめについて」を地区別に集計したところ（表2-134）、地区により違いが表れた。いじめについて不安や心配を「感じている」と回答した人の割合は、麻布地区で14.3%、赤坂地区で10.0%、芝浦港南地区で12.2%と高かった。芝地区では1.6%、高輪地区では3.4%で低かった。

ただし、いじめを目撃したことがあるかどうかについては、地区による差は見られなかった。

表2-134 地区×いじめについての不安や心配

	感じている		感じていない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	1	1.6%	62	98.4%	63	100.0%
麻布地区	12	14.3%	72	85.7%	84	100.0%
赤坂地区	7	10.0%	63	90.0%	70	100.0%
高輪地区	5	3.4%	140	96.6%	145	100.0%
芝浦港南地区	16	12.2%	115	87.8%	131	100.0%
合計	41	8.3%	452	91.7%	493	100.0%

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=15.043$  自由度=4  
 $p=0.005^*$  \*  $p < 0.05$

##### ③放課後の遊び場所

放課後どこで遊ぶことが多いか尋ねたものを、地区別に集計した（表2-135）。5地区とも最も割合が高かったのは「家の中（友人宅を含む）」で、5割半から7割半を占めた。最も割合が高かったのは芝地区で、74.1%を占めた。次いで麻布地区では71.4%、赤坂地区では68.9%、高輪地区では65.9%であった。芝浦港南地区は54.5%と5地区中最も低い割合を示した。芝地区は、「家の中（友人宅を含む）」の割合が高いことから、他の遊び場所への回答は全体に少なく分散している。そのなかで、「渋谷のようなにぎやかなところ」と



回答した人の割合が8.6%で、1割弱ではあるものの、5地区中では最も高い割合を示している。麻布地区は、「家の中（友人宅を含む）」に次いで「公園などの屋外」の割合が高く、13.0%を占めた。赤坂地区は、「学校」（14.8%）、「公園などの屋外」（9.8%）の割合が比較的高い。「学校」に

ついては、5地区中でも突出して高い割合を示した。高輪地区は、「公園などの屋外」が11.1%で比較的高かった。芝浦港南地区は、「児童館や中高生プラザ」が15.4%と5地区中で最も高いことが特徴である。

表2-135 地区×放課後の遊び場所

	家の中 (友人宅を含む)		学校		児童館や中 高生プラザ		公園などの 屋外		渋谷のよう なにぎやか なところ		その他		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	43	74.1%	1	1.7%	3	5.2%	4	6.9%	5	8.6%	2	3.4%	58	100.0%
麻布地区	55	71.4%	3	3.9%	0	0.0%	10	13.0%	2	2.6%	7	9.1%	77	100.0%
赤坂地区	42	68.9%	9	14.8%	1	1.6%	6	9.8%	1	1.6%	2	3.3%	61	100.0%
高輪地区	89	65.9%	6	4.4%	8	5.9%	15	11.1%	4	3.0%	13	9.6%	135	100.0%
芝浦港南地区	67	54.5%	6	4.9%	19	15.4%	11	8.9%	3	2.4%	17	13.8%	123	100.0%
合計	296	65.2%	25	5.5%	31	6.8%	46	10.1%	15	3.3%	41	9.0%	454	100.0%

※無回答は集計から除く。

#### ④学校以外の地域の行事への参加

学校以外の地域の行事への参加について（複数回答）、地区別に集計した（表2-136）。5地区とも「おまつり」への参加が多く、どの地区も最も高い割合を占めている。なかでも芝地区は、87.2%で5地区中最も高い。赤坂地区は5地区中最も低く77.1%であった。「スポーツ大会、運動会」への参加も、全体的には2割から3割程度で参加が多い。5地区中最も高かったのは芝浦港南地区で29.8%、最も低かったのは麻布地区で19.4%であった。そのほかの3地区は2割半前後であった。「もちつき大会」については、赤坂地区が20.8%と5地区中最も高く、芝地区（17.0%）、芝浦港南地区（17.3%）でも比較的高かった。麻布地区と高輪地区ではそれぞれ12.9%、12.8%で、やや低い割合となっている。「防災訓練」については、赤坂地区では25.0%が

参加していると回答しており、5地区中最も高い。次いで、芝浦港南地区で17.3%であった。「ハロウィン」については、麻布地区で37.1%、「赤坂地区」で27.1%と高い割合を占めており、芝地区（10.6%）、高輪地区（12.8%）では1割前後であった。芝浦港南地区では5.8%と低い割合であった。小学4年生とは異なり、クリスマス会については、全体的に参加が少ない傾向であった。

全体的には、赤坂地区では、お祭り以外にも多くの行事に一定の割合で参加している様子が見えられた。芝地区と高輪地区では、「おまつり」と「スポーツ大会、運動会」への参加が多いこと、麻布地区では「おまつり」以外には「ハロウィン」への参加が高いこと、芝浦港南地区では、「おまつり」「スポーツ大会、運動会」に加え、「防災訓練」が比較的多くの参加を得ていることがうかがえた。

表2-136 地区×学校以外の行事への参加

	おまつり		スポーツ大会、運動会		子ども会		もちつき大会		防災訓練		クリスマス会		ハロウィン		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区 (n=47)	41	87.2%	11	23.4%	3	6.4%	8	17.0%	6	12.8%	3	6.4%	5	10.6%	3	6.4%
麻布地区 (n=62)	51	82.3%	12	19.4%	3	4.8%	8	12.9%	6	9.7%	6	9.7%	23	37.1%	5	8.1%
赤坂地区 (n=48)	37	77.1%	12	25.0%	0	0.0%	10	20.8%	12	25.0%	4	8.3%	13	27.1%	4	8.3%
高輪地区 (n=117)	98	83.8%	26	22.2%	0	0.0%	15	12.8%	12	10.3%	4	3.4%	15	12.8%	10	8.5%
芝浦港南地区 (n=104)	88	84.6%	31	29.8%	3	2.9%	18	17.3%	18	17.3%	8	7.7%	6	5.8%	8	7.7%
合計 (n=378)	315	83.3%	92	24.3%	9	2.4%	59	15.6%	54	14.3%	25	6.6%	62	16.4%	30	7.9%

※無回答は集計から除く。

### ⑤親に悩みや心配ごとを話すか

親に悩みごとや心配ごとを話すかについて、地区別に集計した（表2-137）。芝地区では「あまり話をしない」の割合が最も高く、36.1%を占めて、次いで「ほとんど話をしない」が29.5%と5地区中最も高い割合を占めた。「とてもよく話をする」（18.0%）、「よく話をする」（16.4%）は、ほぼ同程度に分かれた。麻布地区は、「よく話をする」の割合が41.2%と5地区中最も高く、次いで「あまり話をしない」が34.1%であった。赤坂地区は、「あまり話をしない」が38.6%で5地区中2番目に高く、ついで「よく話をする」が28.6%であっ

た。高輪地区は、「あまり話をしない」が40.4%で5地区中最も高く、次いで「ほとんど話をしない」が27.4%で5地区中2番目に高かった。一方、「とてもよく話をする」の割合が7.5%で5地区中最も低く、「よく話をする」は24.7%で5地区中2番目に低かった。芝浦港南地区は、「よく話をする」が最も多く33.3%を占め、次いで「あまり話をしない」が28.8%、「ほとんど話をしない」が23.5%で2割を超えた。「とてもよく話をする」は14.4%であった。

なお、「もっと親と話したいか」については、地区による差は見られなかった。

表2-137 地区×親に悩みごとや心配ごとを話すか

	とてもよく話をする		よく話をする		あまり話をしない		ほとんど話をしない		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
芝地区	11	18.0%	10	16.4%	22	36.1%	18	29.5%	61	100.0%
麻布地区	11	12.9%	35	41.2%	29	34.1%	10	11.8%	85	100.0%
赤坂地区	11	15.7%	20	28.6%	27	38.6%	12	17.1%	70	100.0%
高輪地区	11	7.5%	36	24.7%	59	40.4%	40	27.4%	146	100.0%
芝浦港南地区	19	14.4%	44	33.3%	38	28.8%	31	23.5%	132	100.0%
合計	63	12.8%	145	29.4%	175	35.4%	111	22.5%	494	100.0%

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=25.688$  自由度=12  $p=0.012^*$  \*  $p < 0.05$